2018年度

講義要綱 *(Syllabus)*

〈看護学科〉

神戸常盤大学

KOBE TOKIWA UNIVERSITY

看 護 学 科

目　　次

1. 基盤教育分野科目 …… 1

2. 1年次開設科目 …… 143

3. 2年次開設科目 …… 207

4. 3年次開設科目 …… 315

5. 4年次開設科目 …… 355

索　　引

【基盤教育分野】

まなぶる▶ときわびとⅠ 1
まなぶる▶ときわびとⅡ 6
大学道場 mini ゼミA 10
大学道場 mini ゼミ B 13
超ときわびと 16
情報基礎 20
情報メディア演習 23
健康スポーツ科学Ⅰ 26
健康スポーツ科学Ⅱ 29
健康スポーツ科学Ⅲ 31
アカデミックライティング 34
英語コミュニケーションⅠ 40
英語コミュニケーションⅡ 43
英語A a (Communicative English Basic) 46
英語A b (Communicative English Intermediate) 52
手話コミュニケーション 58
いのちと共生 61
人類と地球環境 64
暮らしの中の数学 66
統計学 68
暮らしの中の物理学 70
現代社会と化学 72
人体のふしぎ 75
現代社会と生命科学 77
安全学 80
人類と農学 82
プログラミング入門 85
日本国憲法 88
哲学 91
生命と倫理 93
芸術文化論 96
文学 99
日本通史 102
世界の時事 106
現代社会学 108
経済学 110
心理臨床学 112
人間関係論 115
教育と人間 118
地域との協働A 121
災害とまちづくり 124
コミュニティデザイン 127
ライフデザイン 130
英語B（Presentation） 134
英語C（Cultural Studies） 137
地域との協働 B 140

【1年次】

看護解剖生理学Ⅰ 143
看護解剖生理学Ⅱ 146
看護解剖生理学Ⅲ 149
栄養代謝学 152
健康科学総論 154
看護病理・病態学 157
公衆衛生学 161
感染看護学 163
看護学概論 166
生活健康論 170
看護対象論Ⅰ 173
成人看護学概論 177
老年看護学概論 180
小児看護学概論 183
精神看護学概論 186
基本看護技術Ⅰ(共通技術・生活援助技術) 189
看護活動基礎実習 192
生活健康論実習 194
教育心理学 196
生涯発達論 199
教育社会学 203

【2年次】

薬理学 207
症候論Ⅰ 209
症候論Ⅱ 213
臨床検査総論 216
医療機器総論 219
保健統計学 222
母性看護学概論 225
在宅看護学概論 228
地域看護学概論 231
基本看護技術Ⅱ（診療の補助技術） 234
基本看護技術Ⅲ（フィジカルアセスメント） 237
基本看護技術Ⅳ（看護過程） 241
慢性病看護論 245
クリティカルケアⅠ 248
看護対象論Ⅱ（成人） 252
看護対象論Ⅲ（老年） 255
看護対象論Ⅳ（母性・父性） 259
看護対象論Ⅴ（小児） 263
在宅看護特性論 266
精神看護特性論 269
老年援助論 272
学校保健 276
健康相談の理論と方法 279
障害児保育 282
基礎看護学実習（看護過程） 285
公衆衛生看護学概論 287
健康教育の理論と方法 290
教職概論 292
教育原論 295
教育課程総論 298
道徳教育と特別活動論 301
教育方法の研究 304
生徒指導論 307
教育相談 310
養護実習Ⅰ 313

【3年次】

英会話 315
運動生理学 316
保健医療福祉総論 317
法と看護 319
医療安全 320
チーム医療論 321
国際保健医療活動Ⅱ 322
緩和ケア 323
在宅援助論 324
精神援助論 325
母性援助論 326
小児援助論 328
クリティカルケアⅡ 330
リハビリテーション看護論 331
家族看護学 332
養護概説 334
障害児保育 335
療養支援実習Ⅰ（老年） 336
療養支援実習Ⅱ（疾病・障害を持つ人の看護） 337
療養支援実習Ⅲ（クリティカル） 338
母子支援実習Ⅰ（小児） 339
母子支援実習Ⅱ(母性） 340
健康支援実習Ⅰ（在宅） 341
健康支援実習Ⅱ（精神） 342
看護研究方法論 343
看護管理論 345
医療・看護特論Ⅲ（再生医療と看護） 346
公衆衛生看護展開論Ⅰ 347
公衆衛生看護展開論演習Ⅰ 348
公衆衛生看護展開論Ⅱ 349
公衆衛生看護展開論演習Ⅱ 350
健康教育の理論と方法 351
疫学的調査法 352
公衆衛生看護学実習Ⅰ 353

【4年次】

文献講読 355
プレゼンテーション技法 356
国際文化比較 357
人間工学 358
国際保健医療活動Ⅰ 359
国際保健医療活動Ⅱ 360
保健医療福祉行政論 361
医療経済学 362
看護倫理 363
課題別総合実習 364
災害看護 365
看護研究 366
看護教育論 367
国際看護活動論 368
医療・看護特論Ⅲ（再生医療と看護） 369
健康教育の理論と方法 370
公衆衛生看護管理論 371
疫学的調査法 372
公衆衛生看護実習Ⅱ 373
事前及び事後の指導 374
養護実習Ⅱ 375
教職実践演習（養護） 376

科目担当者欄の＊は客員教授を表す。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
まなぶる▶ときわびとⅠ （Ｆ１１０００） 学ぶ＋ Able → 学ぶ悦び、知る愉しさ	演習	2	60	1	前期	必修	看国試必修	光成研一郎 複数担当	7号館5階 研究室他
科目担当者	光成研一郎、中田康夫、永島聡、髙松邦彦、近藤みづき、澤村暢、溝越祐志、三浦真希子、江口実希紀ノ岡浩美、牛頭哲宏、國崎大恩、大城亜水、西川潤、尾崎優子、笹尾裕美、松岡真菜、中村美紀、伴仲謙欣								

関連ときわコンピテンシー	常識力、論理的思考力、批判的思考力、知欲、探究力、継続力、自己管理力、省察力、デザイン力、表現力、実行力、責任力、貢献力、傾聴力・対話力、協調性・協働力
授業の概要	皆さんはそれぞれ色々な目的･目標、また想いや願いをもってこの大学に入学してこられたと思います。私たち大学教職員は、その想いや願いに応え、それぞれの目的･目標が叶えられるように、あらゆる努力をしなければならないと考えています。そのためには、皆さんが卒業されるまでの数年間、私たちも皆さんも“共に学び続ける”必要があります。皆さんにはこれから本当に色々なことを学んでいただく必要があります。しかしそれは授業で教えられるたくさんの知識を頭に入れていくということだけでなく、授業外の活動(部活動、ボランティア活動、アルバイトなど)も含みます。さまざまな人と関わっていくなかで色々なことを経験し、彩り豊かで味深い人間になって社会に出てほしいのです。 この「まなぶる▶ときわびと」という授業科目では、そもそも「学ぶ」とはどういうことかを仲間と共に考え、実践し、入学から卒業まで毎日がキラキラとした学びの日々となるよう、また卒業後も学び続ける力強さを持ってもらえるよう、それに必要なさまざまな力を身につけてもらうことをねらいとしています。仲間を作る力、仲間と議論する力、自らを見つめ直す力、学びの習慣･環境を整える力、論理的に考える力、批判的に考える力、相手に自分の考えをうまく表現する力、独創性豊かなことを考え出す力などなど、多岐にわたる力を身につけてもらいたいと思っています。 この授業では、一貫してグループで活動することを基本としています。その学習方法をTeam Based Learningといいます。これからどのような活動をしていく中においても、またどのような職業に就くとしても、他者との関わりなくして生きていくことは絶対にありえません。仲間と共に考え、実践することは、どの社会においても必須の力となります。自分だけの世界に閉じこもることなく、心を開き、楽しく仲間と学び合うことを願っています。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	グループを作ろう① 共に学ぶ仲間をつくる。	【予習】シラバスを読んでおく。
第2回	グループを作ろう② グループのメンバーのことを知る。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第3回	チームの絆を深めよう① コンセンサスゲーム「NASA」を実施。	
第4回	チームの絆を深めよう② 「グラフィックジャム」を実施。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第5回	自分を知る 自分が大切にしているものを再認識し、語る。	
第6回	大学での学びに必要なスキルを考える ときわコンピテンシーについて。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第7回	コミュニケーション能力を高めよう① コミュニケーションについて考える。	
第8回	コミュニケーション能力を高めよう② コミュニケーションゲーム「流れ星」を実施。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第9回	プレゼンテーション能力を高めよう① プレゼンテーション能力について考える。	
第10回	プレゼンテーション能力を高めよう② 良いプレゼンテーションについて調査、分析し、グループ発表。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第11回	レポートの書き方① 資料を読み解き、自分の考えをまとめる。	

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第12回	レポートの書き方② テーマについて自分の考えをまとめる。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第13回	レポートの書き方③ 論理的な表現力を身につける。	
第14回	レポートの書き方④ 意見分を書く。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第15回	学びを振り返り、整理する 凝縮ポートフォリオの作成。	
第16回	議論する力を身につける POPO を実施。	【次回までの課題】 中間レポートをマナバ上に提出。
第17回	大学祭を活性化させるために（PBL）① リサーチプランの作成。	
第18回	大学祭を活性化させるために（PBL）② リサーチプランの作成。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第19回	大学祭を活性化させるために（PBL）③ グループワーク。	
第20回	大学祭を活性化させるために（PBL）④ グループワーク。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第21回	大学祭を活性化させるために（PBL）⑤ 発表準備。	
第22回	大学祭を活性化させるために（PBL）⑥ 発表準備。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第23回	大学祭を活性化させるために（PBL）⑦ 発表。	
第24回	大学祭を活性化させるために（PBL）⑧ 発表。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第25回	社会貢献について考える① 学生としてできることについて考える。	
第26回	社会貢献について考える② 学生としてできることについて考える。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第27回	社会貢献について考える③ 専門職業人としてできることについて考える。	
第28回	社会貢献について考える。④ 専門職業人としてできることについて考える。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第29回	学びを振り返り、整理する① 凝縮ポートフォリオの作成。	
第30回	学びを振り返り、整理する② プレゼントカードの作成。	

学修の到達目標
グループ活動を通して、以下に示す色々な“できる（able）”を身につけることができる。 仲間を作ることができる、仲間と議論することができる、自らを見つめ直すことができる、学びの習慣・環境を整えることができる、論理的に考えることができる、批判的に考えることができる、相手に自分の考えをうまく表現することができる、独創性豊かなことを考え出すことができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①他者と一つの課題について協力して取り組むことができる。 （協調性・協働力）	秀	別の意見や批判的な意見を取り入れながら、グループの中で自ら役割を見出し、役割の意義を具体的に示しながらグループ活動全体のパフォーマンスが向上していることを全員が実感できるようにその役割を果たすことができる。
	優	別の意見や批判的な意見に耳を傾けながら、グループの中で自ら役割を見出し、役割の必要性を他者に説明しつつそれを果たすことができる。
	良	グループの中で自ら役割を見出し、それを果たすことができる。
	可	自分に与えられた役割を果たすことができる。
	不可	自分に与えられた役割を果たすことができない。
②物事の本質について自ら深く考え抜くことができる。 （探究力）	秀	課題に対して複数の案（意見）を提出し、それらの帰結を見通した上で、課題遂行のためにどの案（意見）が最も妥当であるかを論理的に説明できる。
	優	課題に対して複数の案（意見）を提出し、課題遂行のためにどの案（意見）が有効であるかを論理的に説明できる。
	良	課題に対して多角的に考えた上で一つの案（意見）を提出し、その理由を自分なりに説明することができる。
	可	課題に対して一つの案（意見）を提出することで満足している。
	不可	課題に対して他者から与えられた解答で満足している。
③他者に対して自らの考えを表現することができる。 （表現力）	秀	他者に対して自らの考えや取り組みが他とどのように違うのかを示しつつ、それが相手にとってどのような意味があるのかも含めて、客観的に分かりやすく伝えることができる。
	優	他者に対して自らの考えや取り組みが他とどのように違うのかを示しつつ、それらを客観的に分かりやすく伝えることができる。
	良	他者に対して自らの考えや取り組みを、相手が理解しやすいように整理して伝えることができる。
	可	他者に対して自らの考えや取り組みをそのまま伝えている。
	不可	他者に対して自らの考えや取り組みを伝えない。
④自らの学びに対して正しく振り返ることができる。 （省察力）	秀	学びの成果を自らの課題や今後の成長とあわせて説明するとともに、課題の克服や成長に関する具体的な指針を学びの成果から示すことができる。
	優	学びの成果を自らの課題や今後の成長とあわせて説明することができる（学びを自らの成長と結びつけて振り返る）。
	良	自分が何を学んだのかとともに、その学びが自分にとってどのような意味があったのかを振り返って説明することができる（学びを総体的に振り返る）。
	可	自分が何を学んだのか説明することができる。
	不可	自分が何を学んだのか説明することができない。
⑤自らの学びに適した習慣・環境を自ら整えることができる （自己管理力）	秀	
	優	
	良	計画的に課題に取り組む、活動に適した環境に整える等、学習習慣と学習環境を自らの学びにあわせて整えることができる。
	可	提出物を期日までに出す、遅刻・欠席をしない、グループ活動に積極的に取り組む等、学習習慣と学習環境の基礎を整えている。
	不可	提出物を期日までに出さない、遅刻・欠席をする、グループ活動と関係のないことをする等、学習習慣と学習環境の基礎を整えられない。
⑥独創性豊かな解決策を提示することができる。 （デザイン力）	秀	社会的な尺度で客観的に評価できるような独創性をもった案を課題に対して提出することができる。
	優	課題に対して独創的で他では見られない案を提出することができる。
	良	課題に対して自分なりに一工夫を加えた一般的な案を提出することができる。
	可	課題に対してありふれた案を提出している。
	不可	課題に対して案を提出することができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		20	10	20	15	30	5	100
評価項目	①他者との協働	0	0	5	5	5	5	20
	②自ら深く考え抜く	10	0	0	0	10	0	20
	③他者に対する表現	0	0	15	0	0	0	15
	④自分の学びに対する振り返り	10	0	0	0	15	0	25
	⑤学びの習慣・環境づくり	0	10	0	0	0	0	10
	⑥独創性豊かな提案	0	0	0	10	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
成果発表（口頭・実技）	①		レポート試験を、最終に行う。
	②	✓	
	③		
	④	✓	
	⑤		
	⑥		
提出物	①		次回までに取り組んでくるよう指示された課題を、指示されたとおりに取り組み、提出されたかどうかを評価する。 ポートフォリオとして蓄積する書類のファイリングが正しくなされているかを評価する。
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	
	⑥		
成果発表（口頭・実技）	①	✓	６回、１０回、１４回の授業で行う発表（プレゼンテーション）を評価する。 評価は、学生の相互評価と教員による評価の２つがある。
	②		
	②	✓	
	④		
	⑤		
	⑥		
作品	①	✓	グループで取り組む作品の作成過程（各々が与えられた役割の遂行の程度など）とその作品の出来栄えを評価する。 評価は、学生の相互評価と教員による評価の２つがある。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥	✓	
ポートフォリオ	①	✓	各自が授業で取り組むワークシートと、取り組みを自ら振り返り評価する振り返り票を、それぞれの学びの成果としてポートフォリオに蓄積していく。 ポートフォリオ評価では、教員がその蓄積された学びの成果を公平な観点から評価する。 もちろん正当な理由なく、ワークシートや振り返り票が欠落していることは減点の対象となる。
	②	✓	
	③		
	④	✓	
	⑤		
	⑥		
その他	①	✓	グループ活動において積極的に発言することや、主体的・能動的に取り組んだことについては、加点の評価対象となる。 評価は、学生評価と教員による評価の２つがある。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		

履修に必要な知識・技能・態度など
この授業では、一貫してグループで活動することを基本としています。まだ見知らぬ人と一緒に半期共に活動をしていくわけですが、特段不安に思うことなく気を楽にして授業に臨んでほしいと思います。 ただし、学ぶことには常に一生懸命であってほしいため、こちらが提示する課題についてはすべて真剣に取り組むようにしてください。
教科書・参考書
教科書：適宜、教材・資料等は配布する。 参考書：使用しない。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
まなぶる▶ときわびとⅡ （Ｆ１１０１０） 学ぶ＋ Able →（学ぶ悦び、知る愉しさ）もっと	演習	1	30	1	後期	必修	看国試必修	光成研一郎 複数担当	7 号館 5 階 研究室他
科目担当者	光成研一郎、中田康夫、永島聡、髙松邦彦、近藤みづき、溝越祐志、三浦真希子、藤原桜、中村由果理、國崎大恩、田村周二、大城亜水、白石奈央、伴仲謙欣								

関連ときわコンピテンシー	常識力、論理的思考力、批判的思考力、知欲、探究力、継続力、自己管理力、省察力、デザイン力、表現力、実行力、責任力、貢献力、傾聴力・対話力、協調性・協働力
授業の概要	「まなぶる▶ときわびとⅠ」に引き続き、「まなぶる▶ときわびとⅡ」でも、一貫してグループで活動することを基本とし、Team Based Learning を行います。「まなぶる▶ときわびとⅡ」では、「まなぶる▶ときわびとⅠ」での学びを発展させて、論理的に考える力、批判的に考える力、相手に自分の考えをうまく表現する力、独創性豊かなことを考え出す力を特に重視します。 これまでの“当たり前”を見つめ直し、これまでなかったものを新たに創り出す。こうした“クリティカル”で“クリエイティブ”な力がいまの社会には求められています。「まなぶる▶ときわびとⅡ」では、こうした社会の要請に応えるためにも、受講者の皆さんには、新しい頭で、面白いアイディアを次々と出してもらうことを期待しています。もちろんそのすべての取り組みでは、「まなぶる▶ときわびとⅠ」と同様、仲間と共に楽しく学び合うことを基本とします。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第１回	グループをつくろう 共に学ぶ仲間をつくる。	【予習】 シラバスに目を通しておく
第２回	グループの絆を深めよう コンセンサスゲームを行う。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出
第３回	“論理的に考える”ってどういうことか考えよう ① 氷山モデルを意識しながら MECE を実践する。	
第４回	“論理的に考える”ってどういうことか考えよう ② ロジックツリーを用いて課題の整理、解決法の考案。発表、互いに評価。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出
第５回	論理的に考えて、ディベートしよう① ディベート準備。	
第６回	論理的に考えて、ディベートしよう② ディベート大会。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出
第７回	クリエイティブになろう ① 創造力がつくゲームを実践する。	
第８回	クリエイティブになろう ② 創造力がつくゲームを実践する。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出
第９回	クリエイティブになろう ③ ブレインストーミング、オズボーンの 73 の質問を実践する。	
第10回	クリエイティブになろう ④ JAH 法を実践する。発表し、互いに評価する。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出
第11回	大学オモロ化 mini プロジェクト：学内アンケート調査の実施 ① アイディア創出のため、アンケート調査を実施する。	
第12回	大学オモロ化 mini プロジェクト：学内アンケート調査の実施 ② アイディア創出のため、アンケート調査を実施する。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出
第13回	大学オモロ化 mini プロジェクト：提案 ① 調査結果を踏まえ、大学を面白くするアイディアの創出。発表準備。	
第14回	大学オモロ化 mini プロジェクト：提案 ② 調査結果を踏まえ、大学を面白くするアイディアを創出、発表、評価。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出
第15回	学びを振り返り、整理する① 凝縮ポートフォリオ・プレゼントカードの作成。	

学修の到達目標
グループ活動を通して、以下に示す色々な“できる（able）”を身につけることができる。 仲間を作ることができる、仲間と議論することができる、自らを見つめ直すことができる、学びの習慣・環境を整えることができる、論理的に考えることができる、批判的に考えることができる、相手に自分の考えをうまく表現することができる、独創性豊かなことを考え出すことができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①他者と一つの課題について協力して取り組むことができる。 （協調性・協働力）	秀	別の意見や批判的な意見を取り入れながら、グループの中で自ら役割を見出し、役割の意義を具体的に示しながらグループ活動全体のパフォーマンスが向上していることを全員が実感できるようにその役割を果たすことができる。
	優	別の意見や批判的な意見に耳を傾けながら、グループの中で自ら役割を見出し、役割の必要性を他者に説明しつつそれを果たすことができる。
	良	グループの中で自ら役割を見出し、それを果たすことができる。
	可	自分に与えられた役割を果たすことができる。
	不可	自分に与えられた役割を果たすことができない。
②物事の本質について自ら深く考え抜くことができる。 （探究力）	秀	課題に対して複数の案（意見）を提出し、それらの帰結を見通した上で、課題遂行のためにどの案（意見）が最も妥当であるかを論理的に説明できる。
	優	課題に対して複数の案（意見）を提出し、課題遂行のためにどの案（意見）が有効であるかを論理的に説明できる。
	良	課題に対して多角的に考えた上で一つの案（意見）を提出し、その理由を自分なりに説明することができる。
	可	課題に対して一つの案（意見）を提出することで満足している。
	不可	課題に対して他者から与えられた解答で満足している。
③他者に対して自らの考えを表現することができる。 （表現力）	秀	他者に対して自らの考えや取り組みが他とどのように違うのかを示しつつ、それが相手にとってどのような意味があるのかも含めて、客観的に分かりやすく伝えることができる。
	優	他者に対して自らの考えや取り組みが他とどのように違うのかを示しつつ、それらを客観的に分かりやすく伝えることができる
	良	他者に対して自らの考えや取り組みを、相手が理解しやすいように整理して伝えることができる。
	可	他者に対して自らの考えや取り組みをそのまま伝えている。
	不可	他者に対して自らの考えや取り組みを伝えない。
④自らの学びに対して正しく振り返ることができる。 （省察力）	秀	学びの成果を自らの課題や今後の成長とあわせて説明するとともに、課題の克服や成長に関する具体的な指針を学びの成果から示すことができる。
	優	学びの成果を自らの課題や今後の成長とあわせて説明することができる（学びを自らの成長と結びつけて振り返る）。
	良	自分が何を学んだのかとともに、その学びが自分にとってどのような意味があったのかを振り返って説明することができる（学びを総体的に振り返る）。
	可	自分が何を学んだのか説明することができる。
	不可	自分が何を学んだのか説明することができない。
⑤自らの学びに適した習慣・環境を自ら整えることができる （自己管理力）	秀	
	優	
	良	計画的に課題に取り組む、活動に適した環境に整える等、学習習慣と学習環境を自らの学びにあわせて整えることができる。
	可	提出物を期日までに出す、遅刻・欠席をしない、グループ活動に積極的に取り組む等、学習習慣と学習環境の基礎を整えている。
	不可	提出物を期日までに出さない、遅刻・欠席をする、グループ活動と関係のないことをする等、学習習慣と学習環境の基礎を整えられない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
⑥独創性豊かな解決策を提示することができる。（デザイン力）	秀	社会的な尺度で客観的に評価できるような独創性をもった案を課題に対して提出することができる。
	優	課題に対して独創的で他では見られない案を提出することができる。
	良	課題に対して自分なりに一工夫を加えた一般的な案を提出することができる。
	可	課題に対してありふれた案を提出している。
	不可	課題に対して案を提出することができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		20	10	20	15	30	5	100
評価項目	①他者との協働	0	0	5	5	5	5	20
	②自ら深く考え抜く	10	0	0	0	10	0	20
	③他者に対する表現	0	0	15	0	0	0	15
	④自分の学びに対する振り返り	10	0	0	0	15	0	25
	⑤学びの習慣・環境づくり	0	10	0	0	0	0	10
	⑥独創性豊かな提案	0	0	0	10	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
成果発表（口頭・実技）	①		レポート試験を実施する。
	②	✓	
	③		
	④	✓	
	⑤		
	⑥		
提出物	①		次回までに取り組んでくるよう指示された課題を、指示されたとおりに取り組み、提出されたかどうかを評価する。 ポートフォリオとして蓄積する書類のファイリングが正しくなされているかを評価する。
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	
	⑥		
成果発表（口頭・実技）	①	✓	6回、10回、14回の授業で行う発表（プレゼンテーション）を評価する。 評価は、学生の相互評価と教員による評価の2つがある。
	②		
	②	✓	
	④		
	⑤		
	⑥		
作品	①	✓	グループで取り組む作品の作成過程（各々が与えられた役割の遂行の程度など）とその作品の出来栄えを評価する。 評価は、学生の相互評価と教員による評価の2つがある。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥	✓	

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
ポートフォリオ	①	✓	各自が授業で取り組むワークシートと、取り組みを自ら振り返り評価する振り返り票を、それぞれの学びの成果としてポートフォリオに蓄積していく。 ポートフォリオ評価では、教員がその蓄積された学びの成果を公平な観点から評価する。 もちろん正当な理由なく、ワークシートや振り返り票が欠落していることは減点の対象となる。
	②	✓	
	③		
	④	✓	
	⑤		
	⑥		
その他	①	✓	グループ活動において積極的に発言することや、主体的・能動的に取り組んだことについては、加点の評価対象となる。 評価は、学生評価と教員による評価の２つがある。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		

履修に必要な知識・技能・態度など
この授業では、一貫してグループで活動することを基本としています。まだ見知らぬ人と一緒に半期共に活動をしていくわけですが、特段不安に思うことなく気を楽にして授業に臨んでほしいと思います。 ただし、学ぶことには常に一生懸命であってほしいため、こちらが提示する課題についてはすべて真剣に取り組むようにしてください。
教科書・参考書
教科書：適宜、教材・資料等は配布する。 **参考書：**使用しない。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
大学道場 mini ゼミA （F11020） 入っていきなりゼミ体験！！	演習	1	15	1	前期	選択	—	鈴木高史 複数担当	5号館3階 研究室他
科目担当者	鈴木高史、山﨑麻由美、林伸英、栃倉匡文、澤田浩秀、新谷路子、布引治、畑吉節未、柳本有二、生島祥江、尾﨑雅子、庄司靖枝、谷口由佳、岩切由紀、島内敦子、鵜飼知鶴、永島聡								

関連ときわコンピテンシー	知欲、探究力、傾聴力・対話力、省察力
授業の概要	新入生の皆さんは、“学び”というものをどのように捉えていますか？ 「将来の目標のため」「辛い」「楽しくない」「修行」などでしょうか？ しかし本来“学び”とはそのような狭い意味を指すものではなく、例えば「ゴリラって学名ではゴリラ・ゴリラって言うんだ！」という発見をしたり、「言葉を持たないアリが見事な一列を成すのはぜなんだろう？」と疑問に思ったりと、小さなものから大きなものまで色々な気づきや発見、疑問の数々がそもそも“学び”なんだ！ということにまず気づいていただきたいのです。これから皆さんは卒業までの数年間、この大学での“学び”を通して、そのような気づきや発見、疑問に思うことを日々経験していくものと思います。 「大学道場 mini ゼミ」というこの授業科目では、大学の先生たちが日夜研鑽を積んでいる研究活動やその他の活動の一端を学生の皆さんと共有し、そのような気づきや発見などを実際に体験してもらうことをねらいとしています。そのためこの授業科目では、「科目担当者」（上記）の数だけ プログラムを用意しています。学生の皆さんは、その中から特に興味・関心をもつゼミを一つ選び、受講していただけたらと思います。 各ゼミでは、基本的に 5 ～ 25 名程度の少人数制をとり、先生と学生とが互いに顔が見える近い関係の中で授業を行います。各担当の先生がゼミでどのようなことをするか、どのように授業を進めるかということについては、別途配布する「大学道場 mini ゼミパンフレット」を参照してください。 なおゼミの受講は、履修登録とは別に事前の希望申請を必要とします。その手続きについては、別途配布する「大学道場 mini ゼミパンフレット」に示します。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	各ゼミ担当教員によるオリエンテーション	【予習】シラバスと大学道場 mini ゼミパンフレットに目を通す
第2回	各ゼミ担当教員の指示による（大学道場 mini ゼミパンフレット参照）	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり
第3回	各ゼミ担当教員の指示による（大学道場 mini ゼミパンフレット参照）	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり
第4回	各ゼミ担当教員の指示による（大学道場 mini ゼミパンフレット参照）	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり
第5回	各ゼミ担当教員の指示による（大学道場 mini ゼミパンフレット参照）	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり
第6回	各ゼミ担当教員の指示による（大学道場 mini ゼミパンフレット参照）	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり
第7回	各ゼミ担当教員の指示による（大学道場 mini ゼミパンフレット参照）	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり
第8回	各ゼミ担当教員の指示による（大学道場 mini ゼミパンフレット参照）	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり

学修の到達目標
狭い意味での学びとは異なる、“学び”本来の悦びや愉しさをその肌で知ることができる。 日々の日常生活の中にあっても、あるいはまだ知らない分野の世界にあっても、それまで気づくことのなかった新たな気づきや発見を得ることができる。集団の中で協調性をもちながら議論をする過程で、互いに考えを深めることができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①ゼミで取り組むテーマについてさらに学びたいという意欲を持つことができる。（知欲）	秀	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、先生が話す内容を理解しようという努力が見られるのみならず、さらにそのテーマ、課題等について学ぶ意欲を見せ、現に主体的に学びを進めており、その学びの質が特に優れている。
	優	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、先生が話す内容を理解しようという努力が見られるのみならず、さらにそのテーマ、課題等について学ぶ意欲を見せ、現に主体的に学びを進めている。
	良	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、先生が話す内容を理解しようという努力が見られるのみならず、さらにそのテーマ、課題等について学ぶ意欲を見せている。
	可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、先生が話す内容を理解しようという努力が見られる。
	不可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、先生が話す内容を理解しようという努力すら見られない。
②ゼミで取り組むテーマについて、自ら深く考えることができる。（探究力）	秀	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自らの考えを述べようとする努力が見られ、さらにその述べる内容が的確であるだけでなく、優れており、称賛されるべきレベルにまで到達している。
	優	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自らの考えを述べようとする努力が見られ、さらにその述べる内容が的確であるだけでなく、優れている。
	良	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自らの考えを述べようとする努力が見られ、さらにその述べる内容が的確である。
	可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自らの考えを述べようとする努力が見られる。
	不可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自らの考えを述べようとする努力すら見られない。
③ゼミの中で他者の話に積極的に耳を傾け、理解しようとすることができる。（傾聴力・対話力）	秀	ゼミの中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとっており、現にその内容を正しく理解し、さらにその話に対して質問や意見を返すなど、建設的議論に参加することができ、その質問や意見が秀逸である。
	優	ゼミの中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとっており、現にその内容を正しく理解し、さらにその話に対して質問や意見を返すなど、建設的議論に参加することができる。
	良	ゼミの中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとっており、現にその内容を正しく理解している。
	可	ゼミの中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとることができている。
	不可	ゼミの中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢すらとれていない。
④ゼミでの学びを通じて得たことについて自らふりかえり、考えることができる。（省察力）	秀	ゼミでの取り組みを通じて、何を学んだかという事実をふりかえることに加えて、その学んだことがさらにどのような意味を持っているかということについて考えることができ、その考えが的確であるうえに、秀逸である。
	優	ゼミでの取り組みを通じて、何を学んだかという事実をふりかえることに加えて、その学んだことがさらにどのような意味を持っているかということについて考えることができ、その考えが的確である。
	良	ゼミでの取り組みを通じて、何を学んだかという事実をふりかえることに加えて、その学んだことがさらにどのような意味を持っているかということについて考えることができる。
	可	ゼミでの取り組みを通じて、何を学んだかという事実をふりかえることができる。
	不可	ゼミでの取り組みを通じて、何を学んだかという事実をふりかえることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	0	0	0	0	50	100
評価項目	①さらに学びたいという意欲	15	0	0	0	0	15	30
	②自ら深く考える	15	0	0	0	0	15	30
	③他者の話に耳を傾ける	10	0	0	0	0	10	20
	④自らふりかえり、考える	10	0	0	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	レポート試験（課題は担当教員によって異なる）
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
その他	①	✓	ゼミによって異なる（「提出物」、「成果発表」、「作品」、「ポートフォリオ」を含む）
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
“ゼミ”がいったいどういうものなのかまったく想像もつかない方が大半かと思いますが、事前に必要な知識・技能はありません。安心してゼミに臨んでください。一つだけ求めるならば、たまたま一緒になったゼミの仲間とも互いに協力・協調しながら学んでいってほしいということです。
教科書・参考書
教科書：各ゼミ担当教員の指示による **参考書**：各ゼミ担当教員の指示による

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
大学道場 mini ゼミ B （F１１０３０） 入っていきなりゼミ体験！！	演習	1	15	1	後期	選択	—	鈴木高史 複数担当	5 号館 3 階 研究室他
科目担当者	鈴木高史、松元英理子、光成研一郎、岩越美恵、栗岡誠司、坊垣美也子、森松伸一、黒野利佐子、中田尚美、橋本好市、山口有美								

関連ときわコンピテンシー	知欲、探究力、傾聴力・対話力、省察力
授業の概要	新入生の皆さんは、“ 学び ” というものをどのように捉えていますか？ 「将来の目標のため」「辛い」「楽しくない」「修行」などでしょうか？ しかし本来 “ 学び ” とはそのような狭い意味を指すものではなく、例えば「ゴリラって学名ではゴリラ・ゴリラって言うんだ！」という発見をしたり、「言葉を持たないアリが見事な一列を成すのはぜなんだろう？」と疑問に思ったりと、小さなものから大きなものまで色々な気づきや発見、疑問の数々がそもそも “ 学び ” なんだ！ということにまず気づいていただきたいのです。これから皆さんは卒業までの数年間、この大学での “ 学び ” を通して、そのような気づきや発見、疑問に思うことを日々経験していくものと思います。 「大学道場 mini ゼミ」というこの授業科目では、大学の先生たちが日夜研鑽を積んでいる研究活動やその他の活動の一端を学生の皆さんと共有し、そのような気づきや発見などを実際に体験してもらうことをねらいとしています。そのためこの授業科目では、「科目担当者」（上記）の数だけプログラムを用意しています。学生の皆さんは、その中から特に興味・関心をもつゼミを一つ選び、受講していただけたらと思います。 各ゼミでは、基本的に 5 ～ 25 名程度の少人数制をとり、先生と学生とが互いに顔が見える近い関係の中で授業を行います。各担当の先生がゼミでどのようなことをするか、どのように授業を進めるかということについては、別途配布する「大学道場 mini ゼミパンフレット」を参照してください。 なおゼミの受講は、履修登録とは別に事前の希望申請を必要とします。その手続きについては、別途配布する「大学道場 mini ゼミパンフレット」に示します。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第 1 回	各ゼミ担当教員によるオリエンテーション	【予習】シラバスと大学道場 mini ゼミパンフレットに目を通す
第 2 回	各ゼミ担当教員の指示による（大学道場 mini ゼミパンフレット参照）	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり
第 3 回	各ゼミ担当教員の指示による（大学道場 mini ゼミパンフレット参照）	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり
第 4 回	各ゼミ担当教員の指示による（大学道場 mini ゼミパンフレット参照）	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり
第 5 回	各ゼミ担当教員の指示による（大学道場 mini ゼミパンフレット参照）	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり
第 6 回	各ゼミ担当教員の指示による（大学道場 mini ゼミパンフレット参照）	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり
第 7 回	各ゼミ担当教員の指示による（大学道場 mini ゼミパンフレット参照）	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり
第 8 回	各ゼミ担当教員の指示による（大学道場 mini ゼミパンフレット参照）	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり

学修の到達目標
狭い意味での学びとは異なる、“ 学び ” 本来の悦びや愉しさをその肌で知ることができる。 日々の日常生活の中にあっても、あるいはまだ知らない分野の世界にあっても、それまで気づくことのなかった新たな気づきや発見を得ることができる。集団の中で協調性をもちながら議論をする過程で、互いに考えを深めることができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①ゼミで取り組むテーマについてさらに学びたいという意欲を持つことができる。（知欲）	秀	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、先生が話す内容を理解しようという努力が見られるのみならず、さらにそのテーマ、課題等について学ぶ意欲を見せ、現に主体的に学びを進めており、その学びの質が特に優れている。
	優	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、先生が話す内容を理解しようという努力が見られるのみならず、さらにそのテーマ、課題等について学ぶ意欲を見せ、現に主体的に学びを進めている。
	良	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、先生が話す内容を理解しようという努力が見られるのみならず、さらにそのテーマ、課題等について学ぶ意欲を見せている。
	可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、先生が話す内容を理解しようという努力が見られる。
	不可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、先生が話す内容を理解しようという努力すら見られない。
②ゼミで取り組むテーマについて、自ら深く考えることができる。（探究力）	秀	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自らの考えを述べようとする努力が見られ、さらにその述べる内容が的確であるだけでなく、優れており、称賛されるべきレベルにまで到達している。
	優	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自らの考えを述べようとする努力が見られ、さらにその述べる内容が的確であるだけでなく、優れている。
	良	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自らの考えを述べようとする努力が見られ、さらにその述べる内容が的確である。
	可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自らの考えを述べようとする努力が見られる。
	不可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自らの考えを述べようとする努力すら見られない。
③ゼミの中で他者の話に積極的に耳を傾け、理解しようとすることができる。（傾聴力・対話力）	秀	ゼミの中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとっており、現にその内容を正しく理解し、さらにその話に対して質問や意見を返すなど、建設的議論に参加することができ、その質問や意見が秀逸である。
	優	ゼミの中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとっており、現にその内容を正しく理解し、さらにその話に対して質問や意見を返すなど、建設的議論に参加することができる。
	良	ゼミの中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとっており、現にその内容を正しく理解している。
	可	ゼミの中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとることができている。
	不可	ゼミの中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢すらとれていない。
④ゼミでの学びを通じて得たことについて自らふりかえり、考えることができる。（省察力）	秀	ゼミでの取り組みを通じて、何を学んだかという事実をふりかえることに加えて、その学んだことがさらにどのような意味を持っているかということについて考えることができ、その考えが的確であるうえに、秀逸である。
	優	ゼミでの取り組みを通じて、何を学んだかという事実をふりかえることに加えて、その学んだことがさらにどのような意味を持っているかということについて考えることができ、その考えが的確である。
	良	ゼミでの取り組みを通じて、何を学んだかという事実をふりかえることに加えて、その学んだことがさらにどのような意味を持っているかということについて考えることができる。
	可	ゼミでの取り組みを通じて、何を学んだかという事実をふりかえることができる。
	不可	ゼミでの取り組みを通じて、何を学んだかという事実をふりかえることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	0	0	0	0	50	100
評価項目	①さらに学びたいという意欲	15	0	0	0	0	15	30
	②自ら深く考える	15	0	0	0	0	15	30
	③他者の話に耳を傾ける	10	0	0	0	0	10	20
	④自らふりかえり、考える	10	0	0	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	レポート試験（課題は担当教員によって異なる）
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
その他	①	✓	ゼミによって異なる（「提出物」、「成果発表」、「作品」、「ポートフォリオ」を含む）
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
“ゼミ”がいったいどういうものなのかまったく想像もつかない方が大半かと思いますが、事前に必要な知識・技能はありません。安心してゼミに臨んでください。一つだけ求めるならば、たまたま一緒になったゼミの仲間とも互いに協力・協調しながら学んでいってほしいということです。
教科書・参考書
教科書：各ゼミ担当教員の指示による **参考書**：各ゼミ担当教員の指示による

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
超ときわびと （Ｆ１１０４０） 「知識基盤社会」を牽引する人財の育成	演習	1	30	1	後期	選択	—	中田康夫 複数担当	7号館4階 研究室他
科目担当者	中田康夫、髙松邦彦								

関連ときわコンピテンシー	責任感、省察力、貢献力、協調性・協働力、傾聴力・対話力、デザイン力、批判的思考力、論理的思考力、自己管理力、探究力
授業の概要	科学技術と社会の関わりが深化・複雑化している知識基盤社会において、求められる人財の素養・能力は多様である。このような社会では、必要とされる知識や技術のすべてを個人の問題に帰することはできない。高度の専門的な素養・能力を備えたうえで、異なる知識・方法論を持つ多種多様な個々人が集い、それぞれの個性を存分に活かしつつ、チームとしての力を最大限発揮することが重要である。したがって本科目では、チームとしての力を最大限発揮する人財の育成を目指す。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション・ガイダンス （担当：中田・髙松）	
第2回	本年度の課題の提示 （担当：中田・髙松）	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取組む
第3回	デザイン思考の第1段階「共感」①：対象者に寄り添い、理解する （担当：中田・髙松）	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取組む
第4回	デザイン思考の第1段階「共感」②：対象者が本当に求めていることを見つけ出す （担当：中田・髙松）	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取組む
第5回	デザイン思考の第2段階「課題定義」①：「共感」の段階で得られた対象者の意見や情報から、潜在的な課題やニーズを抽出する （担当：中田・髙松）	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取組む
第6回	デザイン思考の第2段階「課題定義」②：第5回をもとに、目指すべき方向性・コンセプトを確立する （担当：中田・髙松）	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取組む
第7回	デザイン思考の第3段階「アイデア創造」①：アイデアの「質」よりも「量」を意識してブレインストーミングを行い、チームメンバーが思いついたことをとにかくアウトプットする（担当:中田･髙松）	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取組む
第8回	デザイン思考の第3段階「アイデア創造」②：第7回をもとに、仮説を立て、課題達成のための新たな方法となるアイデアを生み出す （担当：中田・髙松）	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取組む
第9回	デザイン思考の第4段階「試作（プロトタイプ化）」①：「アイデア創造」の段階で出たアイデアで、チームの支持を集めたものをいくつか試作段階へと進める （担当：中田・髙松）	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取組む
第10回	デザイン思考の第4段階「試作（プロトタイプ化）」②：様々な可能性を試し、経費や時間を節約することを念頭に試作する （担当：中田・髙松）	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取組む
第11回	デザイン思考の第5段階「テスト」①：「試作」段階で作成したプロトタイプについて、peer に協力してもらい検証する （担当：中田・髙松）	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取組む
第12回	第11回の検証結果を十全にリフレクトし、プロトタイプの改善を図る （担当：中田・髙松）	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取組む
第13回	第14回のグループプレゼンテーションに向けた準備 （担当：中田・髙松）	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取組む
第14回	グループプレゼンテーション （担当：中田・髙松）	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取組む
第15回	まとめ （担当：中田・髙松）	

学修の到達目標
・デザイン思考の基礎を修得する。 ・チーム力を強化する方法の基礎を修得する。 ・デザイン思考をもとにチーム力を発揮して、課題の解決ができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①社会の一員としての責任をもって物事に臨むことができる。 （責任感）	秀	自らの行動のすべてに対して責任を負う腹づもりで物事に臨んでおり、他者からもそのように評価されている。
	優	自らの行動のすべてに対して責任を負う腹づもりで物事に臨んでいる。
	良	報告・連絡・相談を能動的に行うことができる。
	可	言われれば、報告・連絡・相談ができる。
	不可	報告・連絡・相談ができない、あるいは責任感が全くない。
②自己の思考や行動をリフレクト（省察）することができる （省察力）	秀	自己の課題が具体的に明示され、なおかつ実効性を伴った次への行動指針がみられる。
	優	自己の課題と次への行動指針がみられる。
	良	自己の課題はみられるが、次への行動指針が具体的かつ明瞭ではない。
	可	自己の課題はみられるが、抽象レベルに留まっている。
	不可	自己の課題と次への行動指針が明確にされていない。
③誰かの役に立つことに悦びを感じ、具体的に行動することができる。 （貢献力）	秀	他者の立場に立った利他的な行動ができ、他者からもそのように評価されている。
	優	他者の立場に立った利他的な行動ができる。
	良	他者の立場に立った行動をしようとしている。
	可	誰かの役に立ちたいという思いはあるが、それが行動には十分に反映されていない。
	不可	他者の立場に立った行動ができない。
④他者と１つの課題について協力して取り組むことができる （協調性・協働力）	秀	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行するのみならず、他者と建設的に議論を行うことができ、グループのために有益な意見を出すことができ、他者から評価されている。
	優	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行するのみならず、他者と建設的に議論を行うことができ、グループのために有益な意見を出すことができる。
	良	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行するのみならず、他者と建設的に議論を行うことができる。
	可	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行することができる。
	不可	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行することができない。
⑤独創性豊かな解決策を提示することができる。 （デザイン力）	秀	正解のない課題に対して、独創性豊かで他では見られない興味深い解決策を提示することができており、他者からもそのように評価されている。
	優	正解のない課題に対して、独創性豊かで他では見られない興味深い解決策を提示することができる。
	良	正解のない課題に対して、興味深い解決策を提示することができる。
	可	正解のない課題に対して、一応まとまった解決策を提示することができる。
	不可	正解のない課題に対して、一応まとまった解決策を提示することができない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
⑥グループ活動の中で他者の話に積極的に耳を傾け、理解しようとすることができる。 （傾聴力・対話力）	秀	グループ活動の中で他者（教師や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとっており、現にその内容を正しく理解し、さらにその話に対して質問や意見を返すなど、建設的議論に参加することができ、その質問や意見が秀逸である。
	優	グループ活動の中で他者（教師や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとっており、現にその内容を正しく理解し、さらにその話に対して質問や意見を返すなど、建設的議論に参加することができる。
	良	グループ活動の中で他者（教師や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとっており、現にその内容を正しく理解している。
	可	グループ活動の中で他者（教師や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとることができている。
	不可	グループ活動の中で他者（教師や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 （口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	0	45	0	0	15	100
評価項目	①責任をもって物事に臨む	0	0	10	0	0	0	10
	②リフレクトする力	40	0	0	0	0	0	40
	③誰かの役に立つことへの悦び	0	0	5	0	0	5	10
	④他者との協働	0	0	15	0	0	5	20
	⑤独創性豊かな提案	0	0	15	0	0	0	15
	⑥他者の話に耳を傾ける	0	0	0	0	0	5	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①		最終レポートにて評価する。
	②	✓	
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
成果発表 （口頭・実技）	①	✓	課題に対する企画提案内容を評価対象とする。
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
	⑥		
その他	①		各学修活動に取り組む姿勢・態度
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
	⑥	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
・積極的、能動的、主体的に学修しようとする意欲の高い人の履修を希求する。 ・学修効果の観点から、履修上限人数は 30 人程度とする。希望者多数の場合は抽選とする。
教科書・参考書
教科書：なし 参考書：適宜紹介する

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
情報基礎 （F１２０００） パソコンを使いこなそう！	演習	1	30	1	前期	必修	看国試必修 養教免必修	中田康夫 単独担当	7号館4階 研究室
科目担当者	中田康夫								

関連ときわコンピテンシー	情報力、知欲、探究力、省察力、表現力、貢献力、協調性・協働力、デザイン力
授業の概要	現代では、あらゆる分野でパソコン（PC）を活用して仕事を効率的に行うことが必須となっている。そこで本授業では、まずパソコン活用に関する基礎的なスキルを系統的に修得する。さらに現代に必須なパワーポイントを活用した基礎的なプレゼンテーション・スキルの修得を目指す。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	ガイダンス wordを活用するスキル①（書類を作ろう）	第15回目までに完成できるように授業時間外も有効活用する
第2回	wordを活用するスキル②（書類／ポスターを作ろう）	第15回目までに完成できるように授業時間外も有効活用する
第3回	wordを活用するスキル③（ポスターを作ろう）	第15回目までに完成できるように授業時間外も有効活用する
第4回	wordを活用するスキル④（名刺を作ろう）	第15回目までに完成できるように授業時間外も有効活用する
第5回	wordを活用するスキル⑤（名刺／地図を作ろう）	第15回目までに完成できるように授業時間外も有効活用する
第6回	wordを活用するスキル⑥（名刺／地図を作ろう） excelを活用するスキル①（グラフの作成）	第15回目までに完成できるように授業時間外も有効活用する
第7回	excelを活用するスキル②（関数の活用）	第15回目までに完成できるように授業時間外も有効活用する
第8回	excelを活用するスキル③（「統計学」のデータを使って演習）	第15回目までに完成できるように授業時間外も有効活用する
第9回	powerpointを活用するスキル（アニメーション）	第12回の発表に間に合うように授業時間外も有効活用する
第10回	プレゼンテーションの準備① （グループワーク：企画・立案／スライド作成）	第12回の発表に間に合うように授業時間外も有効活用する
第11回	プレゼンテーションの準備② （グループワーク：スライド作成／予行演習）	第12回の発表に間に合うように授業時間外も有効活用する
第12回	プレゼンテーションとリフレクション	
第13回	プレゼンテーションの準備① （グループワーク：企画・立案／スライド作成）	第14回の発表に間に合うように授業時間外も有効活用する
第14回	プレゼンテーションの準備②（スライド作成／予行演習）	第14回の発表に間に合うように授業時間外も有効活用する
第15回	プレゼンテーションとリフレクション、まとめ	

学修の到達目標

・wordの基礎的スキル（見栄えのよい文書作成、図表の挿入）を使いこなせる
・excelの基礎的スキル（表計算、図の作成・加工、関数）を使いこなせる
・powerpointの基礎的スキル（スライド作成、アニメーション）を使いこなせる
・他者に伝わるプレゼンテーション要点を理解し、実践することができる

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①パソコン活用に関する基礎的なスキルを修得している。（知欲）	秀	基礎的なスキルのみならず、能動的学習によりスキルを向上させようとしている。
	優	基礎的なスキルを十分なレベルで修得している。
	良	基礎的なスキルを修得しているが、十分なレベルには達していない。
	可	必要最低限のスキルを修得している。
	不可	必要最低限のスキルを修得していない。
②他者と１つの課題について協力して取り組むことができる。（協調性・協働力）	秀	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行するのみならず、他者と建設的に議論を行うことができ、グループのために有益な意見を出すことができ、他者から評価されている。
	優	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行するのみならず、他者と建設的に議論を行うことができ、グループのために有益な意見を出すことができる。
	良	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行するのみならず、他者と建設的に議論を行うことができる。
	可	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行することができる。
	不可	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行することができない。
③他者に対して自らの考えを表現することができる。（表現力）	秀	自ら取り組んだ成果を、他者に向けてわかりやすく伝える努力の過程を見て取ることができ、実際にそのための工夫が認められ、その内容が優れており、他者からもそのように評価されている。
	優	自ら取り組んだ成果を、他者に向けてわかりやすく伝える努力の過程を見て取ることができ、実際にそのための工夫が認められ、その内容が優れている。
	良	自ら取り組んだ成果を、他者に向けてわかりやすく伝える努力の過程を見て取ることができ、実際にそのための工夫が認められる。
	可	自ら取り組んだ成果を、他者に向けてわかりやすく伝える努力の過程を見て取ることができる。
	不可	自ら取り組んだ成果を、他者に向けてわかりやすく興味深く伝える努力の過程が見られない。
④デザイン思考を駆使して「人に伝わる」プレゼンテーションを創造することができる。（デザイン力）	秀	課題の真髄を見極め、できるだけ多くの解決策を考え、いくつかのアイデアを選び、研ぎ澄まし、最終的なアイデアに絞り込み、最終的にプレゼンテーションの内容に落とし込まれており、内容が優れており、他者からもそのように評価されている。
	優	課題の真髄を見極め、できるだけ多くの解決策を考え、いくつかのアイデアを選び、研ぎ澄まし、最終的なアイデアに絞り込み、最終的にプレゼンテーションの内容に落とし込まれており、内容が優れている。
	良	課題の真髄を見極め、できるだけ多くの解決策を考え、いくつかのアイデアを選び、研ぎ澄まし、最終的なアイデアに絞り込み、最終的にプレゼンテーションの内容に落とし込まれている。
	可	課題の真髄を見極め、できるだけ多くの解決策を考え、いくつかのアイデアを選び、研ぎ澄まし、最終的なアイデアに絞り込み、最終的にプレゼンテーションの内容に落とし込みをしようとしている。
	不可	課題の真髄を見極め、できるだけ多くの解決策を考え、いくつかのアイデアを選び、研ぎ澄まし、最終的なアイデアに絞り込み、最終的にプレゼンテーションの内容に落とし込まれていない。
⑤自らの学びに対して謙虚にリフレクト（省察）することができる。（省察力）	秀	自己の課題が具体的に明示され、なおかつ実効性を伴った次への行動指針がみられる。
	優	自己の課題と次への行動指針がみられる。
	良	自己の課題はみられるが、次への行動指針が具体的かつ明瞭ではない。
	可	自己の課題はみられるが、抽象レベルに留まっている。
	不可	自己の課題と次への行動指針が明確にされていない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		30	0	40	20	0	10	100
評価項目	①さらに学びたいという意欲	0	0	0	20	0	5	25
	②他者との協働・協力	0	0	10	0	0	5	15
	③他者に対する表現	0	0	10	0	0	0	10
	④デザイン思考の活用	0	0	10	0	0	0	10
	⑤リフレクトする力	30	0	10	0	0	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①		作品、成果発表をもとに凝縮ポートフォリオを作成し、それを最終レポートという形で提出されたものを評価対象とする。
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	
成果発表（口頭・実技）	①		グループとしての２つの課題のプレゼンテーション内容によって評価する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
作品	①	✓	word、excel に関する課題に対して①の評価基準（ルーブリック）に基づき評価する。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
その他	①	✓	授業中の課題への取り組む姿勢・態度
	②	✓	
	③		
	④		
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など
・キーボード入力 ・能動的・主体的に学修する姿勢

教科書・参考書
教科書：なし 参考書：随時紹介する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
情報メディア演習 （F１２０１０） 情報をいかに活用するか	演習	1	30	1	後期	選択	看国試選択 養教免必修	大森雅人 単独担当	7号館5階 研究室
科目担当者	大森雅人								

関連ときわコンピテンシー	情報力、論理的思考力、批判的思考力、デザイン力、表現力
授業の概要	現代社会では、ICT（情報通信技術）著しく進展しており、そこには膨大な情報が蓄積され続けている。それ故に、課題解決につながる有用な情報を収集・整理・分析して課題解決につなげることは、むしろ容易ではなくなっている。また、膨大な情報に埋もれることなく、見いだした解決法を発信することも困難になっている。 そこで、本授業では「情報」の扱いに焦点をあて、情報を収集・整理・分析する力、情報を活用して課題を解決する力、解決策を発信する力の育成を目指す。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション：本授業の目的や内容、進め方などを理解する。 「ICTと社会」に関して、その現状を概観する	【予習】シラバスの記述内容の熟読 【復習】「ICTと社会」で学んだことを深める
第2回	情報セキュリティと情報モラルを理解する →事例紹介などを通じて、他者と自己の双方を守るICT活用法を学ぶ	【予習】SNS等への不適切投稿事例を調査 【復習】学習内容の振り返り
第3回	情報セキュリティと情報モラルをより深く理解する演習 →事例検討などの演習を通じて実践的に学習する	【予習】前回授業内容の理解を深めておく 【復習】演習内容の振り返り
第4回	ICTの進展と未来社会の姿 →動画等を活用した講義や事例検討を通じてICTと社会を学ぶ	【予習】人工知能の現状を調べておく 【復習】学習内容の振り返り
第5回	様々なメディアが発信する情報の特性 →様々なメディアが伝える情報の特性を理解する	【予習】メディアにはどんな種類があるか 【復習】メディアの特性を実際に確かめる
第6回	様々なメディアが発信する情報の特性を理解する演習 →演習を通じてメディアが伝える情報の特性を実践的に学ぶ	【予習】前回授業内容の理解を深めておく 【復習】演習内容の振り返り
第7回	あらかじめ解がない（解法が未知の）課題にどう取り組むか →事例の検討等を通じて課題解決について学ぶ	【予習】解法が未知の課題とはどんな課題か 【復習】学習内容の振り返り
第8回	あらかじめ解がない（解法が未知の）課題にどう取り組むかを理解する演習 →小さな課題を設定して課題解決に実際に取り組む	【予習】前回授業内容の理解を深めておく 【復習】演習内容の振り返り
第9回	得られた解の効果的なプレゼンテーションについて →効果的なプレゼンテーションの方法について学ぶ	【予習】PowerPointの操作法を確認 【復習】演習内容の振り返り
第10回	課題解決の取り組み①（グループ作り、課題の設定） →実際に課題解決に取り組むが、今回は課題の設定を中心にする	【予習】課題をあらかじめ考える 【復習】遅れがあれば進めておく
第11回	課題解決の取り組み②（データの収集、吟味、分析） →実際に課題解決に取り組むが、今回は収集、吟味、分析を中心にする	【予習】データ扱いを理解しておく 【復習】遅れがあれば進めておく
第12回	課題解決の取り組み③（解を導く） →実際に課題解決に取り組むが、最終回として解を導きプレゼンにする	【予習】進捗状況のチェック 【復習】未完成なら完成させる
第13回	プレゼンテーションによる発表会① →各グループで課題に取り組んだ成果を発表する	【予習】プレゼンの練習 【復習】発表の反省
第14回	プレゼンテーションによる発表会② →成果発表の残りと各グループの発表の評価（自己評価と他者評価）	【予習】プレゼンの練習 【復習】発表の反省
第15回	情報メディアを活用するにあたって配慮すべきことを総合的に振り返る →振り返りシートを用いた演習	【予習】授業を総合的に振り返っておく 【復習】振り返りシートの提出

学修の到達目標
解法が未知の課題を解決するにあたり、様々なメディアの特性を理解して上で、それを効果的に活用して情報を収集し、それを整理・分類できること。その際には、集まった情報をそのまま鵜呑みにするのでは無く、多角的・批判的に捉えることができること。 解を導く際には、論理的に、得られた情報をしっかりと活用して、根拠に基づいた解となるようにできること。 その上で、得られた解を効果的に伝えることができること。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①課題解決に必要な情報を収集・整理・分析し、活用することができる（情報力）	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は実社会で通じるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果は解の導きに有効である。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。
②課題の解決過程で、根拠に基づき、論理的に考えることができる（論理的思考力）	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。その上で、根拠の限界も認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
③メディアの出す情報を鵜呑みにせずに多角的・批判的に捉え、考えることができる（批判的思考力）	秀	メディアの特性を理解した上で、情報を十分多面的に検討し、その内容を統合することができる。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合することができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合することができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、まだ検討すべき余地があることは分かっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。
④得られた情報から課題の解決策をデザインすることができる（デザイン力）	秀	課題解決策をデザインすることができる。解決策は実社会で通用するレベルである。
	優	課題解決策をデザインすることができる。解決策は一定の妥当性を持っている。
	良	ある程度課題解決策をデザインすることができる。
	可	他者から促されることで、課題解決策をデザインすることができる。
	不可	課題解決策をデザインすることができない。
⑤得られた解を表現し、他者に伝えることができる（表現力）	秀	解決策を効果的に他者に伝えることができる。そのレベルは実社会でも通用する。
	優	解決策を効果的に他者に伝えることができる。そのレベルは高い。
	良	解決策をある程度効果的に他者に伝えることができる。
	可	解決策を他者に伝えることは何とかできている。
	不可	解決策を他者に伝えることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	30	30	0	0	0	100
評価項目	①情報を収集・整理・分析し、活用	10	10	0	0	0	0	20
	②根拠に基づき、論理的に考える	10	10	0	0	0	0	20
	③多角的・批判的に捉え、考える	10	10	0	0	0	0	20
	④情報を統合して解決策をデザイン	10	0	10	0	0	0	20
	⑤解を表現し、他者に伝える	0	0	20	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	15 回の授業後に、レポート課題を課す。 レポートの記述にあたっては、様々なメディアの特性を理解した上での活用法、未知の課題を解決する方法に関する理解、効果的な解決策の発表方法などに関する適切な理解が必要となる。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
提出物	①	✓	演習を行った際には、manaba を使っての成果物の提出を行う。 授業を欠席した場合は、自分で補って提出しないと、この部分の得点を失う。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤		
成果発表（口頭・実技）	①		得られた解決策に関して PowerPoint を活用して発表する機会を設ける。その際には、効果的な発表になるように、必ず何らかの役割を果たすようにすること。
	②		
	③		
	④	✓	
	⑤	✓	

※評価方法や授業内容などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

履修に必要な知識・技能・態度など

PC 操作に関するスキルを、すでに修得していることを前提とする。本授業では、そうした操作スキルを活用しての応用的な内容で授業を行う。各授業は、相互に関連した内容で構成されているので、欠席や遅刻があると学習成果が著しく低下するので注意してほしい。

教科書・参考書

教科書：使用しない

参考書：『科学技術白書〈平成 29 年版〉』文部科学省、『僕らが毎日やっている最強の読み方』 池上彰・佐藤優
東洋経済新報社

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
健康スポーツ科学Ⅰ （Ｆ１２０２０） 健康について考える	講義	1	15	1	前期	必修	看国試必修 養教免必修	近藤みづき 複数担当	7号館2階 研究室他
科目担当者	近藤みづき、柳本有二、吉田幸恵、岩越美恵、足立了平、中村晶子								

関連ときわコンピテンシー	教養、実行力、表現力、省察力、協調性・協働力
授業の概要	この講義の目標は、健康について幅広い分野から考究するものです。普段当たり前にある健康を医学、生理学、保健学、口腔保健学、栄養学、体育学等の分野から解き明かしていきます。各自のライフ・スタイルを見直し、変革のきっかけになることを期待します。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション（担当者：近藤）	【予習】シラバスを読む 【復習】ふりかえり票の作成
第2回	運動とからだの変化について（担当者：柳本）	【予習】次回の内容について調べる 【復習】ふりかえり票の作成
第3回	睡眠のメカニズムについて（担当者：岩越）	【予習】次回の内容について調べる 【復習】ふりかえり票の作成
第4回	口の健康について（担当者：足立）	【予習】次回の内容について調べる 【復習】ふりかえり票の作成
第5回	ヘルスプロモーションについて（担当者：中村）	【予習】次回の内容について調べる 【復習】ふりかえり票の作成
第6回	栄養について（担当者：吉田）	【予習】次回の内容について調べる 【復習】ふりかえり票の作成
第7回	ウエルネスについて（担当者：柳本）	【予習】次回の内容について調べる 【復習】ふりかえり票の作成
第8回	まとめ（担当者：近藤 ）	【復習】ふりかえり票の作成

学修の到達目標

・健康に関する基本的な知識を修得できる。
・健康に関する知識を自分の生活に引き付けて考えることができる。
・自らの健康を維持増進するよう日々の行動に移すことができる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①健康に関する基本的な知識を修得することができる（教養）	秀	授業内で提示する健康に関する基本的な知識を満足のいく水準を超えて、周囲の知識と併せて理解を深め、健康について自ら考えることができる。
	優	授業内で提示する健康に関する基本的な知識を満足のいく水準まで超えて、周囲の知識と併せて理解を深めることができている。
	良	授業内で提示する健康に関する基本的な知識を満足のいく水準まで修得していることが認められる。
	可	授業内で提示する健康に関する基本的な知識を満足のいく水準まで到達していないが、その努力の過程は認められる。
	不可	授業内で提示する健康に関する基本的な知識を満足のいく水準まで修得しておらず、努力の過程も認められない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②健康を自らの生活に即して考えることができる。（実行力）	秀	授業で学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができ、自身の健康の増進のために行動でき、他者にも良い影響を及ぼすことができる。
	優	授業で学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができ、自身の健康の増進のために行動できる。
	良	授業で学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができ、若干であるが自身の健康の増進のために行動できる。
	可	授業で学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができる。
	不可	授業で学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができない。
③健康に関する事象について他者に説明することができる。（表現力）	秀	授業で学んだ健康に関する知識を正確に表現することができ、他者が興味深く聞けるようにその表現方法の工夫が十分にできる。
	優	授業で学んだ健康に関する知識を正確に表現することができ、他者が興味深く聞けるようにその表現方法の工夫が認められる。
	良	授業で学んだ健康に関する知識を正確に表現することができる。
	可	授業で学んだ健康に関する知識を正確に表現しようとする努力が認められる。
	不可	授業で学んだ健康に関する知識を正確に表現しようとする努力が認められない。
④健康に関する学習を自ら振り返ることができる。（省察力）	秀	授業で学んだ健康に関する知識について、自ら振り返り、その内容を満足できる水準までまとめることができ、さらに自らの考えを反省的に述べることができる。
	優	授業で学んだ健康に関する知識について、自ら振り返り、その内容を満足できる水準までまとめることができ、さらに自らの考えを反省的に述べるようとする努力が認められる。
	良	授業で学んだ健康に関する知識について、自ら振り返り、その内容を満足できる水準を超えてまとめることができる。
	可	授業で学んだ健康に関する知識について、自ら振り返り、その内容を満足できる水準までまとめることができる。
	不可	授業で学んだ健康に関する知識について、自ら振り返り、その内容を満足できる水準までまとめることができていない。
⑤仲間と協調・協働して動くことができる。（協調性・協働力）	秀	自らが高い意志をもって、自発的に周囲と協調･協働でき、それによりチーム内のモチベーションが上がり、結果としてチームを課題達成に導くことができる。
	優	自らが高い意志をもって、自発的に周囲と協調･協働でき、それによりチーム内のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調･協働できる。
	可	協調･協働への興味は薄いが、他者に促されれば協調･協働に作業することが認められる。
	不可	周囲と協調･協働する意志が認められない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭･実技）	作品	ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ	その他	合計
評価割合		40	35	25	0	0	0	100
評価項目	①基本的知識の修得	20	0	5	0	0	0	25
	②論理的思考力	20	0	0	0	0	0	20
	③他者への説明	0	15	10	0	0	0	25
	④学修の振り返り	0	20	0	0	0	0	20
	⑤仲間との協調、協働	0	0	10	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	レポート試験を実施する。
	②	✓	
	③		
	④		
	⑤		
提出物	①		毎回のふりかえりシート
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
成果発表（口頭･実技）	①	✓	グループワーク等
	②		
	③	✓	
	④		
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
毎回担当者が変わるので、履修者は全ての回に出席することが望ましい。
教科書・参考書
教科書：使用しません 参考書：担当教員より適宜紹介する。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
健康スポーツ科学Ⅱ （Ｆ１２０３０） 身体が心がうれしくなる授業を目指して！	演習	1	15	1	前期	必修	看国試必修 養教免必修	柳本有二 複数担当	7号館4階 研究室他
科目担当者	柳本有二、小野昌二								

関連ときわコンピテンシー	自己管理力、探究力
授業の概要	健康スポーツ科学Ⅰでは、身体と心のトータルヘルスの視点から、運動・スポーツに関連する応用理論を学習した。Ⅱでは、それぞれのスポーツ種目での活動量を歩数計で、運動強度を心拍数などで測定することにより、運動中の生理的反応を学習する。さらに、脳機能活性度を知るための脳波測定を行う。また障害者のスポーツ実践をとおして、その基礎的技能や活動の意義を理解する。体力や健康の保持増進ができる能力をより身につけるとともに、日常生活にスポーツ活動が習慣化するための態度を育成する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	1回オリエンテーション（合同）体力測定 （担当者：柳本・小野）	【復習】授業の実施内容を把握しておく
第2回	球技の基本練習（サッカー型） （担当者：小野） ニュースポーツの理解。実技：ユニホック （担当者：柳本）	【予習】適切な体調管理をしておく 【復習】実施した種目などの歴史を知る
第3回	球技の応用練習（サッカー型） （担当者：小野） 実技：インディアカ （担当者：柳本）	【予習】適切な体調管理をしておく 【復習】実施した種目などの歴史を知る
第4回	サッカー型試合 （担当者：小野） 実技：ゴールボール、アルティメット （担当者：柳本）	【予習】適切な体調管理をしておく 【復習】実施した種目などの歴史を知る
第5回	球技の基本練習（野球型） （担当者：小野） 実技：ノルディック・ウォーク （担当者：柳本）	【予習】適切な体調管理をしておく 【復習】実施した種目などの歴史を知る
第6回	球技の応用練習（野球型） （担当者：小野） 実技：ブラインドサッカー、フットサル （担当者：柳本）	【予習】適切な体調管理をしておく 【復習】実施した種目などの歴史を知る
第7回	ソフトボール試合1 （担当者：小野） ブローライフル、ノルディックラン （担当者：柳本）	【予習】適切な体調管理をしておく 【復習】実施した種目などの歴史を知る
第8回	ソフトボール試合2 （担当者：小野） 実技：ウエルネスダーツ（脳波測定)。 これまでのまとめ （担当者：柳本）	【予習】適切な体調管理をしておく 【復習】実施した種目などの歴史を知る

学修の到達目標
・各スポーツ種目の身体活動量や運動強度などを把握する。 ・屋外スポーツの総合的な応用技術を習得する。 ・ニュースポーツの特性を理解する。 ・障がい者のスポーツを学ぶ。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①自己管理力 自ら、心身の健康を適切に管理することができる。 （自己管理力）	秀	身体と心が健全で、欠席もなく、意欲的で積極的な姿勢が認められる。
	優	身体と心が健全で、積極的な姿勢が認められる。
	良	身体と心が健全で、意欲を持つための姿勢が認められる。
	可	身体と心が健全になるように努めることができる。
	不可	自己の身体と心の管理ができていない。
②探究力 物事のあり方について深く考え、その本質を見極めようとすることができる （探究力）	秀	意欲的で積極的な探究心で、授業に参加し、さらに授業ノートや課題レポートを完成できる。
	優	積極的な探究心で、授業に参加し、さらに授業ノートや課題レポートを書くことができる。
	良	意欲的に授業に参加し、授業ノートや課題レポートを書くことができる。
	可	意欲的に授業に参加し、課題レポートを書くことができる。
	不可	探究力のある授業参加および授業ノートや課題レポートを書くことができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 （口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	25	25	0	50	0	100
評価項目	①自己管理能力	0	0	25	0	25	0	50
	②探究力	0	25	0	0	25	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
提出物	①		実技レポートとして、本授業で学んだ運動生理学的な実践および実技に関するルールや歴史などをまとめる。あるいは、それらに関連した健康情報などをまとめる。評価においては、自分の意見や主張表現の有無が関係する。さらに、障がい者のスポーツ活動の在り方について把握しておくことが評価につながる。
	②	✓	
成果発表 （口頭・実技）	①	✓	授業内の実技において、基本的な技術について、達成度を評価する。
	②		
ポートフォリオ	①	✓	毎授業で書く授業感想ノートに、当時の身体と心の環境（歩数計による運動量など）や当該授業種目の経験からの感想などをまとめる（例：障がい者の気持ちなどの理解）。
	②	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
・出席は、重視する。また、授業に適した服装をする。集合などでは、積極的に行動する。
教科書・参考書
教科書：使用しない 参考書：基礎から学ぶスポーツリテラシー

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
健康スポーツ科学Ⅲ （Ｆ１２０４０） 身体を動かす楽しさを体感する	実技	1	30	1	後期	選択	—	近藤みづき 複数担当	7号館2階 研究室他
科目担当者	近藤みづき、柳本有二								

関連ときわコンピテンシー	表現力、教養、協調性・協働力、自己管理力、責任感
授業の概要	健康の保持増進に運動が不可欠であるにもかかわらず、利便性の進んだ現代社会において、私たちは慢性的な運動不足に陥りがちである。授業では、実際に身体を動かすことで運動、スポーツの楽しさや爽快感を体感する。また、運動・スポーツの実践を通し、コミュニケーション能力を高めるとともに、基本的な技能や知識を修得し、ルール・マナーを尊守する態度を育成する。また、新しい動きかたを修得する過程を通じて、生涯にわたって主体的に運動・スポーツに取り組むことの重要性を理解する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーションとグループ分け　（担当：近藤・柳本）	【予習】シラバスを読む 【復習】体調管理をする
第2回	第1グループ：テニス①ラケッティング　（担当：近藤） 第2グループ：バドミントン①基本技能・ニュースポーツ　（担当：柳本）	【予習】体調管理をする 【復習】ふりかえりシート作成・提出
第3回	第1グループ：テニス②基本のストローク　（担当：近藤） 第2グループ：バドミントン②ゲーム　（担当：柳本）	【予習】体調管理をする 【復習】ふりかえりシート作成・提出
第4回	第1グループ：テニス③クロスラリー　（担当：近藤） 第2グループ：バスケットボール①基本技能、ニュースポーツ　（担当：柳本）	【予習】体調管理をする 【復習】ふりかえりシート作成・提出
第5回	第1グループ：テニス④サービスレシーブ　（担当：近藤） 第2グループ：バスケットボール②ゲーム　（担当：柳本）	【予習】体調管理をする 【復習】ふりかえりシート作成・提出
第6回	第1グループ：テニス⑤ダブルスゲームの進め方　（担当：近藤） 第2グループ：フットサル①基本技能、ニュースポーツ　（担当：柳本）	【予習】体調管理をする 【復習】ふりかえりシート作成・提出
第7回	第1グループ：テニス⑥戦術を含んだダブルスゲーム（担当：近藤） 第2グループ：フットサル②ゲーム　（担当：柳本）	【予習】体調管理をする 【復習】ふりかえりシート作成・提出
第8回	第1グループ：テニス⑦ダブルスゲーム　（担当：近藤） 第2グループ：全競技の復習とまとめ　（担当：柳本）	【予習】体調管理をする 【復習】ふりかえりシート作成・提出
第9回	第1グループ：バドミントン①基本技能、ニュースポーツ　（担当：柳本） 第2グループ：テニス①ラケッティング　（担当：近藤）	【予習】体調管理をする 【復習】ふりかえりシート作成・提出
第10回	第1グループ：バドミントン②ゲーム　（担当：柳本） 第2グループ：テニス②基本のストローク　（担当：近藤）	【予習】体調管理をする 【復習】ふりかえりシート作成・提出
第11回	第1グループ：バスケットボール①基本技能、ニュースポーツ　（担当：柳本） 第2グループ：テニス③クロスラリー　（担当：近藤）	【予習】体調管理をする 【復習】ふりかえりシート作成・提出
第12回	第1グループ：バスケットボール②リーグ戦　（担当：柳本） 第2グループ：テニス④サービスレシーブ　（担当：近藤）	【予習】体調管理をする 【復習】ふりかえりシート作成・提出
第13回	第1グループ：フットサル①基本技能、ニュースポーツ　（担当：柳本） 第2グループ：テニス⑤ダブルスゲームの進め方　（担当：近藤）	【予習】体調管理をする 【復習】ふりかえりシート作成・提出
第14回	第1グループ：フットサル②ゲーム　（担当：柳本） 第2グループ：テニス⑥戦術を含んだダブルスゲーム（担当：近藤）	【予習】体調管理をする 【復習】ふりかえりシート作成・提出
第15回	第1グループ：全競技の復習とまとめ　（担当：柳本） 第2グループ：テニス⑦ダブルスゲーム　（担当：近藤）	【復習】ふりかえりシート作成・提出

学修の到達目標
履修者は、各種運動・スポーツの基本的な技能や知識(特性、ルール、マナー等)の修得を通じて運動・スポーツを楽しむことができる。履修者は、各種の運動・スポーツを通じて他者とコミュニケーションをとり、協力し課題を達成することができる。履修者は、健康の保持増進に対して自己の心身や生活態度などを管理し、運動・スポーツに主体的に取り組むことができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①各種スポーツを楽しむための基本的な技能を身につけることができる。（表現力）	秀	授業で扱うスポーツに関する基本的な技能が、満足できる水準を超えており、何ら心身の束縛も障害もなく、情況に応じて自分の身体を自在に動かすことができる。
	優	授業で扱うスポーツに関する基本的な技能が、満足できる水準を超えており、情況に応じて自分の身体を動かすことができる。
	良	授業で扱うスポーツに関する基本的な技能が、満足できる水準まで達していることが認められる。
	可	授業で扱うスポーツに関する基本的な技能が、満足できる水準まで達していないが、その努力の過程は認められる。
	不可	授業で扱うスポーツに関する基本的な技能が、満足できる水準まで達しておらず、その努力の過程も認められない。
②各種スポーツの基本的な知識を修得することができる。（教養）	秀	授業で扱うスポーツに関する基本的な知識が、満足できる水準まで到達していて、行動に移すことができ、さらに周囲に良い影響や結果をもたらすことができる。
	優	授業で扱うスポーツに関する基本的な知識が、満足できる水準まで到達していて、さらに行動に移すことができる。
	良	授業で扱うスポーツに関する基本的な知識が、満足できる水準まで到達していることが認められる。
	可	授業で扱うスポーツに関する基本的な知識が、満足できる水準まで達していないが、努力の過程は認められる。
	不可	授業で扱うスポーツに関する基本的な知識が、満足できる水準まで達しておらず、その努力の過程も認められない。
③仲間と協調・協働して動くことができる。（協調性・協働力）	秀	自らが高い意志をもって、自発的に周囲と協調・協働でき、それによりチーム内のモチベーションが上がり、結果としてチームを課題達成に導くことができる。
	優	自らが高い意志をもって、自発的に周囲と協調・協働でき、それによりチーム内のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働できる。
	可	協調・協働への興味は薄いが、他者に促されれば協調・協働に作業することが認められる。
	不可	周囲と協調・協働する意志が認められない。
④健康の保持増進に向けて、自分の心身を適切に管理することができる。（自己管理力）	秀	健康の保持増進に向けて、自発的な心身や生活態度などの自己管理が可能である。さらに、その自己管理の必要性を他者と広く共有するために行動することができる。
	優	健康の保持増進に向けて、自発的な心身や生活態度などの自己管理が可能である。
	良	健康の保持増進に向けて、ある程度自発的に心身や生活態度などの自己管理が可能である。
	可	健康の保持増進に向けて、他者の助言や指導のもと、心身や生活態度などの自己管理が可能である。
	不可	健康の保持増進に向けて、心身や生活態度などの自己管理ができていない。
⑤授業に対する積極性（責任感）	秀	運動への関心や自ら運動する意欲が高く、積極的に授業に参加している。それにより周囲にも良い影響を与え、良い結果をもたらすことができる。
	優	運動への関心や自ら運動する意欲が高く、積極的に授業に参加している。それにより周囲にも良い影響を与えている。
	良	運動への関心や自ら運動する意欲が認められ、ある程度積極的に授業への参加が認められる。
	可	他者の助言や指導のもと授業へ積極的な参加が認められる。
	不可	他者の助言や指導のもと授業へ積極的な参加が認められる。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	35	35	0	0	30	100
評価項目	①基本的な技能の修得	0	5	20	0	0	0	25
	②基本的な知識の修得	0	15	0	0	0	0	15
	③仲間との協調・協働	0	15	15	0	0	0	30
	④自己管理力	0	0	0	0	0	10	10
	⑤授業への積極性	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
提出物	①	✓	学修ふりかえりシート
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤		
成果発表 (口頭・実技)	①	✓	実技・試合結果
	②		
	③	✓	
	④		
	⑤		
その他	①		授業への積極性、活動量
	②		
	③		
	④	✓	
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
・学校指定のポロシャツ着用 ・運動に適した服装と靴（室内用・屋外用）の準備を準備すること。アクセサリー等は認めない。
教科書・参考書
教科書：使用しません。 参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
アカデミックライティング （F１２０５０） 論理的な表現力を身につけよう	演習	1	30	1	後期	選択	—	山下敦子 複数担当	7号館5階 研究室他
科目担当者	山下敦子、神田大輔								

関連ときわコンピテンシー	知欲、判断力、表現力、情報力、論理的思考力
授業の概要	文章を書くことが苦手な人は多い。しかし、論理的な考え方・書き方を習得することで、効果的な文章を作成することができる。本授業では、専門書・論文等の読解やレポート・論文作成に関する技能の習得をめざす。論理的な思考を行い、判断し、表現することについて演習を通じて表現力を培う。2回目以降は、受講者をAグループ、Bグループに分け、同じ時間帯に別教室にて、山下・神田がそれぞれ授業を行う。一週ごとに山下コースと神田コースの授業を交互に受講することとなる。

授業回	授業内容		授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション （担当：山下）		【予習】シラバス内容の熟読 【復習】学びの確認
	担当者：山下	担当者：神田	
第2回	言語技術の基礎① 箇条書き、キーワード法 A：2回目　B：3回目	接続表現の重要性① 順接・逆接等 A：3回目　B：2回目	【予習】既習事項の確認 【復習】学びの確認
第3回	言語技術の基礎② パラグラフ、センテンス A：4回目　B：5回目	接続表現の重要性② 転換・補足等 A：5回目　B：4回目	【予習】既習事項の確認 【復習】学びの確認
第4回	言語技術の応用① 説明・報告文 A：6回目　B：7回目	論証とはどのようなものか 演繹と推測の違い A：7回目　B：6回目	【予習】既習事項の確認 【復習】学びの確認
第5回	言語技術の応用② 分析・解釈・批判 A：8回目　B：9回目	隠れた前提 A：9回目　B：8回目	【予習】既習事項の確認 【復習】学びの確認
第6回	言語技術の応用③ 資料・情報整理 A：10回目　B：11回目	代替仮説の可能性 A：11回目　B：10回目	【予習】既習事項の確認 【復習】学びの確認
第7回	言語技術の応用④ 小論文の実際 A：12回目　B：13回目	論証の批判 A：13回目　B：12回目	【予習】既習事項の確認 【復習】学びの確認
第8回	まとめ A：14回目　B：15回目	まとめ A：15回目　B：14回目	【予習】既習事項の確認 【復習】学びの確認

学修の到達目標
基礎的な文章表現力や言語技術を習得し、大学生活に必要な論理的文章を「読む力」「書く力」を身につけることができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができる。（知欲）	秀	自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつなげることができる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと悦びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができない。
②情報や思考に基づき、状況に対して適切な判断をすることができる。（判断力）	秀	既に持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等、高いレベルで目的に応じて、短時間で正確に活用することができる。またそれゆえ、その判断を踏まえた次の新たな創作的作業を実行しやすい。
	優	既に持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を目的に応じて、自力で十分適切に活用することができる。
	良	既に持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちいくつかを機能させつつ、自力で適切に活用することができる。
	可	他者の助言・指導を基に、その場に即した活用が一定レベルにおいて可能である。
	不可	適切な活用ができない。
③想いや考えを表現し、他者に伝えることができる。（表現力）	秀	適切かつ効果的に他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも目的や場に応じて対応することができている。
	優	適切かつ効果的に他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語表現等のすべてにおいて十分な能力を持っている。
	良	適切かつ効果的に他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	適切かつ効果的に他者になんらかの方法で伝えることができる。
	不可	適切かつ効果的に他者に伝えることができない。
④思考や判断に必要な情報を収集・整理・分析し、活用することができる。（情報力）	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用することができる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。
⑤根拠に基づき論理的に考えることができる。（論理的思考力）	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、反論を予想し、議論や技術を駆使して論理を再構築することができる。
	優	客観的な根拠に基づき、十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき、論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		30	20	20	0	30	0	100
評価項目	①知欲	0	4	4	0	30	0	38
	②判断力	5	4	4	0	0	0	13
	③表現力	10	4	4	0	0	0	18
	④情報力	5	4	4	0	0	0	13
	⑤論理的思考力	10	4	4	0	0	0	18

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①		筆記試験を行う。授業を通して学んだこと読解力や言語技術、あるいは表現方法等の知識・技能などを活用して、論理的な文章を書くことが求められる。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
提出物	①	✓	各授業で、テーマに応じた文章を記述する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
成果発表 (口頭・実技)	①	✓	各授業で、テーマに応じてグループディスカッションなどを行ったり、記述した文章を発表したりする。学修した言語技術や表現方法を活用することが求められる。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
ポートフォリオ	①	✓	毎回の授業で振り返りを行う。また、授業で記述したものについて自己評価や添削されたものについて見直しを行う。
	②		
	③		
	④		
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など
日常生活の言葉に敏感になること。また語彙力や言語技術を高めていくために、読解、記述、推敲を反復して行うことに真摯に取り組むことが求められる。

教科書・参考書
教科書：必要に応じて資料を配布する。 参考書：授業中に指示する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
アカデミックライティング （Ｆ１２０５０） 論理的な表現力を身につけよう	演習	1	30	1	後期	選択	—	山下敦子 複数担当	7号館5階 研究室他
科目担当者	山下敦子、牛頭哲宏								

関連ときわコンピテンシー	知欲、判断力、表現力、情報力、論理的思考力
授業の概要	文章を書くことが苦手な人は多い。しかし、論理的な考え方・書き方を習得することで、効果的な文章を作成することができる。本授業では、専門書・論文等の読解やレポート・論文作成に関する技能の習得をめざす。論理的な思考を行い、判断し、表現することについて演習を通じて表現力を培う。2回目以降は、受講者をAグループ、Bグループに分け、同じ時間帯に別教室にて、山下・牛頭がそれぞれ授業を行う。一週ごとに山下コースと牛頭コースの授業を交互に受講することとなる。

授業回	授業内容		授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション　（担当：山下、牛頭）		【予習】シラバス内容の熟読 【復習】学びの確認
	担当者：山下	担当者：牛頭	
第2回	言語技術の基礎① 箇条書き、キーワード法 A：2回目　B：3回目	縮約文の書き方　基礎 A：3回目　B：2回目	【予習】既習事項の確認 【復習】学びの確認
第3回	言語技術の基礎② パラグラフ、センテンス A：4回目　B：5回目	縮約文の書き方　実践 A：5回目　B：4回目	【予習】既習事項の確認 【復習】学びの確認
第4回	言語技術の応用① 説明・報告文 A：6回目　B：7回目	縮約文の書き方 修正とフィードバック A：7回目　B：6回目	【予習】既習事項の確認 【復習】学びの確認
第5回	言語技術の応用② 分析・解釈・批判 A：8回目　B：9回目	文章表現の実践　基礎 A：9回目　B：8回目	【予習】既習事項の確認 【復習】学びの確認
第6回	言語技術の応用③ 資料・情報整理 A：10回目　B：11回目	文章表現の実践　応用 A：11回目　B：10回目	【予習】既習事項の確認 【復習】学びの確認
第7回	言語技術の応用④ 小論文の実際 A：12回目　B：13回目	文章表現の実践 修正とフィードバック A：13回目　B：12回目	【予習】既習事項の確認 【復習】学びの確認
第8回	まとめ A：14回目　B：15回目	まとめ A：15回目　B：14回目	【予習】既習事項の確認 【復習】学びの確認

学修の到達目標
基礎的な文章表現力や言語技術を習得し、大学生活に必要な論理的文章を「読む力」「書く力」を身につけることができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができる。（知欲）	秀	自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつなげることができる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと悦びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができない。
②情報や思考に基づき、状況に対して適切な判断をすることができる。（判断力）	秀	既に持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等、高いレベルで目的に応じて、短時間で正確に活用することができる。またそれゆえ、その判断を踏まえた次の新たな創作的作業を実行しやすい。
	優	既に持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を目的に応じて、自力で十分適切に活用することができる。
	良	既に持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちいくつかを機能させつつ、自力で適切に活用することができる。
	可	他者の助言・指導を基に、その場に即した活用が一定レベルにおいて可能である。
	不可	適切な活用ができない。
③想いや考えを表現し、他者に伝えることができる。（表現力）	秀	適切かつ効果的に他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも目的や場に応じて対応することができている。
	優	適切かつ効果的に他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語表現等のすべてにおいて十分な能力を持っている。
	良	適切かつ効果的に他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	適切かつ効果的に他者になんらかの方法で伝えることができる。
	不可	適切かつ効果的に他者に伝えることができない。
④思考や判断に必要な情報を収集・整理・分析し、活用することができる。（情報力）	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用することができる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。
⑤根拠に基づき論理的に考えることができる。（論理的思考力）	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、反論を予想し、議論や技術を駆使して論理を再構築することができる。
	優	客観的な根拠に基づき、十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき、論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		30	20	20	0	30	0	100
評価項目	①知欲	0	4	4	0	30	0	38
	②判断力	5	4	4	0	0	0	13
	③表現力	10	4	4	0	0	0	18
	④情報力	5	4	4	0	0	0	13
	⑤論理的思考力	10	4	4	0	0	0	18

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①		筆記試験を行う。授業を通して学んだこと読解力や言語技術、あるいは表現方法等の知識・技能などを活用して、論理的な文章を書くことが求められる。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
提出物	①	✓	各授業で、テーマに応じた文章を記述する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
成果発表 (口頭・実技)	①	✓	各授業で、テーマに応じてグループディスカッションなどを行ったり、記述した文章を発表したりする。学修した言語技術や表現方法を活用することが求められる。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
ポートフォリオ	①	✓	毎回の授業で振り返りを行う。また、授業で記述したものについて自己評価や添削されたものについて見直しを行う。
	②		
	③		
	④		
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など
日常生活の言葉に敏感になること。また語彙力や言語技術を高めていくために、読解、記述、推敲を反復して行うことに真摯に取り組むことが求められる。
教科書・参考書
教科書：必要に応じて資料を配布する 参考書：授業中に指示する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
英語コミュニケーションⅠ （Ｆ１２０６０） Acquisition of basic communication skills and multicultural understanding	演習	1	30	1	前期	必修	看国試必修 養教免必修	山崎麻由美 単独担当	4号館3階 研究室
科目担当者	山崎麻由美								

関連ときわコンピテンシー	Information literacy（情報力）、Logical thinking（論理的思考力）、Critical thinking（批判的思考力）、Intelligence（知欲）、Expressiveness（表現力）
授業の概要	The purpose of this course is to provide students with basic English communication skills. This course is also focused on acquiring four skills through integrated methods and understanding diverse cultures and nations in order to participate actively in international communities.

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	Unit 1 A Disappearing World: Part 1	Review vocabulary and phrases
第2回	Unit 2 A Disappearing World: Part 2	Complete “Post-reading Exercise” Review vocabulary and phrases.
第3回	Unit 3 The Missing Snows of Kilimanjaro: Part 1	Complete “Post-reading Exercise” Review vocabulary and phrases.
第4回	Unit 4 The Missing Snows of Kilimanjaro: Part 2	Complete “Post-reading Exercise” Review vocabulary and phrases.
第5回	Unit 5 Cambodia Animal Rescue: Part 1	Complete “Post-reading Exercise” Review vocabulary and phrases.
第6回	Unit 6 Cambodia Animal Rescue: Part 2	Complete “Post-reading Exercise” Review vocabulary and phrases.
第7回	Unit 7 Orangutan Language: Part 1	Complete “Post-reading Exercise” Review vocabulary and phrases.
第8回	Unit 8 Orangutan Language: Part 2	Complete “Post-reading Exercise” Review vocabulary and phrases.
第9回	Unit 9 Cupid and Dolphin: Part 1	Complete “Post-reading Exercise” Review vocabulary and phrases.
第10回	Unit 10 Cupid and Dolphin: Part 2	Complete “Post-reading Exercise” Review vocabulary and phrases.
第11回	Unit 11 Cupid and Dolphin: Part 3	Complete “Post-reading Exercise” Review vocabulary and phrases.
第12回	Unit 12 Saving the Pandas: Part 1	Complete “Post-reading Exercise” Review vocabulary and phrases.
第13回	Unit 13 Saving the Pandas: Part 2	Complete “Post-reading Exercise” Review vocabulary and phrases.
第14回	Unit 14 Saving the Pandas: Part 3	Complete “Post-reading Exercise” Review vocabulary and phrases.
第15回	Presentations	Prepare for the presentation. Review vocabulary and phrases.

学修の到達目標
Students will improve four essential skills through a variety of activities. They will also learn about history, and social diversity around the world to gain global perspectives on people from different cultures.

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①Listening （Information literacy）	秀	Can understand correctly
	優	Makes some mistakes in understanding but needs no help from others
	良	Makes some mistakes in understanding and sometimes needs help from others
	可	Makes some mistakes in understanding and often needs help from others
	不可	Cannot understand at all
②Speaking （Expressiveness）	秀	Always communicates with correct grammar, vocabulary and pronunciation
	優	Always communicates with appropriate grammar, vocabulary and pronunciation
	良	Often communicates with appropriate grammar, vocabulary and pronunciation
	可	Sometimes communicates with appropriate grammar, vocabulary and pronunciation
	不可	Rarely attempts to speak during classroom activities
③Reading （Critical thinking）	秀	Recognizes implications and inferences of the text
	優	Tries to understand implications and inferences of the text
	良	Identifies relations among ideas and understands the text as a whole
	可	Comprehends basic words and recognizes relations among parts of the text
	不可	Disregards or does not understand informational text features
④Writing （Logical thinking）	秀	Writes with complex sentence structures with virtually no grammatical and/or spelling errors
	優	Writes with complex sentence structures, but makes some grammatical and/or spelling errors
	良	Writes with simple sentence structures with virtually no grammatical and/or spelling errors
	可	Writes with simple sentence structure, and makes many grammatical and/or spelling errors
	不可	Writes without sentence structure, and does not have grammatical competence
⑤Multicultural understanding （Intelligence）	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple worldviews
	優	Analyzes and evaluates cultural diversity and global issues
	良	Acknowledges cultural diversity and different perspectives of global issues
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 （口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	15	20	0	0	5	100
評価項目	①Listening	0	0	5	0	0	0	5
	②Speaking	0	0	10	0	0	0	10
	③Reading	30	5	0	0	0	0	35
	④Writing	20	5	5	0	0	0	30
	⑤Multicultural understanding	10	5	0	0	0	5	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①		Written test
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
提出物	①		Submission of reading assignments
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
成果発表 （口頭・実技）	①	✓	Oral presentations
	②	✓	
	③		
	④	✓	
	⑤		
その他	①		Class participation Completion of assignments
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
1. Class participation　2. Preparation and review　3. Completion of assignments
教科書・参考書
教科書：『Messages from the Globe』　山科美和子　他編　センゲージ ラーニング 参考書：随時紹介する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
英語コミュニケーションⅡ （Ｆ１２０７０） Develop English proficiency.	演習	1	30	1	後期	必修	看国試必修 養教免必修	千石真理 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	千石真理								

関連ときわコンピテンシー	Information literacy（情報力）、Logical thinking（論理的思考力） Critical thinking（批判的思考力）、Intelligence（知欲）、Expressiveness（表現力）
授業の概要	The purpose of this course is to improve English proficiency through a variety of practical activities. The emphasis is also laid on motivating students to play an active role in international communities.

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	Introduction—course schedule and class topics Unit 1 : Hotter and Hotter	【予習】Preparation for Unit 1 of the textbook through reading and studying new words 【復習】N/A
第2回	Review and Quiz of Unit 1 Unit 2 : Planting the Idea of a Longer Life	【予習】Prepare for Unit 2 【復習】Review and complete questions of Unit 1
第3回	Review and Quiz of Unit 2 Unit 3 : Droning on about the Whether	【予習】Prepare for Unit 3 【復習】Review and complete questions of Unit 2
第4回	Review and Quiz of Unit 3 Unit 4 : More Obese Than Underweight	【予習】Prepare for Unit 4 【復習】Review and complete questions of Unit 3
第5回	Review and Quiz of Unit 4 Unit 5 : In For a Surprise	【予習】Prepare for Unit 5 【復習】Review and complete questions of Unit 4
第6回	Review and Quiz of Unit 5 Unit 6 : Deadly Mistakes	【予習】Prepare for Unit 6 【復習】Review and complete questions of Unit 5
第7回	Review and Quiz of Unit 6 Unit 7 : Goodbye, Plants?	【予習】Prepare for Unit 7 【復習】Review and complete questions of Unit 6
第8回	Review and Quiz of Unit 7 Unit 8 : TB or not TB?	【予習】Prepare for Unit 8 【復習】Review and complete questions of Unit 7
第9回	Review and Quiz of Unit 8 Unit 9 : El Nino Brings Hunger	【予習】Prepare for Unit 9 【復習】Review and complete questions of Unit 8
第10回	Review and Quiz of Unit 9 Unit 10: Polar Bears under Threat	【予習】Prepare for Unit 10 【復習】Review and complete questions of Unit 9
第11回	Review and Quiz of Unit 10 Unit 11: Storm Warnings from Space	【予習】Prepare for Unit 11 【復習】Review and complete questions of Unit 10
第12回	Review and Quiz of Unit 11 Unit 12: Nuts for Nuts	【予習】Prepare for Unit 12 【復習】Review and complete questions of Unit 11
第13回	Review and Quiz of Unit 12 Unit 13: Sandstorms in the Sahel Spreading Sickness?	【予習】Prepare for Unit 13 【復習】Review and complete questions of Unit 12

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第14回	Review and Quiz of Unit 13 Unit 14: New Cells for the Brain	【予習】Prepare for Unit 14 【復習】Review and complete questions of Unit 13
第15回	Review and Quiz of Unit 14 Unit 15: Lost on the Way. Discussion and Closing	【予習】Prepare for Unit 15 【復習】Review and complete questions of Unit 14

学修の到達目標
1. Students will increase proficiency in English. 2. Students will understand cultural diversities.

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①Listening （Information literacy）	秀	Can understand correctly
	優	Makes some mistakes in understanding but needs no help from others
	良	Makes some mistakes in understanding and sometimes needs help from others
	可	Makes some mistakes in understanding and often needs help from others
	不可	Cannot understand at all
②Speaking （Expressiveness）	秀	Always communicates with correct grammar, vocabulary and pronunciation
	優	Always communicates with appropriate grammar, vocabulary and pronunciation
	良	Often communicates with appropriate grammar, vocabulary and pronunciation
	可	Sometimes communicates with appropriate grammar, vocabulary and pronunciation
	不可	Rarely attempts to speak during classroom activities
③Reading （Critical thinking）	秀	Recognizes implications and inferences of the text
	優	Tries to understand implications and inferences of the text
	良	Identifies relations among ideas and understands the text as a whole
	可	Comprehends basic words and recognizes relations among parts of the text
	不可	Disregards or does not understand informational text features
④Writing （Logical thinking）	秀	Writes with complex sentence structures with virtually no grammatical and/or spelling errors
	優	Writes with complex sentence structures, but makes some grammatical and/or spelling errors
	良	Writes with simple sentence structures with virtually no grammatical and/or spelling errors
	可	Writes with simple sentence structure, and makes many grammatical and/or spelling errors
	不可	Writes without sentence structure, and does not have grammatical competence
⑤Multicultural understanding （Intelligence）	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple worldviews
	優	Analyzes and evaluates cultural diversity and global issues
	良	Acknowledges cultural diversity and different perspectives of global issues
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	20	20	0	0	10	100
評価項目	①Listening	0	0	10	0	0	2	12
	②Speaking	0	0	10	0	0	2	12
	③Reading	20	10	0	0	0	2	32
	④Writing	20	10	0	0	0	2	32
	⑤Multicultural understanding	10	0	0	0	0	2	12

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①		Written test will be conducted to evaluate English proficiency as the term examination.
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
提出物	①		Submission of essays concerning multiculturalism will be required
	②		
	③		
	④	✓	
	⑤	✓	
成果発表（口頭・実技）	①	✓	Group presentations according to assigned themes will be required.
	②	✓	
	③		
	④		
	⑤		
その他	①	✓	Class attendance, manner, discussion, and completion of assignments are extremely important.
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
1. Class participation　2. Preparation and review　3. Completion of assignments
教科書・参考書
教科書：Health & Environment Reports from VOA Volume 1　VOA 健康と環境レポート　1　松柏社 参考書：Additional materials will be introduced as necessary.

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
英語A a （Communicative English Basic） （F１２０８０） 実践に役立つ英語の基礎力をつける	演習	1	30	1〜2	前期	選択	—	小西千鶴 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	小西千鶴								

関連ときわコンピテンシー	知欲、表現力、傾聴力・対話力
授業の概要	英語でのコミュニケーションに必要な日常的な表現を身につけるように多様な演習を行う。さらに自分の意見を分かりやすい英語表現で伝えることができるようにする。また英語圏を始めとするさまざまな文化圏に対する理解を促し、コミュニケーションに必要なマナーを学ぶ。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	Unit 1 The Royal Family　イギリスの王位継承は誰に？	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第2回	Unit 2 The Beatles　空で歌えるビートルズの曲	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第3回	Unit 3 Very Cold　ヨーロッパで楽しむ休暇	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第4回	Unit 4 Euro Money　ユーロではなく独自通貨の国	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第5回	Unit 5 To Your Health　入院して健康な体に	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第6回	Unit 6 Recycling　リサイクルの問題点は？	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第7回	Unit 7 The UK　住みやすいイギリス	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第8回	Unit 8 A Quiet Life　静かなホテル vs.　宿泊客の希望	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第9回	Unit 9 My Company　少し高いが高品質の食器類	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第10回	Unit 10 Advertising　宣伝費を削減して製品開発	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第11回	Unit 11 Business Trips　混雑しない地方空港	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第12回	Unit 12 Get It Cleaned　商談もホテルもダメな一日	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第13回	Unit 13 A Storm　甚大な被害を与える冬の嵐	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第14回	Unit 14 The Media　良くも悪くもメディアの功罪	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第15回	Unit 15 Sightseeing　イギリスのおすすめ観光スポット	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙

学修の到達目標

1．英語でのコミュニケーションの基本的な力をつける。
2．様々な国の文化・歴史・習慣の違いを理解する。
3．英語でのコミュニケーションを楽しむ。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①Fluency（表現力）	秀	Speaks smoothly with confidence
	優	Speaks almost smoothly
	良	Speaks with little hesitation without disrupting the flow of conversation
	可	Speaks with some hesitation, but it does not interfere with communication
	不可	Speaks very little or doesn't speak at all
②Accuracy（表現力）	秀	Uses different sentence structures depending on contexts and pronounces correctly
	優	Uses different sentence structures and pronounces properly only a few errors
	良	Uses different sentence structures and pronounces properly with some errors
	可	Uses different sentence structures and pronounces with many errors
	不可	Can't use appropriate sentence structures and pronounces incorrectly
③Interaction（傾聴力・対話力）	秀	Communicates successfully and enjoys the interaction
	優	Communicates effectively and responds appropriately
	良	Communicates and responds acceptably
	可	Tries to communicate, but sometimes unsuccessfully
	不可	Cannot communicate
⑤Multicultural understanding（知欲）	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple worldviews
	優	Analyzes and evaluates cultural diversity and global issues
	良	Acknowledges cultural diversity and different perspectives of global issues
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	30	20	0	0	0	100
評価項目	①Fluency	0	10	10	0	0	0	20
	②Accuracy	30	10	0	0	0	0	40
	③Interaction	0	10	10	0	0	0	20
	④Multicultural understanding	20	0	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①		筆記試験（リスニング含む）を行う。 定期試験では、授業及びテキストから学んだ語句を用いて、状況に応じた自然な英会話の流れを意識した表現が求められる。
	②	✓	
	③		
	④	✓	
提出物	①	✓	毎回の授業で筆記もしくは口頭による単語の小テストを行う。 小テストでは、単語の意味のほか、つづり、発音、品詞、成句や用例など、実践的な情報を把握しているか、辞書の有益な使い方が求められる。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
成果発表（口頭・実技）	①	✓	授業中にグループもしくはペアワークで対話する機会を設ける。 対話では、テキストに基づく表現を応用し、自身の体験あるいは予備知識の共有など、積極的な発言が求められる。
	②		
	③	✓	
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など
各ユニットの重要表現など反復練習には積極的に取り組むこと。
教科書・参考書
教科書：English Indicator I Essential（総合英語インディケーター　初級）Terry O’Brien、三原京　他著.　南雲堂 参考書：随時紹介する。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
英語Aa（Communicative English Basic）（F120080） 実践に役立つ英語の基礎力をつける	演習	1	30	1〜2	前期	選択	—	千石真理 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	千石真理								

関連ときわコンピテンシー	知欲、表現力、傾聴力・対話力
授業の概要	英語でのコミュニケーションに必要な日常的な表現を身につけるように多様な演習を行う。さらに自分の意見を分かりやすい英語表現で伝えることができるようにする。また英語圏を始めとするさまざまな文化圏に対する理解を促し、コミュニケーションに必要なマナーを学ぶ。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	Unit 1 The Royal Family　イギリスの王位継承は誰に？	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第2回	Unit 2 The Beatles　空で歌えるビートルズの曲	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第3回	Unit 3 Very Cold　ヨーロッパで楽しむ休暇	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第4回	Unit 4 Euro Money　ユーロではなく独自通貨の国	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第5回	Unit 5 To Your Health　入院して健康な体に	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第6回	Unit 6 Recycling　リサイクルの問題点は？	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第7回	Unit 7 The UK　住みやすいイギリス	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第8回	Unit 8 A Quiet Life　静かなホテル vs.　宿泊客の希望	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第9回	Unit 9 My Company　少し高いが高品質の食器類	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第10回	Unit 10 Advertising　宣伝費を削減して製品開発	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第11回	Unit 11 Business Trips　混雑しない地方空港	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第12回	Unit 12 Get It Cleaned　商談もホテルもダメな一日	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第13回	Unit 13 A Storm　甚大な被害を与える冬の嵐	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第14回	Unit 14 The Media　良くも悪くもメディアの功罪	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙
第15回	Unit 15 Sightseeing　イギリスのおすすめ観光スポット	【予習】テキストの読解 【復習】課題・語彙

学修の到達目標

1．英語でのコミュニケーションの基本的な力をつける。
2．様々な国の文化・歴史・習慣の違いを理解する。
3．英語でのコミュニケーションを楽しむ。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①Fluency（表現力）	秀	Speaks smoothly with confidence
	優	Speaks almost smoothly
	良	Speaks with little hesitation without disrupting the flow of conversation
	可	Speaks with some hesitation, but it does not interfere with communication
	不可	Speaks very little or doesn't speak at all
②Accuracy（表現力）	秀	Uses different sentence structures depending on contexts and pronounces correctly
	優	Uses different sentence structures and pronounces properly only a few errors
	良	Uses different sentence structures and pronounces properly with some errors
	可	Uses different sentence structures and pronounces with many errors
	不可	Can't use appropriate sentence structures and pronounces incorrectly
③Interaction（傾聴力・対話力）	秀	Communicates successfully and enjoys the interaction
	優	Communicates effectively and responds appropriately
	良	Communicates and responds acceptably
	可	Tries to communicate, but sometimes unsuccessfully
	不可	Cannot communicate
④Multicultural understanding（知欲）	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple worldviews
	優	Analyzes and evaluates cultural diversity and global issues
	良	Acknowledges cultural diversity and different perspectives of global issues
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	30	20	0	0	0	100
評価項目	①Fluency	0	10	10	0	0	0	20
	②Accuracy	30	10	0	0	0	0	40
	③Interaction	0	10	10	0	0	0	20
	④Multicultural understanding	20	0	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①		筆記試験（リスニング含む）を行う。 定期試験では、授業及びテキストから学んだ語句を用いて、状況に応じた自然な英会話の流れを意識した表現が求められる。
	②	✓	
	③		
	④	✓	
提出物	①	✓	毎回の授業で筆記もしくは口頭による単語の小テストを行う。 小テストでは、単語の意味のほか、つづり、発音、品詞、成句や用例など、実践的な情報を把握しているか、辞書の有益な使い方が求められる。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
成果発表（口頭・実技）	①	✓	授業中にグループもしくはペアワークで対話する機会を設ける。 対話では、テキストに基づく表現を応用し、自身の体験あるいは予備知識の共有など、積極的な発言が求められる。
	②		
	③	✓	
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など
各ユニットの重要表現など反復練習には積極的に取り組むこと。
教科書・参考書
教科書：English Indicator I Essential（総合英語インディケーター　初級）Terry O’Brien、三原京　他著.　南雲堂 参考書：随時紹介する。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
英語Ab（Communicative English Intermediate） （F１２０９０） Enhance your communication skills.	演習	1	30	1〜2	後期	選択	—	小西千鶴 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	小西千鶴								

関連ときわコンピテンシー	Intelligence（知欲）、Expressiveness（表現力）、Interactivity（傾聴力・対話力）
授業の概要	This course will provide students with a variety of activities to help them acquire practical skills in communication. Learning communication manners in multiple cultures is also focused.

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第１回	Syllabus and Class Rules Explanation / Short Presentation Explanation / Personal Introductions / Pronunciation Exercise	Review vocabulary
第２回	Following Directions	Do homework Review vocabulary
第３回	More work on Following Directions	Do homework Review vocabulary
第４回	Following Directions Quiz	Do homework Review vocabulary
第５回	Numbers	Do homework Review vocabulary
第６回	More Work on Numbers	Do homework Review vocabulary
第７回	Additional More Work on Numbers	Do homework Review vocabulary
第８回	Numbers Quiz	Do homework Review vocabulary
第９回	Picture Puzzle Listening exercise, Listening to Music Exercise	Do homework Review vocabulary
第10回	Family	Do homework Review vocabulary
第11回	More Work on Family	Do homework Review vocabulary
第12回	Family Quiz	Do homework Review vocabulary
第13回	Short Presentations	Do homework Review vocabulary
第14回	Look and Discuss Teacher’s Photos or Teacher's Show and Tell	Do homework Review vocabulary
第15回	Review for Final Exam	Do homework Review vocabulary

学修の到達目標
1．Students will improve communicative skills. 2．Students will understand cultural diversities. 3．Students will enjoy communicating in English.

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①Fluency（表現力）	秀	Speaks smoothly with confidence
	優	Speaks almost smoothly
	良	Speaks with little hesitation without disrupting the flow of conversation
	可	Speaks with some hesitation, but it does not interfere with communication
	不可	Speaks very little or doesn't speak at all
②Accuracy（表現力）	秀	Uses different sentence structures depending on contexts and pronounces correctly
	優	Uses different sentence structures and pronounces properly only a few errors
	良	Uses different sentence structures and pronounces properly with some errors
	可	Uses different sentence structures and pronounces with many errors
	不可	Can't use appropriate sentence structures and pronounces incorrectly
③Interaction（傾聴力・対話力）	秀	Communicates successfully and enjoys the interaction
	優	Communicates effectively and responds appropriately
	良	Communicates and responds acceptably
	可	Tries to communicate, but sometimes unsuccessfully
	不可	Cannot communicate
④Multicultural understanding（知欲）	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple worldviews
	優	Analyzes and evaluates cultural diversity and global issues
	良	Acknowledges cultural diversity and different perspectives of global issues
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	20	30	0	0	10	100
評価項目	①Fluency	0	0	10	0	0	0	10
	②Accuracy	20	20	10	0	0	0	50
	③Interaction	0	0	5	0	0	10	15
	④Multicultural understanding	20	0	5	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①		Writing and listening
	②	✓	
	③		
	④	✓	
提出物	①		Quizzes
	②	✓	
	③		
	④		
成果発表 （口頭・実技）	①	✓	Short speech
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
その他	①		Participation Completion of homework
	②		
	③	✓	
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など
1. Class participation　2. Preparation and review　3. Completion of assignments
教科書・参考書
教科書：Materials will be provided by the instructor. 参考書：Not Applicable

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
英語Ab（Communicative English Intermediate） （F12090） Enhance your communication skills.	演習	1	30	1〜2	後期	選択	—	C.K.Dallos 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	C.K.Dallos								

関連ときわコンピテンシー	Intelligence（知欲）、Expressiveness（表現力）、Interactivity（傾聴力・対話力）
授業の概要	This course will provide students with a variety of activities to help them acquire practical skills in communication. Learning communication manners in multiple cultures is also focused.

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	Syllabus and Class Rules Explanation / Short Presentation Explanation / Personal Introductions / Pronunciation Exercise	Review vocabulary
第2回	Following Directions	Do homework Review vocabulary
第3回	More work on Following Directions	Do homework Review vocabulary
第4回	Following Directions Quiz	Do homework Review vocabulary
第5回	Numbers	Do homework Review vocabulary
第6回	More Work on Numbers	Do homework Review vocabulary
第7回	Additional More Work on Numbers	Do homework Review vocabulary
第8回	Numbers Quiz	Do homework Review vocabulary
第9回	Picture Puzzle Listening exercise, Listening to Music Exercise	Do homework Review vocabulary
第10回	Family	Do homework Review vocabulary
第11回	More Work on Family	Do homework Review vocabulary
第12回	Family Quiz	Do homework Review vocabulary
第13回	Short Presentations	Do homework Review vocabulary
第14回	Look and Discuss Teacher's Photos or Teacher's Show and Tell	Do homework Review vocabulary
第15回	Review for Final Exam	Do homework Review vocabulary

学修の到達目標
1．Students will improve communicative skills. 2．Students will understand cultural diversities. 3．Students will enjoy communicating in English.

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①Fluency （表現力）	秀	Speaks smoothly with confidence
	優	Speaks almost smoothly
	良	Speaks with little hesitation without disrupting the flow of conversation
	可	Speaks with some hesitation, but it does not interfere with communication
	不可	Speaks very little or doesn't speak at all
②Accuracy （表現力）	秀	Uses different sentence structures depending on contexts and pronounces correctly
	優	Uses different sentence structures and pronounces properly only a few errors
	良	Uses different sentence structures and pronounces properly with some errors
	可	Uses different sentence structures and pronounces with many errors
	不可	Can't use appropriate sentence structures and pronounces incorrectly
③Interaction （傾聴力・対話力）	秀	Communicates successfully and enjoys the interaction
	優	Communicates effectively and responds appropriately
	良	Communicates and responds acceptably
	可	Tries to communicate, but sometimes unsuccessfully
	不可	Cannot communicate
④Multicultural understanding （知欲）	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple worldviews
	優	Analyzes and evaluates cultural diversity and global issues
	良	Acknowledges cultural diversity and different perspectives of global issues
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	20	10	0	0	30	100
評価項目	①Fluency	0	0	10	0	0	0	10
	②Accuracy	20	20	10	0	0	0	50
	③Interaction	0	0	5	0	0	10	15
	④Multicultural understanding	20	0	5	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①		Writing and listening
	②	✓	
	③		
	④	✓	
提出物	①		Quizzes
	②	✓	
	③		
	④		
成果発表 （口頭・実技）	①	✓	Short speech
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
その他	①		Participation Completion of homework
	②		
	③	✓	
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など
1. Class participation　2. Preparation and review　3. Completion of assignments
教科書・参考書
教科書：Materials will be provided by the instructor. 参考書：Not Applicable

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
手話コミュニケーション （F12130） 聴覚障害者への理解	演習	1	30	1〜2	前期	選択	—	浅野京子 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	浅野京子								

関連ときわコンピテンシー	教養、傾聴力・対話力、協調性・協働力
授業の概要	聴覚の障害は、健聴者（耳の聞こえる人）には理解しにくい障害です。手話を学ぶとともに聴覚障害者への援助や配慮を学習していきます。手話は、毎回、演習します。（定員30名まで）。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	聴覚の障害とは。	【復習】本日の講義と手話の実技
第2回	様々な聴覚障害について。	【復習】本日の講義と手話の実技
第3回	聴覚障害者のコミュニケーション手段。	【復習】本日の講義と手話の実技
第4回	「手話」について。	【復習】本日の講義と手話の実技
第5回	聴覚障害者についてのグループ討議。	【復習】本日の講義と手話の実技
第6回	聴覚障害者と社会①聴覚障害者の昔。	【復習】本日の講義と手話の実技
第7回	聴覚障害者と社会②聴覚障害者と学校教育。	【復習】本日の講義と手話の実技
第8回	聴覚障害者と社会③ろう教育について。	【復習】本日の講義と手話の実技
第9回	聴覚障害者と社会④手話の発展と広がり。	【復習】本日の講義と手話の実技
第10回	聴覚障害者の社会生活についてグループ討議。	【復習】本日の講義と手話の実技
第11回	聴覚障害者と情報保障について。	【復習】本日の講義と手話の実技
第12回	生活場面での配慮（病院など）。	【復習】本日の講義と手話の実技
第13回	手話と手話通訳	【予習】次回の発表の準備 【復習】本日の講義と手話の実技
第14回	手話による発表（個々による）。	【復習】本日の講義と手話の実技
第15回	まとめ。	【復習】15回の講義と実技の振り返り

学修の到達目標
聴覚障害者に対する理解ができて、職業人・市民として聴覚障害の人たちへの配慮ができるようになる。手話を中心とする聴覚障害者の人たちのとコミュニケーション方法を習得する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①聴覚障害者に対する理解をしている。（教養）	秀	聴覚障害に関して授業で習った以上に自ら学習して理解を深めている。
	優	聴覚障害に関して授業で学んだことはすべて理解している。
	良	聴覚障害に関してかなり理解している。
	可	聴覚障害に関して必要最低限理解している。
	不可	聴覚障害に関して全く理解していない。
②手話を使ったコミュニケーションができる。（傾聴力・対話力）	秀	手話を用いてコミュニケーションがスムーズにできる。
	優	手話を用いてコミュニケーションがかなりできる。
	良	手話を用いてコミュニケーションがまずまずできる。
	可	手話を用いてコミュニケーションが少ししかできない。。
	不可	手話を用いてコミュニケーションが全くできない。
③クラス・グループでの討論ができる。（協調性・協働力）	秀	クラス･グループ討論に協調･協働し、グループの活性を高め、内容も優秀であった。
	優	クラス･グループ討論に協調･協働し、グループの活性を高めていた。
	良	クラス･グループ討論に協調･協働し、グループの活動ができた。
	可	クラス･グループ討論に協調･協働することは少なく、グループのモチベ―ションを下げていた。
	不可	クラス･グループ討論に協調･協働せず、グループが全体として機能しなかった。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭･実技）	作品	ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ	その他	合計
評価割合		40	0	50	0	0	10	100
評価項目	①聴覚障害者に対する理解力	40	0	0	0	0	0	40
	②手話を使ったコミュニケーション力	0	0	50	0	0	0	50
	③クラス・グループでの協調性・協働力	0	0	0	0	0	10	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	学期末筆記試験（手話や聴覚障害者に関すること）。
	②		
	③		
成果発表（口頭･実技）	①		手話による個別発表。
	②	✓	
	③		
その他	①		授業・グループ討論での態度・発言内容。
	②		
	③	✓	

※評価方法や授業内容などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

履修に必要な知識・技能・態度など
手話は聴覚障害者、特に「ろうあ者」にとっての「第１言語（母語)」です。生活していく上でなくてはならない大切なことばです。真摯な気持ちで学んでください。覚えた手話を忘れないように、しっかりと復讐して授業に臨んでください。
教科書・参考書
教科書：特定の教科書はありません。随時プリントを配布します。 参考書：随時紹介します。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
いのちと共生 （Ｆ１２１４０） ヒトが健康（幸せ）に生涯発達し続けるためのいのちを考える	講義	1	15	1	後期	選択	—	長尾厚子 複数担当	7号館4階研究室他
科目担当者	長尾厚子、濵田道夫、中田康夫、千石真理、畑中道代＊、森正敬＊、江上芳子＊								

関連ときわコンピテンシー	教養、専門力、探究力、情報力、批判的思考力
授業の概要	保健科学部と教育学部を持つ本学のキャリア教育の共通テーマである「いのち」について、あらゆる方面からとらえ、さらにヒトが健康（幸せ）に生涯発達し続けるためには、自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について考える必要がある。それぞれの専門からとらえる「いのち」についての講義に学び、その後グループディスカッションをとおして理解を確実なものとし、命の共生（ヒトの健康）について考える。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	いのちの共生と持続可能な社会（担当者：濵田）	【予習】シラバス内容の熟読 【復習】授業内容の振り返り
第2回	内観療法で目覚めるいのちの共生（担当者：千石）	【予習】授業のテーマについて調べる 【復習】授業内容の振り返り
第3回	細胞と個体による自他の識別（担当者：畑中）	【予習】授業のテーマについて調べる 【復習】授業内容の振り返り
第4回	生体シグナルに対する細胞の応答（担当者：森）	【予習】授業のテーマについて調べる 【復習】授業内容の振り返り
第5回	母子の独立性と共生（担当者：江上）	【予習】授業のテーマについて調べる 【復習】授業内容の振り返り
第6回	共生社会の意味とその実現に向けて（担当者：中田）	【予習】授業のテーマについて調べる 【復習】授業内容の振り返り
第7回	トータルヒューマンケアにおける心と体といのち（担当者：長尾）	【予習】授業のテーマについて調べる 【復習】授業内容の振り返り
第8回	命の共生（ヒトの健康）について考える（担当者：長尾）	【予習】授業のテーマについて調べる 【復習】授業内容の振り返り

学修の到達目標

履修者は、それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識を得、「いのち」について、あらゆる方面からとらえることができる。さらにヒトが健康（幸せ）に生涯発達し続けるためには、自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について理解を深めることができる。また、「いのち」に関する様々な見解をとおして、命の共生（ヒトの健康）について考え、他者と議論することができる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識を修得することができる。（教養）	秀	授業内で、それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識の習得について、満足できる水準を超えて、周辺の知識と合わせて理解を深め、自分の考えを述べることができる。
	優	授業内で、それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識の習得について、満足できる水準を超えて、周辺の知識と合わせて理解を深めることができている。
	良	授業内で、それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識が満足できる水準まで修得できていることが認められる。
	可	授業内で、それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識が満足できる水準まで到達していないが、努力の過程は認められる。
	不可	授業内で、それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識が満足できる水準まで到達しておらず、その努力の過程も認められない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②「いのちと共生」に関する知識の広がりから各専門職としての自覚に繋げて考えることができる。（専門力）	秀	授業で学んだ「いのちと共生」に関する知識の広がりから、各自の目指す専門職としての自覚につなげて考えを深め、自分の意見として述べることができる。
	優	授業で学んだ「いのちと共生」に関する知識の広がりから、各自の目指す専門職としての自覚につなげて考えを深めることができる。
	良	授業で学んだ「いのちと共生」に関する知識の広がりから、各自の目指す専門職としての自覚につなげて考えることができる。
	可	授業で学んだ「いのちと共生」に関する知識の広がりから、各自の目指す専門職としての自覚につなげて考えようとする努力の過程が認められる。
	不可	授業で学んだ「いのちと共生」に関する知識の広がりから、各自の目指す専門職としての自覚につなげて考えようとする努力の過程が認められない。
③「いのち」に関する様々な見解からヒトが健康（幸せ）に生涯発達し続けるための「いのち」との共生について探究することができる。（探究力）	秀	授業で学んだ中からヒトが健康(幸せ)に生涯発達し続けるための「いのち」との共生について考えを深め、自己の見解を述べることができる。
	優	授業で学んだ中からヒトが健康(幸せ)に生涯発達し続けるための「いのち」との共生について考えを深めることができる。
	良	授業で学んだ中からヒトが健康(幸せ)に生涯発達し続けるための「いのち」との共生について考えることができる。
	可	授業で学んだ中からヒトが健康(幸せ)に生涯発達し続けるための「いのち」との共生について考えようとする努力の過程が認められる。
	不可	授業で学んだ中からヒトが健康(幸せ)に生涯発達し続けるための「いのち」との共生について考えようとする努力の過程が認められない。
④自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生についての情報から「いのち」について理解を深めることができる。（情報力）	秀	授業で学んだ中から自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について、さらに情報をくわえ、「いのち」について理解を深めることにより自分の見解を述べることができる。
	優	授業で学んだ中から自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について、さらに情報をくわえ、「いのち」について理解を深めることができる。
	良	授業で学んだ中から自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について、さらに情報をくわえ、「いのち」について考えることができる。
	可	授業で学んだ中から自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について、さらに情報をくわえ、「いのち」について考えようとする努力の過程が認められる。
	不可	授業で学んだ中から自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について、さらに情報をくわえることもなく、「いのち」について考えようとする努力の過程が認められない。
⑤あらゆる方面からの「いのちと共生」に関する捉え方から自分の考えを明らかにできる。（批判的思考力）	秀	授業で学んだ内容から「いのちと共生」について、他の人の意見も受け止めながら、自分の考えを深めることができる。
	優	授業で学んだ内容から「いのちと共生」について、他の人の意見も受け止めながら、自分の考えを明らかにすることができる。
	良	授業で学んだ内容から「いのちと共生」について、他の人の意見も受け止めながら、自分なりに考えられる。
	可	授業で学んだ内容から「いのちと共生」について、他の人の意見も受け止めながら、自分の考えを明らかにする努力の過程が認められる。
	不可	授業で学んだ内容から「いのちと共生」について、自分の考えを明らかにする努力の過程が認められない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	30	0	0	0	0	100
評価項目	①「いのち」についての知識	20	0	0	0	0	0	20
	②各専門職としての自覚	0	5	0	0	0	0	5
	③いのちとの共生についての探求	30	10	0	0	0	0	40
	④あらゆる情報からの理解	20	5	0	0	0	0	25
	⑤いのちと共生に関する自分の意見	0	10	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	毎回の授業での学ぶべき知識の内容を、再生・再認方式で確認し、評価の対象とする。
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
その他	①		8回の授業後にレポート課題を課す。 毎回の授業の内容から得た知識や、さらに自ら調べた内容や、グループワークから得られた他人の意見を参考に「いのちと共生」に関する自分の見解を述べることが評価の対象となる。
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	

※評価方法や授業内容などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

履修に必要な知識・技能・態度など
毎回担当者が変わり、担当者の専門とする内容から「いのちと共生」に関するテーマが展開されるため、履修者は全回出席が前提となる。さらに、テーマに関する内容を自分なりに予習をしておくことが学修を深めることに繋がる。
教科書・参考書
教科書：使用しません。 参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
人類と地球環境 （Ｆ１２１５０） 自然について知識を深めよう	講義	1	15	1	前期	選択	—	笹井隆邦 単独担当	7 号館 5 階 研究室
科目担当者	笹井隆邦								

関連ときわコンピテンシー	教養、貢献力
授業の概要	現在、地球を取り巻く環境が深刻な状況になってきている。例えば地球温暖化、森林破壊、砂漠化などである。それらについて、現状、原因、影響、対策等を紹介し、環境問題について理解を深めたい。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第 1 回	ガイダンス 生物を分類してみよう	
第 2 回	共生 あなたは 100 兆個の微生物と共生している	【予習】共生について調べる 【復習】manaba 小テスト
第 3 回	地球温暖化よる生態系への影響 地球の温暖化により多くの生物に影響が及んでいる	【予習】温暖化について調べる 【復習】manaba 小テスト
第 4 回	森林の減少と砂漠化 毎年兵庫県の面積の 6 倍の森林が消失している	【予習】砂漠化について調べる 【復習】manaba 小テスト
第 5 回	酸性雨 トマトジュースくらいの酸性の雨が降っている	【予習】酸性雨について調べる 【復習】manaba 小テスト
第 6 回	里山・里海・ビオトープ 里山ってどんなイメージ？	【予習】里山について調べる 【復習】manaba 小テスト
第 7 回	外来生物・種の絶滅と生物多様性 1970 年以降、陸、海、淡水の自然の豊かさは 58％減少	【予習】生物多様性について調べる 【復習】manaba 小テスト
第 8 回	発光生物 光る生物は何のために光っているのだろう？	

学修の到達目標
さまざまな環境問題について理解を深め、諸問題についてどのように対処していくかを考え行動する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①生態系の仕組みを理解している （教養）	秀	生物相互の関係に興味を持ち、何らかの形で学修を継続し、その成果を発信している。
	優	生物相互の関係に興味を持ち、何らかの形で学修を継続している。
	良	生物相互の関係に興味を持ち、何らかの形で学修をしたことがある。
	可	生物相互の関係についての知見のみにとどまっている。
	不可	生物相互の関係についての知見が不十分である。
②環境問題に関する基本的な知識を習得している （教養）	秀	様々な環境問題に興味を持ち、何らかの形で学修を継続し、その成果を発信している。
	優	様々な環境問題に興味を持ち、何らかの形で学修を継続している。
	良	様々な環境問題に興味を持ち、何らかの形で学修をしたことがある。
	可	様々な環境問題についての知見のみにとどまっている。
	不可	様々な環境問題についての知見が不十分である。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
③環境問題を改善するために考え行動することができる（貢献力）	秀	環境問題を改善するために何らかの形で学修を継続し、行動している。
	優	環境問題を改善するために、何らかの形で学修を継続している。
	良	環境問題を改善するために、何らかの形で学修をしたことがある。
	可	環境問題を改善するための知見のみにとどまっている。
	不可	環境問題を改善するための知見が不十分である。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	30	0	0	0	0	100
評価項目	①生態系に関する基本的知識の習得	30	15	0	0	0	0	45
	②環境問題に関する基本的知識の習得	30	15	0	0	0	0	45
	③自然環境を改善するための行動	10	0	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	定期試験を実施する。持ち込み不可。
	②	✓	
	③	✓	
提出物	①	✓	基礎知識の復習を目的とした manaba 小テスト
	②	✓	
	③		

履修に必要な知識・技能・態度など
“自然”に興味を持つ
教科書・参考書
教科書：使用しません。 **参考書：**随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
暮らしの中の数学 （F１２１６０） 理系大学初年次程度の数学を知ろう	講義	1	15	1〜2	前期	選択	—	髙松邦彦 単独担当	7号館2階 研究室
科目担当者	髙松邦彦								

関連ときわコンピテンシー	論理的思考力
授業の概要	数学は、歴史的経緯により科学的な思考全般の基本となっている。現代の高度化された情報社会においては、高校で学習した数学だけでは、多くの学問を十分に学ぶことができない。この授業は、様々な学問を十分理解するために、その背景にある、理系学部の初年次で学ぶ「数学」の概略を理解することを目的とする。また、数学の「学び方」についても習得する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	導入	【予習】数I・II・IIIの復習 【復習】一枚まとめと宿題
第2回	微分積分学とは	【予習】教科書を読み理解する 【復習】一枚まとめと宿題
第3回	解析学とは	【予習】教科書を読み理解する 【復習】一枚まとめと宿題【予習】
第4回	線形代数学とは	【予習】教科書を読み理解する 【復習】一枚まとめと宿題
第5回	幾何学とは	【予習】教科書を読み理解する 【復習】一枚まとめと宿題【予習】
第6回	基礎数学とは	【予習】教科書を読み理解する 【復習】一枚まとめと宿題
第7回	数理統計学とは	【予習】教科書を読み理解する 【復習】一枚まとめと宿題
第8回	まとめ	【予習】教科書を読み理解する 【復習】一枚まとめと宿題【予習】

学修の到達目標

数学は、最終的には自分で理解しなくてはならない学問であり、教員はその手助けをするだけである。大学で学ぶ数学を8回で出来る限り概略するが、全てを学ぶことはできない。そのため、学修の到達目標は、「数学を学び続ける力」を身につけることとする。最先端の科学には、高度な数学が用いられていることが多く、数学が必要になった際に、その準備が出来ていれば将来役に立つ可能性が高い。授業が終わった後も、準正課や正課外で数学を学びたい希望者に対しては、継続してその学びの手助けをするので、是非継続して続けてほしい。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①自分で物事を論理的に考えることができる（論理的思考力）	秀	論理的に記述されたものを理解するのみならず、他者へ説明することができ、さらに他者が理解する手助けをすることができ、他者から評価されている。
	優	論理的に記述されたものを理解するのみならず、他者へ説明することができ、さらに他者が理解する手助けをすることができる。
	良	論理的に記述されたものを理解するのみならず、他者へ説明することができる。
	可	論理的に記述されたものを理解することができる。
	不可	論理的に記述されたものを理解できない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		30	60	0	0	0	10	100
評価項目	①論理的思考力	30	60	0	0	0	10	100

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	試験、もしくは、レポート試験を、最終に行う。
提出物	①	✓	授業毎に、A 4用紙1枚に授業のまとめを提出してもらい、理解しているかどうかを評価する。授業の最後に、8回分のまとめを提出してもらい、理解しているかどうかを評価する。

履修に必要な知識・技能・態度など
各回の授業について、高等学校で学習した関連する内容を復習しておくこと。シラバスをよく読み、使用する教科書をシラバスの内容に従い、前もって熟読しておくこと。前回に学習したことを復習し、練習問題などを解いておくこと。

教科書・参考書
教科書：『数学』川 純一 参考書：適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
統計学 （Ｆ１２１７０） 統計ってなに？	講義	1	15	1〜2	前期	必修	看国試必修	髙松邦彦 複数担当	7号館2階 研究室他
科目担当者	髙松邦彦、中田康夫								

関連ときわコンピテンシー	情報力、論理的思考力
授業の概要	近代統計学は、ライフサイエンス分野をはじめ、経済分野など様々な分野で利用されている。最近の、エビデンスベースの研究においては、得られた実験データを、適切な方法で統計処理しなければならない。そのために、高校までに習得した確率・統計をもとに、統計学の基本的な概念を理解する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	導入　（担当者：髙松、中田）	【予習】数学Ⅰ・Ａなどの復習 【復習】一枚まとめを作成と宿題。
第2回	Σを使った表現方法　（担当者：髙松、中田）	【予習】教科書を読んで理解する 【復習】一枚まとめを作成と宿題
第3回	度数分布とヒストグラム　（担当者：髙松、中田）	【予習】教科書を読んで理解する 【復習】一枚まとめを作成と宿題
第4回	様々な統計量その1（平均・分散・標準偏差） （担当者：髙松、中田）	【予習】教科書を読んで理解する 【復習】一枚まとめを作成と宿題
第5回	様々な統計量その2（CV・相関係数）　（担当者：髙松、中田）	【予習】教科書を読んで理解する 【復習】一枚まとめを作成と宿題
第6回	離散的と連続的な違いとは　（担当者：髙松、中田）	【予習】教科書を読んで理解する 【復習】一枚まとめを作成と宿題
第7回	確率と確率密度関数とは　（担当者：髙松、中田）	【予習】教科書を読んで理解する 【復習】一枚まとめを作成と宿題
第8回	まとめ　（担当者：髙松、中田）	【予習】教科書を読んで理解する 【復習】一枚まとめを作成と宿題

学修の到達目標
統計量とは何かを理解し、平均や標準偏差など授業で習った統計量を算出できるようになること。離散的な統計と、連続量の統計の違いを理解すること。確率の定義及び、確率密度関数がどのようなものかを理解すること。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①情報を収集・整理・分析して活用することができる （情報力）	秀	情報を分析できるのみならず、他者へ説明することができ、さらに他者が理解する手助けをすることができ、他者から評価されている。
	優	情報を分析できるのみならず、他者へ説明することができ、さらに他者が理解する手助けをすることができる。
	良	情報を分析できるのみならず、他者へ説明することができる。
	可	情報を分析できる。
	不可	情報を分析できない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②自分で物事を論理的に考えることができる（論理的思考力）	秀	論理的に記述されたものを理解するのみならず、他者へ説明することができ、さらに他者が理解する手助けをすることができ、他者から評価されている。
	優	論理的に記述されたものを理解するのみならず、他者へ説明することができ、さらに他者が理解する手助けをすることができる。
	良	論理的に記述されたものを理解するのみならず、他者へ説明することができる。
	可	論理的に記述されたものを理解することができる。
	不可	論理的に記述されたものを理解できない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	60	0	0	0	0	100
評価項目	①情報分析	20	30	0	0	0	0	50
	②論理的思考力	20	30	0	0	0	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	試験、もしくは、レポート試験を、最終に行う。
	②	✓	
提出物	①	✓	授業毎に、A 4用紙1枚に授業のまとめを提出してもらい、理解しているかどうかを評価する。授業の最後に、 8回分のまとめを提出してもらい、理解しているかどうかを評価する。
	②	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
各回の授業について、高等学校で学習した関連する内容を復習しておくこと。シラバスをよく読み、使用する教科書をシラバスの内容に従い、前もって熟読しておくこと。前回に学習したことを復習し、練習問題などを解いておくこと。
教科書・参考書
教科書：『基礎統計学（改訂版）』 川純一 参考書：適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
暮らしの中の物理学 （F１２１８０） 「ちょっと考える」を重ねていこう！	講義	1	15	1〜2	前期	選択	—	関雅幸 単独担当	7号館4階 研究室
科目担当者	関雅幸								

関連ときわコンピテンシー	教養、論理的思考力、情報力
授業の概要	日常生活は、物理現象の連続である。これらについて理解すると共にその背景にある物理の理論と知識をも理解する。日常生活に潜む物理現象を見つけ出すとともに、高度科学技術社会における市民のあり方を考える。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	単位について	【予習】シラバスの内容の熟読 【復習】学習内容の振り返り
第2回	力学とは	【復習】学習内容の振り返り
第3回	力学の応用	【復習】学習内容の振り返り
第4回	電磁気	【復習】学習内容の振り返り
第5回	熱	【復習】学習内容の振り返り
第6回	音	【復習】学習内容の振り返り
第7回	光	【復習】学習内容の振り返り
第8回	光について取り組んだことのグループワーク・まとめ	【予習】前回作成したデータの検討 【復習】作成したデータの整理

学修の到達目標
暮らしの中に現れる物理学に関わる事柄に取り組める。数式の意味を理解し、それを利用する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①現代社会や日常生活関わる物理学に関する知識を身につけている（教養）	秀	学んだ知識を満足できる水準を超えて理解し、身につけている。
	優	学んだ知識を十分満足できる水準まで理解し、身につけている。
	良	学んだ知識を理解し、身につけている。
	可	やや努力を要する面もあるが、最小限の知識は理解し、身につけている。
	不可	知識を全く身につけていない。得ようとする姿勢も見られない。
②根拠に基づき、論理的に考えることができる（論理的思考力）	秀	学んだ知識に基づき、論理的に思考でき、満足できる水準を超えている
	優	学んだ知識に基づき、論理的に思考でき、満足できる水準に達している。
	良	学んだ知識に基づき、論理的に思考することができる。
	可	学んだ知識に基づき、論理的に思考しようとする努力が認められる。
	不可	学んだ知識に基づき、論理的に思考することができない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
③学んだことを理解しやすい形にまとめる力（情報力）	秀	学んだこと十分にまとめることができ、他者が参考にできるレベルにある。
	優	学んだことを十分にまとめることができる。
	良	学んだことをまとめることができる。
	可	学んだことを不十分ではあるが、まとめることができる。
	不可	学んだことをまとめることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		35	65	0	0	0	0	100
評価項目	①教養	15	15	0	0	0	0	30
	②論理的思考力	20	15	0	0	0	0	35
	③情報力	0	35	0	0	0	0	35

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	レポート試験
	②	✓	
	③		
	④		
	⑤		
提出物	①	✓	レポート、１枚まとめ
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など
ものの仕組みに興味・関心を持つ。数式を受け入れる。自律的に授業に参加する態度。
教科書・参考書
教科書：『日常の「なぜ」に答える物理学』 真貝寿明 著　森北出版 参考書：『新・単位がわかると物理がわかる』 和田純夫他 著　ベレ出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
現代社会と化学 （F１２１９０） 日常生活や社会との関わりの中で、化学は存在する	講義	1	15	1〜2	前期	選択	—	栗岡誠司 単独担当	7号館4階研究室
科目担当者	栗岡誠司								

関連ときわコンピテンシー	教養、論理的思考力、表現力、貢献力
授業の概要	社会や日常生活に目を向け、高度科学技術社会に生きる市民として、また、医療や教育に携わる専門家として、必要な化学と知識の習得と、科学的な思考法を学ぶ。社会や日常生活の中にある化学を素材として、その背景にある知識や理論を学んでいく。単に知識を覚えるだけではなく、その知識を基にして考える力を養う。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	総論として）新聞記事や報道、及び日常生活の中から、新たな化学技術、医療事故、一般事故報道など、化学に関わる事項を取り上げ、いかに私たちが化学と関わっているかを認識する。	【復習】紙ベース、もしくはmanabaでの記述
第2回	無機化学分野と現代社会や日常生活についての関わりを学ぶ（1）（キーワード；元素、単体、非金属、典型元素）	【予習】第2回の内容について調査 【復習】紙ベース、もしくはmanabaでの記述
第3回	無機化学分野と現代社会や日常生活についての関わりを学ぶ（2）（キーワード；金属、遷移元素、セラミック）	【予習】第3回の内容について調査 【復習】紙ベース、もしくはmanabaでの記述
第4回	有機化学分野と現代社会や日常生活についての関わりを学ぶ（キーワード；炭素化合物、高分子化合物、天然高分子化合物）	【予習】第4回の内容について調査 【復習】紙ベース、もしくはmanabaでの記述
第5回	物理化学分野と現代社会や日常生活についての関わりを学ぶ（キーワード；浸透圧、酸化還元、酸塩基、反応熱）	【予習】第5回の内容について調査 【復習】紙ベース、もしくはmanabaでの記述
第6回	グループワークについての説明とテーマ設定とグループワーク	【復習】紙ベース、もしくはmanabaでの記述
第7回	グループワーク：グループ討議と課題作成、manabaへの提出	【課題】manabaへの提出
第8回	プレゼンテーションと総括	【復習】総括

学修の到達目標

1）社会や日常生活の中に関わる化学に関わることを見いだせること。
2）化学の基本的な知識を知り，理論を理解すること。
3）得た知識や理解した理論に基として，社会や日常生活の中に関わる化学に関わることについて考え説明でき，場合によっては社会に対しての何らかの意思表示ができるようになること。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①現代社会や日常生活に関わる事象を理解するために知識を得ようとする姿勢と得た知識の量（教養）	秀	必要な知識を十分身につけ、更に知識を拡げるようとする姿勢がある。
	優	必要な知識だけは十分身につけている。
	良	必要な知識は身につけているが、不十分である。
	可	必要な知識の最低限を身につけている。
	不可	必要な知識は全く身につけていないし、得ようという姿勢がみられない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②得た知識を基として、現代社会や日常生活に関わる事象についての論理的思考力や判断力（論理的思考力）	秀	化学的知識に基づき、論理的に思考し、判断・批判することができる。
	優	化学的知識に基づき、論理的に思考することはできる。
	良	化学的知識に基づき、不十分であるが論理的に思考することができる。
	可	化学的知識が不十分ながらも、思考しようとしている。
	不可	化学的知識も不十分で、思考することができない。
③自分の思考や判断を他者とのグループワークの中で表現する力と活動を通して新たな視点を得る姿勢（表現力）	秀	グループ活動の中で、自分の意見・判断を分かり易く表現し、他者の意見と照らし合わせて新たな視点で考え・判断を構築できる。
	優	グループ活動の中で、自分の意見・判断を分かり易く表現しすることができるが、他者の意見・判断を十分には取り入れることができるが十分ではない。
	良	グループ活動の中で、自分の意見・判断を分かり易く表現しすることができるが、他者の意見・判断を十分には取り入れることが全くできない。
	可	グループ活動の中で表現できる自分の意見や判断はあるが、表現できない。
	不可	グループ活動の中で表現できる自分の意見や判断がない。
④グループワークにおいて役割を遂行する力（貢献力）	秀	グループ活動の中で、自発的に貢献し、リーダーシップを発揮できる。
	優	グループ活動の中で、自発的に貢献できるがリーダーシップを発揮するに至らない。
	良	グループ活動に、自発的にグループワークに貢献できるが不十分である。
	可	グループワークに、与えられた事柄については貢献できる。
	不可	グループワークに貢献できない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	15	40	0	0	5	100
評価項目	①教養	30	5	20	0	0	2	57
	②論理的思考力	10	0	10	0	0	1	21
	③表現力	0	10	5	0	0	1	16
	④貢献力	0	0	5	0	0	1	6

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	学期末試験（レポート）
	②		
	③	✓	
	④		
提出物	①	✓	マナバでの小テストや課題提出
	②		
	③	✓	
	④		
成果発表（口頭・実技）	①	✓	グループ・プレゼンテーション発表の内容・発表時の態度
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
その他	①	✓	授業参加への能動的な姿勢
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
・能動的な学習態度 ・高校での化学基礎の知識 ・復習と課題提出 ・報道や日常生活から化学に関することを探す姿勢
教科書・参考書
教科書：指定しない。 参考書：随時紹介する。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
人体のふしぎ （F１２２００） 人体ってホントに不思議	講義	1	15	1〜2	前期	選択	—	岩越美恵 複数担当	7号館3階 研究室他
科目担当者	岩越美恵、井本しおん、森松伸一、足立了平、新谷路子、杉山育代、田村周二								

関連ときわコンピテンシー	知欲、情報力、貢献力
授業の概要	人体の構造と機能に関する解剖学や生理学といった学問への体系導入前に、人体のしくみとはたらきの合目的な「からだの不思議」を知る。授業は、コンピューターグラフィック（CG）を利用した視覚教材を用いて、生命活動を営む神秘に触れる。また、不思議を自ら探り、そのテーマについてグループで学習する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	脳と心 グループでの振り返り（担当者：岩越）	【予習】シラバスを読んでおく 【復習】学習の振り返りと資料収集
第2回	体をめぐる酸素と栄養の運搬人〜血液〜 グループでの振り返り（担当者：井本）	【予習】テーマに関する資料収集 【復習】学習の振り返りと資料収集
第3回	からだを守るしくみ グループでの振り返り（担当者：森松）	【予習】テーマに関する資料収集 【復習】学習の振り返りと資料収集
第4回	尿からわかる体のあれこれ グループでの振り返り（担当者：新谷）	【予習】テーマに関する資料収集 【復習】学習の振り返りと資料収集
第5回	口腔のふしぎ グループでの振り返り（担当者：足立）	【予習】テーマに関する資料収集 【復習】学習の振り返りと資料収集
第6回	食物の消化吸収と壮大な化学工場〜胃・腸・肝臓〜 グループでの振り返りと発表テーマの決定（担当者：杉山）	【予習】テーマに関する資料収集 【復習】学習の振り返りと資料収集
第7回	体のしなやかなポンプとホース〜心臓・血管〜 グループでの振り返り（担当者：田村）	【予習】テーマに関する資料収集 【復習】学習の振り返りと資料収集
第8回	7つのテーマ別グループ発表（担当者：岩越他）	【予習】グループ発表の準備 【復習】学習の振り返り

学修の到達目標

・医療、教育職の基礎である、人体のしくみと働きのふしぎを興味を持って知ろうとする。
・授業で得た知見を基に自分でさらに関心のある情報を収集し、整理、分析、活用できる。
・各授業の終わりに、今日の知見をグループで一つにまとめる作業に貢献できる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができる（知欲）	秀	自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学習へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと悦びを見出すことがてきる。
	不可	学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②思考や判断に必要な情報を収集・整理・分析し、活用することができる（情報力）	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果をたしゃと共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析・活用できない。
③グループの仲間の役に立つことに悦びを感じ、具体的に行動することができる（貢献力）	秀	かなり自発的に仲間に貢献できる。それにより仲間のモチベーションを高めることもできる。また自分の公権力を社会に還元することもできる。
	優	かなり自発的に仲間に貢献できる。それにより仲間のモチベーションを高めることもできる。
	良	ある程度自発的に仲間に貢献できる。
	可	他者から指示されれば、仲間に対して何らかの貢献はできる。
	不可	貢献への積極性がなく、周囲のモチベーションを下げてしまう。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		35	20	20	0	25	0	100
評価項目	①知欲	35	10	0	0	10	0	55
	②情報力	0	0	10	0	15	0	25
	③貢献力	0	10	10	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	期末定期テストを施行する。そこでは、授業で学んだ知識を習得し、人体についてのふしぎと驚異を学び得ているかをみる。
	②		
	③		
提出物	①	✓	毎回授業の終わりに、授業の内容をグループで整理しまとめたものを提出する。
	②		
	③	✓	
成果発表（口頭・実技）	①		最後の授業で、一つのテーマについて授業や各自自らの学び得た情報もまとめてグループ発表をする。
	②	✓	
	③	✓	
ポートフォリオ	①	✓	授業の資料、ノート、振り返り、収取した資料などのファイル
	②	✓	
	③		

履修に必要な知識・技能・態度など
・真理探究、人間探究への好奇心 ・個性ある学びを仲間のために活かしあう社会性
教科書・参考書
教科書：特に指定しない 参考書：『人体のふしぎ　講談社の動く図鑑 WONDER MOVE 』

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
現代社会と生命科学 （F１２２１０） 生命科学の時代をいきる知恵	講義	1	15	1〜2	前期	選択	—	松元英理子 単独担当	2 号館 3 階 研究室
科目担当者	松元英理子								

関連ときわコンピテンシー	教養、論理的思考力、批判的思考力、表現力、貢献力
授業の概要	21 世紀は生命科学の時代と言われ、生命現象の謎が次々と解明され、新しい技術が開発されています。そしてそれらの技術は科学者だけのものではなく、社会と深く関わりを持ち、私たちの生活にも影響を与えています。私たちは、生命科学の技術を享受するかどうか、一人一人が判断を迫られる時代に生きているのです。この科目では、現在話題となっている生命科学のニュースを取り上げ、まずそれらを理解するための生命科学の基礎知識を学び、次に正しい知識を基に自分自身に関わりのある問題として考えることを目的とします。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第 1 回	ガイダンス、生命科学のニュース 生命科学の基礎の基礎：ヒト〜細胞〜遺伝子	
第 2 回	テーマ①消費者直結型遺伝子検査（ネットで気軽に遺伝子検査？） 遺伝子と疾患のかかわり、遺伝子でわかること	【復習】manaba 小テスト
第 3 回	テーマ②新型出生前遺伝子診断（お母さんの血液で出生前診断？） 遺伝子と染色体、染色体異常	【復習】manaba 小テスト
第 4 回	テーマ③遺伝子組み換え食品（あなたは食べている？） 遺伝子を書き換える	【復習】manaba 小テスト
第 5 回	テーマ④再生医療（iPS 細胞って？） 細胞の運命〜増殖・分化・死・再生	【復習】manaba 小テスト
第 6 回	グループワーク： テーマ選択とグループ討議	【予習】グループワーク情報収集
第 7 回	グループワーク： グループ討議と発表準備（ポスター作成）	【予習】グループワーク情報収集
第 8 回	グループ発表・質疑応答 ふりかえり	【予習】発表準備

学修の到達目標

1）現在、話題となっている生命科学のニュースおよびその問題点について
　①ニュースを理解するための基礎的な生命科学の知識を理解し身につける。
　②論理的・批判的に考察できる。
　③グループワークを通して自己と他者の考えを対比させ・まとめ・表現できる。
2）グループワークに貢献できる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①生命科学のニュースを理解するための基礎知識を理解しに見つける力。 （教養）	秀	必要な知識を満足できる水準を超えて理解し身につけている。さらに自主的な学修で知識を拡げることができる
	優	必要な知識を十分満足できる水準にまで理解し身につけている。
	良	必要な知識を理解し身につけている。
	可	やや努力を要する面もあるが、必要最低限の知識は理解し身につけてはいる。
	不可	必要な知識を理解し身につけることができていない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②生命科学のニュースに対し、論理的に思考する力（論理的思考力）	秀	学んだ知識に基づき、独自の視点をもって論理的に思考することができる。
	優	学んだ知識に基づき、論理的に思考することができ、満足できる水準に達している。
	良	学んだ知識に基づき、論理的に思考することができる。
	可	学んだ知識に基づき、論理的に思考しようとする努力が認められる。
	不可	学んだ知識に基づき、論理的に思考することができない。
③生命科学のニュースに対し、批判的に思考する力（批判的思考力）	秀	物事を十分多角的にとらえ、独自の視点をもって批判的に思考することができる。
	優	物事を多角的にとらえ、批判的に思考することができ、満足できる水準に達している。
	良	物事を多角的にとらえ、批判的に思考することができる。
	可	物事を多角的にとらえ、批判的に思考しようとする努力が認められる。
	不可	物事を多角的にとらえたり、批判的に思考することができない。
④グループワークを通して自己と他者の意見を対比させ、まとめ・表現する力（表現力）	秀	自己と他者の意見を対比させ･まとめ･独自の視点をもってわかりやすく表現できる。
	優	自己と他者の意見を対比させ･まとめ･表現でき、満足できる水準に達している。
	良	自己と他者の意見を対比させ･まとめ･表現できる。
	可	自己と他者の意見を対比させることはできるが、それをまとめ･表現することは努力を要する。
	不可	自己と他者の意見を対比させて思考することができない。
⑤グループワークに貢献する力（貢献力）	秀	自発的にグループワークに貢献し、周囲のモチベーションを高め、リーダーシップを発揮できる。
	優	自発的にグループワークに貢献し、周囲のモチベーションを高めることができる。
	良	自発的にグループワークに貢献できる。
	可	他者から指示されれば、グループワークに貢献することができる。
	不可	グループワークに貢献することができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭･実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		45	45	5	0	0	5	100
評価項目	①知識を理解し身につける力	20	20	0	0	0	0	40
	②論理的思考力	15	5	0	0	0	0	20
	③批判的思考力	10	5	0	0	0	0	15
	④意見をまとめ表現する力	0	15	5	0	0	0	20
	⑤グループワークに貢献する力	0	0	0	0	0	5	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	定期試験を実施します。ノート・講義資料の持ち込み可。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤		
提出物	①	✓	1）基礎知識の復習を目的とした manaba 小テスト。講義資料やノートなどを見ながら答えてください。 2）グループワーク課題：提示する生命科学のニュースから一つ選択し、グループの意見をまとめる。（ニュースに対する意見のまとめなど）
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
成果発表 （口頭･実技）	①		グループワーク課題のプレゼンテーション
	②		
	③		
	④	✓	
	⑤		
その他	①		グループワークへの参加度・積極性 ふりかえり
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
1）生命科学の基礎は、高等学校の「生物基礎」の復習レベルから始めますが、高等学校で生物学を十分に学んでこなかった方は、新しい知識を取り込む意欲をもって臨んでください。 2）メディアに取り上げられる生命科学のニュースに興味を持ってください。
教科書・参考書
教科書：使用しません。 参考書：随時紹介します。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
安全学 （F12220） いのちを支える専門職を目指す	講義	1	15	1〜2	前期	選択	—	伴仲謙欣 複数担当	5号館学術推進課他
科目担当者	伴仲謙欣、金千秋、西岡伸紀＊、鍵本敦、伴俊作、柴山慶太、本田英理								

関連ときわコンピテンシー	情報力、判断力、責任感
授業の概要	現代社会に生きる私達は、「いつでも」「どこでも」「誰でも」災害に遭う可能性があります。天災（地震、火山爆発、台風、大雨、洪水等）ばかりでなく、人災（テロ、事故等）に備えることが求められます。いのちを支える専門職を目指すためには、幅広い視点から「安全」について学び、その実践的な教養を身に付けておくことが大切でしょう。一人ひとりが「自分のいのちは自分で守る」ための知識、技術、価値観を持たなければなりません。本講義は、地域の講師陣によるオムニバス形式で実施します。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション・安全についての基礎理解　（担当者：伴仲）	【予習】シラバスの確認 【復習】本時の振り返り
第2回	1.17から考えるいのちと安全：阪神・淡路大震災は、大きな課題と教訓を残した。コミュニティでのいのちと安全を専門家から学びます。（担当者：金）	【予習】シラバスの確認 【復習】本時の振り返り
第3回	人間から考える安全：学校における安全教育を通し、環境整備（教材、養成、研修、体制等）について、教育の専門家より学びます。（担当者：西岡）	【予習】シラバスの確認 【復習】本時の振り返り
第4回	地域・歴史から考える安全：私達は、いつでも、どこでも、誰でも災害に遭う可能性がある。災害からの安全を、専門家より学びます。（担当者：鍵本）	【予習】シラバスの確認 【復習】本時の振り返り
第5回	産業・企業における安全：組織（企業・経営・CSR）、システム（マネジメント・保守管理・安全活動）の安全を学びます。　（担当者：伴）	【予習】シラバスの確認 【復習】本時の振り返り
第6回	社会制度（法律）から考える安全：私達が、社会制度（保険・裁判・刑法・試験）により守られている安全を、専門家より学びます。（担当者：柴山）	【予習】シラバスの確認 【復習】本時の振り返り
第7回	社会から考える安全：社会には無数の危険がある。生きる上で必要な情報についての危機管理と安全について、専門家より学びます。（担当者：本田）	【予習】シラバスの確認 【復習】本時の振り返り
第8回	まとめと発展：これまで学んできた内容について、の振り返り（担当者：伴仲）	【予習】シラバスの確認 【復習】本時の振り返り

学修の到達目標

・自分のいのちは自分で守る（自助）、地域のいのちは地域で守る（共助）、さらに、多様な価値を互いに認め合い、支え合う（公助）ことについて自分事として捉えることができる。
・幅広い視点から「安全」を考え、主体的に行動できる専門職業人を目指す。
・自分や他者の「いのち」が、かけがいのない大切なものだと実感できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①情報力　（情報力）	秀	安全に必要な情報を自主的に収集・整理・分析・活用し、他者に伝えることができる
	優	安全に必要な情報を自主的に収集・整理・分析し、活用することができる。
	良	安全に必要な情報を収集・整理・分析し、活用することができる。
	可	安全に必要な情報を収集・整理・分析し、最低限活用することができる。
	不可	安全に必要な情報を自主的に収集・整理・分析できるが、活用することができない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②判断力（判断力）	秀	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランス良く駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。
	優	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等をバランス良く駆使して、自力で適切に状況判断ができる。
	良	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、その場に即した状況判断が一定レベルにおいて可能である。
	不可	適切な状況判断ができない。
③責任感（責任感）	秀	常に安全に留意し、職業人としての責任を持ち物事に臨み、他者にも伝えられる。
	優	常に安全に留意し、職業人としての責任を持ち物事に臨むことができる。
	良	安全に留意し、職業人としての責任を持ち物事に臨むことができる。
	可	安全に留意し、責任を持ち物事に臨むことができる。
	不可	安全に留意し、責任を持ち物事に臨むことができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		45	45	0	0	0	10	100
評価項目	①情報力	15	15	0	0	0	0	30
	②判断力	15	15	0	0	0	0	30
	③責任感	15	15	0	0	0	10	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	定期試験として、筆記またはレポート試験を実施する
	②	✓	
	③	✓	
提出物	①	✓	毎時、振り返りワークシートの提出を求める
	②	✓	
	③	✓	
その他	①		授業への積極的な参加態度を評価する
	②		
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
・大学生としての自覚と学問に対する興味・関心を持ち、地域の講師陣に対して積極的に学ぶ姿勢で臨むこと
教科書・参考書
教科書：指定なし 参考書：適宜紹介する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
人類と農学 （F１２２３０） 私たちの周りは農学でいっぱい！	講義	1	15	1〜2	前期	選択	—	大菅誠司 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	大菅誠司								

関連ときわコンピテンシー	教養、常識力、批判的思考力、知欲、探究力、表現力、責任感、貢献力
授業の概要	私たち人類は外部から栄養をとらなければなりません。そのためには植物や動物、微生物のことを知っておく必要があります。それらを利用・応用しているのが農業です。さらに農業における環境も重要です。農学にはいのちに大事なことがいっぱい詰まっています。一緒に詳しく見ていきましょう。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション 農学とはどのような領域の学問か、全体像を理解する。	【予習】シラバスの熟読 【復習】農業についてのクイズ
第2回	農業はいつから始まったか。現在の農業について。 人間と農業とのかかわり。植物について。	【予習】農業の歴史、現在の農業 【復習】農業についてのクイズ
第3回	作物について。作物の種類・栽培について。	【予習】作物の種類 【復習】農業についてのクイズ
第4回	花卉について。花の種類・栽培、繁殖方法について。	【予習】花の増殖、栽培法 【復習】農業についてのクイズ
第5回	野菜について。野菜の種類・栽培について。	【予習】野菜の種類 【復習】農業についてのクイズ
第6回	植物バイオについて。植物組織培養とは。	【予習】植物バイオと農業 【復習】農業についてのクイズ
第7回	今までの補足。 これまでの講義内容について自分なりに考えたことの学生による発表。	【予習】講義を受けての発表 【復習】農業についてのクイズ
第8回	これまでの講義内容について自分なりに考えたことの学生による発表。 まとめ。	【予習】講義を受けての発表 【復習】課題研究提出

学修の到達目標
履修者は、自分が生きていく上で必要な栄養が周りの植物に由来していることがわかる。さらに、人間と農業の関わりもわかる。 将来いのちを預かる職業に就いたとき、それに必要な教養・常識力・探求力・責任感を修得できる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①農学に関する基本的知識を修得することができる。（常識力）	秀	授業内で説明する農学分野についての基本的知識の修得について満足できる水準を超えて理解し、異分野との知識も併せて理解を深め、さらにこれからの農学についても自分で考えることができる。
	優	授業内で説明する農学分野についての基本的知識の修得について満足できる水準を超えて理解し、異分野との知識も併せて理解を深めることができている。
	良	授業内で説明する農学分野についての基本的知識を満足できる水準まで修得していることが認められる。
	可	授業内で説明する農学分野についての基本的知識を満足できる水準までほぼ修得していることが認められる。その理解を深める過程での努力は認められる。
	不可	授業内で説明する農学分野についての基本的知識を満足できる水準まで修得しておらず、その理解を深める過程での努力も認められない。
②人間と農業のかかわりあいが理解できる。（教養）	秀	授業内で学んだ農業の知識を自分たち人間とのかかわりあいの中で具体的に理解することができる。さらにこれからの農業の課題を発見し、自分の考えを提案・発表できる。
	優	授業内で学んだ農業の知識を自分たち人間とのかかわりあいの中で具体的に理解することができる。さらにこれからの農業の課題を発見でき、問題点を考えられる。
	良	授業内で学んだ農業の知識を自分たち人間とのかかわりあいの中で具体的に理解することができる。さらにこれからの農業の課題を発見でき、いくらかは問題点を考えられる。
	可	授業内で学んだ農業の知識を自分たち人間とのかかわりあいの中で具体的に理解することができる。
	不可	授業内で学んだ農業の知識を自分たち人間とのかかわりあいの中で具体的に理解できていない。
③花や野菜の栽培法が理解できる。（探究力）	秀	授業内で学んだ花や野菜の一般的栽培法を満足できる水準を超えて理解し、さらに個別の種類についても興味を示し、自発的に調べ理解している。実際に栽培できる知識を得ている。
	優	授業内で学んだ花や野菜の一般的栽培法を満足できる水準を超えて理解し、さらに個別の種類についても興味を示し、自発的に調べ理解している。
	良	授業内で学んだ花や野菜の一般的栽培法を満足できる水準を超えて理解し、さらに個別の種類についても興味を示している。
	可	授業内で学んだ花や野菜の一般的栽培法を満足できる水準まで理解している。
	不可	授業内で学んだ花や野菜の一般的栽培法を満足できる水準まで理解していない。
④バイオと農業とのかかわりが理解できる。（探究力）	秀	授業内で学んだ農業分野のバイオの一般的知識を満足できる水準を超えて理解し、さらに個別の具体例についても興味を示し、自発的に調べ理解している。また課題を発見し、自分の考えを提案・発表できる。
	優	授業内で学んだ農業分野のバイオの一般的知識を満足できる水準を超えて理解し、さらに個別の具体例についても興味を示し、自発的に調べ理解している。
	良	授業内で学んだ農業分野のバイオの一般的知識を満足できる水準を超えて理解し、さらに個別の具体例についても興味を示し、自発的に調べている。
	可	授業内で学んだ農業分野のバイオの一般的知識を満足できる水準まで理解している。
	不可	授業内で学んだ農業分野のバイオの一般的知識を満足できる水準まで理解していない。
⑤自分の考えをまとめて発表できる。（表現力）	秀	授業内で学んだ農学・農業について満足できる水準を超えて理解し、異分野の知識と併せてまた自分で調べたことも踏まえ将来への農学・農業について提案・発表できる。
	優	授業内で学んだ農学・農業について満足できる水準を超えて理解し、自分で調べたことも踏まえ将来への農学・農業について提案・発表できる。
	良	授業内で学んだ農学・農業について満足できる水準を超えて理解し、自分でまとめて農学・農業について発表できる。
	可	授業内で学んだ農学・農業について満足できる水準まで理解し、自分でまとめて農学・農業について発表できる。
	不可	授業内で学んだ農学・農業について満足できる水準まで理解できておらず、自分でまとめて農学・農業について発表できない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	10	20	0	10	0	100
評価項目	①農学に関する基本的知識の修得	15	5	0	0	0	0	20
	②農業を身近なものとして考える	15	0	0	0	5	0	20
	③花や野菜の栽培法がわかる	15	5	0	0	0	0	20
	④バイオを生活に即して考える	15	0	0	0	5	0	20
	⑤学習のまとめ・発表力	0	0	20	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	定期試験では、授業で学んだことがよく理解できているかを見る。 試験では、単に覚えたではなく、自分たちの問題としてとらえられているか判断する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
提出物	①	✓	毎回授業で農業に関する小テストを行う。 これにより、出席点にも連動する。 予習、復習、授業内容などのノートを提出する。 今回の授業で学んだこと、考えたこと、なども記述し提出する。
	②		
	③	✓	
	④		
	⑤		
成果発表（口頭・実技）	①		最後の授業で、自分なりのまとめをパワーポイントで発表する。 全員による質疑応答の時間も設ける。 （履修者人数により発表時間・日程を変更することがある）
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	
ポートフォリオ	①		予習、復習、授業内容などのノートを提出する。 今回の授業で学んだこと、考えたこと、なども記述し提出する。
	②	✓	
	③		
	④	✓	
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など
植物、農業、食品、環境などに興味を持っていれば理解が深まる。不必要な私語は慎むこと。
教科書・参考書
教科書：必要性が出てきたときに随時紹介する。 参考書：必要性が出てきたときに随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
プログラミング入門 （Ｆ１２２４０） コンピュータが行う手順を考えよう！	演習	1	15	1〜2	後期	選択	看国試選択	関雅幸 単独担当	7号館4階 研究室
科目担当者	関雅幸								

関連ときわコンピテンシー	論理的思考力、デザイン力、情報力、貢献力
授業の概要	「プログラミング」技術の基礎を習得する。 プログラミングとはプログラミング言語を使って、コンピュータに行わせたい仕事の手順を記述することである。 今後、人工知能が著しく進化して、仕事のやり方が変わることが予測される社会において、コンピュータに何をやらせるかを考えることができる思考を持つことが重要となる。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	Scratchを使う準備、Scratchの基本	【予習】シラバスの内容の熟読 【復習】疑問点を確認する
第2回	プログラムの流れを知る	【予習】ここで学ぶ事柄を資料で確認する 【復習】うまくできないところを再考する
第3回	変数・配列について	【予習】ここで学ぶ事柄を資料で確認する 【復習】うまくできないところを再考する
第4回	構造化プログラミングについて	【予習】ここで学ぶ事柄を資料で確認する 【復習】うまくできないところを再考する
第5回	オリジナルプログラムに挑戦Ⅰ：概要を決め、コードを書く	【予習】どんなものを作るか考える 【復習】終わらない部分を作る
第6回	オリジナルプログラムに挑戦Ⅱ：問題点の抽出、改善	【予習】問題点を考える 【復習】不十分な点がないか考える
第7回	オリジナルプログラムに挑戦Ⅲ：テストそして改善	【予習】テストする項目を考える 【復習】不十分な点がないか考える
第8回	プログラムのチェック・まとめ	【予習】改善のために策を考える 【復習】不十分な点がないか考える

学修の到達目標
プログラム作成を通じてコンピュータに自分が実行させたいことを表現する方法を身につける。 グループワークに貢献する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①コンピュータに行わせたいことを論理的に考える力 （論理的思考力）	秀	コンピュータに行わせたいことを、コンピュータが実行できる手順に置き換えることができ、満足できる水準を超えている。
	優	コンピュータに行わせたいことを、コンピュータが実行できる手順に置き換えることができ、満足できる水準に達している。
	良	コンピュータに行わせたいことを、コンピュータが実行できる手順に置き換えることができる。
	可	コンピュータに行わせたいことを、コンピュータが実行できる手順に置き換えようとする努力が認められる。
	不可	コンピュータに行わせたいことを、コンピュータが実行できる手順に置き換えることができない。
②様々な考えや知識を総合して課題の解決策をデザインすることができる （デザイン力）	秀	様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができ、満足できるレベルを超えている。
	優	様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができ、十分満足できるレベルである。
	良	ある程度様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができる。
	可	様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインしようとする努力が認められる。
	不可	課題解決策をデザインすることができない。
③誰かの役に立つことに悦びを感じ、具体的に行動することができる （貢献力）	秀	かなり自発的に周囲に貢献できる。
	優	充分に自発的に周囲に貢献できる。
	良	ある程度自発的に周囲に貢献できる。
	可	周囲に対して何らかの貢献をしようとする努力が認められる。
	不可	貢献への積極性がない。
④授業で学び、感じたことをまとめることができる （情報力）	秀	学んだこと・感じたことを十分にまとめることができ、他者が参考にできるレベルにある。
	優	学んだこと・感じたことを十分にまとめることができる。
	良	学んだこと・感じたことをまとめることができる。
	可	学んだこと・感じたことを不十分ではあるが、まとめることができる。
	不可	学んだこと・感じたことをまとめることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 （口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		30	30	0	40	0	0	100
評価項目	①論理的思考力	0	0	0	20	0	0	20
	②デザイン力	15	0	0	20	0	0	35
	③貢献力	15	0	0	0	0	0	15
	④情報力	0	30	0	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①		レポート試験
	②	✓	
	③	✓	
	④		
提出物	①		１枚まとめ
	②		
	③		
	④	✓	
作品	①	✓	プログラム
	②	✓	
	③		
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など
コンピュータに関する基本的な知識があり、コンピュータに行わせたい課題に対して興味・関心がある。
教科書・参考書
教科書：『Scratch で学ぶ　プログラミングとアルゴリズムの基本』 中植正剛他 著　日経 BP 社 参考書：『楽しく学ぶ　アルゴリズムとプログラミングの図鑑』 森巧尚 著・まつむらまきお（イラスト） マイナビ出版

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
日本国憲法 （F１２２５０） 権利と自由を守るために	講義	2	30	1〜2	前期	選択	養教免必修	柴山慶太 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	柴山慶太								

関連ときわコンピテンシー	情報力、表現力、論理的思考力、批判的思考力、判断力
授業の概要	憲法の役割を考察した上で、日本国憲法の人権規定の部分を中心に概説する。 公共の福祉の意義、精神的自由と経済的自由の違い、違憲審査基準を学習した後、判例を分析しながら各人権規定を確認していく。統治、平和主義、憲法改正などについても触れる予定である。 グループワークは、講義の予習とその発表という形で取り入れる予定ではあるが、毎回ではなく、基本は講義形式となる。とはいえ、講義の中ではできるだけ皆で考える機会を作り、対話形式の授業にしたいと考えている。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	【オリエンテーション、グループ分け、憲法とは何か】 提示された判例を元に、共通点を考える。社会契約論についても触れる。	【復習】教科書の読解
第2回	【公共の福祉】 人権制約の必要性とその根拠について、具体例を元に考える。	【予習】グループ作業 【復習】教科書の読解
第3回	【憲法の構造】 個人の尊厳を中心とする人権規定と、これを支える統治機構について概観する。	【予習】グループ作業 【復習】教科書の読解
第4回	【精神的自由概要】 精神的自由と呼ばれる人権にはどういうものがあるか、概観する。	【予習】グループ作業 【復習】教科書の読解
第5回	【経済的自由概要】 経済的自由と呼ばれる人権にはどういうものがあるか、概観する。	【予習】グループ作業 【復習】教科書の読解
第6回	【二重の基準】 精神的自由と経済的自由で、なぜ違憲審査基準を異にすべきであるのか考える。	【予習】グループ作業 【復習】教科書の読解
第7回	【これまでの復習】	【復習】教科書の読解
第8回	【精神的自由各論】 19条、21条について、判例を元に検討する。	【復習】教科書の読解
第9回	【経済的自由各論】 22条、29条について、判例を元に検討する。	【復習】教科書の読解
第10回	【平等権】 14条の平等の意味、違憲審査基準を考える。	【復習】教科書の読解
第11回	【その他の人権】 生存権など、その他の人権について概観する。	【復習】教科書の読解
第12回	【司法権の役割、憲法訴訟のルール】 司法権の役割を知り、なぜ合憲限定解釈などのルールがあるのかを考える。	【復習】教科書の読解
第13回	【統治（立法権、行政権）】 国会、内閣の役割と権力分立構造を見る。なぜ代表民主制が必要か検討する。	【復習】教科書の読解
第14回	【平和主義】 平和主義について、政府見解・判例分析などを通じて検討する。	【復習】教科書の読解
第15回	【憲法改正、まとめ】 政府の憲法改正案について、これまでの知識を使って、その是非を議論する。	【予習】グループ作業 【復習】教科書の読解

学修の到達目標
憲法が保障する自由、権利がどういうものであるかを理解し、これを保持するために何をしなければならないかを知る。 憲法の各規定を、実際の生活でどう活用できるかを考えることができるようになる。 憲法改正について、その内容の是非を判断できるようになる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①基本的知識の修得 （情報力）	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。
②修得して知識の表現力 （表現力）	秀	自分の内面を他者に伝えることができる十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる十分な能力を持っている。ある程度理解しやすい。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。
③表現の中での論理的思考力 （論理的思考力）	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
④反対意見に配慮した批判的思考力 （批判的思考力）	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
⑤自分の考えを述べる判断力 （判断力）	秀	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランス良く駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。またそれゆえその判断を踏まえた次の新たな創造的作業を実行しやすい。
	優	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等をバランス良く駆使して、自力で十分適切に状況判断ができる。
	良	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、その場に即した状況判断が一定レベルにおいて可能である。
	不可	適切な状況判断ができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	30	0	0	0	0	100
評価項目	①基本的知識の修得	30	20	0	0	0	0	50
	②修得した知識の表現力	10	0	0	0	0	0	10
	③表現の中での論理的思考力	10	10	0	0	0	0	20
	④反対意見に配慮した批判的思考力	10	0	0	0	0	0	10
	⑤自分の考えを述べる判断力	10	0	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	授業で学んだ基本的知識、テキストから得た知識などを活用し、設問に論理的に回答できているか、反対意見に対する配慮がされているか、最終的に自分の考えを述べられているかを確認する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
提出物	①	✓	節目ごとに小テストを行う。 ここでは基本的な知識が修得できているか、回答は論理になされているかを確認する。
	②		
	③	✓	
	④		
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など

前知識なしで理解できるように平易に解説をするつもりであるが、論理は基礎から積みあがっていくものであるため、復習（授業で終わった部分について教科書を読む）を中心に学習していってほしい。

教科書・参考書

教科書：憲法の条文を用意（インターネットのｅ－Ｇｏｖサイトや図書館の六法など）して、授業に持ってきてください。

参考書：『憲法』芦部信義、岩波書店（現在、第６版ですが、旧版でも構いません。）
『プレップ憲法』戸松秀典、弘文堂（現在、第４版ですが、旧版でも構いません。）

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
哲学 （F１２２６０） 「哲学する」ことを学ぶ	講義	1	15	1〜2	前期	選択	—	中野康次郎 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	中野康次郎								

関連ときわコンピテンシー	論理的思考力、批判的思考力、表現力
授業の概要	「人は哲学を学ぶことはできない……ただ哲学することを学びうるだけである。」（カント） 哲学すること、それは先人たちが考えてきたこと（＝知識）を頭のなかに詰め込む作業ではない。授業で取り扱う予定の様々な問題の検討を通じて、自分の頭で考えること、すなわち哲学することを、受講者の皆さんと共に学んでいきたい。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	「哲学」とは	【予習】シラバス内容の熟読 【復習】授業中に配布した資料の熟読
第2回	「愛」に理由はあるか	【予習】次回のテーマに関する資料の熟読 【復習】授業中に配布した資料の熟読
第3回	「美」は事実か趣味か	【予習】次回のテーマに関する資料の熟読 【復習】授業中に配布した資料の熟読
第4回	万引きが「悪い」行為なのはなぜか	【予習】次回のテーマに関する資料の熟読 【復習】授業中に配布した資料の熟読
第5回	嘘をつくことはいつも悪いことか	【予習】次回のテーマに関する資料の熟読 【復習】授業中に配布した資料の熟読
第6回	動機と結果のどちらを重視すべきか	【予習】次回のテーマに関する資料の熟読 【復習】授業中に配布した資料の熟読
第7回	どんな考え方でも尊重しなければいけないのか	【予習】次回のテーマに関する資料の熟読 【復習】授業中に配布した資料の熟読
第8回	まとめ	【予習】次回のテーマに関する資料の熟読 【復習】授業中に配布した資料の熟読

学修の到達目標
受講者は、正解が無いかもしれないような問題について、自分の頭で考えることができるようになる。また、その考えた内容を、わかりやすく表現することができるようになる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①様々なテーマについて、問題点を論理的に考察する事が出来る。（論理的思考力）	秀	与えられた資料を十分論理的に読解することができる。さらに授業中の補足説明を聞いて、問題点を整理して考察することができる。
	優	与えられた資料を論理的に読解することができる。さらに授業中の補足説明を聞いて、問題点を考察することができる。
	良	与えられた資料をある程度は論理的に読解することができる。さらに授業中の補足説明を聞いて、何が問題になっているのかを理解することができる。
	可	与えられた資料をある程度は論理的に読解することができる。
	不可	論理的に考えることができない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②自分とは異なる立場の考え方を理解し、自分の考え方を批判的に反省することが出来る。（批判的思考力）	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
③自分の考えを、立場が異なる相手に対しても、説得力のある仕方で論理的に表現できる。（表現力）	秀	自分の考えを論理的に表現することができ、また他者を納得させるようその表現方法の工夫が十分に認められる。
	優	自分の考えを論理的に表現することができ、また他者を納得させるようその表現方法の工夫が認められる。
	良	自分の考えを論理的に表現することができる。
	可	自分の考えを論理的に表現しようとする努力が認められる。
	不可	自分の考えを論理的に表現しようとする努力が認められない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	40	0	0	0	0	100
評価項目	①論理的に思考する	15	10	0	0	0	0	25
	②自分の考えを批判的に反省する	30	20	0	0	0	0	50
	③他者に対する表現	15	10	0	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	期末試験を実施します。 授業で学んだ様々な考え方などを活用しながら、期末試験のテーマ（未定）についての資料を読み込み、問題点を整理し、説得力のある仕方で自分の考えを書くことが求められます。
	②	✓	
	③	✓	
提出物	①	✓	毎回の授業で、与えられたテーマについて自分の考えを書いて提出してもらいます。これは期末試験へ向けてのトレーニングでもあります。 この課題（毎回自分の考えを書くこと）の目的は、問題点を整理し、自分とは異なる考え方も十分理解した上で、論理的に自分の考えを文章にまとめる力をつけていくことです。このことを踏まえた上で、毎回の授業に真剣に参加しているかどうかが評価のポイントとなります。
	②	✓	
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

この講義は、これまで考えたことが無いであろう様々な問題を受講者に考えてもらうことを目的としています。それゆえ特別な予備知識は要求しませんが、「考える」ことは要求します。

考えたり文章を書いたりする事が苦手な方にとっては、この講義はかなりの「苦行」になると思われます。そのことを踏まえた上で受講して下さい。

なお、受講希望者が多い場合、抽選になることがあります。

教科書・参考書

教科書：資料を授業中に配布します。

参考書：必要に応じ、適宜授業中に紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
生命と倫理 （F１２２７０） 生命の支援に必要な厳しさと優しさ	講義	2	30	1〜2	後期	必修	看国試必修	上田國寛 複数担当	7号館2階 研究室他
科目担当者	上田國寛、児玉正幸								

関連ときわコンピテンシー	人間力、批判的思考力、表現力
授業の概要	近年の生命科学と医療技術の目覚ましい発展により、「いのちのサポーター」である医療従事者や教育者に倫理的決断を求められる状況が現実のものとなってきた。生殖補助医療や臓器移植などの先進医療から障害者支援や社会保障など日常的な社会活動にまで深く関わる生命倫理的配慮の重要性について学ぶ。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	医学と倫理…いのちの尊厳、死生観、科学と宗教　＜小論文課題＞（担当者：児玉）	【予習】前（々）日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第2回	新生命倫理学入門…定義、研究対象、方法（担当者：児玉）	【予習】前（々）日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第3回	生命倫理学入門…定義、研究対象、誕生略史、方法（担当者：児玉）	【予習】前（々）日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第4回	医事法学入門…生命の終わりと始まりの判定、ヒトの生命の発生、ヒトと胎児の始まりの定義、選択的人工妊娠中絶、選別出産（担当者：児玉）	【予習】前（々）日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第5回	生殖補助医療…人工授精、体外受精、代理母　（担当者：児玉）	【予習】前（々）日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第6回	性と倫理…性的少数者（LGBTQ）の現状と課題　（担当者：児玉）	【予習】前（々）日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第7回	終末期医療（1）と倫理…終末期医療の現状と課題(担当者：児玉)	【予習】前（々）日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第8回	日本医学と倫理…（第1段階）原始時代の経験的医療、（第2段階）古代の呪術的魔術的医療、（第3段階）中国伝統医療、（第4段階）南蛮・紅毛医療、（第5段階）:19Ｃ以降の自然科学的医療（担当者：児玉）	【予習】前（々）日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第9回	終末期医療（2）と倫理…終末期医療改善策の検討(担当者：児玉)	【予習】前（々）日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第10回	終末期医療（3）と倫理…平穏死の権利、平穏死を支える看護（担当者：児玉）	【予習】前（々）日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第11回	東洋医学（代替医療）と倫理…漢方薬（薬物療法)、鍼灸、薬膳、按摩、気功（担当者：児玉）	【予習】前（々）日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第12回	再生医療…細胞移植、組織移植、ES細胞、iPS細胞、“STAP細胞”（担当者：上田）	【予習】前（々）日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第13回	遺伝子診断…出生前診断、遺伝カウンセリング・3省指針（担当者：上田）	【予習】前（々）日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第14回	薬害と臨床試験…薬効と副作用、サリドマイド禍、エイズ禍、臨床試験（治験）（担当者：上田）	【予習】前（々）日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第15回	公害と労働災害…企業と行政の責任。環境破壊、石綿禍、災害障害（担当者：上田）	【予習】前（々）日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ

学修の到達目標
倫理的に問題のある種々の事態を速やかに感知し、自分のとるべき適切な対応を決定できるようになること。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①個人として、また社会の構成員として高い倫理観を身につける力（人間力）	秀	高い倫理観の下に何らかの是正策を構想･提言する。
	優	問題の内容や原因を調べて自分の考えを確立する。
	良	問題に対する自分の立ち位置を決めることができる。
	可	問題の存在には気付くが、何をすべきか自分の考えがまとまらない。
	不可	問題の存在に気付かない。
②種々のニュースに内在する倫理的問題点に対し、批判的に思考する力（批判的思考力）	秀	日常的な社会活動の中に多くの倫理的課題の存在を感じる。
	優	複雑な物事の倫理判断ができる。
	良	単純な物事の倫理判断ができる。
	可	物事の適否は大体分かるが,倫理的配慮ができない。
	不可	物事の状況判断が全くできない。
③個人およびグループの考えを正しくかつ簡潔な表現で伝える力（表現力）	秀	正確で分かりやすい言葉で表現できる。
	優	正しい表現はできるが、やや冗長である。
	良	断片的な言葉遣いであるが、意味は通じる。
	可	語彙が貧困で適切な表現ができない。
	不可	考えが言葉としてまとまらない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭･実技）	作品	ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ	その他	合計
評価割合		70	15	15	0	0	0	100
評価項目	①高い倫理観	50	5	5	0	0	0	60
	②批判的思考力	10	5	5	0	0	0	20
	③適切な表現力	10	5	5	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	ノート・講義資料持ち込み可の定期試験と持ち込み不可の小試験
	②	✓	
	③	✓	
提出物	①	✓	レポートや小論文課題
	②	✓	
	③	✓	
成果発表（口頭･実技）	①	✓	コメント・シートの積極的活用
	②	✓	
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
初回授業の前日と前々日の新聞（朝日、毎日、読売、産経、神戸のどれでもよい）に目を通しておくこと。 日常目にするマスコミ情報の中から生命倫理に関するものを集め（新聞の切り抜き、インターネット情報など)、レポートや小論文課題の資料とすること。
教科書・参考書
教科書：使用しません。 参考書：『医療倫理学の方法：原則・手順・ナラティブ』宮坂道夫著　医学書院

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
芸術文化論 （Ｆ１２２８０） スペシャルプレゼントセミナー ～ 本当の教養人になろう！～	講義	1	15	1 ～ 2	前期	選択	—	髙松邦彦 複数担当	7 号館 2 階 研究室他
科目担当者	髙松邦彦、冨士荘貴、久元喜造、真弓明信、佐竹隆幸、善竹隆司、桂かい枝、三代澤康司								

関連ときわ コンピテンシー	教養、知欲、省察力
授業の概要	最近、グローバリゼーション（globalization）という言葉をよく耳にします。これは、さまざまなものが国家間を超えて行き来することを意味しています。これに象徴されるように、世界は急速に身近なものになりつつあります。身近な例では、日本への外国人観光客が増え、また在留外国人も増加傾向にあることがあげられます。今後私たちは外国の方々と触れ合う機会がますます増えていくことが予想されます。そのような中で私たち日本人に求められるのは、改めて「日本とはどういう国か？」と問い直されることです。あなたは一体この国のことをどのくらい外国の方に話すことができますか？「日本の伝統文化とは何か？」「古来日本人が感じる美とは何か？」こういった問いに答えることができてはじめて“教養がある”と言えるのでしょう。このような教養は、特に海外の人たちの中で話す際には重要です。 そこで神戸常盤大学は、普段聴くことのできないその分野の第一線で活躍されている方をお招きし、オムニバス形式で皆さんへ「スペシャルプレゼントセミナー」として提供することにしました。秀逸な方々の素晴らしいお話を聞いたり、実際に自分で体験したりすることで、教養を身につけてほしいと思います。 なお、８回の授業のうちいくつかについては公開講座の形をとりますので、学外の方も受講することがあります。その点、ご了解ください。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第１回	「座禅」【冨士荘貴　（明泉寺住職）】 ６月６日（水）４限目　～禅の文化を肌で感じる ※座禅体験料 500 円	【予習】シラバスに目を通しておくこと 【復習】ワークシートを用いて振り返り
第２回	「神戸の魅力を知る」【久元喜造（神戸市長)】 ６月 13 日（水）４限目（予定）	【復習】ワークシートを用いて振り返り
第３回	「日本の野球（スポーツ）文化」【真弓明信（プロ野球解説者)】 ６月 20 日（水）４限目（予定）	【復習】ワークシートを用いて振り返り
第４回	「(仮）地域経済を知る」【佐竹隆幸氏（兵庫県立大学名誉教授)】 ６月 27 日（水）４限目（予定）	【復習】ワークシートを用いて振り返り
第５回	「伝統芸能を知る①」【善竹隆司（狂言師)】 ７月　４日（水）４限目（予定）	【復習】ワークシートを用いて振り返り
第６回	「伝統芸能を知る②」【桂かい枝（落語家)】 ７月 11 日（水）４限目（予定）	【復習】ワークシートを用いて振り返り
第７回	「日本の放送文化を知る」【三代澤康司（朝日放送株式会社)】 ７月 18 日（水）４限目（予定）	【復習】ワークシートを用いて振り返り
第８回	まとめ ７月 25 日（水）４限目（予定）	【予習】１～７回の授業を通して感じたこと・考えたことを１枚で表現する

学修の到達目標
授業でさまざまな話を聞き、また体験を通して、日本の伝統・歴史・文化により関心を持つことができるようになり、またそれらについて他者に対して自信を持って語ることができるようになる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①日本の芸術文化についてより深く知ることができる。（教養）	秀	授業で学び得たことを踏まえ、日本の芸術文化に関する知識・理解を十分に修得しているだけでなく、自ら探究する中で日本の芸術文化について理解を深め、その内容が秀逸である。
	優	授業で学び得たことを踏まえ、日本の芸術文化に関する知識・理解を十分に修得しているだけでなく、自ら探究する中で日本の芸術文化について理解を深めようとしている。
	良	授業で学び得たことを踏まえ、日本の芸術文化に関する知識・理解を十分に修得している。
	可	授業で学び得たことを踏まえ、日本の芸術文化に関する知識・理解を修得しようと努力している。
	不可	授業で学び得たことを踏まえ、日本の芸術文化に関する知識・理解を得ようという努力が見られない。
②日本の芸術文化に対して関心を持って向き合うことができる。（知欲）	秀	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化について関心を持って様々考えることができ、また授業で学んだことを超えて幅広く日本の芸術文化に対して認識を持ち、その認識が秀逸である。
	優	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化について関心を持って様々考えることができ、また授業で学んだことを超えて幅広く日本の芸術文化に対して認識を持つようになっている。
	良	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化について関心を持って様々考えることができている。
	可	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化について関心を持って様々考えようとする姿勢が見て取れる。
	不可	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化について関心を持って様々考えようとする姿勢が見られない。
③日本の芸術文化に対する自らの認識について振り返り、見つめ直すことができる。（省察力）	秀	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化に対する自らの認識について振り返り、見つめ直すことができており、さらに今後の自らの可能な関わりについて深く考えることができている。
	優	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化に対する自らの認識について振り返り、見つめ直すことができており、さらに今後の自らの可能な関わりについて若干ながら考えることができている。
	良	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化に対する自らの認識について振り返り、見つめ直すことができている。
	可	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化に対する自らの認識について振り返り、見つめ直す努力の過程が見て取れる。
	不可	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化に対する自らの認識について振り返り、見つめ直す努力の過程が見られない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	0	15	0	35	0	100
評価項目	①芸術文化に関する理解	20	0	5	0	10	0	35
	②芸術文化に対する関心	30	0	0	0	10	0	40
	③芸術文化に対する認識の反省	0	0	10	0	15	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	8回の授業の後にレポート試験を課します。 8回の授業を通して学んだことを踏まえ、自らの考えを述べてもらいます。
	②	✓	
	③		
成果発表 （口頭・実技）	①	✓	8回目の授業で、1～7回の授業を通して感じたこと・考えたことを1枚で表したものを各自で作成してもらい、それをグループ内で発表し、共有する取り組みをしてもらいます。 各自で作成した作品の質について、教員及び学生相互で評価します。
	②		
	③	✓	
ポートフォリオ	①	✓	毎回の授業の後に振り返り票を作成し、次の授業に提出してもらいます。 授業を通して学んだこと、感じたこと、考えたことについて書いてもらいます。 ポートフォリオ評価では、その内容をルーブリックにしたがって公平に評価します。
	②	✓	
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
事前に必要な知識・技能はありません。 ただし、学外からゲストスピーカーの方々にわざわざお越しいただきますので、真摯な態度で受講することを求めます。
教科書・参考書
教科書：なし 参考書：なし

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
文学 （F12290） 生と死について考える文学	講義	1	15	1〜2	前期	選択	—	藪葉子 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	藪葉子								

関連ときわコンピテンシー	教養、責任感、傾聴力・対話力、論理的思考力、表現力
授業の概要	日本の古典文学作品を通して、人間の生や死に対する考え方に触れる。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	『源氏物語』の登場人物の生死にまつわる場面に注目する。	【予習】『源氏物語』についての基礎知識を持つ。 【復習】振り返り票の作成・提出
第2回	『源氏物語』の登場人物の生死にまつわる場面に注目する。	【予習】『源氏物語』についての基礎知識を持つ。 【復習】振り返り票の作成・提出
第3回	『枕草子』に見える人間の生死にまつわる場面に注目する。	【予習】『枕草子』についての基礎知識を持つ。 【復習】振り返り票の作成・提出
第4回	『枕草子』に見える人間の生死にまつわる場面に注目する。	【予習】『枕草子』についての基礎知識を持つ。 【復習】振り返り票の作成・提出
第5回	日記文学に見える人間の生死にまつわる場面に注目する。	【予習】古典の日記文学についての基礎知識を持つ。 【復習】振り返り票の作成・提出
第6回	日記文学に見える人間の生死にまつわる場面に注目する。	【予習】古典の日記文学についての基礎知識を持つ。 【復習】振り返り票の作成・提出
第7回	『徒然草』に書かれる人間の生死にまつわる作者の意見に注目する。	【予習】『徒然草』についての基礎知識を持つ。 【復習】振り返り票の作成・提出
第8回	『徒然草』に書かれる人間の生死にまつわる作者の意見に注目する。	【予習】『徒然草』についての基礎知識を持つ。 【復習】振り返り票の作成・提出

学修の到達目標
文学作品の読解を通して、人間の生死について深く考えるきっかけを持つことができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①文学作品に関する基本的知識を習得することができる。（教養）	秀	文学作品に関する知識について、自身でも積極的に調べ高い知識を修得できている。
	優	文学作品に関する知識について、自身でも積極的に調べ標準的な知識を修得できている。
	良	文学作品に関する知識について、自身でも調べ基礎的な知識を修得できている。
	可	文学作品に関する知識について、授業内容を理解している。
	不可	文学作品に関する知識について、授業内容を理解できていない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②自らの生活に引き付けて文学作品を読むことができる。（責任感）	秀	文学作品を自らの生活に引き付けて積極的に考え、論理的に思考をまとめることができている。
	優	文学作品を自らの生活に引き付けて積極的に考え、思考をまとめることができている。
	良	文学作品を自らの生活に引き付けて考え、自分の意見を持つことができている。
	可	文学作品を自らの生活に引き付けて考えている。
	不可	文学作品を自らの生活に引き付けて考えることができていない。
③文学作品の内容について、他者と議論することができる。（傾聴力・対話力）	秀	文学作品の内容について他者と積極的に議論し、共に理解を深めることができている。
	優	文学作品の内容について他者と積極的に議論し、自分の理解を深めることができている。
	良	文学作品の内容について他者と議論し、自分の理解を持つことができている。
	可	文学作品の内容について他者と議論できている。
	不可	文学作品の内容について他者と議論できていない。
④文学作品のテキスト読解を行うことができる。（論理的思考力）	秀	文学作品を語句や表現に注意して読み、作品を深く理解できている。
	優	文学作品を語句や表現に注意して読み、作品を理解できている。
	良	文学作品を注意深く読めている。
	可	文学作品の内容を理解している。
	不可	文学作品の内容を理解できていない。
⑤文学作品の内容について、他者に対して表現することができる。（表現力）	秀	文学作品の内容について、他者に対して的確に表現し、自分の考えをさらに深めることができている。
	優	文学作品の内容について、他者に対して的確に表現することができている。
	良	文学作品の内容について、他者に対して表現することができている。
	可	文学作品について、他者に対して自分の意見を持つことができている。
	不可	文学作品について、他者に対して自分の意見を持つことができていない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	20	20	0	10	0	100
評価項目	①作品に関する基礎知識の修得	10	0	0	0	0	0	10
	②自らの生活に引き付けての考察	0	10	0	0	0	0	10
	③作品について他者と議論	0	0	10	0	0	0	10
	④文学作品の読解	20	0	0	0	5	0	25
	⑤他者に対する表現	20	10	10	0	5	0	45

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	最後に定期試験を行う。 授業内容の理解とともに、自身の考えを持ち、それを文章で表現することが求められる。
	②		
	③		
	④	✓	
	⑤	✓	
提出物	①		授業中に自身の考えを記す機会を数回持つ。
	②	✓	
	③		
	④		
	⑤	✓	
成果発表 （口頭･実技）	①		グループディスカッションの機会を持つ。積極的に発言することが求められる。
	②		
	③	✓	
	④		
	⑤	✓	
ポートフォリオ	①		グループディスカッションの機会を持つ。積極的に発言することが求められる。
	②		
	③		
	④	✓	
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
積極的に文学作品を読み、そこから学ぶ意識を持つことが求められる。
教科書・参考書
教科書：使用しない。 参考書：授業中に紹介する。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
日本通史 （F１２３００） 畿内近国の中近世史	講義	1	15	1〜2	前期	選択	—	片山正彦 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	片山正彦								

関連ときわコンピテンシー	教養、専門力、論理的思考力、批判的思考力、表現力
授業の概要	鎌倉幕府の生まれた鎌倉時代、南北朝の対立のあった南北朝時代、室町幕府が確立した室町時代、各地に戦国大名が支配権を握った戦国時代を経て、織田信長と豊臣秀吉の統一政権によって権力の分立は克服され、荘園公領制も最終的には終焉を迎えることになる。中世社会は常に在地からの動きによって新たな社会の変動が生まれており、その在地の担い手は武士から村落の百姓に変化してゆき、そこを布教の対象とした宗教が重要な役割を果した。古代から続く未開的な要素を基調としつつ、新たに生成した価値とが混交して日本列島の社会の今日の原型をつくりあげた時代と評価され、近世に至る。そしてこのころの社会･経済･文化の中心は、畿内近国（おおむね現在の近畿地方）である。 本講義では、畿内近国の中近世の日本史を学ぶことによって、現在の日本の社会・経済・文化とどのようなつながりがあるのか、それを踏まえて今後どのように反映させていくのか、受講者自身が主体的に考えられるような授業を目指す。また、大学の所在する兵庫県や京阪神の歴史など、地域に関連した授業内容にしたい。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	・オリエンテーション ・授業内容について共通理解を図る。	【予習】シラバスの内容の熟読 【復習】授業内容に関わるアンケート記入
第2回	・おんな城主井伊直虎とその周囲	【予習】配布レジュメの熟読 【復習】小テストによる習熟度の確認
第3回	・丹波の戦国大名波多野氏の成長	【予習】配布レジュメの熟読 【復習】小テストによる習熟度の確認
第4回	・三田城主山崎片家の生涯	【予習】配布レジュメの熟読 【復習】小テストによる習熟度の確認
第5回	・篠山藩主松平康重の生涯	【予習】配布レジュメの熟読 【復習】小テストによる習熟度の確認
第6回	・江戸時代の淀川舟運と高槻・枚方	【予習】配布レジュメの熟読 【復習】小テストによる習熟度の確認
第7回	・淀川の洪水と河内平野	【予習】配布レジュメの熟読 【復習】小テストによる習熟度の確認
第8回	・北河内に残る引き札	【予習】配布レジュメの熟読 【復習】小テストによる習熟度の確認

学修の到達目標
畿内近国の中近世の日本史に関する基本的・専門的知識の習得、歴史を論理的に捉え、かつ批判的で独創的な思考を持って、それを他者に伝える。結果、現在の日本の社会・経済・文化・自身の住んでいる地域とどのようなつながりがあるのか、それを踏まえて今後どのように反映させていくのか、受講者自身が主体的に考えられるようになる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①歴史に関する基本的知識を修得することができる。（教養）	秀	授業内で提示した基本的知識の修得について満足できる水準を超え、周辺の知識と併せて理解を深め、さらに歴史のあるべき姿について自ら考えることができる。
	優	授業内で提示した基本的知識の修得について満足できる水準を超え、周辺の知識と併せて理解を深めることができている。
	良	授業内で提示した基本的知識を満足できる水準まで修得していることが認められる。
	可	授業内で提示した基本的知識の修得が満足できる水準まで到達していないが、その努力の過程は認められる。
	不可	授業内で提示した基本的知識の修得が満足できる水準まで修得しておらず、その努力の過程も認められない。
②歴史に関する専門的知識を習得することができる。（専門力）	秀	授業内で提示した専門的知識の修得について満足できる水準を超え、周辺の知識と併せて理解を深め、さらに歴史のあるべき姿について自ら考えることができる。
	優	授業内で提示した専門的知識の修得について満足できる水準を超え、周辺の知識と併せて理解を深めることができている。
	良	授業内で提示した専門的知識を満足できる水準まで修得していることが認められる。
	可	授業内で提示した専門的知識の修得が満足できる水準まで到達していないが、その努力の過程は認められる。
	不可	授業内で提示した専門的知識の修得が満足できる水準まで修得しておらず、その努力の過程も認められない。
③歴史に関する事象について、根拠に基づき論理的に考えることができる。（論理的思考力）	秀	授業内で提示した歴史に関する事象について、満足できる水準を超えて根拠に基づき論理的に考えることができたと認められ、さらに読解で得た知識や考えを他者と共有し、そこで自らの考えを述べることができる。
	優	授業内で提示した歴史に関する事象について、満足できる水準を超えて根拠に基づき論理的に考えることができたと認められ、さらに読解で得た知識や考えを他者と共有することができる。
	良	授業内で提示した歴史に関する事象について、満足できる水準を超えて根拠に基づき論理的に考えることができたと認められる。
	可	授業内で提示した歴史に関する事象について、満足できる水準まで根拠に基づき論理的に考えることができたと認められる。
	不可	授業内で提示した歴史に関する事象について、満足できる水準まで根拠に基づき論理的に考えることができたと認められない。
④歴史の通説に対し、批判的に捉えることができる。（批判的思考力）	秀	定期試験や提出物において、歴史の通説に対し、満足できる水準を超えて批判的に思考することができたと認められ、さらにその考えを他者と共有し、そこで自らの考えを述べることができる。
	優	定期試験や提出物において、歴史の通説に対し、満足できる水準を超えて批判的に思考することができたと認められ、さらにその考えを他者と共有することができる。
	良	定期試験や提出物において、歴史の通説に対し、満足できる水準を超えて批判的に思考することができたと認められる。
	可	定期試験や提出物において、歴史の通説に対し、満足できる水準まで批判的に思考することができたと認められる。
	不可	定期試験や提出物において、歴史の通説に対し、満足できる水準まで批判的に思考することができたと認められない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
⑤歴史に関する自身の想いや考えを表現し、他者に伝えることができる。（表現力）	秀	定期試験や提出物・ポートフォリオにおいて、満足できる水準を超えて歴史に関する自身の想いや考えを表現し、説得力のある見解を他者に伝えることができたと認められる。
	優	定期試験や提出物・ポートフォリオにおいて、満足できる水準を超えて歴史に関する自身の想いや考えを表現し、他者に伝えることができたと認められる。
	良	定期試験や提出物・ポートフォリオにおいて、満足できる水準を超えて歴史に関する自身の想いや考えを表現することができたと認められる。
	可	定期試験や提出物・ポートフォリオにおいて、満足できる水準まで歴史に関する自身の想いや考えを表現することができたと認められる。
	不可	定期試験や提出物・ポートフォリオにおいて、満足できる水準まで歴史に関する自身の想いや考えを表現し、他者に伝えることができたと認められない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	10	0	0	40	0	100
評価項目	①歴史に関する基本的知識の修得	10	0	0	0	10	0	20
	②歴史に関する専門的知識の修得	10	0	0	0	10	0	20
	③歴史に関する事象について、根拠に基づき論理的に考える	10	0	0	0	10	0	20
	④歴史の通説に対する批判的思考の習得	10	5	0	0	0	0	15
	⑤自身の想いや考えを表現できる	10	5	0	0	10	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	期末に定期試験を実施し、各評価項目に基づいて、その習熟度をはかる。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
提出物	①		講義最終日にレポート課題を課す。そこでは、授業で学んだ基本的知識、テキストから得た知識や考え方などを活用しながら、独自性のある考え・主張を展開することが求められる。
	②		
	③		
	④	✓	
	⑤	✓	
ポートフォリオ	①	✓	毎回の授業後に小テストを実施し、各評価項目に基づいて、その習熟度をはかる。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
毎回配布するレジュメに基づいて講義を進めていくので、その読解の作業を継続して行うことのできる真摯な態度を持つことが求められる。
教科書・参考書
教科書：特定の教科書は使用しません。毎回レジュメを配布します。 参考書：天野忠幸・片山正彦・古野貢・渡邊大門編『戦国織豊期の西国社会』（日本史史料研究会、2012 年） 渡邊大門編『真実の戦国時代』（柏書房、2015 年） 歴史と文化の研究所編『井伊一族のすべて』（洋泉社、2017 年） 片山正彦『豊臣政権の東国政策と徳川氏』（思文閣出版、2017 年） 渡邊忠司監修『近世地域史文化史の研究』（名著出版、2018 年） ＊ただし必ずしも購入する必要はありません。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
世界の時事 （F１２３１０） 東洋と西洋の文化交流の歴史を学ぶ	講義	1	15	1〜2	後期	選択	—	山田勝久 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	山田勝久＊								

関連ときわコンピテンシー	教養、知欲、探究力、デザイン力
授業の概要	私は今まで､シルクロードの24カ国63回の海外調査を実施してきた。まず､世界の時事を学習し、文明がなぜ興隆し、なぜ滅亡したかの要因を考察、そこから未来への指針を導く。現地で撮影したビデオも使い、中央アジアと東南アジアを中心に、古代から現代までの文明の変遷を学習する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	世界の時事を編年的に学ぶ。 邪馬台国の卑弥呼とシルクロードの大月氏国のつながりを考える。	【予習】徐福伝説の紹介。 【復習】正倉院の文物と大陸文化について。
第2回	遣隋使と遣唐使と朝鮮通信使は日本に何をもたらしたか。 倭国（日本）から長安・洛陽の都までのルートを考える。	【予習】小野妹子と仲麻呂の伝記を学ぶ。 【復習】飛鳥と藤原京と平安京の光芒。
第3回	前漢の武帝（劉徹）による敦煌郡の設置の意義。 仏教の伝来と莫高窟千仏洞の芸術についての考察。	【予習】なぜ漢の武帝は西域を拓いたか。 【復習】中国への仏教伝来はいつ頃か。
第4回	仏教がインドから中国へ、朝鮮や日本にも伝わる中での変化について。中国への仏教伝来に貢献した鳩摩羅什と玄奘の生涯を学ぶ。	【予習】儒教と仏教と道教の相違。 【復習】大乗仏教と小乗仏教の相違。
第5回	パルミラ王国の今と昔の姿を比較する。 IS(イスラム教過激派組織)侵攻前のパルミラ遺跡調査結果について。	【予習】長安からローマまでのルート。 【復習】イランの歴史と文化を学ぶ。
第6回	アレクサンダー大王の出生地マケドニアの特色について。 アレクサンダー大王のインド遠征までのルートを考える。	【予習】仏像とギリシア彫刻の関係を探る。 【復習】ペルシア王国の滅亡の要因を学ぶ。
第7回	世界仏教三大遺跡の光芒を学ぶ。スリランカ、インドネシア、カンボジア、タイ、ブータン、ネパールの魅力を探る。	【予習】仏塔とは何かについて学ぶ。 【復習】ヒマラヤ山麓の王国の歴史を学ぶ。
第8回	3度にわたる楼蘭王国の遺跡調査から得た出土文献を分析する。チベット人とウィグル人の歴史と文化を考える。	【予習】タクラマカン砂漠周辺の文化とは。 【復習】少数民族の興亡の歴史を学ぶ。

学修の到達目標
世界各地の時事を学ぶ。また、東洋と西洋は2000年も前から文化交流があったこと、ガラスや黄金、音楽や宗教が中国に流入、さらに中国のシルクが西方に伝わった事実をふまえ、国際的な交易の姿と文化交流の意義を学ぶ。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①過去の歴史の変遷を学び、人間としての教養を身につけている。（教養）	秀	人類の英知の変遷を理解し､国際感覚も豊かになった。
	優	文明の盛衰の要因を理解し､自らの知識として肉化している。
	良	世界の文化をある程度理解し､学習した成果がまずまず見られる。
	可	画一的な知見にのみとどまっているが､一応の知識を身につけている。
	不可	大学生としての､歴史的視点や知見が不十分である。
②日本文化と大陸文化の交流を学び、異文化尊重の精神を身につける。（知欲）	秀	史書を正しく解読し､過去の歴史から未来への指針を学び取る力を身につけた。
	優	民族や国境や言語を超えた文化交流の重みを知悉している。
	良	今の自分があるのは､過去の文化の積み重ねがあったればこそと理解している。
	可	多少の知識はあるものの､浅薄である。
	不可	日本や大陸の歴史が全く身についていない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
③中央アジアの興亡の要因を考え、その根底に流れる思想を見極めようとする。（探究力）	秀	時代の流れの根底の思想が、平和や発展と連結していることを学び得た。
	優	戦争が起きる原因と、平和構築のための分析方法を身につけた。
	良	授業で学んだことを、さらに深めるための努力、探求をしている。
	可	知的な探求心が薄く、思考が浅薄である。
	不可	自らの専門領域についての探求心に欠け、歴史観が身についていない。
④過去の歴史的な事実を学び、自らの現実の解決策をデザインすることができる。（デザイン力）	秀	文明や文化の流れを学び、その中から自らの歴史観や社会観を確立するための視座を身につけた。
	優	歴史文献をもとに、十分論理的に考える知恵を身につけた。
	良	各方面の知識を学び、ある程度、自ら情報を収集し整理して活用できるようになった。
	可	総合的な思考力に欠けているものの、ある程度の企画力はある。
	不可	歴史に関する知識をもとに、問題解決策をデザインすることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		30	50	20	0	0	0	100
評価項目	①教養	10	20	5	0	0	0	35
	②知欲	10	10	5	0	0	0	25
	③探究力	5	10	5	0	0	0	20
	④デザイン力	5	10	5	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	8回にわたる授業をふまえて、世界の時事や歴史の変遷についてどれだけ理解し、学び得た知識や考え方などをどこまで活用できるかの試験を実施する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
提出物	①	✓	毎回の授業後に、レポート課題を課す。授業で学んだ基本的な知識をもとに、「独自の視点があるか否か」について論述させる。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
成果発表（口頭・実技）	①	✓	できるだけ指名して、課題（宿題）に対しての回答を全員にさせる。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
東洋史と日本史の基本的な知識が必要である。
教科書・参考書
教科書：『シルクロードの光彩』山田勝久著、笠間書院 参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
現代社会学 （F１２３２０） 世の中を見る目を変えよう。	講義	1	15	1〜2	前期	選択	—	伴仲謙欣 単独担当	5号館学術推進課
科目担当者	伴仲謙欣								

関連ときわコンピテンシー	知欲、論理的思考力、批判的思考力、教養
授業の概要	普段何気なく暮らしている社会をクリティカル（批評的）な虫めがねで覗いてみると、全く違った景色が見える・・・。 できるだけ身近な事例を取り上げていきながら、そんな”気づき”を経験することが、この授業の目的です。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第１回	社会学とは？ 〜オリエンテーション〜	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第２回	暮らしの中の社会学 〜身近な事例で社会学〜	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第３回	少子化と社会学	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第４回	メディアと社会学	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第５回	地域と社会学	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第６回	家族と社会学	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第７回	伝統と社会学	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第８回	まとめ	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り

学修の到達目標
今後、ますます多様化・複雑化する未来を生き抜くために必要な「自分の頭で考える」という行動様式を、様々な社会学的事例やキーワードを参照しながら身につける。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①学ぶこと・知ることに愉しさと悦びを覚えることができる（知欲）	秀	自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、充分に達成感を得ることができる。そしてその達成感をもとに、他者に自らの学びを伝えることができる。
	優	自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、充分に達成感を得ることができる。
	良	自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	他者の促しで学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②社会事象を多面的に捉える方法を学ぶことを通して、論理的思考力を身につけることができる。（論理的思考力）	秀	論理的思考力の修得が満足できる水準を超え、自らの見解を展開できる。
	優	論理的思考力の修得が満足できる水準を超えている。
	良	論理的思考力の修得が満足できる水準にある。
	可	論理的思考力の修得が最低限の水準に留まっている。
	不可	論理的思考力の修得が最低限の水準以下になっている。
③社会事象を批判的に分析することを通じて、批判的思考力を身につけることができる。（批判的思考力）	秀	現代社会に対する批判的思考力が満足できる水準を超え、自らの見解を提示できる。
	優	現代社会に対する批判的思考力が満足できる水準を超えている。
	良	現代社会に対する批判的思考力が満足できる水準にある。
	可	現代社会に対する批判的思考力が最低限の水準に留まっている。
	不可	現代社会に対する批判的思考力が最低限の水準以下になっている

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	40	0	0	0	10	100
評価項目	①知欲	0	10	0	0	0	10	20
	②論理的思考力	25	10	0	0	0	0	35
	③批判的思考力	25	20	0	0	0	0	45

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①		定期試験として筆記または、レポート試験を実施する。
	②	✓	
	③	✓	
提出物	①	✓	毎回の授業で、Ａ４一枚程度のワークシートにその日のまとめを作成し、提出する。
	②	✓	
	③	✓	
その他	①	✓	授業への積極的参加姿勢を評価する。
	②		
	③		

履修に必要な知識・技能・態度など
・授業への出席最低条件として、日常的にできるだけ新聞を読んでください（新聞名、内容は特に指定しない） ・受け売りの知識のひけらかしではなく、自らの頭で“考える”態度を求めます
教科書・参考書
教科書：指定なし 参考書：必要に応じて適宜紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
経済学 （F１２３３０） 経済のグローバル化、その歴史と現在	講義	1	15	1〜2	前期	選択	—	濵田道夫 単独担当	本館３階 学長室
科目担当者	濵田道夫								

関連ときわコンピテンシー	教養、論理的思考力、表現力
授業の概要	私たちはいまどのような社会に生きているのかを、経済の領域から考えてみる。経済のグローバル化は私たちの生活のさまざまな場面に影響を与えているが、授業ではこのグローバル化の歴史と現状をわかりやすく解説する。日本経済、とりわけ地域経済への影響なども含め、グローバル化を身近なものとしてとらえたい。経済学の入門的な授業であり、履修者の生活体験・実感からの意見なども授業に反映できればと思う。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第１回	オリエンテーション 受講生と相談しながら、この授業の進め方を決める。	【予習】シラバス内容の熟読 【復習】授業内容の振り返り
第２回	経済成長の歴史：ヨーロッパにおける近代資本主義の形成とその発展を景気変動、とくに価格の長期変動をとおして概観する。	【予習】授業のテーマについて調べる 【復習】授業内容の振り返り、質問票の提出
第３回	工業化と経済成長：産業革命とともに経済成長が顕著になったこと、その歴史的な意味について考える。	【予習】授業のテーマについて調べる 【復習】授業内容の振り返り、質問票の提出
第４回	経済のグローバル化：1990 年代以降、経済のグローバル化が急速に進行した背景。また市場の働き、市場と国家との関係について。	【予習】授業のテーマについて調べる 【復習】授業内容の振り返り、質問票の提出
第５回	格差と貧困：急速なグローバル化によってもたらされた経済的格差と貧困について考える。	【予習】授業のテーマについて調べる 【復習】授業内容の振り返り、質問票の提出
第６回	人口と経済：少子化、高齢化の進行は経済にどのような影響をおよぼしたのか。その対応策としての福祉政策など。	【予習】授業のテーマについて調べる 【復習】授業内容の振り返り、質問票の提出
第７回	経済成長と環境保護：19 世紀後半以降の急速な経済成長と地球環境の変化、また科学技術の発展と社会のあり方について考える。	【予習】授業のテーマについて調べる 【復習】授業内容の振り返り、質問票の提出
第８回	「持続可能な開発目標」とは：持続可能な社会を実現するために国連が提起した諸条件について考える。	【予習】授業のテーマについて調べる 【復習】授業内容の振り返り、質問票の提出

学修の到達目標
履修者は経済学の基本的知識にもとづいて、グローバル化の歴史を系統的に把握できるとともに、現代経済がかかえるさまざまな問題を概観することができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①経済学に関する基本的知識を身につけている。（教養）	秀	授業で学んだ経済学に関する基本的知識を十分修得し、さらに系統的に深く理解している。
	優	授業で学んだ経済学に関する基本的知識を十分修得している。
	良	授業で学んだ経済学に関する基本的知識を修得している。
	可	授業で学んだ経済学に関する基本的知識をある程度修得している。
	不可	授業で学んだ経済学に関する基本的知識を修得していない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②経済的事象について論理的に考えることができる。（論理的思考力）	秀	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念にもとづき、十分論理的に考えることができる。さらに新たな視点を示すなど豊かな構想力をもつ。
	優	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念にもとづき、十分論理的に考えることができる。
	良	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念にもとづき、論理的に考えることができる。
	可	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念にもとづき、ある程度論理的に考えることができる。
	不可	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念にもとづいて論理的に思考することができない。
③経済的事象を他者に説明することができる。（表現力）	秀	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に十分説得的に伝えることができ、さらに書き言葉、話し言葉などで表現豊かである。
	優	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に十分説得的に伝えることができる。
	良	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に説得的に伝えることができる。
	可	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者にある程度説得的に伝えることができる。
	不可	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に伝えることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	20	0	0	0	0	100
評価項目	①経済学の基本的知識の修得	40	20	0	0	0	0	60
	②経済的事象に関する論理的思考	20	0	0	0	0	0	20
	③他者への説明	20	0	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	8回の授業後に、レポートの提出を課す。授業で学んだ基礎知識や基本的概念をもとに、自らの意見がどれくらい明快にまた説得的に提示されるかが試される。
	②	✓	
	③	✓	
提出物	①	✓	授業内容の理解度を高めるため、毎回の授業で意見・質問票の提出を求める。
	②		
	③		

履修に必要な知識・技能・態度など
経済学の入門的な授業です。授業で学ぶ基本的知識をもとに、少子化や高齢化、科学技術の発展など社会の変化について考える機会となればよいと思う。
教科書・参考書
教科書：使用しない。 **参考書**：随時紹介する。たとえば、橘木俊詔『新しい幸福論』、暉峻淑子『豊かさとは何か』（ともに岩波新書）など。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
心理臨床学 （F１２３４０） こころの問題を少しでも理解しよう！	講義	2	30	1〜2	後期	必修	看国試必修	永島聡 単独担当	7号館4階 研究室
科目担当者	永島聡								

関連ときわコンピテンシー	専門力、批判的思考力、傾聴力・対話力、表現力、協調性・協働力
授業の概要	医療、教育、保育、福祉等の現場での専門職を目指す学生にとって必要な心理臨床学の基本を学修する。特にフロイト、アドラー、フランクルの理論と技法をベースに考える。さらに具体的にいくつかの現代心理臨床的トピックを取り上げ、理解を深める。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	「こころって何なのか？」 私たちは本当にこころを持っているのか？	【予習】受講への意志を強く持つ 【復習】内容を日々思い出す
第2回	「『本能』とどう付き合っていくのか？」 自我と超自我とイドについて。フロイトの理論より。	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第3回	「こころはどのように発達するのか？」 赤ちゃんのこころの中と大人同士の付き合い方。	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第4回	「人間は過去に縛られているのか？」 過去の体験が現在のしんどさにどう影響してくるか。	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第5回	「『私』とは何か？」 アイデンティティについて考える。エリクソンの理論より。	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第6回	「青年期の課題とは？」 アイデンティティ確立とサブカルチャー・カウンターカルチャー。	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第7回	「人間は優越感を持ちたいものなのか？」 劣等感はどのように生じるのか。アドラーの理論より。	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第8回	「人間は本能的欲求を満たしたいのか？力が欲しいのか？」 人生の意味について考えてみる。フランクルの思想より。	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第9回	「どうすれば幸せになれるのか？」 人間は自分の人生に何を期待できるのか。	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第10回	「精神疾患について」 神経症、うつ病、統合失調症等々について考える。	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第11回	「コミュニケーションの障がいについて」 自閉症スペクトラムを中心に考える。	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第12回	「LD とは？ ADHD とは？障がいとは何なのか？個性とは？能力とは？」発達障がいについて考える。	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第13回	「LGBT とは？」 セクシュアリティの多様性について考える。	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第14回	「医療者・教育者に何ができるのか？」 対人援助職の新人が、こころがしんどくなった人に対して何ができるか。	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第15回	「結局、人間のこころとは何なのか？」 授業全体と試験についてのまとめ。	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す

学修の到達目標
被支援者の内面について、今後ともずっと興味を持ち続けていく姿勢を身につける。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①対人援助職としての専門性 （専門力）	秀	臨床検査・看護・教育等、自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	臨床検査・看護・教育等、自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	臨床検査・看護・教育等、自らの専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	臨床検査・看護・教育等、自らの専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	臨床検査・看護・教育等、自らの専門領域についての知識・技術を身につけていない。
②多面的な思考 （批判的思考力）	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
③受容性・共感性 （傾聴力・対話力）	秀	他者の立場に身を置いてその人の価値観を十分理解した上で、相手が感じているであろうことを様々に思い巡らせながら共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。相手から話題を奪ってしまうことはない。また、共感しているつもりになるリスクを常に意識している。
	優	他者の立場に身を置いてその人の価値観を理解した上で共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	良	他者の立場に身を置いて話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	可	他者に大きな関心はないが、会話のキャッチボールはできる。
	不可	他者と会話のキャッチボールをすることができない。
④自己表現 （表現力）	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。
⑤グループでの協働 （協調性・協働力）	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となり、その実績が社会に還元される場合もある。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働することができる。
	可	協調・協働への興味は薄いが、他者に促されれば、周囲のモチベーションを下げることなく、協調・協働的に作業することはできる。
	不可	協調・協働する意志がなく、周囲のモチベーションを下げてしまう。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	16	0	0	0	4	100
評価項目	①対人援助職としての専門性	20	4	0	0	0	0	24
	②多面的な思考	20	4	0	0	0	0	24
	③受容性・共感性	20	4	0	0	0	0	24
	④自己表現	20	4	0	0	0	0	24
	⑤グループでの協働	0	0	0	0	0	4	4

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	論述試験を期末に実施。ある具体的な事例をこちらから設定する。それについて授業内容を踏まえた上で、心理学的な解釈や対人援助職として望ましい対応のあり方等を、小論文形式で回答する。試験についてのルーブリックは別途提示する。ノート・プリント持ち込み可。80 点。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
提出物	①	✓	毎回授業終了時に、その日理解したことや自ら感じたこと等を文章で記述し提出する。16 点。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
成果発表（口頭・実技）	①		グループワーク等への参加度を受講者同士でピア評価する。 4 点。
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

・映画、音楽、文学等に興味を持ち続ける。
・社会情勢に興味を持ち続ける。
・一般常識的な知識の量を増やそうとし続ける。

教科書・参考書

教科書：使用しません。

参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
人間関係論 （F１２３５０） ひとの気持ちなんて本当にわかるのか？	講義	1	15	1〜2	前期	選択	—	永島聡 単独担当	7号館4階 研究室
科目担当者	永島聡								

関連ときわコンピテンシー	専門力、批判的思考力、傾聴力・対話力、表現力、協調性・協働力
授業の概要	人間関係を保つには、まず相手を知らなければならないであろうし、そのためには自分を知らなければならないだろう。しかしそもそも相手を知る、自分を知るとはどのようなことなのか？この授業では、心理学的な他者理解および自己理解について、主に来談者中心療法や精神分析の観点から、受講者とともに考えてゆく。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	「こころって何なのか？」 私たちは本当にこころを持っているのか？	【予習】受講への意志を強く持つ 【復習】内容を日々思い出す
第2回	「こころの構造はどうなっているのか?」 意識と無意識について。	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第3回	「自分のこころを表現してみる」 コラージュ作成を体験する。	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第4回	「他者のこころを支えるには?」 話をじっくり傾聴することの大切さについて。	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第5回	「実際に他者の話を傾聴してみる」 グループワークでカウンセリングを疑似体験する。	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第6回	「受容することと共感すること」 他者を尊重し受け入れることについて。	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第7回	「受容することと共感すること」 他者を共感するとはどのようなことなのか？	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第8回	「結局、自己や他者を理解できたのか？そもそも理解できるのか?」 授業全体と試験についてのまとめ。	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す

学修の到達目標
自己や他者の存在について「わかったつもりにならない」ことの大切さを理解すること。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①対人援助職としての専門性 （専門力）	秀	臨床検査・看護・教育等、自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	臨床検査・看護・教育等、自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	臨床検査・看護・教育等、自らの専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	臨床検査・看護・教育等、自らの専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	臨床検査・看護・教育等、自らの専門領域についての知識・技術を身につけていない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②多面的な思考 （批判的思考力）	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
③受容性・共感性 （傾聴力・対話力）	秀	他者の立場に身を置いてその人の価値観を十分理解した上で、相手が感じているであろうことを様々に思い巡らせながら共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。相手から話題を奪ってしまうことはない。また、共感しているつもりになるリスクを常に意識している。
	優	他者の立場に身を置いてその人の価値観を理解した上で共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	良	他者の立場に身を置いて話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	可	他者に大きな関心はないが、会話のキャッチボールはできる。
	不可	他者と会話のキャッチボールをすることができない。
④自己表現 （表現力）	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。
⑤ループでの協働 （協調性・協働力）	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調･協働することができる。それにより周囲も協調･協働作業のモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となり、その実績が社会に還元される場合もある。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調･協働することができる。それにより周囲も協調･協働作業のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調･協働することができる。
	可	協調･協働への興味は薄いが、他者に促されれば、周囲のモチベーションを下げることなく、協調･協働的に作業することはできる。
	不可	協調･協働する意志がなく、周囲のモチベーションを下げてしまう。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		75	16	0	4	0	5	100
評価項目	①対人援助職としての専門性	20	4	0	0	0	0	24
	②多面的な思考	20	4	0	0	0	0	24
	③受容性・共感性	20	4	0	0	0	0	24
	④自己表現	15	4	0	4	0	0	23
	⑤グループでの協働	0	0	0	0	0	5	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	論述試験を期末に実施。ある具体的な事例をこちらから設定する。それについて授業内容を踏まえた上で、心理学的な解釈や対人援助職として望ましい対応のあり方等を、小論文形式で回答する。試験についてのルーブリックは別途提示する。ノート・プリント持ち込み可。75 点。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
提出物	①	✓	毎回授業終了時に、その日理解したことや自ら感じたこと等を文章で記述し提出する。16 点。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
作品	①		コラージュ等制作物への評価。 4 点。
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	
その他	①		グループワーク等への参加度を受講者同士でピア評価する。 5 点。
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

・映画、音楽、文学等に興味を持ち続ける。
・社会情勢に興味を持ち続ける。
・一般常識的な知識の量を増やそうとし続ける。

教科書・参考書

教科書：使用しません。
参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
教育と人間 （F１２３６０） いのちの大切さを伝えるために	講義	1	15	1〜2	前期	選択	—	光成研一郎 複数担当	7号館5階 研究室他
科目担当者	光成研一郎、國崎大恩								

関連ときわコンピテンシー	教養、傾聴力・対話力、表現力
授業の概要	教育活動には人間存在の中に潜在的に隠れているものを引き出し、発展させるという目的がある。同様に医療活動にも患者の中に存在するものを引き出し、心身ともに健康な状態に導いていくという目的がある。それゆえに医療の現場で実践を行う上で、教育の理論と方法について学ぶ意義は大きい。本講義では「いのちの大切さを伝える」という具体的事例を通して、教育に関する基礎知識や教育方法について学ぶ。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション —生と死について—　（担当者：光成）	【予習】シラバスの熟読 【復習】振り返り票の作成・提出
第2回	病児保育と子どものいのち　（担当者：光成、ゲストスピーカー）	【復習】振り返り票の作成・提出
第3回	戦争地域のこどものいのち　（担当者：光成）	【復習】振り返り票の作成・提出
第4回	死、あるいは不可能なものを伝える試み —「鶏を育て、殺し、食べる授業」を通して— （担当者：國崎）	【予習】配付資料に対する自分の考えをもつ 【復習】振り返り票の作成・提出
第5回	いのちの大切さをこどもたちに伝えるために —教育内容の検討グループワーク—　（担当者：光成・國崎）	【予習】教育内容について考える（個人） 【復習】教育内容について考える（グループ）
第6回	いのちの大切さをこどもたちに伝えるために —教育方法の検討グループワーク—　（担当者：光成・國崎）	【予習】教育方法について考える（個人） 【復習】教育方法について考える（グループ）
第7回	いのちの大切さをこどもたちに伝えるために —教育実践の検討グループワーク—　（担当者：光成・國崎）	【予習】教育実践について考える（個人） 【復習】教育実践について考える（グループ）
第8回	いのちの大切さをこどもたちに伝えるために —発表と評価—　（担当者：光成・國崎）	【予習】発表に向けての準備 【復習】第5回〜第8回の授業を通じたレポートの作成・提出

学修の到達目標

・教育に関する理論や方法といった知識を修得する
・教育学的見地から「いのち」について理解し、「いのち」の大切さを伝えることができる

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①教育に関する知識を修得し、説明することができる。（教養）	秀	教育に関する知識を修得し、学修成果を説明することができる。
	優	教育に関する知識を修得し、学修成果を伝えることができる。
	良	教育に関する知識を修得し、学修成果をある程度伝えることができる。
	可	教育に関する知識を修得している。
	不可	教育に関する知識を修得していない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②教育について他者と議論することができる。（傾聴力・対話力）	秀	授業で学んだ教育に関する知識を踏まえ、教育をめぐる諸課題について他者と議論することができ、さらに「いのちの大切さ」について他者と議論し、共に理解を深めることができ、その内容について共に提案することができる。
	優	授業で学んだ教育に関する知識を踏まえ、教育をめぐる諸課題について他者と議論することができ、さらに「いのちの大切さ」について他者と議論し、共に理解を深めることができる。
	良	授業で学んだ教育に関する知識を踏まえ、教育をめぐる諸課題について他者と議論することができ、さらに「いのちの大切さ」について他者と議論することができる。
	可	授業で学んだ教育に関する知識を踏まえ、教育をめぐる諸課題について他者と議論することができる。
	不可	授業で学んだ教育に関する知識を踏まえ、教育をめぐる諸課題について他者と議論することができない。
③教育学的見地から「いのち」について理解し、「いのち」の大切さについて表現し、他者に伝えることができる。（表現力）	秀	教育学的見地から「いのち」について理解し、「いのち」の大切さについて表現し、他者に伝えることができる。
	優	教育学的見地から「いのち」について理解し、「いのち」の大切さについて表現し、ある程度他者に伝えることができる。
	良	教育学的見地から「いのち」について理解し、「いのち」の大切さについて表現することができる。
	可	教育学的見地から「いのち」について理解している。
	不可	教育学的見地から「いのち」について理解していない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		30	30	20	0	0	20	100
評価項目	①教育に関する知識の修得、説明	30	30	0	0	0	0	60
	②教育に関する議論	0	0	0	0	0	20	20
	③「いのち」についての理解、表現	0	0	20	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	レポート試験を実施する。
	②		
	③		
提出物	①	✓	第１回～第４回の振り返り票（各５点満点×４）。第５回～第８回の授業を通したレポート提出（10 点）。
	②		
	③		
成果発表（口頭・実技）	①		成果発表について、学生同士による評価と教員評価によって、「いのち」について理解し、「いのち」の大切さについて表現し、他者に伝えることができるか評価する。
	②		
	③	✓	
その他	①		グループ内のピア評価および教員評価に基づいて、他者と適切に議論できていたかどうか、傾聴力と対話力の評価を行う。
	②	✓	
	③		

履修に必要な知識・技能・態度など
ほぼ毎時間、課題を出すので、学修に対して意欲的な学生が受講するようにしてください。また授業の後半はグループワークが主となるので、他者と協力し、自分の責任を全うできる態度が求められます。
教科書・参考書
教科書：使用しません。随時紹介します。 参考書：使用しません。随時紹介します。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
地域との協働Ａ （Ｆ１３０００） 地域づくりへの参画と市民性の獲得	演習	1	30	1〜2	通年	選択	—	大城亜水 複数担当	7号館4階 研究室他
科目担当者	大城亜水、伴仲謙欣								

関連ときわコンピテンシー	常識力、省察力、実行力、協調性・協働力、責任感
授業の概要	１人ひとりが地域社会の一員として、どのように生活し、さまざまな課題にどう向き合い、協力し合ってどう解決し、より暮らしやすく活力のある地域づくりに取り組めるかについて考えます。具体的には、本学が取り組んでいるさまざまな地域活動（地域交流活動、ボランティア活動）に実際に参加し、その体験をリフレクトすることにより、地域社会の一員としてのあり方を自問自答し、そのことを通して市民性を身につけることを目指します。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第１回	オリエンテーション・ガイダンス	
第２回	地域活動の要点	【復習】実際の活動に支障をきたさないように、地域活動の要点をまとめておく。
第３回	地域活動 ＊事前指導（フィールドワークを行うにあたっての心構え） ＊フィールドワーク（実施：各自２〜３回程度） ＊事後指導（事前指導・活動内容・事後指導を集約し、地域活動のポートフォリオを作成。）	【復習】事前指導の要点をまとめておく。 【活動後】その日のうちに活動を通した学びを整理し、リフレクトしておく。
第４回		
第５回		
第６回		
第７回		
第８回		
第９回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回	地域活動内容の発表	【復習】凝縮ポートフォリオの作成が円滑に進むように整理・まとめをする。
第15回	まとめ	

学修の到達目標
本科目は以下の 2 点を到達目標とします。 ①「大人」として客観的な判断力を身につけ精神的に成熟する。 ②社会の成員としての権利と義務を行使することができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①社員の一員として知っておくべき知識・振る舞いを身につけている。 （常識力）	秀	他者をempowerできる知識･振る舞いを身につけている。
	優	他者との関わりに謙虚さがみられる。
	良	知識･振る舞いを身につけているが、他者への配慮が十分でない。
	可	必要最低限の知識･振る舞いを身につけている。
	不可	必要最低限の知識･振る舞いを身につけていない。
②自己の思考や行動をリフレクト（省察）することができる。 （省察力）	秀	自己の課題が具体的に明示され、なおかつ実効性を伴った次への行動指針がみられる。
	優	自己の課題と次への行動指針がみられる。
	良	自己の課題はみられるが、次への行動指針が具体的かつ明瞭ではない。
	可	自己の課題はみられるが、抽象レベルに留まっている。
	不可	自己の課題と次への行動指針が明確にされていない。
③失敗を恐れず、想いや考えを具体的行動にすることができる。 （実行力）	秀	失敗を恐れず、熟慮の末に具体的行動にすることができ、他者からもそのように評価されている。
	優	失敗を恐れず、熟慮の末に想いや考えを具体的行動にすることができる。
	良	失敗を恐れず、想いや考えを具体的行動にすることができる。
	可	失敗を恐れる部分は残っているが、想いや考えを具体的行動にしようとしている。
	不可	失敗を恐れて、想いや考えを具体的行動にすることができない。
④他者と1つの課題について協力して取り組むことができる。 （協調性・協働力）	秀	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行するのみならず、他者と建設的に議論を行うことができ、グループのために有益な意見を出すことができ、他者から評価されている。
	優	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行するのみならず、他者と建設的に議論を行うことができ、グループのために有益な意見を出すことができる。
	良	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行するのみならず、他者と建設的に議論を行うことができる。
	可	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行することができる。
	不可	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行することすらできていない。
⑤社会の一員としての責任をもって物事に臨むことができる。 （責任感）	秀	自らの行動のすべてに対して責任を負う腹積もりで物事に臨んでおり、他者からもそのように評価されている。
	優	自らの行動のすべてに対して責任を負う腹積もりで物事に臨んでいる。
	良	報告･連絡･相談を能動的に行うことができる。
	可	言われれば、報告･連絡･相談ができる。
	不可	報告･連絡･相談ができない、あるいは責任感が全くない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	0	25	0	0	35	100
評価項目	①常識力	0	0	0	0	0	10	10
	②省察力	35	0	20	0	0	0	55
	③実行力	0	0	0	0	0	15	15
	④協調性・協働力	0	0	0	0	0	5	5
	⑤責任感	5	0	5	0	0	5	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①		各活動で作成したポートフォリオをもとに凝縮ポートフォリオを作成し、それを最終レポートという形で提出されたものを評価対象とする。
	②	✓	
	③		
	④		
	⑤	✓	
成果発表（口頭・実技）	①		地域活動の発表内容を評価対象とする。
	②	✓	
	③		
	④		
	⑤	✓	
その他	①		各活動に取り組む姿勢・態度
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
学修効果の観点から、履修上限人数は 60（各学科 15）人程度とします。希望者が多い場合は抽選の可能性もあります。
教科書・参考書
教科書：使用しません。 参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
災害とまちづくり （Ｆ１３０２０） 災害に強い街づくりをシミュレーション	講義	1	15	1〜2	後期	選択	—	足立了平 複数担当	5 号館 3 階 研究室他
科目担当者	足立了平、金千秋、宮田英和 *、長谷部治								

関連ときわコンピテンシー	探究力、継続力、貢献力、プレゼンテーション力
授業の概要	私たちは、地震や豪雨などの自然現象を止めることはできないが、それらによる被害（災害の規模）を少なくすることはできる。減災という考え方である。 減災には防災が不可欠であり、その取り組みは地域やその住民の多様性を理解することから始まる。「ひとにやさしいまちづくり」は、災害時にはどのような意味があるのだろうか。災害を“ 知る・理解する・考える ”ことを通し、その意味について学びを進める。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第 1 回	災害を知る①【災害とは】（担当者：足立）	【予習】過去の災害を調べる 【復習】本日の授業の整理
第 2 回	災害を知る②【災害と地域コミュニティ】（担当者：金、足立）	【予習】災害とコミュニティについて調べる 【復習】本日の授業の整理
第 3 回	災害を知る③【災害とメディア】（担当者：宮田、足立）	【予習】災害と情報について調べる 【復習】本日の授業の整理
第 4 回	災害を理解する①【阪神・淡路大震災の経験を聞く・まとめる】（担当者：足立）	【予習】阪神・淡路大震災を経験した人へインタビュー、発表 【復習】本日の授業の整理
第 5 回	災害を理解する②【災害時要援護者】（担当者：足立）	【予習】災害時要援護者について調べる 【復習】本日の授業の整理
第 6 回	災害を理解する③【街づくりに関わる人からの提言】（担当者：長谷部、足立）	【予習】自助・共助・公助について調べる 【復習】本日の授業の整理
第 7 回	減災を考える①【災害に強いまちづくりについて考える】（担当者：足立、ゲストスピーカー）	【予習】災害に強いまちづくりには何が必要か考える 【復習】本日の授業を整理
第 8 回	減災を考える②【災害に強いまちづくりについて発表する】（担当者：足立）	【予習】発表の準備 【復習】本日の授業の整理

学修の到達目標
災害および減災について学修したことを街づくりや自分の環境改善に活かすことができる力を養う。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①災害を知ることができる。（探究力）	秀	災害を説明することができ、災害の種類によってどのような 被害が発生するか想像することができ、過去の災害からその事例をあげること ができる。
	優	災害を説明することができ、災害の種類によってどのような 被害が発生するか想像することができる。
	良	災害を説明することができ、その被害について知っている。
	可	災害を説明することができる。
	不可	災害を説明できない。
②防災・減殺を理解することができる。（継続力）	秀	防災･減殺の意味を理解し、説明でき、実践し、かつ啓発することができる。
	優	防災･減殺の意味を理解し、説明でき、実践することができる。
	良	防災･減殺の意味を理解し、説明でき、実践することができる。
	可	防災･減殺の意味を理解している。
	不可	防災･減殺の意味を理解できない。
③災害に強いまちづくりを考えることができる。（貢献力）	秀	災害に強いまちづくりを考え、プランを立て、その取り組みを具体的に提案(説明)でき、将来に向けて実行しようと考えている。
	優	災害に強いまちづくりを考え、プランを立て、その取り組みを具体的に提案(説明)できる。
	良	災害に強いまちづくりを考え、プランを立てることができる。
	可	災害に強いまちづくりを考えることができる
	不可	災害に強いまちづくりを考えることができない

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭･実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	20	40	0	0	0	100
評価項目	①災害を知ることができる	10	5	10	0	0	0	25
	②減殺を理解することができる	10	5	10	0	0	0	25
	③災害に強いまちづくりを考えることができる	10	5	10	0	0	0	25
	④プレゼンテーション能力	10	5	10	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	筆記試験
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
提出物	①	✓	課題レポート、各回で、テーマに沿ったレポートを課す
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
成果発表 （口頭･実技）	①	✓	予習に関する発表 震災経験のインタビュー課題の発表 グループワークでの発言 グループワークでの発表
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
災害・防災を自分事として“自ら”「知る・理解する・考える」という態度
教科書・参考書
教科書：『「被災者のニーズ」と「居住の権利」』 市川英恵 著　クリエイツかもがわ 参考書：『繋ぐ　被災歯科保健医療対応への執念』佐藤保、足立了平 著　クインテッセンス 『巨大災害と医療・社会保守王を考える』兵庫県保険医協会 編　クリエイツかもがわ 『地震は貧困に襲いかかる』いのうえせつこ 著　花伝社 『震災復興の政治経済学』齋藤誠 著　日本評論社

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
コミュニティデザイン （Ｆ１３０３０） 人と人の繋がりをデザインし、地域の課題を解決する	講義	1	15	1〜2	後期	選択	—	中田康夫 複数担当	7号館4階研究室他
科目担当者	中田康夫、髙松邦彦、室崎友輔、天野稔也、西修								

関連ときわコンピテンシー	情報力、論理的思考力、批判的思考力、探究力、デザイン力、表現力
授業の概要	“シャッター通り”化した商店街、少子高齢化の影響などで活力を失いつつある地域組織、隣人とも挨拶をしないマンションコミュニティ、現代の地域は、これまでになかった多くの課題を抱えている。そんな今、人と人との繋がりをデザインし、地域の課題を解決していける人材が求められている。本授業では、具体的な事例からコミュニティデザインの基本を学ぶとともに、課題を通してデザインシンキングの方法を学修する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション コミュニティデザインとは？（担当：室崎、中田、髙松）	【予習】シラバスの確認
第2回	コミュニティデザインの基本 社会的課題とデザインシンキング（担当：室崎）	【復習】感想文の作成・提出
第3回	コミュニティデザインの事例 〜デザイン都市・神戸①〜（担当：天野、中田、髙松）	【復習】感想文の作成・提出
第4回	コミュニティデザインの事例 〜デザイン都市・神戸②〜（担当：西、中田、髙松）	【復習】感想文の作成・提出
第5回	コミュニティデザインの実践1 フィールドワークとリサーチについて（担当：室崎、中田、髙松）	【復習】フィールドワークシート・リサーチシートの作成
第6回	コミュニティデザインの実践2 グループワーク・中間発表（担当：室崎、中田、髙松）	【復習】アイデアシートの作成
第7回	コミュニティデザインの実践3 グループワーク（担当：室崎、中田、髙松）	【復習】プレゼンの準備
第8回	コミュニティデザインの実践3 成果発表・レポート課題発表（担当：室崎、中田、髙松）	【予習】プレゼンの準備・確認 【復習】レポートの作成・提出

学修の到達目標
履修者は、具体的な事例を通してコミュニティデザインの基本（現代における地域の課題、課題の解決方法、地域の関わり方など）となる知識を修得する。また課題を通じて、デザインシンキングやワークショップの手法を実践的に修得する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①必要な情報を収集・整理・分析し、活用することができる。（情報力）	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②リサーチに基づき、論理的に考えることができる。 （論理的思考力）	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっている。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
③物事を多角的・批判的に捉え、考えることができる。 （批判的思考力）	秀	物事を十分に多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分に多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
④物事のあり方について深く考え、その本質を見極めようとすることができる。 （探究力）	秀	自発的に物事に専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。そしてさらなる探究心が生じ、それを実行に移していくことができる。
	優	自発的に物事に専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。
	良	ある程度自発的に物事を突き詰めていくことができる。
	可	他者から促されれば、物事をある程度突き詰めていくことができる。
	不可	物事を自ら突き詰めていくことができない。
⑤様々な考えや知識を統合して課題の解決策をデザインすることができる。 （デザイン力）	秀	自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができ、十分高いレベルの解決策をデザインすることができる。さらにその解決策を発信することで他者と共有し、より高めることができる。
	優	自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができ、十分高いレベルの解決策をデザインすることができる。
	良	ある程度自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができる。
	可	他者から促されることで、様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができる。
	不可	他者から促されることで、様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができない。
⑥想いや考えを表現し、他者に伝えることができる。 （表現力）	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のすべてにおいて十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	30	30	0	0	0	100
評価項目	①情報力	5	5	5	0	0	0	15
	②論理的思考力	5	5	5	0	0	0	15
	③批判的思考力	5	5	5	0	0	0	15
	④探究力	10	5	5	0	0	0	20
	⑤デザイン力	10	5	5	0	0	0	20
	⑥表現力	5	5	5	0	0	0	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	定期試験はレポート試験とする。 課題に対するリサーチ結果と課題解決方法および授業全体の振り返りをレポートとしてまとめる。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
	⑥	✓	
提出物	①	✓	事例紹介（３回）の感想文を課す。話を聞いて感じたこと、気づいたことを記載する。 グループワークの進行に合わせて、フィールドワークシート・リサーチシート・アイデアシートの作成を課す。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
	⑥	✓	
成果発表（口頭・実技）	①	✓	ワークショップを通じて考えた内容をプレゼンする機会を設ける。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
	⑥	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
ワークショップでは、お互いの意見を尊重し合い、協力しあう姿勢をもって望むこと。
教科書・参考書
教科書：使用しません 参考書：随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
ライフデザイン（Ｆ１３０４０） デザインシンキングで子ども向けの社会教育プログラムを企画し、実践する。	演習	1	30	1〜2	後期	選択	—	室崎友輔 単独担当	7号館2階非常勤講師控室
科目担当者	室崎友輔								

関連ときわコンピテンシー	情報力、論理的思考力、知欲、探究力、デザイン力、表現力
授業の概要	人口減少、高齢化、地方の過疎化など、日本は今まさに様々な課題に直面しています。私たちの社会を取り巻く複雑化した課題を解決する手法として、デザインシンキングによる創造的な解決方法を産み出す力が求められています。本授業では演習（グループワーク）を通じて、デザイン思考による課題の解決方法を産み出す手法を実践的に学びます。授業で考えた社会教育プログラムをイベントで実施することを最終目標とします。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション 課題発表、防災ゲーム体験	【予習】シラバスの確認 【復習】課題に対するリサーチ
第2回	デザインシンキングとは？ リサーチ方法、事例紹介、防災ゲーム体験	【復習】課題に対するリサーチ
第3回	課外授業 防災体験ミュージアムの視察	【復習】感想文の作成・提出
第4回	＜STEP 1＞テーマ決定 防災ゲーム体験、グループ分け	【復習】グループの進捗に合わせたリサーチ
第5回	＜STEP 2＞リサーチ・企画 グループワーク	【復習】グループの進捗に合わせたリサーチ
第6回	＜STEP 2＞リサーチ・企画 グループワーク、グループ発表	【復習】グループの進捗に合わせたリサーチ
第7回	＜STEP 3＞プロトタイピング グループワーク	【復習】グループの進捗に合わせた準備・制作
第8回	＜STEP 3＞プロトタイピング グループワーク、グループ発表	【復習】グループの進捗に合わせた準備・制作
第9回	＜STEP 4＞ブラッシュアップ グループワーク、グループ発表	【復習】グループの進捗に合わせた準備・制作
第10回	＜STEP 5＞アウトプット グループワーク	【復習】グループの進捗に合わせた準備・制作
第11回	＜STEP 5＞アウトプット グループワーク	【復習】グループの進捗に合わせた準備・制作
第12回	＜STEP 5＞アウトプット グループワーク、最終発表	【予習】最終発表の準備 【復習】イベントの準備
第13回 第14回 第15回	下記イベントでプログラムを実施（神戸常盤大学としてブース出展） 「イザ！美かえる大キャラバン！」 日時：1月27日（日）13時〜16時　*活動時間は10時〜16時 場所：JICA関西 / 人と防災未来センター	【予習】イベントの準備・確認 【復習】レポートの作成・提出

学修の到達目標
履修者は、実践的な演習（グループワーク）を通じて、デザインシンキング（リサーチ・課題抽出・アイデア創出・プロトタイピング・検証）を理解し、身につけることができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①必要な情報を収集・整理・分析し、活用することができる。（情報力）	秀	自発的に情報を収集･整理･分析･活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集･整理･分析･活用でき、その結果を他社と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集･整理･分析･活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集･整理･分析できる。
	不可	情報を収集･整理･分析できない。
②リサーチに基づき、論理的に考えることができる。（論理的思考力）	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界も分かっている。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
③学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができる。（知欲）	秀	自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。さらに新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと･知ることができ、他者から指摘されて愉しさと悦びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと･知ることに、愉しさと悦びを覚えることができない。
④物事のあり方について深く考え、その本質を見極めようとすることができる。（探究力）	秀	自発的に物事に専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。そしてさらなる探究心が生じ、それを実行に移していくことができる。
	優	自発的に物事に専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。
	良	ある程度自発的に物事を突き詰めていくことができる。
	可	他者から促されれば、物事をある提訴突き詰めていくことができる。
	不可	物事を自ら突き詰めていくことができない。
⑤様々な考えや知識を統合して課題の解決策をデザインすることができる。（デザイン力）	秀	自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができ、十分高いレベルの解決策をデザインすることができる。さらにその解決策を発信することで他者と共有し、より高めることができる。
	優	自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができ、十分高いレベルの解決策をデザインすることができる。
	良	ある程度自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができる。
	可	他者から促されることで、様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができる。
	不可	課題解決策をデザインすることができない。
⑥想いや考えを表現し、他者に伝えることができる。（表現力）	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のすべてにおいて十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		20	10	30	20	0	20	100
評価項目	①情報力	5	5	5	0	0	0	15
	②論理的思考力	5	0	5	0	0	0	10
	③知欲	0	0	5	5	0	5	15
	④探究力	0	0	5	5	0	5	15
	⑤デザイン力	5	0	5	10	0	0	20
	⑥表現力	5	5	5	0	0	10	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	授業の最後にレポートを課す。 イベントでプログラムを実施して感じたことや授業全体の振り返りをレポートとしてまとめる。
	②	✓	
	③		
	④		
	⑤	✓	
	⑥	✓	
提出物	①	✓	課外授業後、感想文を課す。 施設を見学して感じたこと、気づいたことなどを記述する。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥	✓	
成果発表（口頭・実技）	①	✓	グループでプレゼンテーションを行う機会を数回設ける。 また、毎グループワーク後にはグループ毎に簡単な進捗発表を行う。 最終回はイベントで成果発表（プログラムの実施）を行う。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
	⑥	✓	
作品	①		グループワークを通じて、プログラムを企画・制作する。 プログラムを企画・制作する過程も含めて評価する。
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
	⑥		
その他	①		イベントでプログラム実施を行う。 プログラム実施時の態度、対応能力などを評価する。
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
	⑥	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
最終回（第 13 ～ 15 回｜ 1 月 27 日（日））は、やむを得ない理由がない限り、全員出席すること。 グループワークでは、お互いの意見を尊重し合い、協力しあう姿勢をもって望むこと。
教科書・参考書
教科書：使用しません 参考書：随時紹介します

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
英語Ｂ（Presentation） （Ｆ１２１００） 基礎から学ぶ英語のプレゼンテーション	演習	1	30	2	前期	選択	—	山﨑麻由美 単独担当	4 号館 3 階 研究室
科目担当者	山﨑麻由美								

関連ときわコンピテンシー	表現力、論理的思考力、知欲、協調性・協働力
授業の概要	英語でのプレゼンテーションの構造や技法を基本から学び、習得することを目指す。仕事や研究等でプレゼンをする時に必要な技法やマナーを身につける。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第１回	Step 1 Thinking Critically, Working Together!	【予習】シラバスを読む 【復習】本日のまとめ
第２回	Step 2 Learning How You Learn	【予習】“Homework for the Next Step!” を仕上げる 【復習】本日のまとめ
第３回	Step 3 Finding a Research Topic	【予習】“Homework for the Next Step!” を仕上げる 【復習】本日のまとめ
第４回	Step 4 Finding the Best Keywords	【予習】“Homework for the Next Step!” を仕上げる 【復習】本日のまとめ
第５回	Step 5 Evaluating Your Materials	【予習】“Homework for the Next Step!” を仕上げる 【復習】本日のまとめ
第６回	Step 6 Extracting the Necessary Information	【予習】“Homework for the Next Step!” を仕上げる 【復習】本日のまとめ
第７回	Step 7 Describing Your Data	【予習】“Homework for the Next Step!” を仕上げる 【復習】本日のまとめ
第８回	Step 8 Structuring Your Presentation	【予習】“Homework for the Next Step!” を仕上げる 【復習】本日のまとめ
第９回	Step 9 Arranging and Effectively Presenting Your Messages	【予習】“Homework for the Next Step!” を仕上げる 【復習】本日のまとめ
第10回	Step 10 Preparing Your Presentation Draft	【予習】“Homework for the Next Step!” を仕上げる 【復習】本日のまとめ
第11回	Step 11 Giving Your Report Presentation	【予習】“Homework for the Next Step!” を仕上げる 【復習】本日のまとめ
第12回	Step 12 Clarifying Problems and Discussing Your Proposal	【予習】“Homework for the Next Step!” を仕上げる 【復習】本日のまとめ
第13回	Step 13 Proposing Feasible Countermeasures	【予習】“Homework for the Next Step!” を仕上げる 【復習】本日のまとめ
第14回	Step 14 Preparing Your Final Presentation	【予習】“Homework for the Next Step!” を仕上げる 【復習】本日のまとめ
第15回	Step 15 Giving Your Proposal Presentation	【予習】プレゼン準備 【復習】本日のまとめ

学修の到達目標
1．プレゼンの基本構造を知る。 2．プレゼンの基本的な技法を身につける。 3．プレゼンを行う時、聞く時のマナーを身につける

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①英語の的確な表現力（表現力）	秀	様々な英文構造を理解し的確に使うことができる。正確に発音できる。
	優	様々な英文構造を理解しほぼ的確に使うことができる。発音もほぼ正確である。
	良	様々な英文構造を理解しているが、時々不適切な表現を使う。発音も時々不正確である。
	可	適切な英文の構造をある程度理解している。発音はしばしば不正確である。
	不可	適切な英文の構造を理解できず、発音も不正確である。
②プレゼンテーションの構成力（論理的思考力）	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的にプレゼンを構成することができる。
	優	客観的な根拠に基づき概ね論理的にプレゼンを構成するができる。
	良	概ね論理的にプレゼンを構成するが、時々客観的根拠を提示できない場合がある。
	可	根拠は薄いが、ある程度論理的にプレゼンを構成することができる。
	不可	英語のプレゼンの構成に関して、根拠に基づき論理的に考えることができない。
③国際社会での多様な文化・習慣への理解力（知欲）	秀	文化・習慣の多様性や国際問題について深い理解力と洞察力を持っている。
	優	文化・習慣の多様性や国際問題について、分析し評価することができる。
	良	文化・習慣の多様性や様々な国際問題を認識している。
	可	文化・習慣の多様性や国際問題があることに気づいている。
	不可	文化・習慣の多様性や国際問題について、全く理解しない。
④他者と協力して課題に取り組む力（協調性・協働力）	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となり、その実績が社会に還元される場合もある。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働することができる。
	可	協調・協働への興味は薄いが、他者に促されれば、周囲のモチベーションを下げることなく、協調・協働的に作業することはできる。
	不可	協調・協働する意志がなく、周囲のモチベーションを下げてしまう。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		30	20	30	0	0	20	100
評価項目	①英語の的確な表現力	15	5	10	0	0	5	35
	②プレゼンテーションの構成力	10	5	15	0	0	5	35
	③多様な文化・習慣への理解力	5	0	5	0	0	5	15
	④他者と協力して課題に取り組む力	0	10	0	0	0	5	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	定期試験では授業内容が修得できているかどうかを測る。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
提出物	①	✓	授業中のレポートや宿題課題の提出を個人、またはグループ（ペア）で提出する。
	②	✓	
	③		
	④	✓	
成果発表（口頭･実技）	①	✓	英語でのプレゼンテーションを行う。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
その他	①	✓	授業に対する積極性、与えられた課題に対する取り組み、テキスト内容に対する理解などを授業中に評価する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
積極的に課題に取り組むこと。
教科書・参考書
教科書：『アクティブ・ラーニングで学ぶプレゼンテーション』 森田彰　他著　金星堂 参考書：随時紹介する

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
英語C（Cultural Studies） （F12110） 時事から学ぶ異文化	演習	1	30	2	後期	選択	—	小西千鶴 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	小西千鶴								

関連ときわコンピテンシー	表現力、実行力、批判的思考力、知欲
授業の概要	主にアメリカでの関心事や社会問題をテーマに取り上げる。新聞記事や関連資料から事例や人々の反応を読み解き視覚教材も用いて理解を深める。そこから日本の常識が必ずしも世界の常識ではないことを学び、テーマに対する各自の意見や考えを率直に述べることができるようにする。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	Beauty Is in the Mind of the Beholder 花より団子	【予習】テーマの理解 【復習】語彙
第2回	Street people　ホームレスとチャリティ	【予習】テーマの理解 【復習】語彙
第3回	Attached to Crime　銃犯罪	【予習】テーマの理解 【復習】語彙
第4回	Family Business　家族ビジネス	【予習】テーマの理解 【復習】語彙
第5回	Genetically Modified Food　遺伝子組み換え食品	【予習】テーマの理解 【復習】語彙
第6回	The Environment　環境問題	【予習】テーマの理解 【復習】語彙
第7回	Economic Might VS　Ecologic Right 経済の権力 対 生態の権利	【予習】テーマの理解 【復習】語彙
第8回	Do the Right Thing!　正義とは	【予習】テーマの理解 【復習】語彙
第9回	When Does Life Begin?　命の始まりはいつ？	【予習】テーマの理解 【復習】語彙
第10回	Healthcare System I　アメリカ健康保険事情 ①	【予習】テーマの理解 【復習】語彙
第11回	Healthcare System II　アメリカ健康保険事情 ②	【予習】テーマの理解 【復習】語彙
第12回	Digital Youth: The Connected Generation　ネット世代の若者考察	【予習】テーマの理解 【復習】語彙
第13回	Advertisements Are Never Innocent　広告のわな	【予習】テーマの理解 【復習】語彙
第14回	Student Power: The New Youth Movement　18歳選挙権の意義	【予習】テーマの理解 【復習】語彙
第15回	Review for Final Exam　総復習	【予習】テーマの理解 【復習】語彙

学修の到達目標

1．異なる習慣やシステムを理解することで見聞を広める。
2．時事問題を多面的に捉え批判的に考えることができる。
3．テーマごとに用いられる英語の頻出用語が使える。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①自分の考えを形成し他者に伝えることができる。（表現力）	秀	自分の意見を論理的に組み立て、一貫性をもって英語で他者に伝えることができる。
	優	自分の意見を論理的にまとめて適切な英語で他者に伝える能力を持っている。
	良	自分の意見を導き出し適切な英語を使って他者に伝えることができる。
	可	自分の意見を簡単な英語もしくは日本語で伝えることができる。
	不可	自分の意見を形成することができない。
②失敗を恐れず自分の考えを英語で伝えることができる。（実行力）	秀	すでに持っている知識に授業で学ぶ知識を加えて英語で論理的に話すことができる。
	優	すでに持っている知識に授業で学ぶ知識を加えて流暢な英語で話すことができる。
	良	すでに持っている知識に授業で学ぶ知識を加えて適切な英語で話すことができる。
	可	すでに持っている知識に授業で学ぶ知識を加えて簡単な英語で話すことができる。
	不可	与えられた場面において何をしていいのかわからない。
③物事を多角的・批判的に捉え、考えることができる。（批判的思考力）	秀	物事を多面的に捉え考察することができて肯定面および否定面の両方を導き出すことができる。
	優	物事を多面的に捉え考察しその内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事を多面的に捉え考察することができる。
	可	物事を適切に捉え考察することができる。
	不可	物事を批判的に考えることができない。
④学ぶことの愉しさを覚える。（知欲）	秀	授業で取り上げるテーマを探求し自発的に発表することができる。
	優	授業で取り上げるテーマを自発的に調べ他者と共有することができる。
	良	授業で取り上げるテーマを他者とともに探求することができる。
	可	授業で取り上げるテーマにおいて自発的に学習する。
	不可	授業で取り上げるテーマにおいて自分の意見を肯定的にも否定的にも持たない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	30	20	0	0	0	100
評価項目	①表現力	30	10	10	0	0	0	50
	②実行力	0	10	10	0	0	0	20
	③批判的思考力	10	10	0	0	0	0	20
	④知欲	10	0	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	筆記試験を行う。 定期試験では、授業で取り上げたテーマにおける読解と新たに習得した英単語の意味の理解が求められる。
	②		
	③	✓	
	④	✓	
提出物	①	✓	毎月一回授業で筆記もしくは口頭による小テスト（リスニングを含む）を行う。 小テストでは、英単語のスペルや意味において正確な理解が求められる。 リスニングにおいては、全体的な要点の把握が求められる。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
成果発表 （口頭･実技）	①	✓	授業中にグループもしくはペアワークで対話する機会を設ける。 対話では、一人の意見に迎合するのではなく、自らの考えを率直に述べる積極的な態度が求められる。必要に応じてプレゼンテーションを行う。
	②	✓	
	③		
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など
テーマに応じて自身の体験あるいは予備知識の共有など、積極的に取り組むこと。
教科書・参考書
教科書：プリントを随時配布する。 参考書：随時紹介する。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
地域との協働Ｂ （Ｆ１３０１０） 地域に飛びだし、学ぼう！	演習	1	30	2	通年	選択	—	澁谷雪子 複数担当	2号館3階 研究室他
科目担当者	澁谷雪子、國崎大恩								

関連ときわコンピテンシー	常識力、表現力、責任感、貢献力、傾聴力・対話力、協調性・協働力
授業の概要	学生が主体となり、小豆島やその他の地域活性化のために、地域の方々と協力して活動を行う。その活動を通し学生同士で助け合い､支えあうチームビルディングの力を育成する。また地域の方々と協力し、一定の目的に向けて何かを成し遂げる社会性と実践力を養う。

授業回	担当	授業時間外の学習
第１回	オリエンテーション この授業の概要、進め方について説明する。 （担当者：澁谷・國崎）	【予習】集団生活に必要なことについて考える。 【復習】意見をまとめ､考える資料にする。（まとめプリント）
第２回	グループワーク① グループで小豆島合宿の目標を話し合い､全体での目標を決定する。またその目標を達成ために必要な事項を話し合う。 （担当者：澁谷・國崎）	【予習】小豆島合宿での各自または団体の目標について考える。（予習プリント） 【復習】意見をまとめ､考える資料にする。（まとめプリント）
第３回	グループワーク② 小豆島合宿の日程、活動を把握し、それぞれの場面での注意事項、必要事項について話し合う。（担当者：澁谷・國崎）	【予習】集団生活、合宿における注意事項について考える。（予習プリント） 【復習】意見をまとめ､考える資料にする。（まとめプリント）
第４回	グループワーク③ 学年、学科を超えて共同生活をするために必要なことについて話し合い、協力しあうグループを作る方法を考える。 （担当者：澁谷・國崎）	【予習】協力しあうグループを作る方法を考える。（予習プリント） 【復習】意見をまとめ､考える資料にする。（まとめプリント）
第５回	計画 グループワーク①、②、③での意見をまとめ、合宿のしおりを作成する。また参加者募集に向けて計画をたてる。 （担当者：澁谷・國崎）	【予習】合宿で必要な事項を再度考える。（予習プリント） 【復習】合宿のしおり、参加者募集資料を作成する。
第６回	合宿① 日程、活動、役割の最終確認（担当者：澁谷・國崎）	【予習】各自で合宿に向けて最終確認をする。 【復習】変更事項等の確認
第７回	合宿② 実習に向けての準備（担当者：澁谷・國崎）	【予習】各自、実習に向けて必要な事項を考える。（予習プリント） 【復習】各自、最終確認をする。
第８回	合宿③ 施設での実習（病院、こどもセンター、保育園） （担当者：澁谷・國崎）	【予習】各施設、専門の職業について学んでおく。 【復習】実習記録を提出
第９回	合宿④ 施設での実習（病院、こどもセンター、保育園） （担当者：澁谷・國崎）	【予習】各施設、専門の職業について学んでおく。 【復習】実習記録を提出
第10回	合宿⑤ 施設での実習（病院、こどもセンター、保育園） （担当者：澁谷・國崎）	【予習】各施設、専門の職業について学んでおく。 【復習】実習記録を提出
第11回	合宿⑥ 施設での実習（病院、こどもセンター、保育園） （担当者：澁谷・國崎）	【予習】各施設、専門の職業について学んでおく。 【復習】実習記録を提出

授業回	担当	授業時間外の学習
第12回	合宿⑦ 地域貢献活動　（担当者：澁谷・國崎 ）	【予習】各自、地域貢献活動での役割について考える。 【復習】活動記録を提出
第13回	合宿⑧ 地域貢献活動　（担当者：澁谷・國崎 ）	【予習】各自、地域貢献活動での役割について考える。 【復習】活動記録を提出
第14回	振り返り、発表会準備 合宿の目標設定、その目標の到達度、活動報告についてまとめる。 （担当者：澁谷・國崎 ）	【予習】合宿の計画、活動報告をまとめる。 【復習】発表会資料を作成する。
第15回	発表会 活動報告も含め、この授業で学んだこと、その学びをどのように役立てていくかについて発表する。　（担当者：澁谷・國崎 ）	【予習】各自、発表会の準備をする。 【復習】質問事項などをまとめ、活動報告書を作成

学修の到達目標

履修者は地域の方々との関わり、共同生活において、協力して活動するために必要な事項を下記の評価項目も含めて、自ら考え、まとめ、周囲に伝えることにより、社会性について自発的に考える。また考えた事項を合宿で実践し、社会性を身につける。履修期間をとおして考え、身につけた事項をどのように各専門分野に役立てていくかを考える。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①想いや考えを表現し、他者に伝えることができる （表現力）	秀	自分の思い、考えをまとめ、他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現力のいずれにおいても十分な能力を持っている。また他者の立場を考えながら、伝えることができ、あらゆる人にとっても理解しやすい。
	優	自分の思い、考えをまとめ、他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現力のいずれにおいても十分な能力を持っている。
	良	自分の思い、考えをまとめ、他者に伝えることができる。
	可	自分の思い、考えをまとめ、他者に伝えることに向け努力している。
	不可	自分の思い、考えをまとめ、他者に伝えることができない。
②社会の一員としての責任をもって物事に臨むことができる （責任感）	秀	自分のすべきことを十分理解し、グループの目標を成し遂げるために努力を惜しまない。自らの行動、考えを反省、振り返ることでき、他者への見返りを求めない。
	優	自分のすべきことを十分理解し、グループの目標を成し遂げるために努力を惜しまない。
	良	自分のすべきことを認識し、物事に臨むことができる。
	可	他者の助言･指導のもと、自分のすべきことを認識し、物事に臨むことができる。
	不可	自分のすべきことが理解でない。
③誰かの役に立つことに悦びを感じ、具体的に行動することができる （貢献力）	秀	かなり自発的に周囲に貢献できる。あらゆる場面において周囲に貢献する姿勢ができている。
	優	かなり自発的に周囲に貢献できる。
	良	自発的に周囲に貢献できる。
	可	他者の助言･指導のもと、周囲に貢献できる。
	不可	周囲に貢献できない。
④他者の声に耳を傾け、創造的な対話をすることができる （傾聴力・対話力）	秀	他者の立場に身を置いてその人の価値観を十分理解した上で、自分の考えも他者の立場を考えながら、伝えることができる。
	優	他者の立場に身を置いてその人の価値観を理解することができ、自分の考えも伝えることができる。
	良	他者の意見を聴くことができ、自分の考えを伝えることができる。
	可	他者と会話のキャッチボールはできる。
	不可	他者と会話のキャッチボールはできない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
⑤自他の利害をこえて、協力して物事に取り組むことができる（協調性・協働力）	秀	自発的に周囲と協調･協働することができる。その際に自ら周囲の様子を察知し、グループの目標を成し遂げるために取り組むことができる。
	優	自発的に周囲と協調･協働し、グループの目標を成し遂げるために取り組むことができる。
	良	自発的に周囲と協調･協働することができる。
	可	他者の助言･指導のもと、周囲と協調･協働することができる。
	不可	周囲と協調･協働することができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭･実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	50	20	0	0	30	100
評価項目	①伝える力	0	20	10	0	0	4	34
	②社会の一員としての責任感	0	20	0	0	0	5	25
	③自発的な貢献	0	0	0	0	0	7	7
	④他者との対話	0	0	0	0	0	7	7
	⑤自発的な周囲との協調・協働	0	10	10	0	0	7	27

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
提出物	①	✓	予習プリント、復習プリント（まとめプリント）を授業前後で提出する。 合宿においては、実習記録、活動報告を作成し提出する。 これらの提出物は、グループワークを行う上での予習、復習となるため、自発的な発言、協力しようとする気持ち、責任感が求められる。
	②	✓	
	③		
	④		
	⑤	✓	
成果発表（口頭･実技）	①	✓	グループワークでは、グループでの意見を発表する。 第 15 回の発表会では、第 1 ～ 14 回までの成果発表を行う。 発表資料作成、発表を行うには、自発的な発言、協力しようとする気持ち、伝える力が求められる。
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	
その他	①	✓	グループワークにおいて、社会の一員として活動するために必要な事項を考える。その考えをまとめ、合宿において実践する。 地域の方々との関わり、共同生活では、社会の一員としての振る舞い、責任感、自発的な貢献、協調・協働、伝える力、対話力が求められる。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
地域の方々、先輩、同級生、教職員との関わりから、何かを学ぼうとする姿勢を持って履修すること。
教科書・参考書
教科書：定めず、必要時は資料配布 参考書：定めず、必要時は資料配布

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
看護解剖生理学Ⅰ （Ｎ１２０００） からだの構造と機能	講義	1	30	1	前期	必修	看国試必修 養教免必修	澤田浩秀 単独担当	7号館2階 研究室
科目担当者	澤田浩秀								

関連ときわコンピテンシー	情報力、論理的思考力、知欲
授業の概要	看護解剖生理学は、からだの正常な構造と機能について看護職を目指す人々が習得する科目である。疾患について理解するための基礎的教科であるとともに、息をする、食べる、動く、トイレに行くといった日常生活行動そのもののしくみについて理解するための学問でもある。健康な状態のからだの動きについてサイエンスとしての見方から見ることによって、疾患自身に関する科学的理解ができるとともに、どんな援助をしたら日常生活をよりうまくこなすことができるか、看護という立場から具体的に考えることが可能である。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	看護解剖生理学の概要：生体の系統と機能、生体の恒常性 体液：体液組成、水の出納、電解質組成	【予習】教科書ｐ２～ｐ８、p104～p106 【復習】授業内容
第2回	血液：血液の組成と機能、血液の産生、赤血球の機能	【予習】教科書 p109～p112 【復習】授業内容
第3回	血液：白血球の機能、血小板と止血機構、血液型	【予習】教科書 p112～p117 【復習】授業内容
第4回	体温調節：体温の変動、熱産生および熱放出、体温調節	【予習】教科書 p172～p177 【復習】授業内容
第5回	循環：循環器系の構成と役割、心臓の刺激伝導系および拍出機能	【予習】教科書 p134～p141 【復習】授業内容
第6回	循環：血圧、血管とその機能、循環機能の調節	【予習】教科書 p141～p150 【復習】授業内容
第7回	呼吸：呼吸器系の構成と役割、換気機能	【予習】教科書 p154～p162 【復習】授業内容
第8回	呼吸：ガス交換およびガスの運搬、呼吸調節	【予習】教科書 p162～p166 【復習】授業内容
第9回	消化と吸収：咀嚼および嚥下、消化管運動、消化液の分泌	【予習】教科書 p180～p194 【復習】授業内容
第10回	消化と吸収：栄養素の吸収、消化の調節、排便	【予習】教科書 p194～p204 【復習】授業内容
第11回	尿の生成と排出：腎臓における糸球体と尿細管のはたらき	【予習】教科書 p304～p311 【復習】授業内容
第12回	尿の生成と排出：排尿、体液の調節、酸塩基平衡	【予習】教科書 p106～p109、p312～p314 【復習】授業内容
第13回	内分泌：ホルモンの種類と作用機序、視床下部および下垂体ホルモン	【予習】教科書 p276～p284 【復習】授業内容
第14回	内分泌：甲状腺、副腎、および膵臓ホルモン、性腺ホルモン	【予習】教科書 p284～p299 【復習】授業内容
第15回	まとめ、追記事項	

学修の到達目標
（1）本教科は生活行動や臨床各教科を学ぶための基礎となる教科であり、そのための基礎知識を習得する。 （2）循環、呼吸、消化などの生理現象について、各臓器の解剖をよく理解した上で、これらの現象を科学的に説明ができること。 （3）解剖生理学に関する重要な用語について、類似用語との相違点を充分把握した上で理解できること。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①生命の正常な機能に関する情報を収集・整理・分析し、活用することができる（情報力）	秀	自発的に体液、体温、循環、呼吸、消化、尿生成、内分泌などの生命の正常な機能に関する情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に体液、体温、循環、呼吸、消化、尿生成、内分泌などの生命の正常な機能に関する情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に体液、体温、循環、呼吸、消化、尿生成、内分泌などの生命の正常な機能に関する情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば体液、体温、循環、呼吸、消化、尿生成、内分泌などの生命の正常な機能に関する情報を収集・整理・分析できる。
	不可	体液、体温、循環、呼吸、消化、尿生成、内分泌などの生命の正常な機能に関する情報を収集・整理・分析できない。
②生命の正常な機能について根拠に基づき、論理的に考えることができる（論理的思考力）	秀	客観的な根拠に基づき体液、体温、循環、呼吸、消化、尿生成、内分泌などの生命の正常な機能について十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき体液、体温、循環、呼吸、消化、尿生成、内分泌などの生命の正常な機能について十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき体液、体温、循環、呼吸、消化、尿生成、内分泌などの生命の正常な機能について論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度、体液、体温、循環、呼吸、消化、尿生成、内分泌などの生命の正常な機能について論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき体液、体液、体温、循環、呼吸、消化、尿生成、内分泌などの生命の正常な機能について論理的に考えることができない。
③生命の正常な機能について学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができる（知欲）	秀	体液、体温、循環、呼吸、消化、尿生成、内分泌などの生命の正常な機能について自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	体液、体温、循環、呼吸、消化、尿生成、内分泌などの生命の正常な機能について自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	体液、体温、循環、呼吸、消化、尿生成、内分泌などの生命の正常な機能についてある程度自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出すことができる。
	可	体液、体温、循環、呼吸、消化、尿生成、内分泌などの生命の正常な機能について、他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと悦びを見出すことができる。
	不可	体液、体温、循環、呼吸、消化、尿生成、内分泌などの生命の正常な機能について学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		90	0	0	0	0	10	100
評価項目	①情報力	45	0	0	0	0	0	45
	②論理的思考力	25	0	0	0	0	0	25
	③知欲	20	0	0	0	0	10	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	学期末の定期試験によって評価する。試験に合格するには、項目を単に暗記するのではなく、内容が理解できていることが必要となる。試験時の持ち込みは一切禁止する。
	②	✓	
	③	✓	
その他	①		平常点として、受講態度、積極性などを評価する。
	②		
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
（1）履修範囲が広く、また履修内容も多いため、講義ごとにその内容を充分に復習すること。 （2）教科書以外にもできるだけ参考書などを活用すること。 （3）内容を暗記するのではなく、理解する習慣をつけること。
教科書・参考書
教科書：『シンプル解剖生理学』 河田光博他　南江堂 参考書：『トートラ 人体解剖生理学（原書 10 版)』佐伯由香他　丸善 『カラーで学ぶ解剖生理学（第 2 版)』 Kevin T. Patton、Gary A. Thibodeau 著　メディカル・サイエンス・インターナショナル 『系統看護学講座　人体の構造と機能（Ⅰ）解剖生理学』坂井建雄　医学書院

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
看護解剖生理学Ⅱ （Ｎ１２０１１） ヒトはどうして生きているのか	講義	1	30	1	前期	必修	看国試必修 養教免必修	永田徹 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	永田徹＊								

関連ときわコンピテンシー	専門力、探求力
授業の概要	この授業の目的は、人体の基本構造と機能を知ることである。最初に人体の構成単位である「細胞」の構造について説明する。第2段階として、同種の細胞の集合である4つの基本的な「組織」について説明し、その後これらの組織によって構成される特定の目的を持った機能単位である「器官」また同一目的を持った器官の集合「器官系」について各論的に説明する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	人体、オリエンテーション：解剖学と生理学、生命とは、解剖学の用語 細胞とは何か、細胞の解剖学と生理学、4つの組織と器官、器官系	【予習】生命とは 【復習】解剖学の用語
第2回	栄養の消化と吸収：口、咽頭、食道の構造と機能	【予習】上部消化器の構造 【復習】上部消化器の機能
第3回	栄養の消化と吸収：腹部消化器の構造と機能	【予習】腹部消化器の構造 【復習】芙紀部消化器の機能
第4回	栄養の消化と吸収：膵臓、肝臓、胆嚢の構造と機能、腹膜	【予習】消化器の付属器官 【復習】消化器付属器官の機能
第5回	呼吸器：呼吸器系を構成する器官、呼吸の生理学	【予習】呼吸器の構造 【復習】呼吸器の機能、呼吸の生理学
第6回	血液の働き：血液の組成と機能	【予習】血液について 【復習】血液の機能
第7回	血液の働き：血球の種類とその働き、血漿と血漿タンパク質の働き	【予習】血球の種類、血漿について 【復習】血球の種類とその働き
第8回	血液の働き：血漿膠質浸透圧、血液凝固、血液型	【予習】血漿膠質浸透圧 【復習】血漿膠質浸透圧、血液型
第9回	循環器：循環器系の構造、心臓の構造、冠状循環	【予習】循環器系とは 【復習】心臓の構造、冠状循環
第10回	循環器：心臓の拍出機能と心臓周期、末梢循環器系の構造	【予習】心臓の拍出機能 【復習】心臓周期、末梢循環器系
第11回	循環器：血液循環の調節、血圧など、リンパ循環とその機能	【予習】血圧、リンパ循環 【復習】血液循環の調節機能
第12回	腎機能：腎臓、糸球体、尿細管、集合管の構造と機能、尿の生成	【予習】腎臓の構造 【復習】腎臓各部の機能
第13回	腎機能：体液の調節、酸塩基平衡、電解質の調節	【予習】体液の調節 【復習】酸塩基平衡機構
第14回	内分泌系：主な分泌腺と分泌されるホルモンの機能Ⅰ	【予習】主な内分泌腺とホルモン 【復習】ホルモンの機能
第15回	内分泌系：主な分泌腺と分泌されるホルモンの機能Ⅱ 自律神経系	【予習】主な内分泌腺とホルモン 【復習】ホルモンの機能、自律神経系

学修の到達目標
生体がどのようにして生命を維持しているのかを考える上で解剖生理学は重要な役割を果たしている。将来いろいろな疾病を学ぶ場合の基礎として、まず正常な生体の働きをしっかりと説明できるようにする。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①人体の構成要素を説明できる（専門力）	秀	細胞の構造、組織、器官、器官系について十分理解し説明できる。
	優	細胞の構造、組織、器官、器官系について理解し説明できる。
	良	細胞の構造、組織、器官、器官系について理解している。
	可	細胞の構造、組織、器官、器官系についてある程度理解している。
	不可	細胞の構造、組織、器官、器官系について理解できていない。
②栄養の消化と吸収（探求力）	秀	各部消化管の構造と機能について十分に理解し説明できる。
	優	各部消化管の構造と機能についてかなり理解し説明できる。
	良	各部消化管の構造と機能を理解している。
	可	各部消化管の構造と機能をある程度理解している。
	不可	各部消化管の構造と機能があまり理解できていない。
③呼吸器と血液について（探求力）	秀	呼吸器の構造と機能、血液の組成とその働きについてについて十分理解し説明できる。
	優	呼吸器の構造と機能、血液の組成とその働きについてよく理解し説明できる。
	良	呼吸器の構造と機能、血液の組成とその働きについて理解し説明できる。
	可	呼吸器の構造と機能、血液の組成とその働きについて理解している。
	不可	呼吸器の構造と機能、血液の組成とその働きについて理解できていない。
④循環器系について（探求力）	秀	循環器系の構造、血液の循環とその調節などについて十分理解しよく説明できる。
	優	循環器系の構造、血液の樹幹とその調節などについて十分理解し説明できる。
	良	循環器系の構造、血液の循環とその調節などについて理解し説明できる。
	可	循環器系の構造、血液の循環とその調節などについて理解している。
	不可	循環器系の構造、血液の循環とその調節などについて理解できていない。
⑤体液の調節と尿の生成（探求力）	秀	腎臓の構造、尿の生成、体液量の調節、電解質の調節、酸塩基平衡などを十分理解し説明できる。
	優	腎臓の構造、尿の生成、体液量の調節、電解質の調節、酸塩基平衡などを理解し説明できる。
	良	腎臓の構造、尿の生成、体液量の調節、電解質の調節、酸塩基平衡などを理解している。
	可	腎臓の構造、尿の生成、体液量の調節、電解質の調節、酸塩基平衡などをある程度理解している。
	不可	腎臓の構造、尿の生成、体液量の調節、電解質の調節、酸塩基平衡などを理解できていない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		100	0	0	0	0	0	100
評価項目	①人体の構成要素を説明できる	20	0	0	0	0	0	20
	②栄養の消化と吸収	20	0	0	0	0	0	20
	③呼吸器と血液について	20	0	0	0	0	0	20
	④循環器系について	20	0	0	0	0	0	20
	⑤体液の調節と尿の生成	20	0	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	筆記試験で評価する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
予習、復習
教科書・参考書
教科書：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能「1」坂井建雄 他著 医学書院 参考書：

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
看護解剖生理学Ⅲ （Ｎ１２０１２） ヒトはなぜ動くのか	講義	1	30	1	後期	必修	看国試必修 養教免必修	永田徹 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	永田徹＊								

関連ときわコンピテンシー	専門力、探求力
授業の概要	ヒトが自由に動き回るためには、体を支持する骨格とそれらを動かす骨格筋、関節や靱帯が必要である。 まず骨格、関節や靱帯、骨格筋について説明し、それらに指令を送る神経系について説明する。さらに、骨格筋の収縮機構、感覚器系の神経生理学などについて説明する。 その他、免疫機構、体温調節についても言及する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	骨格系：骨とは、体幹の骨格、体肢の骨格、関節（1）	【予習】骨とは 【復習】骨の解剖
第2回	骨格系：体幹の骨格、体肢の骨格（2）	【予習】骨格の解剖 【復習】骨格の解剖
第3回	筋系（1）骨格筋、心筋、平滑筋の構造と生理学（収縮など）	【予習】骨格筋とは 【復習】骨格筋などの収縮
第4回	筋系（2）骨格筋の解剖学 I	【予習】体幹の筋、上肢の筋 【復習】上記と同じ
第5回	筋系（3）骨格筋の解剖学 II	【予習】下肢の筋 【復習】上記と同じ
第6回	筋系（4）骨格筋の解剖学 III	【予習】頭頸部の筋 【復習】上記と同じ
第7回	神経組織：神経組織の構成細胞	【予習】神経組織とは 【復習】神経組織を構成する細胞
第8回	中枢神経：脊髄の機能（脊髄反射など）	【予習】中枢神経とは 【復習】脊髄の機能（脊髄反射）
第9回	中枢神経：脳（大脳、中脳、小脳など）の機能	【予習】脳とは 【復習】脳の機能について
第10回	末梢神経：末梢神経を構成する主要な神経	【予習】脊髄神経、脳神経について 【復習】脊髄神経、脳神経の機能
第11回	特殊感覚（1）：眼と視覚	【予習】視覚器と視覚 【復習】上記と同じ
第12回	特殊感覚（2）：聴覚と平衡感覚	【予習】聴覚器と半規管、耳石器 【復習】上記と同じ
第13回	特殊感覚（3）：嗅覚、味覚　　一般感覚：体性感覚	【予習】嗅覚器、味覚器、体性感覚器 【復習】上記と同じ
第14回	免疫機構（1）：皮膚による防御、生体の防御機構（特異的、非特異的防御など）	【予習】免疫とは 【復習】免疫機構について
第15回	体温調節機構	【予習】体温調節とは 【復習】体温調節機構について

学修の到達目標
人体が運動するためにはいろいろな部位（骨、筋肉、関節、靱帯など）が必要であり、外界の刺激（感覚）が中枢神経で統合され運動神経を伝わって各部位に伝達される必要がある。そのために骨格系、筋系、神経系、感覚器系の連携を知り、しっかりと説明できるようにする。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①骨格系、筋系（探求力）	秀	骨格、筋の部位と機能全般について非常に良く理解し説明できる。
	優	骨格、筋の部位と機能全般についてよく理解し説明できる。
	良	骨格、筋の部位と機能全般について理解し説明できる。
	可	骨格、筋の部位と機能についてある程度理解している。
	不可	骨格、筋の部位と機能について理解できていない。
②神経系（探求力）	秀	神経の構成、それぞれの働き、神経の興奮、伝達などについて非常に良く理解し説明できる。
	優	神経の構成、それぞれの働き、神経の興奮、伝達などについて良く理解し説明できる。
	良	神経の構成、それぞれの働き、神経の興奮、伝達などについて非常に良く理解している。
	可	神経の構成、それぞれの働き、神経の興奮、伝達などについてある程度理解している。
	不可	神経の構成、それぞれの働き、神経の興奮、伝達などについて理解できていない。
③感覚器系（探求力）	秀	感覚器系の感覚器と働き、中枢経路などを非常によく理解し説明できる。
	優	感覚器系の感覚器と働き、中枢経路などをよく理解し説明できる。
	良	感覚器系の感覚器と働き、中枢経路など理解し説明できる。
	可	感覚器系の感覚器と働き、中枢経路などをある程度理解している。
	不可	感覚器系の感覚器と働き、中枢経路などを理解できていない。
④免疫機構（探求力）	秀	免疫機構(自然免疫、獲得免疫など)を非常に良く理解し説明できる。
	優	免疫機構(自然免疫、獲得免疫など)を良く理解し説明できる。
	良	免疫機構(自然免疫、獲得免疫など)を理解し説明できる。
	可	免疫機構(自然免疫、獲得免疫など)をある程度理解している。
	不可	免疫機構(自然免疫、獲得免疫など)を理解できていない。
⑤体温調節機構（探求力）	秀	体温調節のメカニズムについて非常に良く理解し説明できる。
	優	体温調節のメカニズムについて良く理解し説明できる。
	良	体温調節のメカニズムについて理解し説明できる。
	可	体温調節のメカニズムについて理解している。
	不可	体温調節のメカニズムについて理解できていない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		100	0	0	0	0	0	100
評価項目	①骨格系、筋系	20	0	0	0	0	0	20
	②神経系	20	0	0	0	0	0	20
	③感覚器系	20	0	0	0	0	0	20
	④免疫機構	20	0	0	0	0	0	20
	⑤体温調節機構	20	0	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	筆記試験で評価する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
予習、復習
教科書・参考書
教科書：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能「1」 坂井建生 他著 医学書院 参考書：

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
栄養代謝学 （Ｎ１２０２０） 栄養代謝と健康	講義	2	30	1	後期	必修	看国試必修 養教免必修	前田歩海 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	前田歩海								

関連ときわコンピテンシー	専門力、知欲
授業の概要	栄養とは、生物が外部から必要な物質を摂取し、それを利用して生体を維持し生活する現象のことである。講義では、栄養学の定義である「人体と食物の相互関係を明らかにする学問」について解説し、栄養素である糖質、脂質、タンパク質、無機質、ビタミンについて、その栄養学的機能、消化・吸収・代謝、欠乏症等について講義する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	三大栄養素の役割	【予習】前回の授業内容を確認する 【復習】授業の内容を復習する
第2回	ビタミンの栄養的役割	【予習】前回の授業内容を確認する 【復習】授業の内容を復習する
第3回	無機質と水の栄養的役割	【予習】前回の授業内容を確認する 【復習】授業の内容を復習する
第4回	エネルギー代謝	【予習】前回の授業内容を確認する 【復習】授業の内容を復習する
第5回	栄養所要量とエネルギー所要量	【予習】前回の授業内容を確認する 【復習】授業の内容を復習する
第6回	ライフステージと栄養	【予習】前回の授業内容を確認する 【復習】授業の内容を復習する
第7回	食品構成と各種食品の特徴	【予習】前回の授業内容を確認する 【復習】授業の内容を復習する
第8回	栄養状態の判定・現状	【予習】前回の授業内容を確認する 【復習】授業の内容を復習する
第9回	食物の摂取・消化・吸収	【予習】前回の授業内容を確認する 【復習】授業の内容を復習する
第10回	食事療法の概要	【予習】前回の授業内容を確認する 【復習】授業の内容を復習する
第11回	循環器疾患患者の食事療法	【予習】前回の授業内容を確認する 【復習】授業の内容を復習する
第12回	消化器疾患患者の食事療法	【予習】前回の授業内容を確認する 【復習】授業の内容を復習する
第13回	内分泌・代謝疾患患者の食事療法	【予習】前回の授業内容を確認する 【復習】授業の内容を復習する
第14回	腎疾患患者の食事療法	【予習】前回の授業内容を確認する 【復習】授業の内容を復習する
第15回	経腸栄養法・経静脈栄養法	【予習】前回の授業内容を確認する 【復習】授業の内容を復習する

学修の到達目標
栄養代謝学では、栄養の摂取、消化、吸収、代謝、排泄および防御機構等の幅広い分野について学習し、理解する。また、疾患に合わせた食事療法についても学習し、臨床栄養学の基礎を学習し、理解することを学修の到達目標とする。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①①栄養代謝についての必要な知識を身に着けている（専門力）	秀	栄養代謝学についての知識を十分なレベルで身につけており、より深く理解を深め、自ら考え意見することができる。
	優	栄養代謝学についての知識を十分なレベルで身につけており、より深く理解を深めている。
	良	栄養代謝学についての知識を十分なレベルで身につけている。
	可	栄養代謝学についての知識を身につけている。
	不可	栄養代謝学についての知識を身につけていない。
②学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができる（知欲）	秀	自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと悦びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	30	0	0	0	0	100
評価項目	①栄養代謝に関する専門的知識の修得	70	0	0	0	0	0	70
	②自発的な学修	0	30	0	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	定期試験を実施する。
	②		
提出物	①		小テストを実施する。
	②	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
基礎栄養学から臨床栄養学まで幅広く、さらにサプリメントや機能性食品などのトピックスも取り入れた多様な講義を展開するので、積極的な授業参加を期待する。
教科書・参考書
教科書：随時紹介します。 参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
健康科学総論 （N１２１００） 健康と医学と保健の基礎の基礎	講義	1	30	1	前期	必修	看国試必修 養教免必修	岩越美恵 複数担当	7 号館 3 階 研究室他
科目担当者	岩越美恵、足立了平、柳田学								

関連ときわコンピテンシー	批判的思考力、論理的思考力、情報力
授業の概要	「健康とは何か」、健康について多面的に考え、医学は健康の回復・維持・増進・予防のためにどのような歴史を歩んできたかを学び、そのうえで現代のわが国や世界の健康上の課題について考え、医療とは何かという医療の本質についても考える。また、保健にも重点を置き、本学の特徴を生かして、口腔保健や災害医療についても学ぶ。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第 1 回	健康の概念―健康の定義。看護師の役割について （担当者：岩越）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第 2 回	医学とは何か （担当者：岩越）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第 3 回	医学の発達のすがたー医学の歴史（古代～ 19 世紀）（担当者：岩越）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第 4 回	医学の発達のすがたー医学の歴史（20 世紀以降）（担当者：岩越）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第 5 回	病気の原因 （担当者：岩越）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第 6 回	病気による身体の変化（腫瘍性疾患） （担当者：岩越）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第 7 回	病気による身体の変化（腫瘍性疾患を除くすべて）（担当者：岩越）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第 8 回	病気の診断・病気の治療 （担当者：岩越）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第 9 回	病気の予防 （担当者：岩越）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第10回	口腔保健と健康①口腔機能 （担当者：柳田）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第11回	口腔保健と健康②口腔と全身疾患の関わり （担当者：柳田）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第12回	口腔保健と健康③口腔と脳機能 （担当者：足立）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第13回	口腔保健と健康④災害時の口腔保健 （担当者：足立）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第14回	口腔保健と健康⑤がん治療と口腔保健 （担当者：足立）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第15回	新しい医療システム （担当者：岩越）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り

学修の到達目標
・専門の勉強を始めるにあたり、「健康とは何か」ということを多面的に理解し、健康意識を育て、自らの健康観を持てるようになる。医学に関しても批判的多面的に理解し、医療の本質についてもとらえることができる。 ・口腔保健について、解剖・生理・病態などから根拠を基に論理的に考えることができる。 ・将来、医療を担う職業人となるために、社会に目を向け、様々な情報を自ら収集する力と習慣を身につける。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①健康や医学について多面的に捉え、それらを統合して考えることができる。 （批判的思考力）	秀	健康や医学について十分多面的に捉え統合して考え、自分や社会、未来へと繋げることができる。
	優	健康や医学について、十分多面的にとらえ、それらを統合して考え、自分と繋げることができる。
	良	健康や医学についていくつかの面からとらえ、それらを統合してまとめることができる。
	可	健康や医学について二面的にのみとらえている。
	不可	健康や医学について一面的にしかとらえていない。
②口腔保健について論理的に考えることができる。 （論理的思考）	秀	口腔保健について、客観的な根拠に基づき論理的に考えることができ、根拠の限界も理解している。
	優	口腔保健について、客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	口腔保健について、客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	口腔保健について、多少根拠は薄くても、ある程度論理的に考えることができる。
	不可	口腔保健について、根拠に基づき論理的に考えることができない。
③社会に目を向け、医学の最新情報を収集し、活用することができる。 （情報力）	秀	自発的に目的にかなう情報を収集し、活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである
	優	自発的に目的にかなう情報を収集し、活用できる。
	良	ある程度自発的に目的にかなう情報を収集し、活用できる。
	可	他者の助言があれば、目的にかなう情報を収集し、活用できる。
	不可	目的にかなう情報を収集したり活用できない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		75	25	0	0	0	0	100
評価項目	①健康や医学についての多面的思考	50	0	0	0	0	0	50
	②口腔保健についての論理的思考	25	0	0	0	0	0	25
	③医学情報の収集	0	25	0	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	定期試験期間中に行われる筆記試験
	②	✓	
	③		
提出物	①		課題、レポートなど
	②		
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
日ごろから新聞などで、医学の発達や人の健康に関心を向け、それらを結び付けて学ぶと面白くなります。
教科書・参考書
教科書：『医学概論』日野原重明 著　医学書院 参考書：『NEW 予防医学・公衆衛生学』岸　玲子、古野純典、大前和幸、小泉昭夫 編集　南江堂

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
看護病理・病態学 （Ｎ１２１２０） 病気が見える	講義	1	30	1	後期	必修	看国試必修	森松伸一 単独担当	7 号館 3 階 研究室
科目担当者	森松伸一								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、知欲・情報力、論理的思考力、継続力、判断力
授業の概要	人体の正常な機能と構造に関する基礎的知識に立脚し、疾患すなわち身体の不健康・障害について病理・病態学を理解するために必要な生体現象（解剖生理）と発症病理・病態および治療・予後に関する知識を体系的に学修していく。患者個々の病理・病態を知り、将来、慈愛を持って的確な看護ができるようになることをねらいとする。キーワード（・人体の正常な機能と構造・身体の不健康と障害・症候（症状・徴候）・発症病理と病態・病気と看護）

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第 1 回	病理・病態の基礎 1 （導入）	【予習】解剖・生理（講義範囲分） 【復習】病理・病態
第 2 回	病理・病態の基礎 2 （沈着・蓄積症・炎症・循環障害・代謝障害・腫瘍など）	【予習】解剖・生理（講義範囲分） 【復習】病理・病態
第 3 回	先天異常（染色体異常、遺伝子異常、先天代謝異常、体表奇形、内臓奇形など）	【予習】解剖・生理（講義範囲分） 【復習】病理・病態（レポート作成）
第 4 回	炎症性疾患とその終末像（感染性疾患、自己免疫疾患、COPD、肝硬変など）	【予習】解剖・生理（講義範囲分） 【復習】病理・病態
第 5 回	循環障害（局所性と全身性、閉塞性、栓塞性、心不全など）	【予習】解剖・生理（講義範囲分） 【復習】病理・病態（レポート作成）
第 6 回	大血管系循環障害 1 （先天性心疾患、後天性心疾患）	【予習】解剖・生理（関係範囲分） 【復習】病理・病態
第 7 回	大血管系循環障害 2 （狭心症、心筋梗塞）	【予習】解剖・生理（関係範囲分） 【復習】病理・病態（レポート作成）
第 8 回	神経系疾患（脳神経、脊髄神経、末梢神経、中枢神経系）	【予習】解剖・生理（関係範囲分） 【復習】病理・病態
第 9 回	脳血管障害総論（出血性、梗塞性など）	【予習】解剖・生理（関係範囲分） 【復習】病理・病態
第10回	脳血管障害（脳出血と脳梗塞など）	【予習】解剖・生理（関係範囲分） 【復習】病理・病態（レポート作成）
第11回	内分泌疾患（機能亢進症と低下症、バセドウ病、クッシング症候群など）	【予習】解剖・生理（関係範囲分） 【復習】病理・病態
第12回	代謝障害（糖尿病、低血糖、高脂血症、痛風、糖原病、ビタミン代謝異常など）	【予習】解剖・生理（関係範囲分） 【復習】病理・病態
第13回	糖尿病 1 （ 1 型糖尿病）	【予習】解剖・生理（関係範囲分） 【復習】病理・病態
第14回	糖尿病 2 （ 2 型糖尿病）	【予習】解剖・生理（関係範囲分） 【復習】病理・病態（レポート作成）
第15回	腫瘍（良性腫瘍、悪性腫瘍、癌、肉腫、白血病・リンパ腫など）	【予習】解剖・生理（関係範囲分） 【復習】病理・病態

学修の到達目標
・解剖生理、病態生理から発症病理・病態をよく理解し説明ができる。 ・症候（症状・徴候）を病理・病態生理から理論的・科学的に説明できる。 ・代表的な（よくある）疾患の概要をよく理解し説明できる。 ・病態に基づき適切な（基本的な）看護計画を立てることができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①①看護専門職の実務遂行に必要な基礎病理学・病態学の知識・技能を身につけている（専門力）	秀	看護専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	看護専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	看護専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	看護専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	看護専門領域についての知識・技術を身につけていない。
②思考や判断に必要な基礎病理学・病態学の情報を収集・整理・分析し、活用することができ、学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができる（知欲・情報力）	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出すことができる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと悦びを見出すことができる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができない。
③基礎病理学・病態学に基づき、論理的に考えることができる（論理的思考力）	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
④学び、考え、行動する姿勢とその努力を持続することができる（継続力）	秀	内発的動機づけのもと、十分な忍耐力・継続的実行力をもって、楽しみながら物事に打ち込み続けることができる。
	優	内発的動機づけのもと、十分な忍耐力・継続的実行力をもって物事に打ち込み続けることができる。
	良	ある程度自発的に、忍耐力・継続的実行力を示すことができる。
	可	他者からの助言や何らかの外的条件づけのもと、忍耐力・継続的実行力を示すことができる。
	不可	忍耐力・継続的実行力がない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
⑤基礎病理学・病態学の情報や思考に基づき、状況に対して適切な判断をすることができる（判断力）	秀	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランス良く駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。またそれゆえその判断を踏まえた次の新たな創造的作業を実行しやすい。
	優	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等をバランス良く駆使して、自力で十分適切に状況判断ができる。
	良	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、その場に即した状況判断が一定レベルにおいて可能である。
	不可	適切な状況判断ができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	20	0	0	0	10	100
評価項目	①専門力	10	5	0	0	0	0	15
	②知欲・情報力	40	10	0	0	0	0	50
	③論理的思考力	10	5	0	0	0	0	15
	④継続力	0	0	0	0	0	10	10
	⑤判断力	10	0	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	終講試験（定期筆記試験）を行う（70 点満点）。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤	✓	
提出物	①	✓	レポートを評価に加える（1 編 0 ～ 4 点の 5 段階評価、20 点満点）。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤	✓	
その他	①		授業では毎回タスクを課す（全出席 10 点で欠席は減点法による）。
	②		
	③		
	④	✓	
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など
講義内容は並行して行なわれる解剖生理学にもとづいているため、予習、復習を含め自学自習（質問も含める）する必要がある。評価方法について、具体的実施方法と注意点などとして成績評価は主に筆答試験結果に基づいて行うが、積極的な講義の出席とともに授業中の学習態度（レポート提出を含む）なども評価に加える。

教科書・参考書
教科書：『病態生理学　疾病のなりたちと回復の促進②』田中 越郎 著　医学書院 参考書：『カラーで学べる病理学』渡辺 照男　編集　ヌーヴェルヒロカワ 『看護のための臨床病態学』浅野 嘉延・吉山 直樹　編集　南山堂 『看護過程に沿った対症看護－病態生理と看護のポイント－』高木 永子　編集　Gakken

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
公衆衛生学 （N１２１７０） 公衆衛生の使命、疾病予防などについて学ぶ	講義	2	30	1	後期	必修	看国試必修 養教免必修	栃倉匡文 単独担当	5号館3階 研究室
科目担当者	栃倉匡文								

関連ときわコンピテンシー	専門力、知欲
授業の概要	公衆衛生とは『地域社会の組織的な努力を通じて疾病を予防し、寿命を延長し、身体的ならびに精神的健康と能率の増進を図る科学であり、技術である』と定義される。本講義では、前半は健康の考え方、疫学の基本と技法、健康の指標、人口数および出生・死亡数などを推計する人口統計などについて学修する。さらには地域保健活動の特色および仕組みに触れ、公衆衛生活動の中での医療従事者の役割について理解を深める。後半は少子高齢化が進行する中で直面している高齢者医療の現状について学修する。さらには生活習慣病、環境問題などを取りあげ、現状での課題および今後の対応策について考える。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	公衆衛生と健康の概念	【予習】教科書の読解 【復習】要点の整理
第2回	疫学（疾病・死亡の指標、研究のデザイン）	【予習】教科書の読解 【復習】要点の整理
第3回	保健統計①（人口静態統計、人口動態統計）	【予習】教科書の読解 【復習】要点の整理
第4回	保健統計②（死因統計、疾病統計）	【予習】教科書の読解 【復習】要点の整理
第5回	医療と社会（医療法、医療保障制度など）	【予習】教科書の読解 【復習】要点の整理
第6回	社会保障（社会保障制度、国民医療費など）	【予習】教科書の読解 【復習】要点の整理
第7回	地域保健活動（地域保健法）	【予習】教科書の読解 【復習】要点の整理
第8回	高齢者保健（老人福祉法、高齢者医療確保法、介護保険法）	【予習】教科書の読解 【復習】要点の整理
第9回	感染症対策①（成立要因、感染経路、感染症法）	【予習】教科書の読解 【復習】要点の整理
第10回	感染症対策②（予防接種法、主要感染症の動向）	【予習】教科書の読解 【復習】要点の整理
第11回	食品保健（食品衛生法、食中毒）	【予習】教科書の読解 【復習】要点の整理
第12回	生活習慣病・学校保健	【予習】教科書の読解 【復習】要点の整理
第13回	母子保健・精神保健福祉	【予習】教科書の読解 【復習】要点の整理
第14回	産業保健（労働安全衛生法、労働者災害補償保険法）	【予習】教科書の読解 【復習】要点の整理
第15回	環境保健（地球環境問題、内分泌攪乱化学物質）	【予習】教科書の読解 【復習】要点の整理

学修の到達目標
公衆衛生学の授業を通じて、次の事柄の学修到達を目指す。①公衆衛生と健康の概念について説明することができる②疫学調査の意義について説明することができる③高齢者医療の現状と課題について説明することができる④感染症の成立要因と伝播様式を挙げ、予防対策について説明することができる⑤食中毒の原因ならびに予防対策について説明することができる⑥生活習慣病の発症要因を挙げ、説明することができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①社会で求められる専門知識を身につけている。（専門力）	秀	公衆衛生学の知識を非常に高いレベルで身につけている。
	優	公衆衛生学の知識を高いレベルで身につけている。
	良	公衆衛生学の知識を身につけている。
	可	公衆衛生学の知識を何とか身につけている。
	不可	公衆衛生学の知識を身につけていない。
②学ぶこと・知ることに愉しさと悦びを覚えることができる。（知欲）	秀	自発的に学修することができ、そこで自ら愉しさと悦びを見出して達成感を得ることができる。そして、その経験を踏まえて更なる主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこで自ら愉しさと悦びを見出して達成感を得ることができる。
	良	自発的に学修することができ、そこで自ら愉しさと悦びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば学修することができ、指摘されて愉しさと悦びを見出すことができる。
	不可	学修することに愉しさと悦びを覚えることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		90	0	0	0	0	10	100
評価項目	①専門力	90	0	0	0	0	0	90
	②知欲	0	0	0	0	0	10	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	筆記試験
	②		
その他	①	✓	受講態度
	②		

履修に必要な知識・技能・態度など
日頃から公衆衛生に関する情報に関心を持つようにしてほしい。
教科書・参考書
教科書：『公衆衛生がみえる 2016-2017』 メディックメディア 他に適宜プリントを配布します。 参考書：使用しません。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
感染看護学 （Ｎ１２１８０） 感染制御を知ろう	講義	1	15	1	後期	必修	看国試必修 養教免必修	森松伸一 単独担当	7 号館 3 階 研究室
科目担当者	森松伸一								

関連ときわコンピテンシー	専門力、知欲・情報力、論理的思考力、継続力、判断力
授業の概要	いかなる看護においても感染症の予防・治療が関係する。感染症患者の看護には病原微生物および免疫の基礎知識が必要であり、また医療機関内において看護師は感染制御チームの重要な位置を占める。そこで標準予防策を始めとする感染制御の理論を修得するために必要な一般･日和見･新興･再興感染症病原体の基礎知識とその感染病理および免疫学の基礎を教授し、これに基づいて一般感染症患者の看護のみならず、新興・再興感染症患者や不測の院内感染にも対応できる能力を養うことを目的とする。将来、様々な感染症患者の看護を行うに当たっても躊躇することなくこれらに取り組み､基本的かつ適切な看護ができるようになることをねらいとする。キーワード（･標準予防策･感染経路別予防策・接触予防策・飛沫予防策・飛沫核（空気）予防策）

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第 1 回	病原微生物とは（導入）	【予習】微生物とは 【復習】病原微生物の種類
第 2 回	感染の成立の 3 要素と感染対策	【予習】感染成立のための 3 要素 【復習】非特異的免疫と特異的免疫
第 3 回	病原微生物の種類と特徴 1（細菌、クラミジア、リケッチア、真菌）	【予習】グラム染色、抗微生物薬 【復習】衛生的手洗い、ワクチン対策
第 4 回	病原微生物の種類と特徴 2（DNA ウイルス、RNA ウイルス）	【予習】性感染症と母子感染 【復習】先天性感染症
第 5 回	感染制御学 1（標準予防策と感染経路別予防策）	【予習】飛沫感染とは 【復習】PPE（個人防護具）
第 6 回	感染制御学 2（接触予防策、飛沫予防策、空気予防策）	【予習】接触感染、飛沫核感染とは 【復習】AIIR と空気感染対策
第 7 回	院内感染と日和見感染（院内感染・医療関連施設内感染）	【予習】病院感染発生の理由 【復習】易感染性宿主と日和見病原体
第 8 回	動物由来感染症（ズーノーシス、狂犬病など）	【予習】媒介節足動物と増幅動物 【復習】医療従事者に必要な知識

学修の到達目標
・標準予防策（スタンダードプリコーション）および感染経路別予防策（対策）を説明できる。 ・病原微生物およびその感染経路を指摘できる。 ・内因感染と外因感染、院内感染と日和見感染、消毒と滅菌および化学療法を説明できる。 ・感染症の予防および具体的なワクチン対策とその意義を説明できる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①専門職の実務遂行に必要な感染制御学の基礎知識・技能を身につけている（専門力）	秀	看護専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	看護専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	看護専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	看護専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	看護専門領域についての知識・技術を身につけていない。
②学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができるとともに思考や判断に必要な感染症や感染制御についての情報を収集・整理・分析し、活用することができる（知欲・情報力）	秀	自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつなげられる。自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出すことができる。ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと悦びを見出すことができる。他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができない。情報を収集・整理・分析できない。
③感染制御学の根拠に基づき、論理的に考えることができる（論理的思考力）	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
④学び、考え、行動する姿勢とその努力を持続することができる（継続力）	秀	内発的動機づけのもと、十分な忍耐力・継続的実行力をもって、楽しみながら物事に打ち込み続けることができる。
	優	内発的動機づけのもと、十分な忍耐力・継続的実行力をもって物事に打ち込み続けることができる。
	良	ある程度自発的に、忍耐力・継続的実行力を示すことができる。
	可	他者からの助言や何らかの外的条件づけのもと、忍耐力・継続的実行力を示すことができる。
	不可	忍耐力・継続的実行力がない。
⑤感染症の情報や感染制御学の思考に基づき、状況に対して適切な判断をすることができる（判断力）	秀	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランス良く駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。またそれゆえその判断を踏まえた次の新たな創造的作業を実行しやすい。
	優	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等をバランス良く駆使して、自力で十分適切に状況判断ができる。
	良	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、その場に即した状況判断が一定レベルにおいて可能である。
	不可	適切な状況判断ができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	20	0	0	0	10	100
評価項目	①専門力	30	5	0	0	0	0	35
	②知欲・情報力	30	10	0	0	0	0	40
	③論理的思考力	10	5	0	0	0	0	15
	④継続力	0	0	0	0	0	10	10
	⑤判断力	10	0	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	終講試験（定期筆記試験）を行う（70 点満点）。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤	✓	
提出物	①	✓	レポートを評価に加える（1 編 0 ～ 4 点の 5 段階評価、20 点満点）。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤	✓	
その他	①		授業では毎回タスクを課す（全出席 10 点で欠席は減点法による）。
	②		
	③		
	④	✓	
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など

感染看護学を良く理解するために感染制御について学習することが必須となるため、シラバスの学習項目のみならず、毎回関連する感染症とそれを引き起こす病原体についての学習（自学自習）が必要である。講義内容に基づき予・復習を含め、自学自習（質問も含める）する必要がある。成績評価は筆答試験結果に基づいて行うが、積極的な講義の出席とともに授業中の学習態度（レポート提出を含む）なども評価に加える。

教科書・参考書

教科書：『スタンダード微生物学』第 2 版 土肥義胤・山本容正・宇賀昭二 編　文光堂

参考書：『メディカルサイエンス微生物検査学』第 2 版 大学検査学専攻微生物学教員懇談会 編　近代出版
『医療福祉系学生のための専門基礎科目』河野公一 編集代表　金芳堂
『動物由来感染症マニュアル』河野公一・佐野浩一 他編　金芳堂

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
看護学概論 （Ｎ１３０００） 看護学への興味・関心・探求を導く	講義	2	30	1	前期	必修	看国試必修 養教免必修	鎌田美智子 単独担当	7号館3階 研究室
科目担当者	鎌田美智子								

関連ときわコンピテンシー	専門力、教養、論理的思考力、探究力、知欲
授業の概要	看護専門領域の確立発展のために、看護学及び看護実践について、下記の三側面からの解説を行う。本授業を通して、「看護の目的（看護の概念）、看護の対象（対象論）、看護の機能（方法論）」について、体系的に理解し、かつ看護学を学ぶ者として、日本はもとより国際社会においても専門職の果たす役割と責務への自覚を高めてほしい。 １．看護の領域がどのようにして生まれ、確立発展してきたのかの歴史的な認識 ２．看護が社会の中でどのように認知され機能しているのかの社会的な認識 ３．看護理論の発展と動向に関する科学的な認識

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第１回	【毎回開始時に、「感想・質問票」の内容をフィードバックし、内容を深める】 Ⅰ．看護の理念と概念 １．看護とは何か （１）看護の語義　（２）看護の起源　（３）看護の定義 ① F.Nightingale　② V.Henderson　③ＩＣＮ　④ＡＮＡ　⑤ＪＮＡ	【予習】＊シラバスの確認 ＊授業感想・質問票提出 【復習】＊授業内容をリフレクションし、整理ノート作成
第２回	【看護活動基礎実習：4/24 ～ 4/27】 ◆看護実践の場の現状と課題（「看護活動基礎実習の体験」を通して授業内容へのイメージを深める） ２．看護専門領域の現状と課題 （１）看護学及び看護の場の現状と課題を実習場面、資料類から解説	◆アーリーエクスポジャープログラム『看護活動基礎実習』での体験を活用 【予習】授業感想、質問票提出 【復習】授業整理ノートの作成
第３回	１．看護の専門性の変性（看護の理念形成） （１）ＩＣＮ・ＡＮＡ・ＪＮＡの定義の背景 （２）看護の対象・看護の目的・看護活動の概要	【予習】＊授業感想・質問票提出 【復習】＊授業整理ノート作成
第４回	Ⅱ．看護の対象と健康 １．人間の捉え方と看護実践の関係 （１）看護の対象の捉え方を認識しておくことの意義 （２）看護実践における人間の捉え方（人間観） ①ＷＨＯ憲章前文に見る人間観　②生物体・生活体の統一体	【予習】＊「看護解剖生理学」他との関連確認 ＊授業感想・質問票提出 【復習】＊授業整理ノート作成
第５回	③ニードを有する人間　④発達変化する人間	同上
第６回	２．健康の概念 （１）健康状態の名称　（２）健康の定義　（３）健康を捉える視点	【予習】＊「健康科学総論」他との関連確認 ＊授業感想・質問票提出 【復習】＊授業整理ノート作成
第７回	３．健康のレベルに伴う人間の心理 （１）健康破綻時の患者の心理 ①苦痛と苦悩（病苦）　②適応力（防御機能と適応規制、対処行動） （２）健康破綻の過程に伴う心理的特徴 ①移行時　②疾病を認識した時期	【予習】＊「人間関係論」他との関連確認 ＊授業感想・質問票の提出 【復習】＊授業整理ノート作成
第８回	４．国民の健康状態の全体像 （１）平均的状態　（２）疾病・保健行動の健康指標 Ⅲ．看護の機能と役割 １．看護の機能　２．看護の提供（役割） （１）提供の仕方　（２）サービスとしての看護 （３）看護サービス提供の場　（４）チーム医療	【予習】＊新聞・テレビ等の情報収集 ＊授業感想・質問票提出 【復習】＊授業整理ノート作成

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第９回	Ⅳ．看護の専門性に関するまとめ １．看護の専門性を具現する『ビデオ視聴』 ２．視聴ビデオを通してまとめ：レポート作成『あなたの声が聞きたい NHK』	◆レポート作成提出（指定日）
第10回	Ⅴ．看護と理論 １．看護理論とは何か　２．看護理論を持つことの意義 ３．看護理論を理解（読む）するための視点 ４．看護理論家の背景を把握する視点【例：ビデオ『ナイチンゲールの生涯』】	【予習】＊授業感想・質問票提出 【復習】＊授業整理ノート作成
第11回	５．看護理論の系譜 ６．主な看護理論家と看護理論の概要 （１）Florence　Nightingale　（２）Virginia　Henderson （３）Sister Callista Roy	同上
第12回	（４）Dorothea　E．Orem　（５）Hildegard　E．Peplou （６）Patricia　Benner	同上
第13回	Ⅵ．看護の歴史的変遷と展望 １．職業としての看護確立の変遷 （１）原始・古代　（２）宗教看護　（３）職業的看護の確立 ２．ナイチゲール訓練学校の影響 ３．看護の専門職化	【予習】＊「人間探究科目群」の関連授業確認 ＊授業感想・質問票提出 【復習】＊授業整理ノート作成
第14回	１．看護の社会的役割と展望 （１）社会の変化に伴う看護　（２）看護職と倫理 （３）国際化と看護	同上
第15回	Ⅶ．まとめ １．看護の専門性とは何かについて、「フィールド調査」を行い考察する	◆フィールド調査票提出（２枚、指定日）

学修の到達目標
①看護専門領域の規定と、その確立発展を理解し、現状の課題と将来展望について考える。 ②看護の社会的な位置を認識し、現代のヘルスケアニーズに応えるための専門職としての役割を考察する。 ③看護の対象について、「環境に対して能動的な存在、生物的・社会的特性を持つ存在、ニードを有する存在、自我の統合に向かって発達する存在」という四側面の捉え方を理解し、看護のための人間観を培う。 ④主な看護理論について、その構造や系譜、その動向等を捉え、看護における知識体系確立の意義を理解する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①－１看護専門領域の規定と、その確立発展を理解し、現状の課題と将来展望について考える。 （専門力、教養力）	秀	看護の理念･概念の形成およびその過程を時代背景を踏まえ理解し、看護とは何かについて説明し、看護学及び看護実践における将来展望を考察することができる。
	優	看護の理念･概念の形成及びその過程を理解し、看護とは何かについて説明し看護学及び看護実践における将来展望を認識することができる。
	良	看護の理念･概念を理解し、看護とは何かについて説明することができる。
	可	看護の理念･概念を説明することができる。
	不可	看護の概念理解が不十分である。
①－２看護専門領域の確立過程を通して、看護学及び看護実践への興味関心を深める。 （専門力、知欲）	秀	看護の理念形成、概念確立の過程を通して、看護学及び看護実践への興味･関心を深め、看護観探求への姿勢がみられる。
	優	看護の理念形成、概念確立の過程を通して、看護学及び看護実践への興味･関心を深め、看護観を概観する姿勢がみられる。
	良	看護の理念形成、概念確立の過程を通して、看護学及び看護実践への興味関心を持ち、看看護観を認識する姿勢がみられる。
	可	看護の理念形成、概念確立の過程を通して、看護学及び看護実践への興味関心がみられる。
	不可	看護の概念確立への理解が不足し、看護への興味関心が薄い。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②看護の社会的な位置を認識し、現代のヘルスケアニーズに応えるための専門職としての役割を考察する。（専門力、教養力）	秀	社会における看護専門職の位置を確認し、時代が求めるヘルスケアニーズとその対応内容を把握し、看護専門職としての役割を医療従事者の視点をふまえ、総合的に考察することができる。
	優	社会における看護専門職の位置を確認し、時代が求めるヘルスケアニーズとその対応内容を把握し、看護専門職としての役割りを考察することができる。
	良	時代が求めるヘルスケアニーズとその対応内容を把握し、看護専門職としての役割を理解している。
	可	時代が求めるヘルスケアニーズとその対応内容の概要を理解している。
	不可	上記を理解していない。
③－１看護の対象について、「環境に対して能動的な存在、生物的・社会的特性を持つ存在、ニードを有する存在、自我の統合に向かって発達する存在」という四側面を理解する。（専門力）	秀	四つの側面からの人間の特性を捉えることの重要性を理解し、それらの一つ一つを詳細に説明することができる。
	優	四つの側面からの人間の特性を捉えることの重要性を理解し、それら一つ一つの概要を説明することができる。
	良	四つの側面からの人間の特性について、それらのポイントを説明することができる。
	可	四つの側面からの人間の特性について、それらの概要を説明することができる。
	不可	上記を説明することができない。
③－２看護の対象の四つの特性を通して、看護実践を左右する看護のための人間観を培う。（専門力、教養力）	秀	人間観により看護実践の方法が左右されることの意味を理解し、四つの人間の特性の詳細を通して、看護のための人間観を培うことの重要性を理解している。
	優	人間観により看護実践の方法が左右されることの意味を理解し、四つの人間観の特性の概要を通して看護のための人間観を培うことの重要性を理解している。
	良	人間観により看護実践の方法が左右されることの意味を理解し、四つの人間観のどれかを通して看護のための人間観を培うことの重要性を理解している。
	可	人間観により看護実践の方法が左右されることの意味を理解している。
	不可	上記を理解していない。
⑥主な看護理論について、その構造や系譜、その動向等を捉え、看護における知識体系確立の意義を理解する。（専門力）	秀	看護理論の構造及び意義を理解し、かつ主な看護理論の特徴を説明し、看護における知識体系確立の意義を考察することができる。
	優	看護理論の構造及び意義を理解し、かつ主な看護理論の特徴を説明し、看護における知識体系確立の意義を理解している。
	良	看護理論の構造及び意義を理解し、主な看護理論の特徴を説明することができる。
	可	看護理論の構造及び主な看護理論の特徴を理解している。
	不可	上記を理解していない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	0	0	0	0	30	100
評価項目	①－１　看護専門領域の課題と将来展望について考える	21	0	0	0	0	8	29
	①－２　看護学及び看護実践への興味関心を深める	0	0	0	0	0	8	8
	②専門職としての役割を考察する	7	0	0	0	0	6	13
	③－１　看護の対象について、四側面を理解する	17	0	0	0	0	4	21
	③－２看護実践を左右する看護のための人間観を培う	0	0	0	0	0	4	4
	④看護における知識体系確立の意義を理解する	25	0	0	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①- 1	✓	４つの到達目標を具体化した知識や理論に関して、「論述、真偽法（yes・no ﾃｽﾄ）、完成法（穴あき）」による客観試験（筆記試験）
	①- 2		
	②	✓	
	③- 1	✓	
	③- 2		
	④	✓	
その他	①- 1	✓	レポート：授業計画で示した課題「看護の専門性とは何か－ビデオ視聴を通して－」のレポートにより、看護の専門性のとらえ方、及び看護に向かう姿勢を把握する。
	①- 2	✓	
	②	✓	
	③- 1	✓	
	③- 2	✓	
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など

看護の概念や理念に関して、「覚えるだけでなくそれらを理解し、例えば等で言い換えたり、さらにそこから予測したり、予見できる思考力を身につける（認知領域）。また看護に立ち向かい、深め発展させる心を育ててほしい（情意領域）。

教科書・参考書

教科書：『系統的看護学講座専門Ⅰ　看護学概論』 茂野　香おる他編著　医学書院

参考書：『科学的看護論』 薄井　坦子著　日本看護協会出版会
『看護覚書』 Ｐ．Ｎ ightingale 著　湯槇　ます他訳　日本看護協会出版会
『看護の基本となるもの』 V.Henderson 著　湯槇　ます他訳　日本看護協会出版会　その他授業時に、随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
生活健康論 （N１３０１０） 生活の健康ってどういうことか考えてみよう	講義	2	30	1	前期	必修	看国試必修 養教免必修	黒野利佐子 複数担当	7 号館 3 階 研究室他
科目担当者	黒野利佐子、柳本有二、西原詩子								

関連ときわコンピテンシー	常識力、知欲、専門力
授業の概要	生物としてのヒトが誕生し、社会の中で様々な人との交流に様々な精神・身体的発達に影響されながら「人」に育てられ、人として生活しながら、よりよく生きようと学びや仕事に従事しながら一生を終えていく。看護は､様々な疾病や障害で変調をきたす恐れのある人や起こしてしまった人々の生活を整えることで、その方が潜在能 力を発揮できるよう援助することを目的とする。「生活を整える」ためには､私たちが日常的な生活行動の中でほとんど意識しない普通の状態における「健康」の意味を、生命維持、日常の生活行為、そしてよりよく生きるための活動の観点から 改めてとらえなおす必要がある

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第 1 回	生活のとらえ方 日常生活の送り方 共通点と相違点 導入 （担当者：黒野）	【予習】教科書 p.11 ～ 32 【復習】学習内容と生活の振り返り
第 2 回	生命維持活動・人として生活行為・よりよく生きるための食べるということ （担当者：黒野）	【予習】教科書 34 ～ 37 【復習】学習内容と生活の振り返り
第 3 回	食べたものを活動のエネルギーに変えたり（異化）・自分の体を作る（同化）と呼吸・体温・循環の関わり：呼吸　（担当者：黒野）	【予習】教科書 p.32~34　66-82 【復習】学習内容と生活の振り返り
第 4 回	食べたものを活動のエネルギーに変えたり（異化）・自分の体を作る（同化）と呼吸・体温・循環の関わり：体温　（担当者：黒野）	【予習】教科書 p .42-46 【復習】学習内容と生活の振り返り
第 5 回	食べたものを活動のエネルギーに変えたり（異化）・自分の体を作る（同化）と呼吸・体温・循環の関わり：循環　（担当者：黒野）	【予習】教科書 p .83-105 【復習】学習内容と生活の振り返り
第 6 回	人としての生活として：排泄を考える　（担当者：黒野）	【予習】教科書 p.37-39　105-119 【復習】学習内容と生活の振り返り
第 7 回	人としての生活として：運動を考える　（担当者：黒野）	【予習】教科書 p.40-42　119-127 【復習】学習内容と生活の振り返り
第 8 回	人としての生活として：休息（睡眠）を考える　（担当者：西原）	【予習】教科書 p.55-58 【復習】学習内容と生活の振り返り
第 9 回	人としての生活として清潔・整容・衣生活を考える （担当者：西原）	【予習】教科書 p.40-42 【復習】学習内容と生活の振り返り
第10回	社会を生きる人間と健康：健康と生活の変遷・生活行為への影響要素レポート課題説明　（担当者：黒野）	レポートの作成 教科書 p.49-54　再び 58-81
第11回	ヘルスプロモーションの概念　（担当者：柳本）	レポートの作成教科書 p.46-52
第12回	ヘルスプロモーションと実践　（担当者：柳本）	レポートの作成
第13回	ヘルスプロモーションと実践　（担当者：柳本）	発表内容・方法をまとめるグループワーク
第14回	生活のとらえ方と生活の質についてレポートをもとに発表：前半 （担当者：黒野）	レポート発表の準備
第15回	生活のとらえ方と生活の質について　レポートをもとに発表：後半 （担当者：黒野）	

学修の到達目標
1．普段の生活では意識に上らない日常の生活行為それぞれにおいて、生命維持との関連を併せて見直すことが出来る。 2．普段の生活では意識に上らない日常の生活行為それぞれにおいて、人としての生活を見直すことができる。 3．生活の中で大切にしているもの、生きがいなど主観的体験と健康との関係を通し、よりよく生きるための活動観点から生活の質の概念が理解できる。 4．ヘルスプロモーションの観点から健康を考える。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①普段の生活では意識に上らない日常の生活行為が、生命維持としてどのように働き関連しているか見直すことが出来る。（常識力）	秀	普段の生活では意識に上らない日常の生活行為が、生命維持としてどのような働きと関連があるか考えることが出来、自分や家族の生活と併せて社会・環境まで発展的に見直す試みができる。
	優	普段の生活では意識に上らない日常の生活行為が、生命維持としてどのような働きが関連しているか考えることが出来、自分や家族の生活を見直す試みができる
	良	普段の生活では意識に上らない日常の生活行為が、生命維持としてどのように必要で、互いにどのような関連があるか考えることが出来る
	可	普段の生活では意識に上らない日常の生活行為が、生命を維持するためにどのように必要な活動であるか考える試みができる
	不可	普段の生活では意識に上らない日常の生活行為が、生命維持～生命を維持するためにどのように必要な活動であるか考えることが出来ない
②普段の生活では意識に上らない日常の生活行為それぞれにおいて人としての生活の観点から見直すことができる（専門力）	秀	健康レベルや発達段階に応じた日常生活行為において自分や家族の健康を振り返り、社会・文化的な側面を含んだ人としての生活を見直しながら、看護実践活用への示唆が得られる
	優	健康レベルや発達段階のどちらかにそくした日常生活行為において、人としての生活行為において自分や家族の健康を見直すことができ、看護実践の活用の示唆を得る試みができる。
	良	日常の生活行為それぞれにおいて、人としての生活の活動観点から、自分や家族の健康において見直すことが部分的にできる
	可	日常の生活行為において、人としての生活の活動観点から、自分や家族の健康を見直す試みができる
	不可	日常の生活行為それぞれにおいて、人としての生活の観点から見直す試みができない
③生活の質の概念生活の中で大切にしているもの、生きがいなど主観的体験と健康との関係を通して生活の質の概念が理解できる。（知欲）	秀	日常の自分や家族の生活行為において、社会や文化的側面を併せ、よりよく生きるための活動観点から生活の中で大切にしているもの、生きがいなど主観的体験と健康との関係から見直し、看護的視点から考えることができる。
	優	日常自分や家族の生活行為において、社会・文化的側面からも、よりよく生きるための活動観点をもって、生活の中で大切にしているもの、生きがいなど主観的体験と健康との関係を見直すこころみができる。
	良	日常の生活行為においてよりよく生きるための活動観点から、自分や家族が生活の中で大切にしているもの、生きがいなど主観的体験と健康との関係を見直すことができる
	可	日常の生活行為において、よりよく生きるための活動観点からよりよく生きるための活動観点から、自分や家族が生活の中で大切にしているもの、生きがいなど主観的体験と健康との関係を見直すことを試みることが出来る
	不可	日常の生活行為において、よりよく生きるための活動観点から、自分や家族が生活の中で大切にしているもの、生きがいなど主観的体験と健康との関係を見直すことを試みることができない

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
④ヘルスプロモーションの観点から健康を考える。（専門力）	秀	ヘルスプロモーションの観点から自分や家族の健康を考え、社会的側面も含んで健康を考えることができ、看護的視点から示唆をえる。
	優	ヘルスプロモーションの観点から自分や家族の生活行為を振り返り、社会的側面を含んで健康を考えることができる。
	良	ヘルスプロモーションの観点から自分や家族の健康を考える。
	可	ヘルスプロモーションの観点から自分や家族の健康を考える試みができる。
	不可	ヘルスプロモーションの観点から自分や家族の健康を考える試みができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	35	15	0	0	0	100
評価項目	①生活と生命維持の関連	15	5	5	0	0	0	25
	②人としての生活	20	5	5	0	0	0	30
	③生活の質の概念	15	5	5	0	0	0	25
	④ヘルスプロモーション	0	20	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	筆記試験を最終に行う
	②	✓	
	③	✓	
	④		
提出物	①	✓	レポート課題を指示された通りに提出できる。その内容をルーブリック評価する。 1）自分や家族の生活行為を取り上げ、生命維持・人として・より良く生きる側面から振り返って新たな意味・優れていて気付いたこと、整えていく必要があること、についてまとめる。 2）ヘルスプロモーション担当の柳本先生より指示がある。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
成果発表（口頭・実技）	①	✓	1）については、講義の最終二回を使ってグループ発表を行い、評価基準に沿って評価する。
	②	✓	
	③	✓	
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など

授業は教員が一方的に教えて成り立つものではありません。講義内容について質問や疑問があるときは、授業中に投げかけてください。

同時に解剖や生理学の講義が進行しています。生活健康論の試験ではその知識の詳細を問うことはありませんが、人体の解剖生理の理解が基盤となって、人の生活の理解が深まるので、関連分野について、積極的に予習・復習を進めてください。

教科書・参考書

教科書：ローパー・ローガン・ティアニー看護モデル　日本看護協会出版会

参考書：薄井　坦子　科学的看護論　第三版　日本看護協会出版会

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
看護対象論Ⅰ （Ｎ１３０２１） 看護の対象を理解し、対人援助について考える	演習	1	30	1	後期	必修	看国試必修	長尾厚子 単独担当	7号館4階研究室
科目担当者	長尾厚子								

関連ときわコンピテンシー	専門力、省察力、傾聴力、対話力
授業の概要	「WHO 憲章にみられる統合的存在」、「生物体・生活体の統一体」、「成長・発達し変化する存在」、「ニードをもった存在」といった4 つの側面から解説する。また、看護の対象を、個人、家族･集団･地域社会、さらにあらゆる年代へ拡大した概念としてとらえる。 さらに、看護実践の、対象者―看護職間という相互の関係の上に成立する特性をヒューマンケアの概念と意義の観点から考察することもねらいとする。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	看護の対象についての人間の理解	【予習】「看護の対象」についての既習内容 【復習】課題レポート①
第2回	看護の対象を理解するための具現例からの考察	【予習】前回の授業内容 【復習】看護専門職の役割について
第3回	看護の対象としての家族・集団・地域社会	【予習】家族・集団・地域社会について 【復習】授業内容の整理
第4回	看護実践における対象者との相互関係の理解	【予習】課題レポート①提出 【復習】グループでの発表内容作成
第5回	対象者との相互作用に関するコミュニケーション論① コミュニケーションに関する基礎知識	【予習】グループでの発表内容作成 【復習】授業内容の整理
第6回	対象者との相互作用に関するコミュニケーション論② コミュニケーションに必要な態度	【予習】前回授業の振り返り 【復習】課題レポート②
第7回	援助関係成立のための対人関係の技術を高める① 対人コミュニケーション技法	【予習】前回授業の振り返り 【復習】グループでの発表内容作成
第8回	援助関係成立のための対人関係の技術を高める② 対人コミュニケーションを本から学ぶ	【予習】課題レポート②提出 【復習】グループでの発表内容作成
第9回	看護実践における援助的関係成立に向けて	【予習】テキストの実践編を熟読 【復習】授業内容の整理
第10回	看護の対象との援助的関係成立のための要件	【予習】前回授業の振り返り 【復習】授業内容の整理
第11回	看護実践における対象者との相互作用場面からの考察	【予習】前回授業の振り返り 【復習】模擬患者とのセッション資料熟読
第12回	模擬患者との対応場面から、看護対人援助を考える① 模擬患者とのセッション	【予習】これまでの授業の確認 【復習】セッションの振り返り
第13回	模擬患者との対応場面から、看護対人援助を考える② 体験場面からの考察	【予習】セッションから自己課題の明確化 【復習】授業内容の整理
第14回	看護実践の対象者―看護職間という相互の関係の上に成立する特性をヒューマンケアの概念と意義の観点から考察する。	【予習】前回授業の振り返り 【復習】授業内容の整理
第15回	自己の対人援助に関する課題を明確にする。	【予習】前回授業の振り返り 【復習】これまでの授業内容の整理

学修の到達目標
1）看護の対象を４つの側面から理解できる。 2）看護の対象を個人、家族・集団・地域社会、さらにあらゆる年代へ拡大した概念としてとらえることができる。 3）看護実践の対象者―看護職間の相互作用に関する基礎的知識・技術を修得することができる。 4）看護実践の対象者―看護職間という相互の関係の上に成立する特性をヒューマンケアの概念と意義の観点から考察することができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①看護の対象を４つの側面から理解できる。（専門力）	秀	看護の対象について４つの側面から人間を理解し、説明できる。
	優	看護の対象について４つの側面から人間を理解できる。
	良	看護の対象についていくつかの側面から人間を理解できる。
	可	看護の対象について何らかの記述ができる。
	不可	看護の対象についての人間の理解ができない。
②看護の対象を個人、家族・集団・地域社会、さらにあらゆる年代へ拡大した概念としてとらえることができる。（専門力）	秀	看護の対象を個人、家族・集団・地域社会、さらにあらゆる年代へ拡大した概念として理解し、説明できる。
	優	看護の対象を個人、家族・集団・地域社会、さらにあらゆる年代へ拡大した概念として理解できる。
	良	看護の対象を拡大した概念として捉えることができる。
	可	看護の対象を拡大した概念として何らかの記述ができる。
	不可	看護の対象を拡大した概念として理解できない。
③－１）看護実践の対象者―看護職間の相互作用に関する基礎的知識・技術を修得することができる。（傾聴力・対話力）	秀	看護実践の対象者―看護職間の相互作用に関する基礎的知識について理解し、説明できる。
	優	看護実践の対象者―看護職間の相互作用に関する基礎的知識について理解できる。
	良	看護実践の対象者―看護職間の相互作用に関する基礎的知識がわかる。
	可	看護実践の対象者―看護職間の相互作用に関する基礎的知識について何らかの記述ができる。
	不可	看護実践の対象者―看護職間の相互作用に関する基礎的知識が理解できない。
③－２）看護実践の対象者―看護職間の相互作用に関する基礎的知識・技術を修得することができる。（傾聴力・対話力）	秀	看護実践の対象者―看護職間の相互作用に関する技術を適応し、対象者への対応ができる。
	優	看護実践の対象者―看護職間の相互作用に関する技術を用いて、対象者への対応ができる。
	良	看護実践の対象者―看護職間の相互作用に関する技術を身につけ、対象者への対応ができる。
	可	看護実践の対象者―看護職間の相互作用に関する技術が身についている。
	不可	看護実践の対象者―看護職間の相互作用に関する技術が身についていない。
③－３）看護実践の対象者―看護職間の相互作用に関する基礎的知識・技術を修得することができる。（傾聴力・対話力）	秀	看護実践の対象者―看護職間の相互作用場面を通して、対象者の苦痛・苦悩を読み取ることができる。
	優	看護実践の対象者―看護職間の相互作用を通して、対象者の苦痛・苦悩を捉えることができる。
	良	看護実践の対象者―看護職間の相互作用を通して、対象者の苦痛・苦悩がわかる。
	可	看護実践の対象者―看護職間の相互作用を通して、対象者の苦痛・苦悩の様子がわかる。
	不可	看護実践の対象者―看護職間の相互作用を通して、対象者の苦痛・苦悩がわからない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
④看護実践の対象者―看護職間という相互の関係の上に成立する特性をヒューマンケアの概念と意義の観点から考察することができる。（省察力）	秀	看護実践の対象者―看護職間という相互の関係の上に成立する特性をヒューマンケアの概念と意義の観点から理解し、説明できる。
	優	看護実践の対象者―看護職間という相互の関係の上に成立する特性をヒューマンケアの概念と意義の観点から理解できる。
	良	看護実践の対象者―看護職間という相互の関係の上に成立する特性をヒューマンケアの概念と意義の観点からわかる。
	可	看護実践の対象者―看護職間という相互の関係の上に成立する特性をヒューマンケアの概念と意義の観点からの何らかの記述ができる。
	不可	看護実践の対象者―看護職間という相互の関係の上に成立する特性をヒューマンケアの概念と意義の観点からの理解ができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	30	10	0	0	0	100
評価項目	①対象の理解	10	10	0	0	0	0	20
	②対象の理解の拡大	5	0	0	0	0	0	5
	③相互作用に関する知識・技術	30	10	10	0	0	0	50
	④相互関係の特性の考察	15	10	0	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	筆記試験
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
提出物	①	✓	課題レポート①「聞く、話す」ことに関する形態と機能からコミュニケーションの成立に必要な要素 課題レポート②課題図書レポート（第８回目の授業に向けて準備する） 以上①、②のレポート課題は、授業の進行とともに提出し、学んだ内容を共有できるような学習内容・方法とする。（授業の進行に伴って説明する）
	②		
	③	✓	
	④	✓	
成果発表（口頭・実技）	①		第 12 回目には地域ボランティアの模擬患者に参画していただき「看護場面のセッション」を実施する。セッションをとおして、対象の理解を深め、相互作用に関する技術を用いて看護職者として対人援助に対する考察を深めることとなる。セッションには積極的な学習を期待する。
	②		
	③	✓	
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など
「看護の対象」について当該科目以外にも学んだ内容をさらに広げたり、深めたりしながら看護専門職としての知識を定着させる。また、看護対人援助者としての基本となるコミュニケーションの知識・技能・態度を身につける科目でもある。 模擬患者（地域ボランティア）とのセッションを通して自己の課題を明確にし、ヒューマンケアの概念と意義の観点からの考察を深めることとなる。
教科書・参考書
教科書：『看護場面におけるコミュニケーションガイド』 米谷淳・鎌田美智子編著　日総研出版 参考書：『現象学的人間論と看護』 パトリシアベナー他著・難波 卓志訳　医学書院 『科学的看護論』 薄井坦子著　日本看護協会出版会 『看護の基本となるもの』 ヴァージニア・ヘンダーソン著湯槇ます他訳　日本看護協会出版会 『ケアの本質－生きることの意味』 M. メイヤロフ著　田村真他訳　ゆみる出版

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
成人看護学概論 （Ｎ１３０３０） 大人になる人･大人である人の看護を知ろう！	講義	1	15	1	後期	必修	看国試必修	生島祥江 単独担当	7 号館 3 階 研究室
科目担当者	生島祥江								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、論理的思考力、批判的思考力、探求力、省察力
授業の概要	ライフサイクルにおける成人期にある対象の特性、保健の動向と特徴を踏まえた上で、健康の維持・増進、対象自らが健康問題を解決できるよう支援する看護に必要な理論と方法について学習する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第 1 回	ガイダンス、成人看護の対象である成人とは	【予習】シラバスの内容の熟読 【復習】本日の授業内容の振り返り
第 2 回	青年期、壮年期・中年期の身体・心理・社会的特徴と健康問題	【復習】本日の授業内容の振り返り
第 3 回	向老期の身体・心理・社会的特徴と健康問題、ライフスタイルと健康問題	【復習】本日の授業内容の振り返り
第 4 回	成人の保健の動向、疾病構造の傾向、健康を維持するための保健行動	【復習】本日の授業内容の振り返り
第 5 回	成人の看護に有用な概念①　危機理論	【復習】本日の授業内容の振り返り
第 6 回	成人の看護に有用な概念②　セルフケア理論	【復習】本日の授業内容の振り返り
第 7 回	成人の看護に有用な概念③　ケアリング	【復習】本日の授業内容の振り返り
第 8 回	成人の看護実践における倫理的課題	【復習】１～８回の授業内容の振り返りシートの作成

学修の到達目標
1．ライフサイクルにおける成人の特徴と健康問題について理解する。 2．成人保健の動向を理解する。 3．健康を維持するための保健行動について理解する。 4．成人の看護活動に有用な概念について理解する。 5．成人看護における倫理的課題について理解する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①成人期にある対象の特性、保健の動向、成人の看護活動に有用な概念についての知識を理解する。 （専門力）	秀	成人期にある対象の特性、保健の動向、成人の看護活動に有用な概念についての知識を十分に身につけており、さらに健康のレベルに応じて概念を活用する技術を身につけている。
	優	成人期にある対象の特性、保健の動向、成人の看護活動に有用な概念についての知識を十分に身につけている。
	良	成人期にある対象の特性、保健の動向についての知識、さらに成人の看護活動に有用な概念についての知識を身につけている。
	可	成人期にある対象の特性、保健の動向についての知識を身につけている。
	不可	成人期にある対象の特性、保健の動向についての知識を身につけていない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②成人の健康のレベルに応じた看護の基本を、概念を用いて考えることができる。（論理的思考力）	秀	健康のレベルに応じた看護の基本を、概念を用いて十分論理的に考えることができ、かつ自らの思考内容のみでは決して十分でないことを認識している。
	優	健康のレベルに応じた看護の基本を、概念を用いて十分論理的に考えることができる
	良	健康のレベルに応じた看護の基本を、概念を用いて論理的に考えることができる。
	可	健康のレベルに応じた看護の基本を、概念を用いて十分に考えることはできないが論理的に考えることができる。
	不可	健康のレベルに応じた看護の基本を、概念を用いて考えることができない上に、論理的に考えることができない。
③成人の看護における倫理的課題を、多角的・批判的に捉え、考えることができる。（批判的思考力）	秀	成人の看護における倫理的課題を、十分多面的に捉え、結論づけることができ、かつ自らの思考内容のみでは決して十分でないことを理解している。
	優	成人の看護における倫理的課題を、十分多面的に捉え、結論づけることができる。
	良	成人の看護における倫理的課題を、いくつかの側面から捉え、結論づけることができる。
	可	成人の看護における倫理的課題を、一面から考えているにすぎないことを認識している。
	不可	成人の看護における倫理的課題を、一面から考えて、できたと認識している。
④成人の健康のレベルに応じた看護の基本および看護における倫理的課題を、探求することができる。（探求力）	秀	健康のレベルに応じた看護の基本および看護における倫理的課題を、十分に突き詰めていくことができ、結果からさらに探求していくことができる。
	優	健康のレベルに応じた看護の基本および看護における倫理的課題を、課せられた範囲を超えて十分に突き詰めていくことができる。
	良	健康のレベルに応じた看護の基本および看護における倫理的課題を、課せられた範囲で突き詰めていくことができる。
	可	健康のレベルに応じた看護の基本および看護における倫理的課題を、十分ではないが突き詰めていくことができる。
	不可	健康のレベルに応じた看護の基本および看護における倫理的課題を、突き詰めていくことができない。
⑤成人看護に関する学修を自ら振り返ることができる。（省察力）	秀	授業で学んだ成人看護に関する知識について、振り返り、自発的に自らまとめることができる。さらに自分の考えを反省的に述べることができる。
	優	授業で学んだ成人看護に関する知識について、振り返り、自発的に自らまとめることができる。さらに自らの考えを反省的に述べるようとする努力が認められる。
	良	授業で学んだ成人看護に関する知識について、振り返り、自発的に自らまとめることができる。
	可	授業で学んだ成人看護に関する知識について、振り返り、他者からの助言のもとまとめることができる。
	不可	授業で学んだ成人看護に関する知識について、自ら振り返り、まとめることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	20	0	0	10	0	100
評価項目	①成人看護の基本的知識の修得	50	10	0	0	0	0	60
	②成人の看護の基本の論理的思考	0	5	0	0	0	0	5
	③成人の倫理的課題の批判的思考	0	5	0	0	0	0	5
	④成人の看護の探求	20	0	0	0	0	0	20
	⑤学習の振り返り	0	0	0	0	10	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	筆記試験を行う。学修の到達目標の到達状況を確認する内容で行う。
	②		
	③		
	④	✓	
	⑤		
提出物	①	✓	１～４回の授業終了後は「授業で学んだこと」や「感想」を記述した提出物で行う。５～７回の授業終了後は、授業内容の理解を確認する課題について記述した提出物で行う。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤		
ポートフォリオ	①		毎回の授業の学びを俯瞰し、記述した振り返りシートで行う。
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

前期授業終了時点での「看護とは何か」の答えを整理して第１回目の授業に臨むこと。毎回の授業終了後は学習を整理しノートにまとめておくこと。

教科書・参考書

教科書：『系統看護学講座　成人看護学［１］成人看護学総論』　小松浩子他著　医学書院

参考書：『成人看護学シリーズ　成人看護学概論』　大西和子・岡部聰子編　ヌーヴェルヒロカワ
『ナーシンググラフィカ　成人看護学①成人看護学概論』　安酸史子他編　メディカ出版
『新体系　看護学全書　成人看護学①成人看護学概論・成人保健』　黒江ゆり子編　メヂカルフレンド社
その他、随時紹介します。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
老年看護学概論 （Ｎ１３０４０） 老年看護学への招待	講義	1	15	1	後期	必修	看国試必修	谷口由佳 単独担当	7 号館 3 階 研究室
科目担当者	谷口由佳								

関連ときわコンピテンシー	専門力、情報力、論理的思考力、探求力
授業の概要	高齢者（老年期にある人々）の特徴を身体的、心理・精神的、社会的側面から捉え、それらが高齢者の生活にどのような影響をもたらしているのかを理解する。また、高齢者を取り巻く保健医療福祉の現状と課題を学び、超高齢社会における老年看護の役割と責務について考察する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第 1 回	ガイダンス；老年看護学の考え方、加齢・老化の定義、老化学説、発達課題	【予習】教科書の該当箇所の熟読 【復習】配布資料の見直し
第 2 回	老いるとは？　DVD『Driving Miss Daisy』の視聴	【予習】DVD に関する情報収集 【復習】ワークシートの完成
第 3 回	加齢に伴う変化の特徴（1）- 主人公 Daisy を捉える （グループワーク①）	【予習】配布資料の見直し 【復習】グループワークの補足
第 4 回	加齢に伴う変化の特徴（2）- 捉えた主人公 Daisy の図解化 （グループワーク②）	【予習】グループワークの準備 【復習】グループワークの補足
第 5 回	加齢に伴う変化の特徴（3）- 発表（グループワーク③）	【予習】発表準備 【復習】発表・授業の振り返り
第 6 回	高齢者を取り巻く保健医療福祉の現状と課題	【予習】教科書の該当箇所の熟読 【復習】配布資料の見直し
第 7 回	老年看護の役割と責務	【予習】教科書の該当箇所の熟読 【復習】配布資料の見直し
第 8 回	まとめ	【予習】授業全体の振り返り 【復習】授業全体の振り返り

学修の到達目標

1．高齢者の特徴を身体的、心理・精神的、社会的側面から捉える視点を養う。
2．高齢者の特徴を踏まえたうえで、それらが高齢者の生活に与える影響を理解する。
3．高齢者を取り巻く保健医療福祉の現状と課題を知る。
4．超高齢社会における老年看護の役割と責務について考察する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①高齢者の特徴を身体的、心理・精神的、社会的側面から捉える視点を養う。（情報力）	秀	加齢に伴う身体的、心理・精神的、社会的変化の一般的特徴を十分に理解し、なおかつDVDの主人公や身近な高齢者と対比させ、それらが画一的なものではなく、個別的で、多様性に富んでいることに自ら気づくことができている。
	優	加齢に伴う身体的、心理・精神的、社会的変化の一般的特徴を十分に理解し、なおかつDVDの主人公や身近な高齢者と対比させ、それらが画一的なものではなく、個別的で、多様性に富んでいることに助言を生かして気づくことができている。
	良	加齢に伴う身体的、心理・精神的、社会的変化の一般的特徴を十分に理解し、なおかつDVDの主人公や身近な高齢者と対比させ、自分なりの考えをもつことができている。
	可	加齢に伴う身体的、心理・精神的、社会的変化の一般的特徴を理解することができている。
	不可	加齢に伴う身体的、心理・精神的、社会的変化の一般的特徴を理解することができていない。
②高齢者の特徴を踏まえたうえで、それらが高齢者の生活に与える影響を理解する。（探求力）	秀	高齢者の特徴と生活への影響を関連させ、十分に理解することができている。なおかつ、DVDの主人公や身近な高齢者と対比させて理解を深め、さらに老年看護のあり方を考える発展性が感じられる。
	優	高齢者の特徴と生活への影響を関連させ、十分に理解することができている。なおかつ、DVDの主人公や身近な高齢者と対比させ、理解を深めることができている。
	良	高齢者の特徴と生活への影響を関連させ、十分に理解することができている。
	可	高齢者の特徴と生活への影響を関連させてはいないが、高齢者の生活を理解しようとする努力がみられる。
	不可	高齢者の特徴を理解しておらず、生活への影響についても理解することができていない。
③高齢者を取り巻く保健医療福祉の現状と課題を知る。（専門力）	秀	授業で学んだ高齢者に関連する統計データや施策について、正しい知識を身につけることができている。さらに、高齢者を取り巻く保健医療福祉の現状と課題を知り、周辺の知識とつなげて理解を深め、課題解決に向かって老年看護のあり方を考えようとする姿勢がみられる。
	優	授業で学んだ高齢者に関連する統計データや施策について、正しい知識を身につけることができている。さらに、高齢者を取り巻く保健医療福祉の現状と課題を知り、周辺の知識とつなげて理解を深めることができている。
	良	授業で学んだ高齢者に関連する統計データや施策について、正しい知識を身につけることができている。
	可	授業で学んだ高齢者に関連する統計データや施策について、正しい知識を身につけようとする努力がみられる。
	不可	授業で学んだ高齢者に関連する統計データや施策について、知識を身につけることができていない。
④超高齢社会における老年看護の役割と責務について考察する。（論理的思考力）	秀	授業で学んだ内容と周辺の知識をあわせて、超高齢社会における老年看護の役割と責務についての考えを深め、自分なりの見解を述べることができている。さらに、その内容が、題意把握や内容理解、論理構成、考察力、表現・文字の正確さなど、全てにおいて満足できる水準を超えている。
	優	授業で学んだ内容と周辺の知識をあわせて、超高齢社会における老年看護の役割と責務についての考えを深め、自分なりの見解を述べることができている。さらに、その内容が、題意把握や内容理解、論理構成、考察力、表現・文字の正確さなど、ほぼ全てにおいて満足できる水準を超えている。
	良	授業で学んだ内容から超高齢社会における老年看護の役割と責務についての考えを深め、自分なりの見解を述べることができている。さらに、その内容が、題意把握や内容理解、論理構成、考察力、表現・文字の正確さなど、ある程度満足できる水準に達している。
	可	授業で学んだ内容から超高齢社会における老年看護の役割と責務についての考えをまとめることができている。
	不可	超高齢社会における老年看護の役割と責務について考えることができていない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	10	10	10	0	0	100
評価項目	①高齢者の特徴を身体的、心理・精神的、社会的側面から捉える視点を養う。	5	0	5	5	0	0	15
	②高齢者の特徴を踏まえたうえで、それらが高齢者の生活に与える影響を理解する。	5	0	5	5	0	0	15
	③高齢者を取り巻く保健医療福祉の現状と課題を知る。	40	0	0	0	0	0	40
	④超高齢社会における老年看護の役割と責務について考察する。	20	10	0	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	授業を通し学び得た知識を筆記試験で確認します。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
提出物	①		超高齢社会における老年看護の役割と責務について考察し、レポートにまとめてもらいます。題意把握や内容理解、論理構成、考察力、表現・文字の正確さなどについて評価します。
	②		
	③		
	④	✓	
成果発表（口頭・実技）	①	✓	DVD『Driving Miss Daisy』の視聴を通し、高齢者の特徴をどう理解したかについて、グループワークの成果を発表してもらいます。発表に対する準備性、内容の独創性、論旨の簡潔明瞭さ・妥当性・説得力、発表態度や時間管理などについて評価します。
	②	✓	
	③		
	④		
作品	①	✓	DVD『DRIVING MISS DAISY』をもとに、KJ 法を用いて老年期にある主人公の人物像を捉えていきます。グループワークで様々な意見を出し合い模造紙に図示していき、仕上がった作品を評価します。グループワークにおける話し合いへの参加など授業中の取り組み、授業への参加度も評価の対象になります。
	②	✓	
	③		
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など
高齢者に関心をもつことが学習の第一歩です。本授業を機会に身近な高齢者と積極的にふれあったり、お話を聞いたりして、理解を深めていこうとする態度が望まれます。
教科書・参考書
教科書：『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学』 医学書院 参考書：随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
小児看護学概論 （Ｎ１３０６０） 子どもと家族に寄り添う看護	講義	1	15	1	後期	必修	看国試必修 養教免必修	庄司靖枝 単独担当	7号館3階 研究室
科目担当者	庄司靖枝								

関連ときわコンピテンシー	専門力、探求力、情報力、論理的思考力、批判的思考力、デザイン力
授業の概要	小児看護の理念とともに、健康な子ども観、子どもの権利、権利擁護を学び、子どもの権利の保障や倫理的課題などを考える力を養う。また小児看護を行う上での基盤となる、小児看護を支える理論 や概念などの基礎知識を学ぶ。そして子どもの健康を維持･増進させるための小児看護の役割･責務について学習し、理解を深める。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	小児看護とは 小児看護の移り変わり	【予習】シラバス内容の熟読 【復習】本日の授業の振り返りや質問内容を記述し、提出
第2回	小児の人権 子どもの権利擁護 （子ども憲章などの資料を参考にグループディスカッション）	【予習】第2回のテーマについてテキストを熟読 【復習】本日の授業の振り返りや質問内容を記述し、提出
第3回	小児看護における法律	【予習】第3回のテーマについてテキストを熟読 【復習】本日の授業の振り返りや質問内容を記述し、提出
第4回	小児看護における理論 1）ボウルビイ愛着理論 2）ピアジェの認知発達理論	【予習】第4回のテーマについてテキストを熟読 【復習】本日の授業の振り返りや質問内容を記述し、提出
第5回	小児看護における理論 3）エリクソンの自我発達理論 4）マーラー分離固体化理論 5）家族関係に関する概念と理論	【予習】第5回のテーマについてテキストを熟読 【復習】本日の授業の振り返りや質問内容を記述し、提出
第6回	小児のヘルスプロモーション 1）健康増進に向けた政策	【予習】第6回のテーマについてテキストを熟読 【復習】本日の授業の振り返りや質問内容を記述し、提出
第7回	小児のヘルスプロモーション 2）健康増進のための社会制度、社会資源の活用	【予習】第7回のテーマについてテキストを熟読 【復習】本日の授業の振り返りや質問内容を記述し、提出
第8回	小児を取り巻く環境と対策 （グループディスカッション）	【予習】第8回のテーマについてテキストを熟読 【復習】本日の授業の振り返りや質問内容を記述し、提出

学修の到達目標
1．小児看護の対象理解に発達理論を活用することを理解する。 2．現代社会と小児医療における子どもの権利を尊重した看護について理解できる。 3．子どもと家族を取り巻く社会環境について理解できる。 4．小児看護の役割と課題を理解できる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①発達理論を活用できる（論理的思考力）	秀	子どもを理解するためにどんな発達理論があるのか身近な例を示し、説明できる。
	優	子どもを理解するためにどんな発達理論があるのか、その特徴も記述できる。
	良	子どもを理解するためにどんな発達理論があるのかすべて記述できる。
	可	子どもを理解するための発達理論を２つ以上記述できる。
	不可	子どもを理解するための発達理論を１つも記述できない。
②権利を尊重した看護について理解できる。（批判的思考力）	秀	入院している子どもの権利擁護やその根拠を説明でき、求められる看護について考察し記述できる。
	優	入院している子どもの権利擁護を説明でき、求められる看護について記述できる。
	良	入院している子どもの権利擁護について説明できる。
	可	入院している子どもの権利擁護にどのようなものがあるのか２つ以上記述できる
	不可	入院している子どもの権利擁護にどのようなものがあるのか記述できない。
③子どもと家族を取り巻く社会環境について理解できる。（情報力）	秀	子どもと家族を取り巻く社会環境について説明し、その課題について思考し記述することができる。
	優	子どもと家族を取り巻く社会環境について例を複数挙げ説明できる。
	良	子どもと家族を取り巻く社会環境について具体例を３つ以上記述できる。
	可	子どもと家族を取り巻く社会環境について具体例を２つ以上記述できる。
	不可	子どもと家族を取り巻く社会環境について記述できない。
④小児看護の役割と課題を理解できる。（デザイン力）	秀	小児看護における看護師の役割と課題、必要な看護師の能力とその根拠を考察し説明できる。
	優	小児看護における看護師の役割と課題、必要な看護師の能力とその根拠を記述できる。
	良	小児看護における看護師の役割と課題、必要な看護師の能力を記述できる。
	可	小児看護における看護師の役割と課題を記述できる。
	不可	小児看護における看護師の役割と課題を記述できない。
⑤子どもに興味・関心を持つ（探求力）	秀	最近の子どもに関するニュースから小児看護学で学んだ知識を思考し自己の意見を記述できる。
	優	最近の子どもに関するニュースから小児看護学で学んだ知識を取り入れ自己の意見を記述できる。
	良	最近の子どもに関するニュースから子どもに携わる者として意見を記述できる。
	可	最近の子どもに関するニュースから自分の意見を記述できる。
	不可	最近の子どもに関するニュースから自分の意見を記述できない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	0	10	0	20	0	100
評価項目	①発達理論を活用できる	20	0	0	0	10	0	30
	②権利を尊重した看護の理解	20	0	0	0	0	0	20
	③子どもと家族を取り巻く社会環境についての理解	10	0	10	0	0	0	20
	④小児看護の役割と課題の理解	10	0	0	0	10	0	20
	⑤子どもに興味・関心を持つ	10	0	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	定期試験期間中に実施する筆記試験
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
成果発表 （口頭･実技）	①		第２回、第８回でそれまでの授業で学んだ知識や理解をもとに、小児看護に関する意見をディスカッションし、主体的に自分の考えをまとめ発表することが求められる。
	②		
	③	✓	
	④		
	⑤		
ポートフォリオ	①	✓	毎回の授業での受講シートに本日の授業からの自分の意見や質問、学んだことを記述し、授業の最後に提出する。
	②		
	③		
	④	✓	
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など
医療に限らず子どもに関する情報（新聞、ニュースなど）に触れ興味を持つように心がける 人間を洞察する力を常に養い、自分の意見を表現することを心掛ける
教科書・参考書
教科書：「小児看護概論 － 子どもと家族に寄り添う援助」二宮啓子・今野美紀編集、南江堂 「生涯人間発達論」服部祥子、医学書院 参考書：「小児看護学①小児看護学概論・小児保健」松尾 宣武・濱中喜代、メヂカルフレンド社

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
精神看護学概論 （Ｎ１３０９０） 心の健康と不健康	講義	1	15	1	後期	必修	看国試必修 養教免必修	木村聡子 複数担当	7号館4階 研究室他
科目担当者	木村聡子、畑吉節未								

関連ときわコンピテンシー	専門力、情報力、論理的思考力、批判的思考力、表現力、判断力、傾聴力・対話力
授業の概要	精神の機能と健康に関する基本概念、および様々な成長・発達段階にある人の精神・心理状態を理解するための基礎理論を学び看護実践意活用するための基礎知識を習得する。また、精神の健康問題を持つ人の生きづらさを理解し、精神看護活動を支える基礎的な理論を習得する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	精神の健康―不健康とは （担当者：木村）	【予習】シラバスの内容の熟読 【復習】精神の機能・脳の機能
第2回	心の発達と精神の機能 （担当者：木村）	【予習】シラバスの内容の熟読 【復習】ピアジェ、感情
第3回	こころを護る理論～防衛機制について （担当者：木村）	【予習】シラバスの内容の熟読 【復習】自我防衛機制
第4回	ストレスマネージメント （担当者：木村）	【予習】シラバスの内容の熟読 【復習】ラザラス、ストレス対処
第5回	家庭・学校・職場における精神の健康問題と危機理論 （担当者：木村）	【予習】シラバスの内容の熟読 【復習】様々な場における精神の健康問題、危機理論
第6回	対人関係論【演習】 （担当者：畑）	【予習】シラバスの内容の熟読 【復習】授業で提示された課題
第7回	看護師のメンタルヘルス （担当者：木村）	【予習】シラバスの内容の熟読 【復習】授業配布プリント
第8回	精神医療福祉の現状と課題 （担当者：木村）	【予習】精神医療に関する新聞・報道に関心をむける。 【復習】自己の意識と、実際の現状から医療者としての視点で捉えなおす

学修の到達目標

精神の機能と発達について理解できる。
精神の健康を脅かす様々な要因を理解する。
精神看護活動に関する諸理論の基礎を理解する。
ストレスの心身への影響を理解し、対処方法を理解し、実施できる。
精神医療福祉の現状を理解し今後の課題について自らの視点で捉えることができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①精神の機能と発達について理解できる。（論理的思考力）	秀	実際の事象について、各種理論から考えることができる。
	優	各種理論について実際の事象について一部考えることができる。
	良	各種理論について説明できる。
	可	各種理論について一部説明できる。
	不可	各種理論についての説明ができない。
②ストレスの心身への影響を理解し、対処方法を理解し、実施できる。（省察力）	秀	精神の健康を脅かす様々な要因と、その心身への表れとの関係、対処方法について具体的な事象に対して考えることができる。
	優	精神の健康を脅かす様々な要因と、その心身への表れとの関係又は対処方法について具体的な事象に対して考えることができる。
	良	精神の健康を脅かす様々な要因と、その心身への表れとの関係、対処方法について説明できる。
	可	精神の健康を脅かす様々な要因と、その心身への表れとの関係または対処方法について説明できる。
	不可	精神の健康を脅かす様々な要因と、その心身への表れとの関係あるいは対処方法について説明できない。
③対人援助技術の基本について理解できる。（傾聴力・対話力）	秀	授業で学んだ対人援助技術の要素を理解し、演習内容について振り返ることができる。また、その内容を他者にもわかるようにまとめ、考察することができる。
	優	授業で学んだ対人援助技術の要素を理解し、演習内容について振り返ることができる。また、その内容を他者にもわかるようにまとめ、考察するよう努力することができる。
	良	授業で学んだ対人援助技術の要素を理解し、演習内容について振り返ることができる。また、その内容を他者にもわかるようにまとめることができる。
	可	授業で学んだ対人援助技術の要素を理解し、演習内容について振り返ることができる。また、その内容をまとめることができる。
	不可	授業で学んだ対人援助技術の要素を理解し、演習内容について振り返りや、その内容についてまとめることができない。
④精神医療福祉の現状について自らの考えを深めることができる。（批判的思考力）	秀	自ら、精神医療福祉の現状にも関心をもち情報収集を行い、授業の内容と併せて今後の課題について考察することができる。
	優	授業を受け、精神医療福祉の現状について理解し、今後の課題について考察を深めることができる。
	良	授業を受け、精神医療福祉の現状について理解し、今後の課題について理解し、自分の考えを述べることができる。
	可	授業を受け、精神医療福祉の現状について理解し、今後の課題について理解できる。
	不可	精神医療の現状の理解や、今後の課題についての理解が不十分である。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	10	0	0	0	20	100
評価項目	①精神の機能と発達の理解	35	0	0	0	0	5	40
	②ストレスの心身への影響と対処	35	0	0	0	0	5	40
	③対人援助技術の基本理解	0	10	0	0	0	0	10
	④精神科医療福祉の現状理解と今後の課題への考察	0	0	0	0	0	10	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	授業の資料のみならず、講義内容も試験に含みます。しっかりと受講しメモを取るようにしてください。
	②	✓	
	③		
	④		
提出物	①		第 6 回授業でレポート課題を課します。
	②		
	③	✓	
	④		
その他	①	✓	授業中に小テストまたはコメントペーパーを配布し、それらを評価の対象とします。
	②	✓	
	③		
	④	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
積極的・主体的な受講態度を期待します。新聞や、ニュース、まんがなど精神科医療に関する情報はたくさんあります。まずは身近なところから触れていってください。
教科書・参考書
教科書：『心・体・関わりのプラクティス　精神看護学１・２』南江堂 参考書：

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
基本看護技術Ⅰ（共通技術・生活援助技術）（Ｎ１３１１０） 看護実践の第一歩	演習	2	60	1	後期	必修	看国試必修	尾﨑雅子 複数担当	7号館3階研究室他
科目担当者	尾﨑雅子、山口有美、藤原桜、中村由果理、西原詩子、白石奈央								

関連ときわコンピテンシー	専門力、省察力、探求力、継続力、責任感
授業の概要	看護行為の基本となる看護技術の構造と内容を明確にし、看護実践における技術の意義、およびあらゆる看護場面に共通する技術の基本を修得する。また、環境の中で自ら回復していく能動的な主体である看護の対象に対し、生命力の消耗を最小にするように、日常生活の基本的な援助技術の知識と方法を修得する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション、看護技術とは、コミュニケーションについて他　（担当者：全員）	【予習】シラバスの確認 該当箇所のテキストを読む 【復習】事後課題 （学習内容の整理とリフレクション）
第2回	感染予防　【演習】衛生学的手洗い 看護場面に共通の基本技術：生活環境の調整①　（担当者：全員）	【予習】該当箇所のテキストを読む 事前課題 【復習】事後課題 （学習内容の整理とリフレクション）
第3回	看護場面に共通の基本技術：生活環境の調整② 【演習】ベッドメーキング、療養環境の調整　（担当者：全員）	同上
第4回	共通の基本技術・生活援助技術：生活環境の調整③ 【演習】臥床患者のリネン交換　（担当者：全員）	同上
第5回	共通の基本技術・生活援助技術：ボディメカニクス・活動と休息① 【演習】体位変換　ほか　（担当者：全員）	同上
第6回	共通の基本技術・生活援助技術：活動と休息② 【演習】車椅子への移乗、移送　（担当者：全員）	同上
第7回	生活援助技術：活動と休息③ 【演習】歩行、ストレッチャーでの移送　（担当者：全員）	同上
第8回	生活援助技術：衣生活　【演習】寝衣交換　（担当者：全員）	同上
第9回	生活援助技術：清潔の保持①　【演習】足浴　（担当者：全員）	同上
第10回	生活援助技術：清潔の保持②　【演習】全身清拭（担当者：全員）	同上
第11回	生活援助技術：清潔の保持③　【演習】洗髪　（担当者：全員）	同上
第12回	生活援助技術：栄養摂取と排泄①　（担当者：全員）	同上
第13回	生活援助技術：栄養摂取と排泄②【演習】食の援助（担当者：全員）	同上
第14回	生活援助技術：栄養摂取と排泄③【演習】排泄の援助 （担当者：全員）	同上
第15回	看護行為を実践するものとしての自己を振り返る、まとめ グループディスカッション　（担当者：全員）	【予習】自己の課題、質問事項の整理 【復習】学習内容の整理とリフレクション

学修の到達目標
1．看護技術（看護行為）の特徴と適切に援助するために留意すべき点について理解できる。 2．あらゆる看護場面に共通する基本技術と生活援助技術に関連する原理・原則について理解できる。 3．あらゆる看護場面に共通する基本技術と生活援助技術を対象の基本的ニーズ充足に向けて、根拠に基づいた実践ができる。 4．演習でのロールプレイングを通して、援助技術を行う上での看護専門職としての基本的な態度を身に付けることができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①看護技術（看護杭）の特徴と適切に援助するために留意すべき点について理解できる。（専門力）	秀	看護技術(看護行為)は対象のニーズにより成り立っており、基本(原理･原則)をふまえた上で、対象の状況に応じて目的･方法が変化していくことを考察できる。
	優	看護技術(看護行為)は対象のニーズにより成り立っており、基本(原理･原則)に基づいて行うことが説明できる。
	良	看護技術(看護行為)は人間を対象にした行為であり、対象のニーズにより成り立っていることを理解できる。
	可	看護技術(看護行為)は人間を対象にした行為であると把握している。
	不可	上記について把握していない。
②あらゆる看護場面に共通する基本技術と生活援助技術に関連する原理・原則について理解できる。（探求力）	秀	各援助技術の原理･原則に基づいた方法や根拠について、既習した知識と演習での体験を関連付けて理解し、より良さを目指して考察することができる。
	優	各援助技術の原理･原則に基づいた方法や根拠について、既習した知識と演習での体験を関連付けて説明できる。
	良	各援助技術の原理･原則に基づいた方法や根拠について、既習した知識を用いて理解できる。
	可	各援助技術の原理･原則に基づいた方法や手順について把握している。
	不可	上記について把握していない。
③-１あらゆる看護場面に共通する基本技術と生活援助技術を対象の基本的ニーズ充足に向けて、目的や方法を検討できる。（継続力）	秀	演習で提示した事例から対象にとっての援助の必要性について理解し、援助技術の目的を明確にし、そのための方法を検討することができる。
	優	演習で提示した事例から対象にとっての援助の必要性について理解し、援助技術の目的を明確にすることができる。
	良	自らの生活体験や既習した知識を用いて各援助技術の意義と目的について理解する。
	可	各援助技術の一般的な意義･目的について把握している。
	不可	上記について把握していない。
③-２あらゆる看護場面に共通する基本技術と生活援助技術を対象の基本的ニーズ充足に向けて、根拠に基づいた実践ができる。（責任感）	秀	あらゆる看護場面に共通する基本技術、生活援助技術の基本となる動作を対象の状況に応じて用い、対象にとって安全･安楽に、効率よく、一連の流れを行うことができる。
	優	あらゆる看護場面に共通する基本技術、生活援助技術の基本となる動作をふまえ、対象にとって安全･安楽に、一連の流れを行うことができる。
	良	あらゆる看護場面に共通する基本技術、生活援助技術の基本となる動作ができ、準備から片付けまで一連の流れを行うことができる。
	可	あらゆる看護場面に共通する基本技術、生活援助技術の基本となる動作ができる。
	不可	上記についてできない。
④演習でのロールプレイングを通して、援助技術を行う上での看護専門職としての基本的な態度を身に付けることができる。（省察力）	秀	相手に意識を向け、演習での体験を通して相手の立場を尊重するとともに、相手の反応からより良さを追求しようとしている。
	優	相手に意識を向け、演習での体験を通して相手の立場を尊重した行動(配慮)ができる。
	良	相手に意識を向け、演習での体験を通して相手の立場に立とうと努力している。
	可	相手に意識を向けている。
	不可	相手を意識している様子がみられない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	10	0	0	20	0	100
評価項目	①看護技術の特徴	5	0	0	0	0	0	5
	②援助技術の原理・原則	20	0	0	0	0	0	20
	③-１援助技術の目的と方法の理解	10	5	0	0	0	0	15
	③-２援助技術の実践	25	0	0	0	10	0	35
	④看護専門職としての態度	10	5	0	0	10	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	筆記試験と実技試験
	②	✓	
	③-１	✓	
	③-２	✓	
	④	✓	
提出物	①		事前学習や演習後記録（リフレクション）の提出。テキストや参考書で調べること、講義や演習での気づきや学びをその都度、整理しておきましょう。
	②		
	③-１	✓	
	③-２		
	④	✓	
ポートフォリオ	①		技術練習への取り組み成果と自己の課題をファイリングし、技術の修得状況を確認していきましょう。技術練習は空き時間を使って計画的に取り組んでください。第 15 回目にファイルを提出。
	②		
	③-１		
	③-２	✓	
	④	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

様々な資源を活用して事前学習に取り組み、事後は授業を通しての学びや気づき、課題、疑問点を記録に整理する。また援助技術修得に向けた技術練習等の学習に取り組むこと。既習した看護学概論、生活健康論、看護解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、また同時開講科目である看護対象論Ⅰ、感染看護学、看護解剖生理学Ⅲなどの知識も意識的に活用する。看護の対象への日常生活援助を学ぶために自らの日常生活を意識してほしい。

教科書・参考書

教科書：『系統看護学講座　専門分野Ⅰ基礎看護学【３】基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ』任　和子著　医学書院

参考書：随時紹介する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
看護活動基礎実習 （Ｎ１３５００） アーリー・エクスポージャー実践	実習	1	45	1	前期	必修	看国試必修	鎌田美智子 複数担当	7号館4階 研究室他
科目担当者	鎌田美智子、長尾厚子、畑吉節未、生島祥江、尾崎雅子、庄司靖枝、鵜飼知鶴、魚崎須美、黒野利佐子 島内敦子、山口有美、岩切由紀、谷口由佳、阿児馨、中村晶子、藤原桜、木村聡子、幸島美絵 江口実希、西原詩子、伊東美智子、尾崎優子、紀ノ岡浩美、中村由果理、笹尾裕美、松岡真菜 白石奈央								

関連ときわコンピテンシー	専門力活動、知欲、常識力、情報力
授業の概要	看護専門職活動の実際場面の見学を通して、看護の対象及び、看護の方法・役割について学ぶ。

授業内容

【事前学習】（学内）
・オリエンテーション
実習目的・目標を理解し、実習における課題を明らかにする
【臨地実習】（実習施設）
実習施設：ときわ病院、神鋼記念病院、川崎病院、神戸百年記念病院、三田市民病院、北播磨総合医療センター
（１日目）施設オリエンテーション
施設の概要や看護部の理念、施設見学と実習中の諸注意など
（２日目）入院治療を目的とする場での看護活動への参加観察
一人の看護師と行動を共にする
（３日目）施設内の探索とそこに従事する他職種との交流
外来・薬局・検査・栄養・設備・事務管理等療養生活を支える部門
（４日目）上記の体験を通して得られた自己の関心事をテーマとして学習する
①入院患者や施設を訪れる人々の観察やインタビュー
②看護職やそれ以外の職種の人々の観察やインタビュー
③施設内の探索（再認識や新たな確認）
【事後学習】（学内）
・個人学習（自己の体験のまとめとその考察）をレポートとして作成する。

学修の到達目標

1. 実習で関わる人々とのコミュニケーションの基本を学ぶ。
2. 看護活動が行われている場の構造や機能を理解する。
3. 実習施設における看護専門職の活動の実際や役割について理解する。
4. 看護の対象となる人々の生活環境を考える。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①実習で関わる人々とのコミュニケーションの基本を学ぶ （常識力）	秀 優 良 可 不可	「実習要領」の到達度評価表および評価尺度を用いて行う
②看護活動が行われている場の構造や機能を理解する。 （情報力）	秀 優 良 可 不可	「実習要領」の到達度評価表および評価尺度を用いて行う

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
③実習施設における看護専門職の活動の実際や役割について理解する。（専門力）	秀 優 良 可 不可	「実習要領」の到達度評価表および評価尺度を用いて行う
④看護の対象となる人々の生活環境を考える。（知欲）	秀 優 良 可 不可	「実習要領」の到達度評価表および評価尺度を用いて行う

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	0	0	0	0	100	100
評価項目	①人々とのコミュニケーション	0	0	0	0	0	25	25
	②看護活動の場の構造と機能	0	0	0	0	0	25	25
	③看護専門職の活動の実際と役割	0	0	0	0	0	25	25
	④看護の対象となる人々の生活環境	0	0	0	0	0	25	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
その他	①	✓	毎日の実習行動、次週記録やレポート、カンファレンスでの学習内容などを基に、実習目標の到達度を総合的に評価する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

・実習要領をよく読み学習課題を明らかにしておくこと。また本実習での学びを今後の学習で深められるよう、自己の体験のまとめと考察をしっかりとしておくこと。
・実習は実際に看護活動が行われている場での学習であり、また看護の対象となる人々の療養の場であることを念頭に、言葉遣いや安全な行動等に留意する。そのため、自分勝手な行動はせずに、担当教員と連絡をとり、不明な点は必ず確認する。
・補講は原則として行わないため、欠席をしないよう健康に留意して臨むこと。

教科書・参考書

教科書：使用しない。実習要領を参照のこと
参考書：随時紹介する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
生活健康論実習 （N１３５０５） 「生活の中の健康」を考える	実習	2	60	1	後期	必修	看国試必修	長尾厚子 複数担当	7号館4階 研究室他
科目担当者	長尾厚子、尾﨑雅子、山口有美、黒野利佐子、藤原桜、西原詩子、中村由果理、白石奈央								

関連ときわコンピテンシー	専門力、情報力、探究力
授業の概要	人々の生活習慣や生活様式などの“生活に仕方”に目を向け、その行動の中に潜む考え方を把握することを通して、「生活の中の健康」に関する考えを発展させる。また、看護援助を行う上で基礎となる生活観や健康観を深める。

授業内容

1）オリエンテーション
2）実習計画の立案：生活の中の健康に関するテーマを見出し、グループワーク、文献検討、フィールドワークを通して明らかにできるよう実習計画を立てる。
3）現地での実習（8日間）：実際に現地へ出向き、実習計画に沿って学習を進める。
＊実習協力施設：長田区社会福祉協議会の各種事業、神戸市シルバーカレッジ、神戸常盤大学口腔保健センター、神戸常盤大学、子育て総合支援施設、神戸常盤大学まちの保健室、神戸常盤大学ボランティアセンター　など
本学で開催される Tokiwa ふれあい健康フェスタに参加し、地域の人々との交流を図る。

学修の到達目標

1．実習の場において、人々の生活の仕方の実際の行動や考え方について、健康レベルや発達段階の特性を踏まえて把握する。
2．生活の仕方の背景にある人々の健康に関する意識を探る。
3．上記1・2で学んだ内容と、自己の考えを対比させながら、各自の生活観や健康観を深める。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①実習の場において、人々の生活の仕方の実際の行動や考え方について、健康レベルや発達段階の特性を踏まえて把握する。（情報力）	秀 優 良 可 不可	「実習要領」の到達度評価表および評価尺度を用いて行う
②生活の仕方の背景にある人々の健康に関する意識を探る。（探究力）	秀 優 良 可 不可	「実習要領」の到達度評価表および評価尺度を用いて行う
③上記1・2で学んだ内容と、自己の考えを対比させながら、各自の生活観や健康観を深める。（専門力）	秀 優 良 可 不可	「実習要領」の到達度評価表および評価尺度を用いて行う

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	0	0	0	0	100	100
評価項目	①人々の生活の実際の行動と考え方	0	0	0	0	0	50	50
	②人々の健康に関する意識	0	0	0	0	0	30	30
	③各自の生活観や健康観	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
その他	①	✓	実習への参加、実習記録やレポートの内容などを基に、実習目標の到達度を総合的に評価する。
	②	✓	
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
学習の到達目標に向かって、毎回の学習課題を明確にするとともに、毎回内容の振り返りを行い、成果と次回の課題が明らかになるよう、記録で整理しておくこと。自らの生活を意識するとともに、人々の生活の中の行動や考え方に関心を持ち、主体的に取り組んでほしい。前期「生活健康論」の内容を活用できるよう整理しておくこと。
教科書・参考書
教科書：使用しません。実習要領を参照のこと。 参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
教育心理学 （N１４０２０） 人に教えるために知っておくべきこととは？	講義	2	30	1	後期	自由	養教免必修	永島聡 単独担当	7号館4階 研究室
科目担当者	永島聡								

関連ときわコンピテンシー	専門力、批判的思考力、傾聴力・対話力、表現力、協調性・協働力
授業の概要	学業不振、個人差への対応、学習意欲の喚起、自己の育成、個性の伸長、自己学習力の育成等々について、心理学的に考察する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	「はじめに」 授業に関するオリエンテーション	【予習】受講への意志を強く持つ 【復習】内容を日々思い出す
第2回	「発達と学習」 幼児期、児童期、思春期の発達的特徴	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第3回	「学校と授業の働き」 学力をめぐる問題について	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第4回	「知的発達と学習」 心理学における発達と学習についての基本的考え方	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第5回	「認識と理解の深まり」 児童生徒の認知のあり方について	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第6回	「教授と学習の方法」 教授および学習についての心理学的知見	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第7回	「学習を支える人格と意欲」 学習へのモチベーションについて	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第8回	「学習を支える人間関係」 子どもの学習を支える人間関係の特徴	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第9回	「学習を支える教育評価」 教育評価が児童生徒に与える影響	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第10回	「自己の発達と育成」 学校環境のあり方と自己の成長との関係性	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第11回	「価値観の発達と育成」 価値観や道徳性の発達と学校教育との関連性	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第12回	「学力の個人差・自己学習力の育成」 個に応じた教育および自己学習力の育成	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第13回	「障害のある児童生徒の心性」 様々な障害の概要とそれらに応じた心理的援助	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第14回	「軽度発達障がい」 軽度発達障がいの概要および心理的援助のあり方について	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第15回	「まとめ」 授業内容の総括および質疑応答等	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す

学修の到達目標
児童生徒が学んでいく時、教師はそれをどのように援助したらいいのか、児童生徒はいかにして自分自身を支えていったらいいのか、ということについて、心理学的に理解することを目指す。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①対人援助職としての専門性 （専門力）	秀	自らの専門領域についての知識･技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	自らの専門領域についての知識･技術を両方とも十分なレベ ルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	自らの専門領域についての知識･技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	自らの専門領域についての知識･技術を身につけている。
	不可	自らの専門領域についての知識･技術を身につけていない。
②多面的な思考 （批判的思考力）	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
③受容性・共感性 （傾聴力・対話力）	秀	他者の立場に身を置いてその人の価値観を十分理解した上で、相手が感じているであろうことを様々に思い巡らせながら共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。相手から話題を奪ってしまうことはない。また、共感しているつもりになるリスクを常に意識している。
	優	他者の立場に身を置いてその人の価値観を理解した上で共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	良	他者の立場に身を置いて話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	可	他者に大きな関心はないが、会話のキャッチボールはできる。
	不可	他者と会話のキャッチボールをすることができない。
④自己表現 （表現力）	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。
⑤グループでの協働 （協調性・協働力）	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調･協働することができる。それにより周囲も協調･協働作業のモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となり、その実績が社会に還元される場合もある。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調･協働することができる。それにより周囲も協調･協働作業のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調･協働することができる。
	可	協調･協働への興味は薄いが、他者に促されれば、周囲のモチベーションを下げることなく、協調･協働的に作業することはできる。
	不可	協調･協働する意志がなく、周囲のモチベーションを下げてしまう。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	16	0	0	0	4	100
評価項目	①対人援助職としての専門性	20	4	0	0	0	0	24
	②多面的な思考	20	4	0	0	0	0	24
	③受容性・共感性	20	4	0	0	0	0	24
	④自己表現	20	4	0	0	0	0	24
	⑤グループでの協働	0	0	0	0	0	4	4

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	レポート試験を実施。試験についてのルーブリックは別途提示する。80 点。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
提出物	①	✓	毎回授業終了時に、その日理解したことや自ら感じたこと等を文章で記述し提出する。16 点。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
その他	①		グループワーク等への参加度を受講者同士でピア評価する。 4 点。
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
・映画、音楽、文学等に興味を持ち続ける。 ・社会情勢に興味を持ち続ける。 ・一般常識的な知識の量を増やそうとし続ける。
教科書・参考書
教科書：使用しません。 参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
生涯発達論 （N１４０２５） 人の一生とは？	講義	2	30	1	後期	自由	養教免必修	永島聡 単独担当	7号館4階 研究室
科目担当者	永島聡								

関連ときわコンピテンシー	専門力、批判的思考力、傾聴力・対話力、表現力、協調性・協働力
授業の概要	人間は生を受けて死に至る全過程を通して発達していくということ、さらにその生涯の一局面である教師 − 生徒関係ないし看護師 − 患者関係は生徒・患者の人生全体に対して（なおかつ教師・看護師の人生全体に対しても）重大な意味を持 ち得るということについての理解を目的とする。内容は主にE・H・エリクソン、J・ピアジェ、V・E・フランクルらの理論ないし思想に依拠する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	「はじめに」 授業に関するオリエンテーション	【予習】受講への意志を強く持つ 【復習】内容を日々思い出す
第2回	「一生涯を過ごすことに意味などあるのか？」 フランクルの観点からの考察	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第3回	「胎生期・乳児期」 その心理・身体・社会的課題	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第4回	「幼児期」 その心理・身体・社会的課題	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第5回	「児童期」 その心理・身体・社会的課題	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第6回	「思春期・青年期」 その心理・身体・社会的課題	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第7回	「成人期」 その心理・身体・社会的課題	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第8回	「老年期」 その心理・身体・社会的課題	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第9回	「“老いる”イコール“衰える”なのか？」 知能と認知の生涯発達	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第10回	「サクセスフルエイジング」 知能と認知の生涯発達	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第11回	「“人はいずれ必ず死ぬ”ということについて」 フランクルの観点からの考察	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第12回	「障がいを抱えつつ生きるということ」 本人と家族の成長について	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第13回	「発達障がいとは」 発達障害に関する基礎知識について学ぶ	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第14回	「発達障がいを持つ人がどのように過ごしていくのか」 就労・進路について等	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第15回	「まとめ」 授業内容の総括および質疑応答等	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す

学修の到達目標
各ライフステージにおける心理・身体・社会的発達過程、それぞれの段階での課題と対応法、児童生徒の生涯に対する教師の責任性等々について理解することを目指す。加えて、そもそも人生において、意味を充足し価値を実現するということはどういうことなのか、自ら考究する姿勢を身につけることをねらう。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①対人援助職としての専門性（専門力）	秀	自らの専門領域についての知識･技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	自らの専門領域についての知識･技術を両方とも十分なレベ ルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	自らの専門領域についての知識･技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	自らの専門領域についての知識･技術を身につけている。
	不可	自らの専門領域についての知識･技術を身につけていない。
②多面的な思考（批判的思考力）	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
③受容性・共感性（傾聴力・対話力）	秀	他者の立場に身を置いてその人の価値観を十分理解した上で、相手が感じているであろうことを様々に思い巡らせながら共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。相手から話題を奪ってしまうことはない。また、共感しているつもりになるリスクを常に意識している。
	優	他者の立場に身を置いてその人の価値観を理解した上で共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	良	他者の立場に身を置いて話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	可	他者に大きな関心はないが、会話のキャッチボールはできる。
	不可	他者と会話のキャッチボールをすることができない。
④自己表現（表現力）	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
⑤グループでの協働 （協調性・協働力）	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調･協働することができる。それにより周囲も協調･協働作業のモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となり、その実績が社会に還元される場合もある。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調･協働することができる。それにより周囲も協調･協働作業のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調･協働することができる。
	可	協調･協働への興味は薄いが、他者に促されれば、周囲のモチベーションを下げることなく、協調･協働的に作業することはできる。
	不可	協調･協働する意志がなく、周囲のモチベーションを下げてしまう。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 （口頭･実技）	作品	ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ	その他	合計
評価割合		80	16	0	0	0	4	100
評価項目	①対人援助職としての専門性	20	4	0	0	0	0	24
	②多面的な思考	20	4	0	0	0	0	24
	③受容性・共感性	20	4	0	0	0	0	24
	④自己表現	20	4	0	0	0	0	24
	⑤グループでの協働	0	0	0	0	0	4	4

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	レポート試験を実施。試験についてのルーブリックは別途提示する。80 点。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
提出物	①	✓	毎回授業終了時に、その日理解したことや自ら感じたこと等を文章で記述し提出する。16 点。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
その他	①		グループワーク等への参加度を受講者同士でピア評価する。 4 点。
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
・映画、音楽、文学等に興味を持ち続ける。 ・社会情勢に興味を持ち続ける。 ・一般常識的な知識の量を増やそうとし続ける。
教科書・参考書
教科書：使用しません。 参考書：随時紹介します。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
教育社会学 （Ｎ１４０３０） 教育に対する複眼的思考の実践	講義	2	30	1	後期	自由	養教免必修	伴仲謙欣 単独担当	5号館学術推進課
科目担当者	伴仲謙欣								

関連ときわコンピテンシー	知欲・論理的思考力・批判的思考力
授業の概要	この講義では、教育をめぐる諸課題を、“社会”という視点から捉え直します。とりわけ、「学校」といういまや“当たり前”となっている存在について今一度捉え直し、それが果たす役割とは何か、直視すべき課題とは何か、共に考えます。また「貧困」や「少子化」等、現代社会的な課題に関わって、子ども一人ひとりの可能性を開くために教育がいかなる可能性をもっているか、共に考えます。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第１回	教育社会学とはどのような学問なのか	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第２回	社会とは何かを考える	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第３回	学校とは何かを考える	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第４回	学校とは何かを考える ～ディスカッションを通して～	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第５回	貧困と教育を考える	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第６回	貧困と教育を考える ～ディスカッションを通して～	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第７回	メディアと教育を考える	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第８回	メディアと教育を考える ～ディスカッションを通して～	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第９回	少子化と教育を考える	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第10回	少子化と教育を考える ～ディスカッションを通して～	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第11回	教育問題と社会／社会問題と教育を考える	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第12回	教育問題と社会／社会問題と教育を考える ～ディスカッションを通して～	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第13回	教師という職業観を考える	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第14回	教師という職業観を考える ～ディスカッションを通して～	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第15回	まとめと振り返り	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り

学修の到達目標
授業を通して、 （1）教育と社会とのかかわりについて知識を得、理解することができる （2）さまざまな教育現象を、“社会”という視点から捉え直すことができる

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①学ぶこと・知ることに愉しさと悦びを覚えることができる。（知欲）	秀	自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、充分に達成感を得ることができる。そしてその達成感をもとに、他者に自らの学びを伝えることができる。
	優	自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、充分に達成感を得ることができる。
	良	自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	他者の促しで学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができない。
②教育と社会の関係性について多面的に捉える方法を学ぶことを通して、論理的思考力を身につけることができる。（論理的思考力）	秀	論理的思考力の修得が満足できる水準を超え、自らの見解を展開できる。
	優	論理的思考力の修得が満足できる水準を超えている。
	良	論理的思考力の修得が満足できる水準にある。
	可	論理的思考力の修得が最低限の水準に留まっている。
	不可	論理的思考力の修得が最低限の水準以下になっている。
③教育と社会との関係性について批判的に分析することを通じて、批判的思考力を身につけることができる。（批判的思考力）	秀	現代社会と教育に対する批判的思考力が満足できる水準を超え、自らの見解を提示できる。
	優	現代社会と教育に対する批判的思考力が満足できる水準を超えている。
	良	現代社会と教育に対する批判的思考力が満足できる水準にある。
	可	現代社会と教育に対する批判的思考力が最低限の水準に留まっている。
	不可	現代社会と教育に対する批判的思考力が最低限の水準以下になっている

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	40	0	0	0	10	100
評価項目	①知欲	0	10	0	0	0	10	20
	②論理的思考力	25	10	0	0	0	0	35
	③批判的思考力	25	20	0	0	0	0	45

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①		定期試験としてレポート試験を実施する。
	②	✓	
	③	✓	
提出物	①	✓	毎回の授業で、ワークシートにその日のまとめを作成し、提出する。
	②	✓	
	③	✓	
その他	①	✓	アクティブラーナーとしての姿勢を評価する。
	②		
	③		

履修に必要な知識・技能・態度など
・授業への出席最低条件として、日常的に（特に教育に関する）新聞を読んでください ・受け売りの知識のひけらかしではなく、自らの頭で“考える”態度を求めます
教科書・参考書
教科書：指定なし 参考書：必要に応じて適宜紹介します

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

MEMO

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
薬理学 （Ｎ１２１１０） 薬はなぜ効くのか？	講義	1	15	2	前期	必修	看国試必修 養教免必修	國友勝 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	國友勝＊								

関連ときわコンピテンシー	専門力
授業の概要	看護師は患者への投薬、薬の服薬指導、副作用の状況把握など、薬物治療に関わる重要な責務を担っている。 それゆえ、薬物治療を実践するための基礎となる薬理学の知識が必要になる。本講義では、薬物（医薬品）とは何か、薬物の生体に及ぼす作用（薬理作用）と作用機序、種々の疾病の治療薬について学習し、医療現場におけるチーム医療の一員としての役割を果たすために必要な知識を習得する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	薬理学総論①：薬理学の概念、薬（医薬品）の役割、薬理作用、薬の作用機序	【予習】教科書の内容を読んでおく 【復習】授業内容の反復学習
第2回	薬理学総論②：薬の投与方法、体内動態と薬効、薬効に影響する因子、副作用、薬物相互作用、薬物乱用、新薬開発	【予習】教科書の内容を読んでおく 【復習】授業内容の反復学習
第3回	抗感染症薬、抗がん薬について	【予習】教科書の内容を読んでおく 【復習】授業内容の反復学習
第4回	免疫治療薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬について	【予習】教科書の内容を読んでおく 【復習】授業内容の反復学習
第5回	末梢神経系に作用する薬物について	【予習】教科書の内容を読んでおく 【復習】授業内容の反復学習
第6回	中枢神経系に作用する薬物について	【予習】教科書の内容を読んでおく 【復習】授業内容の反復学習
第7回	心臓・血管系、呼吸器に作用する薬物について	【予習】教科書の内容を読んでおく 【復習】授業内容の反復学習
第8回	消化器系、物質代謝に作用する薬物について	【予習】教科書の内容を読んでおく 【復習】授業内容の反復学習

学修の到達目標

1）生体に投与された薬物が体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）を経て作用部位に到達、結合することによって薬理作用を発現し、その後、作用が消失していく一連の過程について説明できる。
2）疾病の回復を促進する代表的治療薬（医薬品）とその作用機序、主な副作用（有害作用）、薬物相互作用などについて説明できる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①生体に投与された薬物の体内動態、薬理作用、作用機序、副作用、相互作用が理解できる。（専門力）	秀	この領域における基礎および専門知識が十分に理解できている。
	優	この領域における基礎および専門知識が一定水準以上理解できている
	良	この領域における専門知識が一定水準まで理解できている。
	可	この領域における専門知識が不十分だが、かろうじて理解できている。
	不可	この領域における専門知識が理解できていない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		100	0	0	0	0	0	100
評価項目	①薬に関する基本的な知識の修得	100	0	0	0	0	0	100

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	筆記試験
	②		
	③		
	④		
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など
授業で学んだ薬理学に関する専門用語や知識の理解と記憶を確かなものにするためには、反復学習すること（海馬での一時記憶から長期記憶へ移行）が大切である。授業内容の要点を自分なりに整理し、まとめておくこと。 また、看護解剖生理学Ⅰ～Ⅲ、看護病理・病態学、感染看護学で学習した知識が必須である。
教科書・参考書
教科書：『系統看護学講座 薬理学（疾病のなりたちと回復の促進［3］）』 吉岡充弘 他著　医学書院 参考書：『今日の治療薬』 浦部晶夫 他編　南江堂

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
症候論Ⅰ （Ｎ１２１３０） 症状と徴候を理解しよう	講義	1	30	2	前期	必修	看国試必修	森松伸一 単独担当	7号館3階 研究室
科目担当者	森松伸一								

関連ときわコンピテンシー	専門力、知欲・情報力、論理的思考力、継続力、判断力
授業の概要	疾患すなわち身体の不健康と障害は自覚的あるいは他覚的症状（症状、徴候）として認識される。看護においてはしばしば医学的診断に先立ち、これらの症候を的確に把握し、適切な看護計画を立て、実践しなければならない。従って看護学の実践には症候とそれから予測される疾患を念頭におく能力が求められ、症候の発生した部位が重要な意義を持つことが多い。本講では各種症候について全身と局所に分けて体系的に学習し理解を深める。また、看護を展開するために必要な症候のとらえ方および症候の現れ方（病態学）の知識を習得する。多くの病気（疾病）は症状や徴候を以て発症する経過をとる。そこで病気の理解の基礎として、症候を始めとしてこれらの異常状態の特徴をよく理解し、病気発症のメカニズムとその病態の解明などについても学習する。これにより問診と症候から病態を推測でき、看護に際しても適切に対処できる能力を養うことを目的とする。患者個々の状態や病態を知り、将来、慈愛を持って的確な看護ができるようになることをねらいとする。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	症候論総論（主要症候のとらえ方、問診（病歴）の取り方、診察の仕方）	【予習】症候（総論） 【復習】病理・病態（関係範囲）
第2回	大循環（心臓・大血管）系の症候1（胸痛、呼吸困難など）	【予習】症候（関係範囲） 【復習】病理・病態（関係範囲）
第3回	大循環（心臓・大血管）系の症候2（胸内苦悶、動悸、不整脈など）	【予習】症候（関係範囲） 【復習】病理・病態（関係範囲）
第4回	血液・造血器系の症候（貧血、出血傾向、血小板異常など）	【予習】症候（関係範囲） 【復習】病理・病態（関係範囲）
第5回	呼吸器系の症候1（咳嗽、喀痰、血痰など）	【予習】症候（関係範囲） 【復習】病理・病態（関係範囲）
第6回	呼吸器系の症候2（喘鳴、肺音の異常など）	【予習】症候（関係範囲） 【復習】病理・病態（関係範囲）
第7回	免疫系の症候（易感染、白血球異常、発熱など）	【予習】症候（関係範囲） 【復習】病理・病態（関係範囲）
第8回	皮膚・外表の症候（発疹、腫脹、浮腫など）	【予習】症候（関係範囲） 【復習】病理・病態（関係範囲）
第9回	神経・運動器系の症候1（頭痛、不随意運動、痙攣など）	【予習】症候（関係範囲） 【復習】病理・病態（関係範囲）
第10回	神経・運動器系の症候2（錐体路症候、錐体外路症候など）	【予習】症候（関係範囲） 【復習】病理・病態（関係範囲）
第11回	消化器症候1（腹痛、胸やけ、吐血など）	【予習】症候（関係範囲） 【復習】病理・病態（関係範囲）
第12回	消化器症候2（下血、下痢、呕吐など）	【予習】症候（関係範囲） 【復習】病理・病態（関係範囲）
第13回	腎・泌尿器・生殖器症候（無尿、乏尿、排尿障害など）	【予習】症候（関係範囲） 【復習】病理・病態（関係範囲）
第14回	内分泌・代謝系の症候（甲状腺腫大、尿糖、血糖異常など）	【予習】症候（関係範囲） 【復習】病理・病態（関係範囲）

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第15回	まとめ	【予習】症候（全体鳥瞰） 【復習】病理・病態（全体総括）

学修の到達目標
・主要症候を的確にとらえることができる。 ・症候をよく理解し，解剖生理と病態生理に関連づけて説明ができる。 ・代表的な（よくある）疾患の概要を理解し、主要な症候について説明できる。 ・症候を良く理解し、診断に至るまでの発症病理・病態に関連づけて説明ができる。 ・解剖生理、病理・病態学を良く理解し、このことから症候を系統立てかつ関連付けて説明できる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①看護専門職の実務遂行に必要な疾患や病理・病態学などについての知識・技能を身につけている（専門力）	秀	看護専門領域についての知識・技術を両方とも十分レベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	看護専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	看護専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	看護専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	看護専門領域についての知識・技術を身につけていない。
②思考や判断に必要な疾患や病理・病態学などの情報を収集・整理・分析し、活用することができ、学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができる（知欲・情報力）	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出すことができる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと悦びを見出すことができる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができない。
③病理・病態学に基づき、論理的に考えることができる（論理的思考力）	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
④学び、考え、行動する姿勢とその努力を持続することができる（継続力）	秀	内発的動機づけのもと、十分な忍耐力・継続的実行力をもって、楽しみながら物事に打ち込み続けることができる。
	優	内発的動機づけのもと、十分な忍耐力・継続的実行力をもって物事に打ち込み続けることができる。
	良	ある程度自発的に、忍耐力・継続的実行力を示すことができる。
	可	他者からの助言や何らかの外的条件づけのもと、忍耐力・継続的実行力を示すことができる。
	不可	忍耐力・継続的実行力がない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
⑤疾患や病理・病態学などの情報に基づき、状況に対して適切な判断をすることができる（判断力）	秀	看護専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。 なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	看護専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	看護専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	看護専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	看護専門領域についての知識・技術を身につけていない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	20	0	0	0	10	100
評価項目	①専門力	20	5	0	0	0	0	25
	②知欲・情報力	30	10	0	0	0	0	40
	③論理的思考力	10	5	0	0	0	0	15
	④継続力	0	0	0	0	0	10	10
	⑤判断力	10	0	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	終講試験（定期筆記試験）を行う（70 点満点）。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤	✓	
提出物	①	✓	レポートを評価に加える（1 編 0 ～ 4 点の 5 段階評価、20 点満点）。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤	✓	
その他	①		授業では毎回タスクを課す（全出席 10 点で欠席は減点法による）。
	②		
	③		
	④	✓	
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など
講義内容に基づき予習、復習を含め、自学自習(質問も含める)する必要がある。成績評価は定期試験結果に基づいて行うが、興味があることについてのレポート提出なども評価に加える。
教科書・参考書
教科書：『病態生理学　疾病のなりたちと回復の促進②』 田中 越郎 著　医学書院 参考書：『看護のための臨床病態学』 浅野 嘉延・吉田 直樹 編集　南山堂 『成人看護学　病態生理・疾病論Ⅰ～Ⅲ』 氏家 幸子 監修　廣川書店

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
症候論Ⅱ （Ｎ１２１４０） 人の発達とその症候	講義	1	30	2	後期	必修	看国試必修	岩越美恵 単独担当	7号館3階 研究室
科目担当者	岩越美恵								

関連ときわコンピテンシー	専門力、論理的思考力、知欲
授業の概要	症候論Ⅰと同じ主旨の下、症候論Ⅱでは、人が生まれてから死ぬまでの心身の変化という観点から、主として子どもの成長・発達と疾患に関する症候と、生殖機能（主として母体）の発達と疾患に関連する症候、また近年多くなってきている精神疾患・発達障害に関する症候についても、すべての専門領域の看護実践上必要な知識であるため、十分に理解を深め、対応についても身につけることをねらいとする。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	はじめに。赤ちゃんの運動発達	【予習】シラバスに目を通す 【復習】講義の学びの振り返り
第2回	運動発達の症候：マヒ	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第3回	小児の正常発育とそれに関する症候（身長・体重）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第4回	小児の正常発育とそれに関する症候（体格・頭囲）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第5回	小児のバイタルサインと関連症候	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第6回	バイタルサインのチェックを要数危険な症候（ショック・意識障害・心肺停止）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第7回	子どものけいれん	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第8回	てんかんについて	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第9回	小児の発熱と関連症候（感染症）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第10回	小児の発熱と関連症候（小児がん）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第11回	小児の消化管に関する症候	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第12回	小児の腎・内分泌に関する症候	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第13回	新生児の特徴と疾患とその症候（先天性心疾患も含む）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第14回	精神疾患とその症候（発達障害を含む）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第15回	女性（と男性）の生殖機能の発達とその症候	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り

学修の到達目標
・各領域の症候について知っており、徴候を認識できる。 ・各症候がどういう機序で出現しているのか、その根拠と結び付けてわかっている。 ・これらの症候に関連した事柄について自らさらに知識を広げていく。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①各領域の症候について正確に知っており、徴候に気づいたり見分けたりすることができる。（専門力）	秀	専門職として、十分に症候について認知でき、さらに多くの症候を知ろうとしている。
	優	専門職として、十分な量の症候について知っており、それを認知できる。
	良	専門職として、かなりの症候について知っており、それを認知できる。
	可	専門職として最低限必要な症候について知っており、それを認知できる。
	不可	専門職として最低限必要な症候について知っていない。
②症候がどのような根拠に基づき、どのような機序で出現しているのかわかっている。（論理的思考力）	秀	主要な症候がどのような機序で出現しているのか十分わかり、他の症候と結び付けてわかっている。
	優	主要な症候がどのような機序で出現しているのか十分にわかっている。
	良	主要な症候がどのような機序で出現しているのかかなりわかっている。
	可	主要な症候がどのような機序で出現しているのか最低限わかっている。
	不可	主要な症候がどのような機序で出現しているのかをほとんどわかっていない。
③症候に関連した事柄について、自らさらに知識をひろげていく。（知欲）	秀	症候に関連した知識を興味と悦びをもって、連動的に際限なく広げている。
	優	症候に関連した知識を、自ら興味を持ってかなり広げている。
	良	症候に関連した知識を、自ら興味を持って広げている。
	可	症候に関連した知識を少しは広げているが、他者から促されて行っている。
	不可	症候に関連した知識を全く広げようとしない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	30	0	0	0	0	100
評価項目	①症候についての理解と認知	35	5	0	0	0	0	40
	②症候の出現メカニズムの理解	35	5	0	0	0	0	40
	③症候と関連した知欲	0	20	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	定期試験期間中に実施する筆記試験
	②	✓	
	③		
提出物	①	✓	授業の終わりのミニテスト、課題、レポートなど
	②	✓	
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
他の教科や既知の知識と関連付けて学ぶこと。関連した本を読むこと。
教科書・参考書
教科書：使用しません。 参考書：随時紹介

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
臨床検査総論 （Ｎ１２１５１） 看護における臨床検査	講義	1	15	2	前期	選択必修	看国試選択必修	澤田浩秀 単独担当	7 号館 2 階 研究室
科目担当者	澤田浩秀								

関連ときわコンピテンシー	専門力、情報力、論理的思考力、知欲
授業の概要	臨床検査は、生体から得られた情報を客観的に提供するもので、現在の医療において疾患の診断、治療に欠かすことができないものである。正確な臨床検査が行われるには、患者に検査について説明し、検査の準備をし、適切な前処置、正しい検体の取扱いを行わなければならない。また、看護職者自身が検査を実施する場合もあり得る。本教科では、正しい検査の実施、あるいは患者の病状を正確に把握するために必要とされる臨床検査の知識について学ぶ。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第 1 回	臨床検査概論：臨床検査の医療への役割、臨床検査の種類、臨床検査における看護職者の役割、検査値の信頼性・正確性	【復習】授業内容
第 2 回	尿検査：尿検体の取り扱い、尿タンパク、尿糖、ケトン体、尿潜血	【予習】腎臓のはたらき、尿成分 【復習】授業内容
第 3 回	血液学検査：血液検体の取り扱い、血球検査（赤血球、白血球、血小板）、出血・凝固検査	【予習】血液とその機能 【復習】授業内容
第 4 回	生化学検査：糖質、蛋白質、脂質、窒素化合物の検査	【予習】糖、蛋白質、脂質の代謝 【復習】授業内容
第 5 回	生化学検査：酵素、電解質、血液ガスの検査	【予習】体液の電解質組成、ガス交換 【復習】授業内容
第 6 回	免疫学検査：免疫グロブリン、自己抗体、感染症、輸血、腫瘍マーカーの検査	【予習】免疫機能、血液型、感染症 【復習】授業内容
第 7 回	生理機能検査：循環機能検査（心電図およびその読み方）	【予習】心臓の刺激伝導系、心電図の基礎 【復習】授業内容
第 8 回	生理機能検査：呼吸機能検査、神経機能検査 病理検査：細胞診、組織検査	【予習】肺気量分画、脳の機能局在と睡眠 【復習】授業内容

学修の到達目標

（1）臨床検査の目的、検査の種類、検査における注意点などについて、患者に対して説明できるようにする。
（2）検査の準備や介助、正しい検体の取扱い方など、看護職者が果たすべき役割について理解する。
（3）臨床検査によって得られたデータの解釈方法、異常となる疾患、検査結果に影響を与える要因などを理解する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①看護における臨床検査の実務遂行に必要な知識・技能を身につけている（専門力）	秀	看護における臨床検査の専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	看護における臨床検査の専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	看護における臨床検査の専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	看護における臨床検査の専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	看護における臨床検査の専門領域についての知識・技術を身につけていない。
②看護における臨床検査の情報を収集・整理・分析し、活用することができる（情報力）	秀	看護における臨床検査の情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	看護における臨床検査の情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に看護における臨床検査の情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば看護における臨床検査の情報を収集・整理・分析できる。
	不可	看護における臨床検査の情報を収集・整理・分析できない。
③看護における臨床検査について根拠に基づき、論理的に考えることができる（論理的思考力）	秀	客観的な根拠に基づき、看護における臨床検査について十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき看護における臨床検査について十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき看護における臨床検査について論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度、看護における臨床検査について論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき看護における臨床検査について論理的に考えることができない。
④看護における臨床検査について学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができる（知欲）	秀	看護における臨床検査について自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	看護における臨床検査について自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	看護における臨床検査についてある程度自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出すことができる。
	可	看護における臨床検査について、他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと悦びを見出すことができる。
	不可	看護における臨床検査について学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		90	0	0	0	0	10	100
評価項目	①専門力	20	0	0	0	0	0	20
	②情報力	30	0	0	0	0	0	30
	③論理的思考力	20	0	0	0	0	0	20
	④知欲	20	0	0	0	0	10	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	学期末の定期試験によって評価する。試験に合格するには、正しい検体の取り扱いや検査における注意点を把握し検査内容と各疾患について理解できていることが必要となる。試験時の持ち込みは一切禁止する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
その他	①		平常点として、受講態度、積極性などを評価する。
	②		
	③		
	④	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
解剖生理学、病態学等に関する基礎知識を必要とするため、これらの科目を十分復習し授業に参加することが望まれる。
教科書・参考書
教科書：『系統看護学講座　別巻⑥　臨床検査』 大久保昭行編　医学書院 **参考書：**使用しない。適宜、図、表を中心としたプリントを配布する。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
医療機器総論 （Ｎ１２１６１） 臨床現場で扱う医療機器	講義	1	15	2	後期	選択必修	看国試選択必修	澤田浩秀 単独担当	7号館2階研究室
科目担当者	澤田浩秀								

関連ときわコンピテンシー	専門力、情報力、論理的思考力、知欲
授業の概要	現在の医療では、患者の病状を把握するモニタリングや疾患の治療に関して医療機器は欠かすことができないものである。看護職者も日常、医療機器を扱う機会は大変多くなっている。そのため、医療機器を正しく取り扱うと同時に、トラブルに対しても適切に対処することが求められている。本教科では、実際の医療現場でよく使用される医療機器に関してその基本的事項について学ぶ。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	医療機器概論：医療機器の種類、看護職者の機器への関わり 医療機器と安全性：電気安全（アース、電気ショック）、病院電気設備	【復習】授業内容
第2回	医療機器と安全性：電磁波障害、医療機器の生体に対する影響、医療ガスと安全性	【復習】授業内容
第3回	モニタリング機器：心電計、心電図モニタ、心電図とその読み方	【予習】心臓の刺激伝導系、心電図の基礎 【復習】授業内容
第4回	モニタリング機器：血圧計、血圧モニタ、血流計	【予習】血圧の基礎 【復習】授業内容
第5回	モニタリング機器：呼吸モニタ（パルスオキシメータ、カプノメータ）、体温計	【予習】酸素分圧と酸素飽和度 【復習】授業内容
第6回	治療機器：循環器治療機器（除細動器、ペースメーカー）	【予習】心電図（第3回講義内容） 【復習】授業内容
第7回	治療機器：呼吸器治療機器（人工呼吸器）	【予習】呼吸の基礎（換気、ガス交換） 【復習】授業内容
第8回	治療機器：輸液ポンプ、シリンジポンプ、電気メス	【予習】電気安全、電磁波障害（第1回、2回講義内容） 【復習】授業内容

学修の到達目標

（1）各モニタリング機器および治療機器に関して、その使用目的あるいは適応となる疾患、機器の原理および構造、機器の取り扱い方とその注意点について理解する。
（2）機器を原動させるために必要な電気、医療ガス、およびその設備に関する知識と、安全対策としての電気、電磁波などに関する知識を理解する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①医療機器の実務遂行に必要な知識・技能を身につけている（専門力）	秀	モニタリング機器、治療機器などの医療機器と機器の安全性に関する専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	モニタリング機器、治療機器などの医療機器と機器の安全性に関する専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	モニタリング機器、治療機器などの医療機器と機器の安全性に関する専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	モニタリング機器、治療機器などの医療機器と機器の安全性に関する専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	モニタリング機器、治療機器などの医療機器と機器の安全性に関する専門領域についての知識・技術を身につけていない。
②医療機器の情報を収集・整理・分析し、活用することができる（情報力）	秀	モニタリング機器、治療機器などの医療機器と機器の安全性の情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	モニタリング機器、治療機器などの医療機器と機器の安全性の情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的にモニタリング機器、治療機器などの医療機器と機器の安全性の情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があればモニタリング機器、治療機器などの医療機器と機器の安全性の情報を収集・整理・分析できる。
	不可	モニタリング機器、治療機器などの医療機器と機器の安全性の情報を収集・整理・分析できない。
③医療機器について根拠に基づき、論理的に考えることができる（論理的思考力）	秀	客観的な根拠に基づき、モニタリング機器、治療機器などの医療機器と機器の安全性について十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき、モニタリング機器、治療機器などの医療機器と機器の安全性について十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき、モニタリング機器、治療機器などの医療機器と機器の安全性について論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度、モニタリング機器、治療機器などの医療機器と機器の安全性について論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づきモニタリング機器、治療機器などの医療機器と機器の安全性について論理的に考えることができない。
④医療機器について学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができる（知欲）	秀	モニタリング機器、治療機器などの医療機器と機器の安全性について、自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	モニタリング機器、治療機器などの医療機器と機器の安全性について、自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	モニタリング機器、治療機器などの医療機器と機器の安全性について、ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出すことができる。
	可	モニタリング機器、治療機器などの医療機器と機器の安全性について、他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと悦びを見出すことができる。
	不可	モニタリング機器、治療機器などの医療機器と機器の安全性について、学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		90	0	0	0	0	10	100
評価項目	①専門力	20	0	0	0	0	0	20
	②情報力	30	0	0	0	0	0	30
	③論理的思考力	20	0	0	0	0	0	20
	④知欲	20	0	0	0	0	10	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	学期末の定期試験によって評価する。試験に合格するには、医療機器の安全性と、各機器の使用目的、適応となる疾患、原理について理解できていることが必要となる。試験時の持ち込みは一切禁止する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
その他	①		平常点として、受講態度、積極性などを評価する。
	②		
	③		
	④	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

病態のモニタリング、疾患に対して治療を行うための医療機器であり、関連して解剖生理学、病態学等の科目の知識を必要とするため、これらの科目を十分復習し授業に参加することが望まれる。

教科書・参考書

教科書：使用しない。講義ごとに図、表を中心としたプリントを配布する。

参考書：『知らなきゃできない ME 機器 Q & A』　岡本浩嗣　学研
『ME の基礎知識と安全管理（第 5 版）』　日本生体医工学会 ME 技術教育委員会　南江堂

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
保健統計学 （N１２３１０） 人々の健康を守るための「洞察」の学問	講義	2	30	2	前期	選択必修	看国試選択必修 保国試必修	中田康夫 複数担当	7号館4階 研究室他
科目担当者	中田康夫、高松邦彦								

関連ときわコンピテンシー	情報力、論理的思考力、批判的思考力、探究力、判断力
授業の概要	人間集団における健康や疾病の状態を調査して表記する方法、疾病を予防する方法、現在のわが国における保健統計データなどについて学修する。また、データの解析に必要な統計学（推計学）の基礎についても学修する。疾病の予防は看護師／保健師にとって大きな役割の１つである。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第１回	・オリエンテーション／ガイダンス ・１年次「統計学」の復習　（担当者：中田、高松）	【予習】１年次「統計学」 【復習】１年次「統計学」
第２回	４つの尺度（パラメトリックとノンパラメトリック）とグラフに関する基礎知識　（担当者：中田、高松）	復習として１枚まとめを作成し、授業中に出された宿題を行うこと。
第３回	疾病頻度の指標（１） 有病率、罹患率、致命率、死亡率　（担当者：中田、高松）	復習として１枚まとめを作成し、授業中に出された宿題を行うこと。
第４回	疾病頻度の指標（２） 指標の相互関係、疾病予防、年齢調整死亡率（担当者：中田、高松）	復習として１枚まとめを作成し、授業中に出された宿題を行うこと。
第５回	疾病頻度の指標（３） 年齢調整死亡率　（担当者：中田、高松）	復習として１枚まとめを作成し、授業中に出された宿題を行うこと。
第６回	保健統計調査（１） 人口静態統計、人口動態統計　（担当者：中田、高松）	復習として１枚まとめを作成し、授業中に出された宿題を行うこと。
第７回	保健統計調査（２） 死因統計、平均余命・寿命、健康寿命　（担当者：中田、高松）	復習として１枚まとめを作成し、授業中に出された宿題を行うこと。
第８回	国際疾病分類（ICD）と国際生活機能分類（ICF） 医療経済統計　（担当者：中田、高松）	復習として１枚まとめを作成し、授業中に出された宿題を行うこと。
第９回	推計学の基礎（１） 帰無仮説と統計学的有意、P値、95% 信頼区間、過誤（エラー） （担当者：中田、高松）	復習として１枚まとめを作成し、授業中に出された宿題を行うこと。
第10回	主な調査法（１） 無作為対照比較試験（RCT）、盲検法（一重、二重） （担当者：中田、高松）	復習として１枚まとめを作成し、授業中に出された宿題を行うこと。
第11回	推計学の基礎（３） ２つの群の差の検定　（担当者：中田、高松）	復習として１枚まとめを作成し、授業中に出された宿題を行うこと。
第12回	推計学の基礎（４） ３つ以上の群の差の検定（分散分析と多重比較） （担当者：中田、高松）	復習として１枚まとめを作成し、授業中に出された宿題を行うこと。
第13回	主な調査法（２） 前向き研究（コホート研究）と後向き研究（症例対照研究） リスク比（相対危険度）とオッズ比　（担当者：中田、高松）	復習として１枚まとめを作成し、授業中に出された宿題を行うこと。
第14回	推計学の基礎（２） クロス表（分割表）の検定：χ^2検定（適合度の検定、適合度の検定） （担当者：中田、高松）	復習として１枚まとめを作成し、授業中に出された宿題を行うこと。
第15回	まとめ　（担当者：中田、高松）	各回の１枚まとめから学修の要点をまとめた１枚まとめを作成する。

学修の到達目標
・健康関連事象の疫学指標について、その定義と計算方法を理解し、自身で計算できる。 ・代表的な調査法の説明、それに応じた適切な統計解析方法の選択、ならびに解析結果を正しく解釈（p値の意味、帰無仮説・対立仮説）できる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①情報を収集・整理・分析して活用することができる（情報力）	秀	情報を収集・整理・分析でき、なおかつ、他者へ説明することができ、さらに他者の理解を支援することができ、他者から評価されている。
	優	情報を分析できる、なおかつ、他者へ説明することができ、さらに他者の理解を支援することができる。
	良	情報を分析でき、なおかつ、他者へ説明することができる。
	可	情報を分析できる。
	不可	情報を分析できない。
②根拠に基づき、論理的に考えることができる（論理的思考力）	秀	根拠となり得るものが何かを十分に理解したうえで、根拠に基づき、論理的に考えることができ、他者に説明できる。
	優	根拠とは何かについて理解したうえで、根拠に基づき、論理的に考えることができ、他者に説明できる。
	良	根拠に基づき、論理的に考えることができ、他者に説明できる。
	可	根拠に基づき、論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき、論理的に考えることができない。
③情報を多角的・批判的に捉え、考えることができる（批判的思考力）	秀	情報の特性を十分に理解したうえで、情報を多面的に検討し、情報の不確かさを見極めることができ、他者へ説明できる。
	優	情報を多面的に検討し、情報の不確かさを見極めることができ、他者へ説明できる。
	良	情報をいくつかの面から検討し、情報の不確かさを見抜くことができ、他者へ説明できる。
	可	情報をある一面からのみ検討し、情報の不確かさを見抜くことができる。
	不可	情報の不確かさを見抜くことができない。
④学修課題に対して理解ができるまで徹底的に追求できる（探究力）	秀	学修課題に対して理解ができるまで徹底的に追求し、他者から評価されている。
	優	学修課題に対して理解ができるまで徹底的に追求している。
	良	学修課題に対して理解ができるまで追求している。
	可	学修課題に対して理解しようとしている。
	不可	学修課題に対して理解しようとしていない。
⑤情報や思考に基づき、的確な判断ができる（判断力）	秀	情報を論理的・批判的に検討した結果、状況・状態を的確に判断でき、そのことを他者へ説明でき、他者から評価されている。
	優	情報を論理的・批判的に検討した結果、状況・状態を的確に判断でき、そのことを他者へ説明できる。
	良	情報を論理的・批判的に検討した結果、状況・状態を判断できる。
	可	情報を論理的・批判的に検討した結果、状況・状態に対する最低限の判断ができる。
	不可	情報を論理的・批判的に検討できず、状況・状態を的確に判断でき、的確な判断ができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	0	0	0	40	10	100
評価項目	①情報を整理・分析する力	10	0	0	0	8	0	18
	②論理的に考える力	10	0	0	0	8	0	18
	③批判的に考える力	10	0	0	0	8	0	18
	④徹底的に追求する力	10	0	0	0	8	10	28
	⑤的確に判断する力	10	0	0	0	8	0	18

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	定期試験を実施する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
ポートフォリオ	①	✓	毎回の授業後の１枚まとめ、ならびにそれを元に作成した全体まとめを評価する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
その他	①		学ぶ姿勢・態度を評価する。
	②		
	③		
	④	✓	
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など

・１年次で学修した「統計学」の学修内容については、完全にマスターしておくこと。
・疫学・保健統計の知識は保健師や看護師の業務に関係するだけでなく、医学や看護の研究全般に幅広く活用される。保健師国家試験では疫学・保健統計に関連した問題が約20％出題されるほど重要な科目である。

教科書・参考書

教科書：なし

参考書：『国民衛生の動向』厚生労働統計協会

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
母性看護学概論 （Ｎ１３０５０） 母性･父性の不思議を覗いてみよう	講義	1	15	2	前期	必修	看国試必修	島内敦子 単独担当	7 号館 3 階 研究室
科目担当者	島内敦子								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、情報力、批判的思考力、知欲
授業の概要	母性の特徴および概念について学び、女性の生涯における発達と健康および家族関係について理解を深める。さらに母性看護の機能と役割について考察する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第 1 回	母性看護の概念	【予習】登下校で見かける親子（母子・父子）を観察してみましょう。 【復習】課題レポートの作成
第 2 回	母性看護学で用いられる概念	
第 3 回	母性看護の歴史的変遷と現状 母子保健統計の動向と母子看護に関する法律・施策	【予習】子どもに関するニュースを聴きましょう。（出生数等） 【復習】母子保健に関わる法律を詳しく調べましょう
第 4 回	家族の健康と看護	【予習】登下校に見かける家族の関係を想像してみましょう。
第 5 回	母性看護の対象にある人の特徴	【予習】人間発達論について調べてみましょう
第 6 回	母性のもつ健康問題と看護の役割	
第 7 回	母性看護における倫理	
第 8 回	まとめ	

学修の到達目標
1．母性の特徴と概念について理解する。 2．母子保健統計の動向と母子保健に関わる法律について理解する。 3．母性・父性・家族の発達について理解する。 4．女性の各期における特徴とその発達課題について理解する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①母性の特徴と概念について理解する。（専門力）	秀	母性の特徴と概念について正しく理解し、その意義について考察し、記述することができる
	優	母性の特徴と概念について正しく理解し、具体的事象を交えて説明することができる
	良	母性の特徴と概念について理解し、正しく記述することができる
	可	母性の特徴と概念について記述することができる
	不可	母性の特徴と概念について正しく理解できていない
②母子保健統計の動向と母子保健に関わる法律について理解する。（批判的思考力）	秀	母子保健統計の動向と母子保健に関わる法律について理解し、現在の母子支援との関係について考察し、母性看護を思考することができる
	優	母子保健統計の動向と母子保健に関わる法律について理解し、現在の母子支援との関係について考察し記述することができる
	良	母子保健統計の動向と母子保健に関わる法律について理解し、正しく記述することができる
	可	母子保健統計の動向と母子保健に関わる法律について理解し、記述できることができる
	不可	母子保健統計の動向と母子保健に関わる法律について理解できていない
③母性・父性・家族の発達について理解する。（知欲）	秀	母性・父性・家族の発達について理解し、社会における家族の状態を評価考察することができる
	優	母性・父性・家族の発達について理解し、家族の状態と照らして考察することができる
	良	母性・父性・家族の発達について理解し、具体的事象から例を挙げ記述することができる
	可	母性・父性・家族の発達について理解し、記述できることができる
	不可	母性・父性・家族の発達について理解できていない
④女性の各期における特徴とその発達課題について理解する。（情報力）	秀	女性の各期における特徴とその発達課題について理解し、社会生活における女性の現状とを比較して、女性の健康への援助について考察することができる。
	優	女性の各期における特徴とその発達課題について理解し、社会生活における女性の現状と比較して記述することができる。
	良	女性の各期における特徴とその発達課題について理解し、正しく記述することができる
	可	女性の各期における特徴とその発達課題について理解し、記述することができる
	不可	女性の各期における特徴とその発達課題について理解する。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	20	0	0	0	0	100
評価項目	①母性の特徴の理解	20	0	0	0	0	0	20
	②母子保健統計の動向と母子保健に関わる法律	30	0	0	0	0	0	30
	③母性・父性・家族の発達	5	20	0	0	0	0	25
	④女性の各期における特徴とその発達課題についての理解	25	0	0	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	学修到達状況を確認するために筆記試験を行う。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
提出物	①		父性についてレポートする。具体的なレポート内容については第１回の講義で提示する。
	②		
	③	✓	
	④		
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など
身近な存在の女性と男性（家族、親戚、友人など）を意識しながら、観察してみてください。 社会情勢に興味を持ち、様々な新聞を読み、ニュースを見ましょう。
教科書・参考書
教科書：『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学概論』 森恵美他著　医学書院 参考書：柏木惠子編：父親の発達心理学，川島書店，1993 Martin Greenberg 著，竹内徹訳：父親の誕生，メディカ出版，1994

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
在宅看護学概論 （Ｎ１３０７０） 看護の原点は在宅看護にある	講義	1	15	2	前期	必修	看国試必修	畑吉節未 単独担当	7号館4階 研究室
科目担当者	畑吉節未								

関連ときわコンピテンシー	専門力、情報力、論理的思考力、批判的思考力、探究力、表現力、協調性・協働力
授業の概要	「在宅で看護するということ」についての理解を深めることを目標とする。 具体的には在宅看護が必要とされる社会的背景をふまえ、在宅看護の歴史と変遷、在宅看護の概念と対象およ び在宅ケアシステムについて概観し、在宅看護が関わる現状、地域社会でその人らしい生き方に基づいた生活を支えるための訪問看護の機能と役割、展望について学ぶ。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	在宅看護を学ぶ意義、他の看護領域との位置関係、在宅での看取りに学ぶ	【予習】シラバスの熟読　看護学における在宅看護の位置づけを図示 【復習】ＶＴＲ視聴の感想
第2回	在宅看護の歴史と将来像 1）在宅看護が必要とされる社会的背景	【予習】国民衛星の動向の読解 【復習】社会的背景から在宅看護の必要性を考察する
第3回	在宅看護の歴史と将来像 2）在宅医療の将来像　時代とともに変わる制度と訪問看護	【予習】教科書の読解 【復習】在宅医療の将来像の理解
第4回	在宅療養の意味と対象者の特徴 1）生活とは何か　病院と在宅の違い　在宅で療養することの意味	【予習】既習の生活の概念 【復習】生活概念と在宅で療養することの意味理解
第5回	在宅療養の意味と対象者の特徴 2）療養者を理解する	【予習】教科書の読解 【復習】療養者の理解
第6回	在宅療養の意味と対象者の特徴 3）家族を理解する、地域を理解する　家族の介護負担とその軽減	【予習】教科書の読解 【復習】家族のサポート方法の理解
第7回	在宅看護の特性とはなにか　在宅看護の特性 1）在宅看護のめざすもの・地域看護と在宅看護・訪問看護・在宅看護の特性	【予習】教科書の読解 【復習】在宅看護の特性
第8回	在宅看護の特性とはなにか　在宅看護の特性 2）フローレンス・ナイチンゲールのとらえた在宅看護の概念	【予習】ナイチンゲール文献の読解 【復習】ナイチンゲール文献の示唆

学修の到達目標
1．在宅看護の歴史について理解する。 2．在宅看護の対象について理解する。 3．在宅看護の特性について理解する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①在宅看護の歴史的変遷と将来像を理解する。（情報力）	秀	在宅看護の歴史的変遷を、時代背景を踏まえ理解し、在宅看護とは何かについて説明し、在宅看護学及び看護実践における将来展望を考察する
	優	在宅看護の歴史的変遷を踏まえ、在宅看護が必要とされる社会的背景および将来像について記述する
	良	在宅看護の歴史的変遷を踏まえ、在宅看護が必要とされる社会的背景を解釈して記述する
	可	在宅看護の歴史的変遷を踏まえ、在宅看護が必要とされる社会的背景を記述する
	不可	在宅看護の歴史的変遷と必要とされる社会的背景及び将来像が理解していない
②在宅看護と在宅ケアの概念（在宅ケア、在宅医療、継続看護在宅看護、訪問看護）を理解する。（論理的思考力）	秀	「在宅ケア、在宅医療、継続看護、在宅看護、訪問看護」の概念をすべて正確に理解し記述する
	優	「在宅ケア、在宅医療、継続看護、在宅看護、訪問看護」の概念すべての特徴を記述する
	良	「在宅ケア、在宅医療、継続看護、在宅看護、訪問看護」の概念を３つ以上、記述する
	可	「在宅ケア、在宅医療、継続看護、在宅看護、訪問看護の概念を２つ以上、記述する
	不可	上記の概念のすべてが理解していない
③在宅療養の場の特性と求められる看護を理解する。（批判的思考力）	秀	在宅療養の場の特性を病院と比較して理解し、求められる看護について考察し記述する
	優	在宅療養の場の特性を病院と比較して理解し、求められる看護について記述する
	良	在宅療養の場の特性を病院と比較して記述できる
	可	在宅療養の場の特性を記述できる
	不可	在宅療養の場の特性を理解していない
④訪問看護師が生活を捉える視点を理解する（探究力）	秀	生活の概念を在宅療養の場の特性と人間の尊厳の側面から広義にとらえ考察し記述する
	優	生活の概念を在宅療養の場の特性と人間の尊厳の側面から広義にとらえ記述する
	良	生活の概念を在宅療養の場の特性をイメージしながら記述する
	可	生活の概念を１年時の生活健康論の知識を想起し記述する
	不可	生活の概念を理解していない
⑤在宅看護を担う看護職の役割と機能を理解する（批判的思考力）	秀	在宅看護の独自の機能を他の看護学と比較して理解し記述できる
	優	在宅看護を担う看護職の役割と機能を必要な能力と組み立てて理解し記述する
	良	在宅看護を担う看護職の役割と機能・必要な能力を理解し記述する
	可	在宅看護を担う看護職の役割と機能を記述する
	不可	在宅看護を担う看護職の役割と機能を理解していない

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	40	0	0	0	0	100
評価項目	①在宅看護の歴史的変遷と将来像	0	10	0	0	0	0	10
	②在宅看護と在宅ケアの概念（在宅ケア、在宅医療、継続看護在宅看護、訪問看護）	25	0	0	0	0	0	25
	③在宅宅療養の場の特性と求められる看護	10	10	0	0	0	0	20
	④訪問看護師が生活を捉える視点	10	10	0	0	0	0	20
	⑤在宅看護を担う看護職の役割と機能を理解する	15	10	0	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①		試験期間中に実施する筆記試験授 業期間中に実施する到達度確認テスト
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
提出物	①	✓	課題のレポート
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
在宅看護は各看護領域との関連が深く、応用的かつ実践的な領域です。専門的な内容を豊富に含みますので、在宅看護以外の講義・演習の資料を活用し、主体的に学習することが必要です。
教科書・参考書
教科書：①『系統看護学講座 統合分野 在宅看護論』 ② 医学書院『国民衛生の動向　2016/2017』厚生労働統計協 参考書：随時紹介します

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
地域看護学概論 （Ｎ１３０８０） 人々が生活する「地域」での看護	講義	1	15	2	前期	必修	看国試必修 保国試必修	魚崎須美 単独担当	7 号館 3 階 研究室
科目担当者	魚崎須美								

関連ときわコンピテンシー	教養、専門力、論理的思考力、批判的思考力
授業の概要	地域看護の基本理念及び活動の場、機能、役割について学習する。 地域で行われる看護について体系的に学習する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第 1 回	地域看護の歴史	【予習】教科書の読解 【復習】授業の振り返り
第 2 回	地域看護の概念、定義、目的	【予習】教科書の読解 【復習】授業の振り返り
第 3 回	地域看護活動の対象、技術・技法	【予習】教科書の読解 【復習】授業の振り返り
第 4 回	地域看護活動の場と特性①（講義とグループワーク）	【予習】教科書の読解 【復習】授業の振り返り
第 5 回	地域看護活動の場と特性②（講義とグループワーク）	【予習】授業で提示された課題 【復習】授業の振り返り
第 6 回	地域看護活動の場と特性③（講義とグループワーク）	【予習】授業で提示された課題 【復習】授業の振り返り
第 7 回	地域における看護の役割④（講義とグループワーク）	【予習】授業で提示された課題 【復習】授業の振り返り
第 8 回	まとめ	【予習】授業で提示された課題 【復習】授業の振り返り

学修の到達目標
1．地域看護の歴史について理解する。 2．地域看護の目的、対象、技術・技法について理解する。 3．地域看護活動の場と特性を理解する。 4．地域における看護の役割を考えることができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①地域看護の歴史について理解する。（教養）	秀	地域看護の歴史に関して興味関心を抱き、何らかの形で学修を継続し、その成果を発信している。
	優	地域看護の歴史に関して興味関心を抱き、何らかの形で学修を継続している。
	良	地域看護の歴史に関して興味関心を抱き、何らかの形で学修した。
	可	地域看護についての知見のみにとどまっている。
	不可	地域看護についての知見が不十分である。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②地域看護学の目的、対象、技術・技法について理解する。（専門力）	秀	地域看護についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。 なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	地域看護についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	地域看護についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	地域看護についての知識・技術を身につけている。
	不可	地域看護についての知識・技術を身につけていない。
③地域看護活動の場と特性を理解する。（論理的思考力）	秀	地域看護活動の場と特性について、客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	地域看護活動の場と特性について、客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる
	良	地域看護活動の場と特性について、客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	地域看護活動の場と特性について、多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	地域看護活動の場と特性について、根拠に基づき論理的に考えることができない。
④地域における看護の役割を考えることができる。（批判的思考力）	秀	地域における看護の役割を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している
	優	地域における看護の役割を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	地域における看護の役割の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	地域における看護のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	地域における看護のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	0	0	0	0	30	100
評価項目	①地域看護の歴史	20	0	0	0	0	0	20
	②地域看護の目的、対象、技術・技法	40	0	0	0	0	0	40
	③地域看護活動の場と特性	10	0	0	0	0	20	30
	④地域における看護の役割	0	0	0	0	0	10	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	試験、もしくはレポート試験を行う。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤		
その他	①		アクティブラーニング（グループワーク）の参加態度・発言など。
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など
2 年後期における保健師教育課程についての検討に役立ててください。
教科書・参考書
教科書：『標準保健師講座 1　公衆衛生看護学概論』 標　美奈子　医学書院 参考書：『最新保健学講座 1　公衆衛生看護学概論』 金川　克子　メヂカルフレンド社 『国民衛生の動向 2017/2018』 厚生労働統計協会 『ケアの原形論』 金井一薫　現代社 『看護小論集』 薄井坦子、小玉香津子　現代社

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
基本看護技術Ⅱ（診療の補助技術） （Ｎ１３１２０） 治療･検査･処置に関する看護技術を学ぶ	演習	2	60	2	前期	必修	看国試必修	山口有美 複数担当	7号館4階 研究室他
科目担当者	山口有美、黒野利佐子、藤原桜、中村由果理、西原詩子								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、省察力、探求力、表現力
授業の概要	医療における診療のプロセスを概観し、診療における看護の役割を理解し、看護の対象に行われる医学的検査・治療に伴う基本的な援助技術の知識と方法を修得する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	診療のプロセスの概観と診療における看護の役割／安全を守る援助技術（1）（担当者：科目担当全員）	【予習】該当範囲の教科書を読む 【復習】ノートに整理し理解を深める
第2回	安全を守る援助技術（2）：[演習] 無菌操作（担当者：科目担当者全員）	【予習】演習の事前学習 【復習】演習記録の記入とノート整理
第3回	検査に伴う援助技術（1）（担当者：科目担当者全員）	【予習】該当範囲の教科書を読む 【復習】ノートに整理し理解を深める
第4回	検査に伴う援助技術（2）：[演習] 静脈血採血（担当者：科目担当者全員）	【予習】演習の事前学習 【復習】演習記録の記入とノート整理
第5回	治療・処置に伴う援助技術：与薬（1）（担当者：科目担当者全員）	【予習】該当範囲の教科書を読む 【復習】ノートに整理し理解を深める
第6回	治療・処置に伴う援助技術：与薬（2）：[演習] 皮下・筋肉内注射（担当者：科目担当者全員）	【予習】演習の事前学習 【復習】演習記録の記入とノート整理
第7回	治療・処置に伴う援助技術：与薬（3）：[演習] 点滴静脈内注射の管理（担当者：科目担当者全員）	【予習】演習の事前学習 【復習】演習記録の記入とノート整理
第8回	治療・処置に伴う援助技術：罨法：[演習] 温罨法・冷罨法（担当者：科目担当者全員）	【予習】演習の事前学習 【復習】演習記録の記入とノート整理
第9回	治療・処置に伴う援助技術：創傷管理：[演習] 包帯法・創傷処置（担当者：科目担当者全員）	【予習】演習の事前学習 【復習】演習記録の記入とノート整理
第10回	治療・処置に伴う援助技術：特殊な排泄の援助（1）：[演習] グリセリン浣腸（担当者：科目担当者全員）	【予習】演習の事前学習 【復習】演習記録の記入とノート整理
第11回	治療・処置に伴う援助技術：特殊な排泄の援助（2）：[演習] 一時的導尿（担当者：科目担当者全員）	【予習】演習の事前学習 【復習】演習記録の記入とノート整理
第12回	治療・処置に伴う援助技術：酸素療法：[演習] 酸素療法・酸素ボンベの取り扱い（担当者：科目担当者全員）	【予習】演習の事前学習 【復習】演習記録の記入とノート整理
第13回	治療・処置に伴う援助技術：吸引：[演習] 一時的吸引（担当者：科目担当者全員）	【予習】演習の事前学習 【復習】演習記録の記入とノート整理
第14回	治療・処置に伴う援助技術：穿刺、輸血管理、経管栄養法（担当者：科目担当者全員）	【予習】該当範囲の教科書を読む 【復習】ノートに整理し理解を深める
第15回	安全を守る援助技術（3）：看護の場面における安全（担当者：科目担当者全員）	【予習】該当範囲の教科書を読む 【復習】ノートに整理し理解を深める

学修の到達目標

①医学的検査・治療に伴う基本的な援助技術の特徴と適切に援助するために留意すべき点について理解する。
②医学的検査・治療に伴う基本的な援助技術について原理・原則および根拠に基づいて理解する。
③医学的検査・治療に伴う基本的な援助技術における看護専門職の役割を理解する。
④対象に行われる医学的検査・治療に伴う基本的な援助技術の知識と方法を理解し看護の実践ができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①医学的検査・治療に伴う基本的な援助技術の特徴と適切に援助するために留意すべき点について理解する。（専門力）	秀	医学的検査･治療に伴う基本的な援助技術の特徴と適切に援助するために留意すべき点について対象の特徴に合わせて根拠に基づいた考察ができる。
	優	医学的検査･治療に伴う基本的な援助技術の特徴と適切に援助するために留意すべき点について対象を意識して根拠に基づいた説明ができる。
	良	医学的検査･治療に伴う基本的な援助技術の特徴と留意すべき点について根拠に基づいた説明ができる。
	可	医学的検査･治療に伴う基本的な援助技術の特徴と留意すべき点について項目を挙げることができる。
	不可	医学的検査･治療に伴う基本的な援助技術の特徴と適切に援助するための留意すべき点が理解できていない。
②医学的検査・治療に伴う基本的な援助技術について原理・原則および根拠に基づいて理解する。（探求力）	秀	医学的検査･治療に伴う基本的な援助技術の原理･原則および根拠について既習した知識と演習での体験を関連付けて理解し、「より良さ」を目指して考察することができる。
	優	医学的検査･治療に伴う基本的な援助技術の原理･原則および根拠について既習した知識と演習での体験を関連付けて理解し説明できる。
	良	医学的検査･治療に伴う基本的な援助技術の原理･原則および根拠について既習した知識や演習での体験を用いて理解できる。
	可	医学的検査･治療に伴う基本的な援助技術の原理･原則および根拠について項目を挙げることができる。
	不可	医学的検査･治療に伴う基本的な援助技術の原理･原則および根拠が理解できていない。
③医学的検査・治療に伴う基本的な援助技術における看護専門職の役割を理解する。（専門力）	秀	医学的検査･治療に伴う基本的な援助技術における看護専門職の役割について既習した知識と演習での体験を関連付けて理解し対象の特徴に合わせた考察ができる。
	優	医学的検査･治療に伴う基本的な援助技術における看護専門職の役割について既習した知識と演習での体験を関連付けて理解し対象を意識しながら説明できる。
	良	医学的検査･治療に伴う基本的な援助技術における看護専門職の役割について既習した知識や演習での体験を用いて理解できる。
	可	医学的検査･治療に伴う基本的な援助技術における看護専門職の役割について項目を挙げることができる。
	不可	医学的検査･治療に伴う基本的な援助技術における看護専門職の役割が理解できていない。
④-１対象に行われる医学的検査・治療に伴う基本的な援助技術の知識と方法を根拠に基づいて理解する。（論理的思考力）	秀	演習で提示した事例から対象に行われる医学的検査･治療に伴う援助技術の必要性について理解し目的を明確にし、そのための方法を検討することができる。
	優	演習で提示した事例から対象に行われる医学的検査･治療に伴う援助技術の必要性について理解し目的を明確にすることができる。
	良	医学的検査･治療に伴う基本的な援助技術について既習した知識や演習の体験を用いて援助の必要性と目的を説明することができる。
	可	医学的検査･治療に伴う基本的な援助技術について既習した知識や演習の体験を用いて援助の必要性と目的の項目を挙げることができる。
	不可	医学的検査･治療に伴う基本的な援助技術について既習した知識や演習の体験を用いて援助の必要性と目的を理解できていない。
④-２対象に行われる医学的検査・治療に伴う基本的な援助技術の知識と方法を理解し看護の実践ができる。（責任感）	秀	演習で提示した事例から対象に行われる医学的検査･治療に伴う援助技術を対象にとっての安全･安楽に配慮して効率よく一連の流れを実施することができる。
	優	演習で提示した事例から対象に行われる医学的検査･治療に伴う援助技術を対象にとっての安全･安楽に配慮して一連の流れを実施することができる。
	良	医学的検査･治療に伴う基本的な援助技術について既習した知識や演習の体験を用いて安全･安楽に配慮して一連の流れを実施することができる。
	可	医学的検査･治療に伴う基本的な援助技術について一連の流れを実施することができる。
	不可	医学的検査･治療に伴う基本的な援助技術について一連の流れを実施できない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	10	0	0	20	0	100
評価項目	①特徴と留意点の理解	5	2	0	0	4	0	11
	②原理原則と根拠の理解	15	2	0	0	4	0	21
	③看護専門職の役割の理解	10	2	0	0	4	0	16
	④-１対象への援助の必要性と目的の理解	25	2	0	0	4	0	31
	④-２対象への援助の実施	15	2	0	0	4	0	21

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	筆記試験と実技試験を行う。 講義や演習を通して学んだ知識・技術の活用だけでなく専門職として態度が求められる。
	②	✓	
	③	✓	
	④-１	✓	
	④-２	✓	
提出物	①	✓	事前学習や演習後記録（リフレクション）を提出すること。 講義や演習での気づきや学びをテキストや参考書等を用いてノートを整理すること。
	②	✓	
	③	✓	
	④-１	✓	
	④-２	✓	
ポートフォリオ	①	✓	各講義や演習での気づきや学びをテキストや参考書等を用いてノートに整理する。 演習の事前学習と演習記録をファイリングする。
	②	✓	
	③	✓	
	④-１	✓	
	④-２	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

基本看護技術Ⅰと同様に、様々な資源を活用して事前学習に取り組み、事後は授業を通しての学びや気づき、課題、疑問点を記録やノートに整理する。また、援助技術修得に向けた技術演習等の学習に取り組むこと。既修科目の看護学概論、生活健康論、看護解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護対象論、感染看護学、基本看護技術Ⅰの知識も積極的に活用し、看護専門職の態度や役割を意識しながら対象者への診療の補助技術を積極的に学んでほしい。

教科書・参考書

教科書：『系統看護学講座　専門分野Ⅰ基礎看護学［３］基礎看護技術Ⅱ』任　和子他著、医学書院

参考書：随時紹介する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
基本看護技術Ⅲ（フィジカルアセスメント）（Ｎ１３１３１） “目と手と耳でここまでわかる”	演習	1	30	2	前期	必修	看国試必修	藤原桜 複数担当	7号館4階研究室他
科目担当者	藤原桜、尾﨑雅子、中村由果理、西原詩子、福山貴子＊								

関連ときわコンピテンシー	専門力、情報力、省察力、論理的思考、責任感
授業の概要	ホリスティックな存在である「人間」の身体状態を評価するために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術を、講義と演習でのロールプレイングを通して修得することを目指します。また、ロールプレイングやロールプレイングでの経験の省察を通して看護専門職者としての基本的な態度（倫理的・省察的）を養うことを目指します。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	【講義】フィジカルアセスメントの意義と身体診察技術 （視診、触診、打診、聴診）（担当者：全員）	【予習】シラバスに目を通しておく
第2回	【講義】バイタルサインのアセスメント ①（担当者：全員）	【予習】授業に関係する解剖生理
第3回	【演習】バイタルサインのアセスメント ②（担当者：全員）	【予習】DVD（測定技術）視聴 【復習】収集した情報のアセスメント リフレクティブジャーナル
第4回	【演習】バイタルサインのアセスメント ③（担当者：全員）	【予習】DVD（測定技術）視聴 【復習】収集した情報のアセスメント リフレクティブジャーナル
第5回	【講義】胸部・肺のアセスメント① 【ミニテスト】バイタルサイン（担当者：全員）	【予習】授業に関係する解剖生理
第6回	【演習】胸部・肺のアセスメント②（担当者：全員）	【予習】DVD（測定技術）視聴 【復習】収集した情報のアセスメント リフレクティブジャーナル
第7回	【講義】心臓・循環系のアセスメント① 【ミニテスト】胸部・肺のアセスメント（担当者：全員）	【予習】授業に関係する解剖生理
第8回	【演習】心臓・循環系のアセスメント②（担当者：全員）	【予習】DVD（測定技術）視聴 【復習】収集した情報のアセスメント リフレクティブジャーナル
第9回	【講義】腹部・消化器系のアセスメント① 【ミニテスト】心臓・循環系のアセスメント（担当者：全員）	【予習】授業に関係する解剖生理
第10回	【演習】腹部・消化器系のアセスメント②（担当者：全員）	【予習】DVD（測定技術）視聴 【復習】収集した情報のアセスメント リフレクティブジャーナル
第11回	【講義・演習】筋・骨格系のアセスメント 【ミニテスト】腹部・消化器系のアセスメント（担当者：全員）	【予習】授業に関係する解剖生理 【復習】収集した情報のアセスメント リフレクティブジャーナル
第12回	【講義】脳・神経系のアセスメント① 【ミニテスト】筋・骨格系のアセスメント（担当者：全員）	【予習】授業に関係する解剖生理
第13回	【演習】脳・神経系のアセスメント②（担当者：全員）	【予習】DVD（測定技術）視聴 【復習】収集した情報のアセスメント リフレクティブジャーナル
第14回	【演習】総合演習 ① 【ミニテスト】脳・神経系のアセスメント（担当者：全員）	【予習】配布事例を基に演習計画立案 【復習】収集した情報のアセスメント
第15回	【演習】総合演習 ② まとめ・学びの共有（担当者：全員）	【予習】看護計画立案

学修の到達目標
1．フィジカルアセスメントの意義・目的・方法、身体所見の意味が理解できる。 2．観察・診察技術を活用して身体の情報を得ることができる。 3．身体情報を整理・解釈・統合して身体状態を評価できる。 4．フィジカルアセスメントにおける看護専門職者としての基本的態度（倫理的・省察的）を養う。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①フィジカルアセスメントの意義・目的・方法、身体所見の意味が理解できる。 （専門力）	秀	フィジカルアセスメントの意義･目的･方法、身体所見の意味が説明でき、なおかつ探求的である。
	優	フィジカルアセスメントの意義･目的･方法、身体所見の意味が説明できる。
	良	フィジカルアセスメントの意義･目的･方法、身体所見の意味が理解できる。
	可	フィジカルアセスメントの意義･目的･方法、身体所見の意味が把握できる。
	不可	フィジカルアセスメントの意義･目的･方法、身体所見の意味が把握できない。
②観察・診察技術を活用して身体の情報を得ることができる。 （情報力）	秀	対象者のとの間主観的な関係性の中で、対象者の身体状態に関心を向けて、身体情報(主観･客観)が安全に且つ正確に対象者の状態に応じた方法で収集できる。また、正しく記録できる。
	優	対象者のとの間主観的な関係性の中で、対象者の身体状態に関心を向けて、身体情報(主観･客観)が安全に且つ正確に収集でき、正しく記録できる。
	良	対象者のとの間主観的な関係性の中で、対象者の身体状態に関心を向けて、身体情報(主観･客観)が安全に且つ正確に収集できる。
	可	対象者のとの間主観的な関係性の中で、対象者の身体状態に関心を向けて、身体情報(主観･客観)が正確に収集できる。
	不可	対象者の身体状態に関心が向けられない。または、対象者の身体情報(主観･客観)が収集できない。
③身体情報を整理・解釈・統合して身体状態を評価できる。 （論理的思考力）	秀	身体情報の整理･解釈(基準値と比較することで逸脱程度を明確にできる)ができる。なおかつ情報の統合(情報間を関係づける)ができ、ホリスティックな人間としての身体状態の評価ができる。
	優	身体情報の整理･解釈(基準値と比較することで逸脱程度を明確にできる)ができる。なおかつ情報の統合(情報間を関係づける)ができ、身体状態の評価ができる。
	良	身体情報の整理･解釈(基準値と比較することで逸脱程度を明確にできる)ができる。
	可	身体情報の整理はできるが、情報の解釈が不十分。
	不可	身体情報の整理ができない。
④-1ロールプレイングを通して看護専門職者としての倫理的態度を養う。 （責任感）	秀	高いモチベーションを持って、与えられた役割(患者･看護師)を遂行することができ、対象者を尊重することができる。なおかつ、個人情報を保護することができ、対象者への身体的･精神的な負担を軽減するための配慮ができる。さらに、看護専門職者としての倫理的態度が探求できる。
	優	高いモチベーションを持って、与えられた役割(患者･看護師)を遂行することができ、対象者を尊重することができる。なおかつ、個人情報を保護することができる。さらに、対象者への身体的･精神的な負担を軽減するための配慮ができる。
	良	自発的に与えられた役割(患者･看護師)を遂行することができ、対象者を尊重することができる。なおかつ、個人情報を保護することができる。
	可	他者に促されれば、与えられた役割(患者･看護師)を遂行することができ、対象者を尊重することができる。
	不可	与えられた役割(患者･看護師)を遂行することができない。または、参加しない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
④-2ロールプレイングでの経験を省察することを通して、看護専門職者としての省察的態度を養う。（省察力）	秀	ロールプレイングで経験した自らの行為・思考・態度について省察することができ、自己の課題を具体的に示すことができる。なおかつ実行性を伴った次への行動計画を示すことができる。
	優	ロールプレイングで経験した自らの行為・思考・態度について省察することができ、自己の課題を具体的に示すことができる。なおかつ次への行動計画を示すことができるが、抽象度が高い。
	良	ロールプレイングで経験した自らの行為・思考・態度について省察することができ、自己の課題を具体的に示すことはできるが、次への行動計画を示すことはできない。
	可	ロールプレイングで経験した自らの行為・思考・態度について省察することができ、自己の課題を示すことはできるが、抽象度が高い。
	不可	ロールプレイングで経験した自らの行為・思考・態度について省察できない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	20	0	0	10	10	100
評価項目	①知識を得る	30	0	0	0	0	0	30
	②技術を修得する	30	0	0	0	0	0	30
	③情報を整理・解釈・評価する力	0	20	0	0	0	0	20
	④看護専門職者としての基本的態度	0	0	0	0	10	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	筆記試験と実技試験
	②	✓	
	③		
	④		
提出物	①		演習後に提出するフィジカルアセスメントの内容
	②		
	③	✓	
	④		
ポートフォリオ	①		演習後に提出するリフレクティブジャーナルの内容
	②		
	③		
	④	✓	
その他	①		ロールプレイングへの取り組み
	②		
	③		
	④	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
1．必要な知識：既習した「看護解剖生理Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「看護対象論」などの知識 2．必要な技術：既習した「触れる技術」「傾聴する技術」など 3．必要な態度：能動的・主体的に学習する態度。「人」を慮る（思いやりのある）態度。
教科書・参考書
教科書：『はじめてのフィジカルアセスメント』横山美樹、メジカルフレンド社 参考書：『山内豊明教授のフィジカルアセスメント（DVD）第1巻〜第9巻』山内豊明、京都科学 『フィジカルアセスメントガイドブック第2版』山内豊明、医学書院 『フィジカルアセスメントがみえる』医療情報科学研究所編集、メディックメディア

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
基本看護技術Ⅳ（看護過程） （Ｎ１３１４１） 看護実践の科学性	演習	1	30	2	前期	必修	看国試必修	鎌田美智子 複数担当	7 号館 3 階 研究室他
科目担当者	鎌田美智子、尾﨑雅子、黒野利佐子、山口有美								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、論理的思考力、批判的思考力、省察力、知欲
授業の概要	看護過程について、歴史的背景を踏まえ、看護実践に効果的に活用されるための理論と方法の基礎を修得する。加えて問題解決論、システム論、意思決定論等を活用した看護過程の組織的な実践プロセスの理解を深めるため、自分の思考を客観的に思考する能力を養う。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第 1 回 第 2 回	「問題解決者としての人間」 1）人間の問題解決能力 新田次郎作『剣岳・点の記』DVD の視聴⇒　まとめ （担当者：鎌田） 2）小説の主人公の分析による問題解決過程の概要	【予習】シラバスの確認 【復習】授業内容の整理ノート作成 DVD の視聴後の意見・感想をまとめておく
第 3 回	「人間の思考の特徴と看護活動への活用」　（担当者：鎌田）	授業整理のノート作成 授業の感想・質問票提出
第 4 回	「看護過程の理論」1）看護過程の概念　（担当者：鎌田）	同上
第 5 回	「看護過程の理論」2）看護過程の方法論　（担当者：鎌田）	同上
第 6 回	「看護過程の展開方法」1）アセスメント過程　（担当者：尾﨑）	同上
第 7 回	事例を用いた看護過程の展開①（患者の理解：患者像をイメージする） （担当者：尾﨑、黒野、山口）	【予習】事例を理解するための資料類の準備 授業整理のノート作成 授業の感想・質問票提出
第 8 回	「看護過程の展開方法」1）アセスメント過程（つづき） （担当者：尾﨑）	授業整理のノート作成 授業の感想・質問票提出
第 9 回	事例を用いた看護過程の展開②（患者の看護上の問題を抽出する） （担当者：尾﨑、黒野、山口）	【予習】事例に関連する健康障害、発達段階の理解 授業整理のノート作成 授業の感想・質問票提出
第10回	事例を用いた看護過程の展開③（患者の看護上の問題を抽出する） （担当者：尾﨑、黒野、山口）	同上
第11回	「看護過程の展開方法」2）看護計画・立案過程　（担当者：尾﨑）	授業整理のノート作成 授業の感想・質問票提出
第12回	事例を用いた看護過程の展開④（患者の看護計画の立案をする） （担当者：尾﨑、黒野、山口）	問題解決のための具体策に検討に必要な資料類の準備 授業整理のノート作成 授業の感想・質問票提出
第13回	事例を用いた看護過程の展開⑤（患者の看護計画の立案をする） （担当者：尾﨑、黒野、山口）	同上
第14回	3）実施過程 4）評価過程　（担当者：尾﨑）	授業整理のノート作成 授業の感想・質問票提出
第15回	事例の看護過程例の提示とまとめ　（担当者：尾﨑）	同上

学修の到達目標
1．様々な状況に対して、自ら課題解決してゆく存在である人間の基本的性向を理解する（問題解決する人間観）。 2．人間の思考の特徴を理解し、看護実践への活用の過程を把握する。 3．看護の専門性を具現する一つのツールとしての、看護過程の意義と課題を理解する。 4．問題解決理論等を活用した看護過程の方法論について、その展開の基本的な方法を修得する。 5．事例（ペーパー・ペイシェント）展開等を通して、自己の思考を客観的に思考する能力を養う。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①様々な状況に対して自ら課題解決してゆく存在である人間の基本的性向を理解する。（探求力）	秀	例示した事例(『剣岳・点の記』の主人公)を分析、統合し、人間は自ら課題解決してゆく存在であることを理解し、問題解決者としての人間の思考、行動の起点となる自己実現に向かう性向を考察することができる。
	優	例示した事例(『剣岳・点の記』の主人公)から人間は自ら課題解決してゆく存在であることを理解し、問題解決者としての人間の思考、行動の起点となる性向を説明することができる。
	良	例示した事例(『剣岳・点の記』の主人公)を通して、問題解決者としての人間の思考、行動の起点となる性向の概略を理解することができる。
	可	人間は自ら課題解決してゆく存在であることを認識することができる。
	不可	上記について認識できていない。
②人間の思考の特徴を理解し、看護実践への活用の過程を把握する。（専門力、論理的思考力）	秀	人間の思考及び問題解決における思考の働きを理解し、看護実践活用時の問題解決プロセスとして、その意義を考察することができる。
	優	人間の思考及び問題解決における思考の働きを理解し、看護実践活用時の問題解決プロセスとして説明することができる。
	良	人間の思考及び問題解決における思考の概略を理解し、看護実践活用時の問題解決プロセスとして、理解することができる。
	可	看護実践活用時の問題解決プロセスの概略を把握することができる。
	不可	上記について把握していない。
③看護の専門性を具現する一つのツールとしての、看護過程の意義と課題を理解する。（専門力、論理的思考力）	秀	看護の専門性を具現するための組織的な方法としての看護過程の概念を理解し、問題解決理論を中心とした一つのツールとしての看護過程の意義や課題を考察することができる。
	優	看護の専門性を具現するための組織的な方法としての看護過程の概念を理解し、問題解決理論を中心とした一つのツールとしての看護過程の意義や課題を説明することができる。
	良	看護過程の概念を理解し、問題解決理論を中心とした一つのツールとしての看護過程の意義を理解することができる。
	可	問題解決理論を中心とした一つのツールとしての看護過程の意義を認識することができる。
	不可	上記について認識していない。
④-１問題解決理論等を活用した看護過程の方法論について、その展開の基本的な方法を修得する。（専門力）	秀	看護過程の各プロセスについて思考の流れに沿って説明し、問題解決理論や意思決定理論を活用した組織的な方法であることを考察することができる。(看護の科学性)
	優	看護過程の各プロセスについて思考の流れに沿って説明し、組織的な方法であることを説明することができる。
	良	看護過程の各プロセスについて、思考の流れに沿って理解することができる。
	可	看護過程の展開構造(アセスメント・看護計画立案・実施・評価)について把握することができる。
	不可	上記について把握していない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
④-２問題解決理論等を活用した看護過程の方法論について、その展開の基本的な方法を修得する。（論理的思考力）	秀	事例(ペーパー・ペイシェント)を用いた演習を通して、既習の知識を活用し看護の視点でアセスメントを行い、看護問題の優先度の検討ができ、看護の方向性を示し、優先度の高い看護問題を一つ以上取り上げ、解決に向けた看護計画が立案できる。
	優	事例(ペーパー・ペイシェント)を用いた演習を通して、既習の知識を活用し看護の視点でアセスメントを行い、導き出した対象の看護問題一つ以上について解決目標と解決策が立案できる。
	良	事例(ペーパー・ペイシェント)を用いた演習を通して、看護の視点でアセスメントを行い、対象の健康問題から看護問題を一つ以上導き出し、解決に向けた方法を立案できる。
	可	事例(ペーパー・ペイシェント)を用いた演習を通して、看護の視点でアセスメントを行い対象の健康問題を一つ以上導き出すことができる。
	不可	上記についてできない。
⑤事例（ペーパー・ペイシェント）展開等を通して、自己の思考を客観的に思考する能力を養う。（批判的思考力）	秀	自己の思考過程を客観的に俯瞰して捉え、自己の思考における課題を明確にし、課題解決に向けた方向性を見出している。
	優	自己の思考過程を客観的に捉え、自己の思考における課題を明確にすることができる。
	良	自己の思考過程を客観的に捉え、問題解決のプロセスに照らして分析的に捉える。
	可	自己の思考過程を客観的に捉えようと努力している。
	不可	上記がみられない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	0	30	0	0	0	100
評価項目	①課題に対する人間の基本的性向	8	0	0	0	0	0	8
	②人間の思考の特徴と看護への活用	12	0	0	0	0	0	12
	③専門性を具現するツールとしての看護過程の意義と課題	30	0	0	0	0	0	30
	④-１看護過程の展開方法の理解	20	0	10	0	0	0	30
	④-２看護過程の展開方法の実施	0	0	10	0	0	0	10
	⑤自己の思考を思考する	0	0	10	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	筆記試験
	②	✓	
	③	✓	
	④-1	✓	
	④-2		
	⑤		
成果発表 （口頭・実技）	①		グループで事例（ペーパー・ペイシェント）を用いた演習を行う。その学習成果については個人レポートとして提出する。学習の進め方については別途「学修の進め方の手がかり」を提示するので学習の内容を各自確認しながらすすめること。 終了時には自己評価を行い、その結果も共に提出する。
	②		
	③		
	④-1	✓	
	④-2	✓	
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など

・様々な視点で幅広い討議ができるよう、事前に十分な準備をして臨むこと。事例を用いた看護過程の展開を行う際は、１年次に学んだ知識を活用するので復習しておくこと。
・９月に開講する基礎看護学実習（看護過程）は、本授業の内容が既修内容となるので、各自が理解できるように積極的な態度で取り組んでほしい。

教科書・参考書

教科書：『問題解決の心理学』安西祐一郎著　中公新書
『改訂版　看護過程を臨床に生かそう』鎌田美智子著　看護の科学社
『剣岳・点の記』新田次郎著　文春文庫

参考書：『看護過程　ナーシングプロセス』H.Yura M.Walsh 著・岩井郁子他訳　医学書院
『基本から学ぶ　看護過程と看護診断』R.Alfaro 他著・江本愛子監訳　医学書院
『看護過程　基本と事例展開』鎌田美智子編著　日総研出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
慢性病看護論 （Ｎ１３２００） 生涯にわたって病気と付き合えるための看護について学ぼう！	講義	2	30	2	後期	必修	看国試必修	生島祥江 単独担当	7号館3階研究室
科目担当者	生島祥江								

関連ときわコンピテンシー	専門力、論理的思考力、デザイン力、表現力、省察力
授業の概要	慢性の経過をたどる病気の総称である慢性病は、完全に治ることが望めない、もしくは望みにくい。そこで、授業では、まず、慢性病をもって生活する人の特徴を理解し、対象が健康状態に応じてその人らしく生活するための援助と、生涯にわたって病気とうまく折り合えるような援助について学習することを目的とする。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション 慢性病の特徴、慢性病をもつ人とその家族の特徴	【予習】シラバス内容の熟読 【復習】本日の授業内容の振り返り
第2回	慢性病患者のセルフマネジメントを支援するための概念①（エンパワーメント、自己効力など）	【予習】教科書の読解 【復習】本日の授業内容の振り返り
第3回	慢性病患者のセルフマネジメントを支援するための概念②（トランスセオレティカルモデルなど） 慢性閉塞性肺疾患の事例を用いて理解する	【予習】病態の学習（慢性閉塞性肺疾患） 【復習】トランスセオレティカルモデルを使った援助計画立案・提出
第4回	糖尿病をもつ人へのセルフマネジメント支援①（糖尿病に関する小テスト、グループ討議）	【予習】糖尿病の病態に関する学習 【復習】討議内容の振り返り
第5回	糖尿病をもつ人へのセルフマネジメント支援②（セルフモニタリングの実際）	【予習】自己血糖測定の手順作成 【復習】振り返り記録の作成・提出
第6回	糖尿病をもつ人へのセルフマネジメント支援③（発表、全体討議）	【予習】グループ発表準備 【復習】事例の看護計画立案・提出
第7回	慢性病患者の療養法（膠原病患者のステロイド療法、慢性病患者の自己注射ほか）とセルフマネジメント支援①	【予習】病態の学習（膠原病） 【復習】糖尿病患者のインスリン自己注射の指導計画立案・提出
第8回	慢性病患者の療養法（慢性心不全患者の食事療法ほか）とセルフマネジメント支援②	【予習】解剖生理、病態の学習（循環、心不全） 【復習】事例の献立作成・試食・提出
第9回	慢性腎臓病をもつ人（保存期腎不全患者）へのセルフマネジメント支援①	【予習】解剖生理、病態の学習（腎臓、慢性腎臓病、腎不全） 【復習】本日の授業内容の振り返り
第10回	慢性腎臓病をもつ人（透析患者）へのセルフマネジメント支援②	【予習】透析療法についての学習 【復習】本日の授業内容の振り返り
第11回	がん患者と家族の特徴、がんとともに生きる人々への看護	【予習】病理（がん）の学習 【復習】本日の授業内容の振り返り
第12回	がんの治療（化学療法、放射線療法など）を受ける患者の看護	【予習】がんの治療に関する学習 【復習】本日の授業内容の振り返り
第13回	血液がん患者への看護①（血液がんに関する小テスト、グループ討議）	【予習】血液がんに関する学習、事例の熟読、情報の整理、解釈・分析 【復習】討議内容の振り返り
第14回	血液がん患者への看護②（発表、全体討議）	【予習】グループ発表の準備 【復習】振り返り票の作成・提出
第15回	慢性肝炎・肝硬変患者・肝臓がん患者の看護	【予習】解剖生理・病態の学習（肝臓、慢性肝炎、肝硬変、肝臓がん） 【復習】ノートの作成・提出

学修の到達目標
1．慢性病の特徴および慢性病をもつ人とその家族の特徴について理解する。 2．慢性病患者を援助するための主要な概念について理解する。 3．慢性病患者の療養法と援助について理解する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①慢性病をもって生活する人とその家族の特徴をおよび看護について理解する。（専門力）	秀	慢性病をもって生活する人とその家族の特徴を十分に理解し、病気に応じた看護についての知識を身につけている。
	優	慢性病をもって生活する人とその家族の特徴を十分に理解し、看護についての知識を身につけている。
	良	慢性病をもって生活する人とその家族の特徴を理解し、看護についての知識を身につけている。
	可	慢性病をもって生活する人の看護についての知識を身につけている。
	不可	慢性病をもって生活する人の看護についての知識を身につけていない。
②慢性病患者のセルフマネジメントの支援を、概念を用いて考えることができる。（論理的思考力）	秀	セルフマネジメントの支援を、複数の概念を用いて十分論理的に考えることができ、かつ用いた概念の限界を認識している。
	優	セルフマネジメントの支援を、複数の概念を用いて十分論理的に考えることができる。
	良	セルフマネジメントの支援を、複数の概念を用いて論理的に考えることができる。
	可	セルフマネジメントの支援を、一つの概念を用いて論理的に考えることができる。
	不可	セルフマネジメントの支援を、概念を用いて論理的に考えることができない。
③慢性病患者の療養法に応じた援助を考えることができる。（デザイン力）	秀	慢性病患者の様々な療養法に応じた援助を既習の知識をもとに自発的に考えることができる。
	優	慢性病患者の様々な療養法に応じた援助を既習の知識をもとに考えることができる。
	良	慢性病患者の様々な療養法に応じた援助を考えることができる。
	可	慢性病患者の療養法に対する援助を考えることができる。
	不可	慢性病患者の療養法に対する援助を考えることができない。
④慢性病患者のセルフマネジメント支援のために立案した計画を他者に伝えることができる。（表現力）	秀	自分が立案した計画を書き言葉、話し言葉で十分に積極的に伝えることができる。そして、伝えられた内容は理解しやすい。
	優	自分が立案した計画を書き言葉、話し言葉で十分に他者に伝えることができる。
	良	自分が立案した計画を書き言葉、話し言葉で他者に伝えることができる。
	可	自分が立案した計画を何らかの方法で他者に伝えることができる。
	不可	自分が立案した計画を他者に伝えることができない。
⑤慢性病患者のよりよい支援を考えようと振り返ることができる。（省察力）	秀	自分の判断に過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・行動を客観的に検証し、次につながるような課題を見出すことができる。
	優	自発的に自らの思考・行動について客観的に振り返り、次につながるような課題を見出すことができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・行動について振り返り、次につながるような課題を見出すことができる。
	可	他者からの助言のもと自らの思考・行動について振り返ることができる。
	不可	自らの思考・行動について振り返ることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	40	0	0	10	0	100
評価項目	①慢性病看護の基本的知識の修得	15	10	0	0	0	0	25
	②セルフマネジメント支援の論理的思考	15	10	0	0	0	0	25
	③慢性病患者の療養法に対する計画	15	5	0	0	0	0	20
	④他者に対する表現	5	5	0	0	0	0	10
	⑤学修の振り返り	0	10	0	0	10	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	第 15 回の授業内容について、筆記試験を行う。慢性病をもつ人と家族を理解した上で、さらに、慢性肝炎、肝硬変、肝臓がんといった病気や治療の特性を踏まえた上で、授業で学んだ概念を用いながら、セルフマネジメントの支援の視点から看護を考える。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
提出物	①	✓	第 4 回、第 13 回には授業冒頭に小テストを行う。小テストに向けては manaba のドリル問題で学習して臨むことを望む。第 5 回では、事前学習課題に対しレポートを提出する。それ以外の回では、授業後に到達度確認のためのミニ課題を課す。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
ポートフォリオ	①		第 5 回の授業については振り返りシート（学習内容と自己評価）を作成し提出する。15 回の授業終了後は、提出物、ノート、資料などをもとに学びを俯瞰し、学びを再構築したものを提出する。
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

毎回の授業内容に関連する器官・系統の解剖生理、病気の病理・病態生理を自己学習した上で臨むこと。授業前後に随時出された課題に取り組むこと。グループワークではグループメンバーと協力して課題に取り組むこと。

教科書・参考書

教科書：『系統看護学講座　成人看護学〔1〕成人看護学総論』小松浩子他　医学書院（1年次に購入済み）
『系統看護学講座　成人看護学〔2〕呼吸器』 浅野浩一郎他　医学書院
『系統看護学講座　成人看護学〔3〕循環器』 吉田俊子他　医学書院
『系統看護学講座　成人看護学〔4〕血液・造血器』 飯野京子他　医学書院
『系統看護学講座　成人看護学〔5〕消化器』 松田明子他　医学書院
『系統看護学講座　成人看護学〔6〕内分泌・代謝』 黒江ゆり子他　医学書院
『系統看護学講座　成人看護学〔8〕腎・泌尿器』 大東貴志他　医学書院
『系統看護学講座　成人看護学〔11〕アレルギー　膠原病　感染症』 岩田健太郎他　医学書院

参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
クリティカルケアⅠ （Ｎ１３２１１） 急性期・生命危機状態にある患者の看護	講義	2	30	2	後期	必修	看国試必修 養教免必修	岩切由紀 単独担当	7号館4階 研究室
科目担当者	岩切由紀								

関連ときわコンピテンシー	専門力、情報力、論理的思考力、批判的思考力、探求力、表現力・判断力
授業の概要	生命の危機的状況や生命力の急激な変化が予測される対象の特徴を理解し、生命の維持、苦痛の緩和、日常生活における機能の回復を目指したクリティカルケア看護について学習する。なお、ここでは「クリティカル状況下にある患者」と「手術侵襲下にある患者」について触れる。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	クリティカルケア看護の特徴を捉える： クリティカルケア看護、対象の理解、療養の場の特性	【予習】シラバス内容の熟読 【復習】クリティカルケア看護の特性の整理
第2回	クリティカル状況下にある患者の看護①：救急看護（救命処置）	【予習】救命処置の復習 【復習】救命処置・救急看護の復習
第3回	クリティカル状況下にある患者の看護②：急性心筋梗塞患者の看護 ①急性心筋梗塞患者の看護の理解	【予習】解剖・生理学（循環器系）と病態（急性心筋梗塞）の学習 【復習】病態の理解と授業の復習
第4回	②患者を系統的に捉え、看護を考える	【予習】基本的な看護の学習 【復習】心筋梗塞患者の看護の復習
第5回	クリティカル状況下にある患者の看護③：脳梗塞患者の看護 ①脳梗塞患者の看護の理解	【予習】解剖・生理学（脳・神経系）と病態（脳梗塞）の学習 【復習】病態の理解と授業の復習
第6回	②患者を系統的に捉え、看護を考える（グループワーク）	【予習】脳梗塞患者の看護の学習 【復習】グループワークの振り返り
第7回	手術侵襲下にある患者の看護①：手術前の看護	【予習】基本的な手術前の看護の学習 【復習】手術前看護の復習
第8回	手術侵襲下にある患者の看護②：手術中の看護	【予習】基本的な手術室の看護の学習 【復習】手術室の看護を復習
第9回	手術侵襲下にある患者の看護③：手術後の看護（術後合併症と看護）	【予習】術後合併症の予防に着目した基本的な術後看護の学習 【復習】手術後看護の復習
第10回	手術侵襲下にある患者の看護④：手術後の看護（疼痛緩和、創傷ケア）	【予習】疼痛を緩和し術後の回復を促進する基本的な看護の学習 【復習】回復を促す手術後看護の復習
第11回	手術侵襲下にある患者の看護⑤：大腸切除術を受ける患者の看護 ＜大腸がん＞ ①疾患と手術の特徴、基本的看護の理解	【予習】解剖・生理学（消化器系）と病態（大腸がん）の学習 【復習】大腸切除術を受ける患者の基本的な看護の復習
第12回	②麻酔・手術侵襲を踏まえて患者を系統的に捉え、看護を考える	【予習】ボディーイメージの変容、術後の機能変化に伴う生活援助の学習 【復習】大腸切除術を受ける患者の基本的な看護の復習
第13回	手術侵襲下にある患者の看護⑧：肺切除術を受ける患者の看護 ＜肺がん＞ ①疾患と手術の特徴、基本的看護の理解（グループワーク）	【予習】基本的な看護の予習 【復習】基本的な看護の復習

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第14回	②麻酔・手術侵襲を踏まえて患者を系統的に捉え手術前から手術後の看護を考える（グループワーク・発表）	【予習】事例患者の健康上の課題の抽出・グループワークと発表準備 【復習】発表内容の振り返りと復習
第15回	③手術前からのより良い看護実践の探求	【予習】事例患者の看護計画の立案 【復習】統合的な看護計画の整理

学修の到達目標
急性期及び生命危機状態にある対象の身体・精神・社会的状態を理解し、生命を維持し、身体機能の回復を促し安全で安楽な生活を支える看護とその援助を理解できる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①クリティカルケア看護の特性の理解（専門力）	秀	高度侵襲下にある患者の生命維持・機能回復に向けた看護の特性が、対象（患者・家族）や治療の場など関連する要素の特徴を踏まえて明確に説明できる。
	優	高度侵襲下にある患者の生命維持・機能回復に向けた看護の特性が、関連する要素の特徴を踏まえて説明できる。
	良	高度侵襲下にある患者の生命維持・機能回復に向けた看護の特性、もしくは関連する要素の特徴を説明できる。
	可	高度侵襲下にある患者の生命維持・機能回復に向けた看護に関連する要素の特徴を説明できる。
	不可	高度侵襲下にある患者の看護の特性や、関連する要素の特徴を説明できない。
②クリティカル状況下にある患者の身体機能を維持し回復を促す看護の考察（情報力・論理的思考）	秀	急性期の病態変化を捉え、身体機能を維持し二次的な障害の回避とともに回復を促す看護を系統的に記述できる。
	優	急性期の病態変化を捉え、身体機能を維持し二次的な障害の回避とともに回復を促す基本的な看護を考え記述できる。
	良	急性期の身体機能を維持し二次的な障害の回避とともに回復を促す基本的な看護を説明できる。
	可	発症後急性期の身体機能を維持し二次的な障害を回避する基本的な看護の要点を整理し記述できる。
	不可	発症後急性期の身体機能を維持し二次的な障害を回避する基本的な看護の要点を整理できない。
③基本的な周手術期看護の理解（批判的思考力・判断力）	秀	周手術期看護の定義を理解し、手術前・手術中・手術後の継続性と連携の視点を踏まえて、看護師の役割と看護援助を統合的に説明できる。
	優	周手術期看護の定義を理解し、手術前・手術中・手術後の継続性と連携の視点を踏まえて、看護師の役割と看護援助を説明できる。
	良	周手術期看護の定義、手術前・手術中・手術後の看護師の役割と看護援助を説明できる。
	可	周手術期看護の定義、手術前・手術中・手術後の看護援助を説明できる。
	不可	周手術期看護の定義、手術前・手術中・手術後の看護援助を説明できない。
④手術侵襲下にある患者の合併症を予防し回復を促進する看護の考察（論理的思考力・判断力）	秀	手術の特徴を捉え麻酔や手術の影響を理解し、安全に手術を受け術後合併症を予防し回復を促す看護を考え援助計画が統合的に立案できる。
	優	手術の特徴を捉え麻酔や手術の影響を理解し、安全に手術を受け術後合併症を予防し回復を促す看護を考え援助計画を立案できる。
	良	手術の特徴を捉え、安全に手術を受け術後合併症を予防し回復を促す看護を考え援助を記述できる。
	可	手術の特徴から安全に手術を受け術後合併症を予防し回復を促すために必要な看護を考え、指導下に援助を記述できる。
	不可	手術の特徴から安全に手術を受け術後合併症を予防し回復を促すために必要な看護を考え、指導下に援助を記述できない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
⑤社会・心理的側面を含め健康的な生活を支援する看護の考察（探求力･表現力･判断力）	秀	過大侵襲下にある患者や身体機能の変化を来す患者と家族の苦痛や苦悩を理解し、急性期治療後の健康的な生活を支援する看護を考え説明することができる。
	優	過大侵襲下にある患者や身体機能の変化を来す患者と家族の苦痛や苦悩を考え、急性期治療後の健康的な生活を支援する看護を考えることができる。
	良	過大侵襲下にある患者や手術等で身体機能の変化を来す患者の苦痛や苦悩を考え、急性期治療後の生活を支援する看護を考えることができる。
	可	患者の苦痛や苦悩を考え、急性期治療後の生活を支援する看護を考える取り組みができる。
	不可	患者の苦痛や苦悩を考え、急性期治療後の生活を支援する看護を考える取り組みができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭･実技）	作品	ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ	その他	合計
評価割合		50	20	10	0	20	0	100
評価項目	①クリティカルケア看護の特性の理解	5	5	0	0	5	0	15
	②クリティカル状況下にある患者の身体機能を維持し回復を促す看護の考察	10	5	0	0	5	0	20
	③基本的な周手術期看護の理解	10	0	0	0	0	0	10
	④手術侵襲下にある患者の合併症を予防し回復を促進する看護の考察	20	5	5	0	5	0	35
	⑤社会・心理的側面を含め健康的な生活を支援する看護の考察	5	5	5	0	5	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	クリティカルケア状況下にある患者ならびに手術侵襲下にある患者の看護について筆記試験を行う。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
提出物	①	✓	①第 2 回目授業後に自分が捉えた救急看護の特徴を記述する。これにより初回授業のクリティカルケア看護の特徴を救急看護の中で明確化する。 ②第 3 回（循環器系）、第 4 回（脳・神経系）は解剖生理または病態の小テストを行う。 ③第 6 回グループワーク後は、課題提出を行う。 ④第 7 回麻酔に関する自己学習課題を提出する。 ⑤第 11 回・13 回基本的看護に関する課題を提出する。 * 提出期限は、別途指示する。
	②	✓	
	③		
	④	✓	
	⑤	✓	
成果発表（口頭･実技）	①		①第 6 回脳梗塞患者の看護について自己学習の準備を整えグループワークを行う。 ②第 13 回肺切除術を受ける患者の看護について自己学習を行い、基本的な看護を相互理解する。 ③第 14 回事例患者の看護について検討し、発表を行う。
	②		
	③		
	④	✓	
	⑤		

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
ポートフォリオ	①	✓	①提出物は全てファイルし成果物をリスト化する。 ②自己の学習状況について、授業毎に目標を定め、予習・復習を含め達成状況を評価する。 また、不明瞭な点を見つけ、問題の解決状況も明確に記述する。
	②	✓	
	③		
	④	✓	
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

成人看護学概論の既習内容を復習しておくこと。また、授業に関連する疾患の解剖生理学、病理・病態学は自己学習して授業に臨むこと。本授業は段階的に看護を考える能力が習得できるよう構成しています、15 回を自ら予習と復習を積み重ねることで目標を達成します。グループワークや提出物・ポートフォーリオ等で成果を明確にし取り組みましょう。

教科書・参考書

教科書：『系統看護学講座　別巻　クリティカルケア看護学』道又元裕ほか 医学書院
『系統看護学講座　別巻１　臨床外科看護総論』矢永勝彦ほか編 医学書院
『系統看護学講座　成人看護学［２］　呼吸器疾患患者の看護』川村雅文ほか 医学書院
『系統看護学講座　成人看護学［３］　循環器疾患患者の看護』吉田俊子ほか 医学書院
『系統看護学講座　成人看護学［５］　消化器疾患患者の看護』松田明子ほか 医学書院
『系統看護学講座　成人看護学［７］　脳・神経疾患患者の看護』竹村信彦ほか 医学書院

参考書：随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
看護対象論Ⅱ（成人） （Ｎ１３２３１） 大人が病気や障害をもつと・・・	講義	1	15	2	前期	必修	看国試必修	生島祥江 単独担当	7号館3階 研究室
科目担当者	生島祥江								

関連ときわコンピテンシー	専門力、論理的思考力、協調性・協働力、表現力、省察力
授業の概要	看護の対象者として、ライフサイクルの中で最も長く充実した時期でありつつ、絶えず変化が生まれている成人期にあたる人々の特徴について理解することをねらいとする。ここでは、成人期の生活を理解し、病気や障害をもった場合の思いや生活への影響を考える。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	ガイダンス、成人の生活	【予習】シラバス内容の熟読 【復習】本日の授業内容の振り返り
第2回	家族の成長・発達過程	【予習】教科書の読解 【復習】本日の授業内容の振り返り
第3回	障害をもちながら生活する成人（青年期）を理解する①（リハビリテーションの概念、障害の認識過程）	【予習】事例の熟読 【復習】振り返りシートの作成・提出
第4回	障害をもちながら生活する成人（青年期）を理解する②（グループ討議）	【予習】事例の追加情報の熟読 【復習】振り返りシートの作成・提出
第5回	障害をもちながら生活する成人（青年期）を理解する③（発表、全体討議）	【予習】各グループの発表資料の熟読 【復習】振り返りシートの作成・提出
第6回	突然病気を診断された成人（壮年期）を理解する①（グループ討議）	【予習】事例の熟読 【復習】振り返りシートの作成・提出
第7回	突然病気を診断された成人（壮年期）を理解する②（発表、全体討議）	【予習】各グループの発表資料の熟読 【復習】振り返りシートの作成・提出
第8回	健康問題をもつ成人と看護師の人間関係	【予習】教科書の読解 【復習】1～8回の振り返りシートの作成・提出

学修の到達目標
1．生活する成人を理解する。 2．病気や障害をもった成人の思いや生活への影響について考察する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①生活する成人が病気や障害をもった場合の思いや生活への影響について理解する。（専門力）	秀	生活する成人を理解した上で、病気や障害をもった場合の思いや生活への影響についての知識を十分に身につけている。
	優	生活する成人を理解した上で、病気や障害をもった場合の思いや生活への影響についてどちらか一方は十分に知識を身につけている。
	良	生活する成人を理解した上で、病気や障害をもった場合の思いや生活への影響についての知識を身につけている。
	可	病気や障害をもった成人の思いや生活への影響についての知識を身につけている。
	不可	病気や障害をもった成人の思いや生活への影響についての知識を身につけていない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②病気や障害をもった成人の思いや生活への影響を、概念を用いて論理的に考えることができる。（論理的思考力）	秀	病気や障害をもった成人の思いや生活への影響を、概念を用いて十分論理的に考えることができ、かつ用いた概念の限界を認識している。
	優	病気や障害をもった成人の思いや生活への影響を、概念を用いて十分論理的に考えることができる。
	良	病気や障害をもった成人の思いや生活への影響を、概念を用いて論理的に考えることができる。
	可	病気や障害をもった成人の思いや生活への影響を、論理的に考えることができる。
	不可	病気や障害をもった成人の思いや生活への影響を、概念を用いて論理的に考えることができない。
③課題解決に向けて、グループで協力して取り組むことができる。（協調性・協働力）	秀	課題解決に向けて十分な事前準備をして臨み、メンバーと協調･協働することができる。それによりグループンバーだけでなくクラスメンバーも協調･協働作業のモチベーションが上がる。
	優	課題解決に向けて事前準備をして臨み、メンバーと協調･協働することができる。それによりメンバーも協調･協働作業のモチベーションが上がる。
	良	自発的にメンバーと協調･協働することができる。
	可	自発的ではないが、メンバーのモチベーションを下げずに、協調･協働的に取り組むことができる。
	不可	協調･協働する意思がなく、メンバーのモチベーションを下げてしまう。
④課題に対する自己の考えや思いを表現し、他者に伝えることができる。（表現力）	秀	自己の考えや思いを他者に伝えることができる。話し言葉、書き言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。そして、伝えられた内容は理解しやすい。
	優	自己の考えや思いを他者に伝えることができる。話し言葉、書き言葉、非言語的表現等の全てにおいて十分な能力を持っている。
	良	自己の考えや思いを他者に伝えることができる。話し言葉、書き言葉、非言語的表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	自己の考えや思いを何らかの方法で他者に伝えることができる。
	不可	自己の考えや思いを他者に伝えることができない。
⑤自己の思考を振り返り目標達成に向けての策を考えることができる。（省察力）	秀	常に自分の判断に過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考を客観的に検証し、次につなげることができる。
	優	自発的に自らの思考について客観的に振り返り、次につなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考について振り返り、次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと自らの思考について振り返ることができる。
	不可	自らの思考について振り返ることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭･実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	10	0	0	35	5	100
評価項目	①病気や障害をもった成人の理解	25	5	0	0	0	0	30
	②概念を用いた思考	20	5	0	0	0	0	25
	③グループワークでの協力	0	0	0	0	0	5	5
	④他者に対する表現	5	0	0	0	5	0	10
	⑤学修の振り返り	0	0	0	0	30	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	記述試験を行う。病気や障害をもった成人の思いや、成人の生活の在り方と関連させて生活への影響を、授業での学びを踏まえながら、自己の考えを述べることが求められる。
	②	✓	
	③		
	④	✓	
	⑤		
提出物	①	✓	第８回の授業後に８回の授業の学びの到達度確認のためレポートを課す。
	②	✓	
	③		
	④		
	⑤		
ポートフォリオ	①		毎回の授業について振り返りシート（学習内容と自己評価）を作成し提出する。８回の授業終了後は、提出物、ノート、資料などをもとに学びを俯瞰し再構築したもの、８回の授業を通しての成長確認シートを提出する。
	②		
	③		
	④	✓	
	⑤	✓	
その他	①		グループワークの参加状況についてはメンバーからのピア評価を参考にする。
	②		
	③	✓	
	④		
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など

第１回の授業までに身近な異世代の成人と接して、成人の理解を深めておくこと。授業はグループディスカッションを取り入れながら進めますので、ディスカッションにテーマや事例に関することを学習して臨むこと。毎回の授業終了後は、学習目標に対して授業内容を整理し自己評価すること。

教科書・参考書

教科書：『系統看護学講座　成人看護学[１] 成人看護学総論』小松浩子他著　医学書院　（１年次に購入済み）
『系統看護学講座　成人看護学[５] 消化器』　松田明子他著　医学書院
『系統看護学講座　成人看護学[10] 運動器』　織田弘美他著　医学書院

参考書：『愛、深き淵より』　星野富弘　立風書房
その他、随時紹介します。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
看護対象論Ⅲ（老年） （Ｎ１３２３２） 老いを生きるとは	講義	1	15	2	前期	必修	看国試必修	谷口由佳 単独担当	7号館3階 研究室
科目担当者	谷口由佳								

関連ときわコンピテンシー	批判的思考力、知欲、探究力、傾聴力・対話力
授業の概要	老年看護の対象となる「高齢者（老年期にある人々）」を一人の人として統合的に理解し、尊厳をもって看護するための基礎となる知識を学習する。高齢者疑似体験では、加齢に伴う変化と生活への影響について、高齢者の立場から考える。また、地域の高齢者との語らいでは、時代が与えた影響や生き方の多様性を知り、これらが高齢者の現在に通ずる信念や価値観にどう反映されているかを理解する。そして、高齢社会における権利擁護についても学び、高齢者を取り巻く社会についての関心と理解を深める。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	高齢者疑似体験	【予習】教科書の該当箇所の熟読 【復習】振り返りシート完成
第2回	加齢に伴う変化と生活への影響；高齢者疑似体験を通して	【予習】教科書の該当箇所の熟読 【復習】配布資料の見直し
第3回	老年期にある人々の理解（1）；高齢者の時代背景	【予習】教科書の該当箇所の熟読 【復習】配布資料の見直し
第4回	老年期にある人々の理解（2）；生活史の視点から（グループワーク）	【予習】教科書の該当箇所の熟読 【復習】グループワークの補足
第5回	老年期にある人々の理解（3）；地域の高齢者との語らい（グループワーク）	【予習】語らいの準備 【復習】レポート作成
第6回	高齢社会における権利擁護（1）；情報収集　（グループワーク）	【予習】教科書の該当箇所の熟読 【復習】グループワークの補足
第7回	高齢社会における権利擁護（2）；ディベートの準備（グループワーク）	【予習】グループワークの準備 【復習】グループワークの補足
第8回	高齢社会における権利擁護（3）；ディベート　（グループワーク）	【予習】発表準備 【復習】発表・授業の振り返り

学修の到達目標

1．加齢に伴う変化と生活への影響について、高齢者の立場から考える。
2．地域の高齢者との語らいを通し、高齢者の時代背景や生き方の多様性を知る。
3．上記2.が高齢者の現在に通ずる信念や価値観にどう反映されているかを理解する。
4．高齢者を取り巻く社会についての関心と理解を深める。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①加齢に伴う変化と生活への影響について、高齢者の立場から考える。（知欲）	秀	高齢者疑似体験に興味・関心をもって取り組み、加齢に伴う変化と生活への影響を高齢者の立場から理解しようと十分努めている。また、体験を通し、高齢者の心身の理解を深めるとともに、看護者としての支援のあり方をよく考えることができている。
	優	高齢者疑似体験に興味・関心をもって取り組み、加齢に伴う変化と生活への影響を高齢者の立場から理解しようと努めている。また、体験を通し、高齢者の心身の理解を深めるとともに、看護者としての支援のあり方を考えることができている。
	良	高齢者疑似体験に興味・関心をもって取り組み、加齢に伴う変化と生活への影響を高齢者の立場から理解しようと努めている。
	可	高齢者疑似体験に取り組み、加齢に伴う変化と生活への影響を高齢者の立場から理解しようと努めている。
	不可	高齢者疑似体験への取り組み姿勢が不十分であり、学ぶべき内容を理解することができていない。
②地域の高齢者との語らいを通し、高齢者の時代背景や生き方の多様性を知る。（傾聴力）	秀	地域の高齢者との語らいに興味・関心をもって取り組み、高齢者の時代背景や生き方の多様性を十分に感じとることができている。なおかつ、レポートにおいて、それらの内容を整理し、周辺の知識とあわせて考えを深め、自分なりの見解を述べることができている。さらに、その内容が、題意把握や内容理解、論理構成、考察力、表現・文字の正確さなど、全てにおいて満足できる水準を超えている。
	優	地域の高齢者との語らいに興味・関心をもって取り組み、高齢者の時代背景や生き方の多様性を十分に感じとることができている。なおかつ、レポートにおいて、それらの内容を整理し、自分なりの見解を述べることができている。さらに、その内容が、題意把握や内容理解、論理構成、考察力、表現・文字の正確さなど、ほぼ全てにおいて満足できる水準を超えている。
	良	地域の高齢者との語らいに興味・関心をもって取り組み、高齢者の時代背景や生き方の多様性をある程度感じとることができている。なおかつ、レポートにおいて、それらの内容を整理し、自分なりの見解を述べることができている。さらに、その内容が、題意把握や内容理解、論理構成、考察力、表現・文字の正確さなど、ある程度満足できる水準に達している。
	可	地域の高齢者の語りの内容を整理し、レポートにまとめることができている。
	不可	地域の高齢者との語らいに取り組む姿勢が不十分であり、学ぶべき内容を得ることができていない。また、レポートにまとめることができない。
③上記２.が高齢者の現在に通ずる信念や価値観にどう反映されているかを理解する。（探究力）	秀	地域の高齢者との語らいを通して学んだ高齢者の時代背景や生き方の多様性が、高齢者の現在に通ずる信念や価値観にどう反映されているかをつなげて理解することができている。なおかつ、レポートにおいて、それらの内容を整理し、周辺の知識とあわせて考えを深め、自分なりの見解を述べることができている。さらに、その内容が、題意把握や内容理解、論理構成、考察力、表現・文字の正確さなど、全てにおいて満足できる水準を超えている。
	優	地域の高齢者との語らいを通して学んだ高齢者の時代背景や生き方の多様性が、高齢者の現在に通ずる信念や価値観にどう反映されているかをつなげて理解することができている。なおかつ、レポートにおいて、それらの内容を整理し、自分なりの見解を述べることができている。さらに、その内容が、題意把握や内容理解、論理構成、考察力、表現・文字の正確さなど、ほぼ全てにおいて満足できる水準を超えている。
	良	地域の高齢者との語らいを通して学んだ高齢者の時代背景や生き方の多様性が、高齢者の現在に通ずる信念や価値観にどう反映されているかをある程度つなげて理解することができている。なおかつ、レポートにおいて、それらの内容を整理し、自分なりの見解を述べることができている。さらに、その内容が、題意把握や内容理解、論理構成、考察力、表現・文字の正確さなど、ある程度満足できる水準に達している。
	可	地域の高齢者との語らいを通して学んだ高齢者の時代背景や生き方の多様性とつなげて考えられてはいないが、高齢者の信念や価値観について、レポートの中でふれることができている。
	不可	地域の高齢者との語らいに取り組む姿勢が不十分であり、学ぶべき内容を得ることができていない。また、レポートが未提出である。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
④高齢者を取り巻く社会についての関心と理解を深める。 （批判的思考力）	秀	ディベートに意欲的に取り組み、関連のある本や資料を積極的に調べることができている。また、発表において、自分の意見をわかりやすく伝えることができており、なおかつ相手の意見をよく聴き、様々な考え方を理解し、それぞれの価値観を認めようと十分に努めている。さらに、ディベートを通して、高齢者を取り巻く社会についての関心と理解を深めることができている。
	優	ディベートに意欲的に取り組み、関連のある本や資料を積極的に調べることができている。また、発表において、自分の意見をわかりやすく伝えることができており、なおかつ相手の意見をよく聴き、様々な考え方を理解し、それぞれの価値観を認めようと十分に努めている。
	良	ディベートに意欲的に取り組み、関連のある本や資料を調べることができている。また、発表において、自分の意見を伝えることができており、なおかつ相手の意見をよく聴こうと努めている。
	可	ディベートに取り組んではいるが、関連のある本や資料を十分に調べることができていない。また、発表において、自分の意見を伝えることや、相手の意見を聴くことが不十分である。
	不可	準備から発表まで参加することができていない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 （口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		45	25	10	0	0	20	100
評価項目	①加齢に伴う変化と生活への影響について、高齢者の立場から考える。	45	5	0	0	0	5	55
	②地域の高齢者との語らいを通し、高齢者の時代背景や生き方の多様性を知る。	0	5	0	0	0	5	10
	③上記２.が高齢者の現在に通ずる信念や価値観にどう反映されているかを理解する。	0	5	0	0	0	0	5
	④高齢者を取り巻く社会についての関心と理解を深める。	0	10	10	0	0	10	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	授業を通し学び得た知識を筆記試験で確認します。
	②		
	③		
	④		
提出物	①	✓	高齢者疑似体験で配布する振り返りシートの内容を評価します。また、地域の高齢者との語らいでは、学んだ内容をレポートにまとめてもらいます。題意把握や内容理解、論理構成、考察力、表現・文字の正確さなどについて評価します。ディベートでは、それぞれのテーマについて自分の考えを記述してもらいますので、それらを評価します。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
成果発表 （口頭・実技）	①		第６回～第８回において、高齢者の権利擁護についてディベートをしてもらいます。発表に対する準備性、内容の独創性、論旨の簡潔明瞭さ・妥当性・説得力、発表態度や時間管理などについて評価します。
	②		
	③		
	④	✓	

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
その他	①	✓	授業への参加度や、グループワークにおける話し合いへの参加など授業中の取り組みも評価の対象になります。
	②	✓	
	③		
	④	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
まずは、高齢者に関心をもつことが学習の始まりです。本授業を機会に身近な高齢者と積極的にふれあったり、お話を聞いたりし て、理解を深めていこうとする態度が望まれます。
教科書・参考書
教科書：『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学』 医学書院 参考書：随時紹介します

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
看護対象論Ⅳ（母性・父性） （Ｎ１３２４１） 「母性・父性」と社会生活のつながりを探究	演習	1	30	2	後期	必修	看国試必修	島内敦子 単独担当	7号館3階 研究室
科目担当者	島内敦子								

関連ときわコンピテンシー	専門力、情報力、批判的思考力、探究力、表現力
授業の概要	母性・父性を広く捉え、次世代を担う健全な子どもを産み、育てることの意義とその役割について学ぶ。さらに女性のライフサイクル各期における特徴を理解し、看護について思考する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	女性の健康と社会　；　環境と女性の健康	
第2回	母性保健と看護師の役割　；　子育て支援について （グループディスカッション）	【予習】地域の子育て支援の調査 【復習】課題レポートの作成
第3回	女性のライフサイクル各期の健康と看護　； ライフサイクル各期にわたる健康をめぐる課題①	【予習】概論の復習
第4回	女性のライフサイクル各期の健康と看護　； ライフサイクル各期にわたる健康をめぐる課題②（グループワーク）	【予習】概論の復習 担当グループワーク内容についての情報収集
第5回	女性のライフサイクル各期の健康と看護　； ライフサイクル各期にわたる健康をめぐる課題③（発表）	【復習】課題レポートの作成
第6回	女性のライフサイクル各期の健康と看護	【予習】概論の復習
第7回	女性のライフサイクル各期の健康と看護　； 思春期の健康と看護① （グループワーク）	【予習】概論の復習 担当グループワーク内容についての情報収集
第8回	女性のライフサイクル各期の健康と看護　； 思春期の健康と看護②（発表）	【復習】課題レポートの作成
第9回	母性看護における倫理①（講義）	【予習】概論の復習 担当グループワーク内容について情報収集
第10回	母性看護における倫理②（グループワーク①）	
第11回	母性看護における倫理③（グループワーク②）	
第12回	母性看護における倫理④（グループワーク③）	
第13回	母性看護における倫理⑤（ディベート前編）	
第14回	母性看護における倫理⑥（ディベート後編）	【復習】課題レポートの作成
第15回	人間の性と生殖・不妊と看護・まとめ	

学修の到達目標
1．子育て支援の必要性を理解し、社会で行われている支援内容について理解することができる。 2．女性のライフサイクル各期の特徴を理解し、健康を維持促進するための看護について理解を深める。 3．女性のライフサイクル各期にわたる健康問題および倫理的問題について思考する。 4．母性看護における倫理について思考し、根拠に基づいた意見交換をすることができる。 5．生殖器の形態機能の理解と月経周期による変化や妊娠の仕組みについて理解する。 6．不妊による健康問題を理解し、不妊カップルへの看護ケアについて理解する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①子育て支援の必要性を理解し、社会で行われている支援内容について理解する。（情報力）	秀	子育て支援の必要性を理解し、社会で行われている支援内容を調査し支援内容の意義について考察することができる。
	優	子育て支援の必要性を理解し、社会で行われている支援内容について調査し説明することができる。
	良	子育て支援の必要性を理解し、社会で行われている支援内容について記述することができる。
	可	社会で行われている子育て支援について、記述することができる。
	不可	子育て支援の必要性を理解し、社会で行われている支援内容について理解することができない。
②女性のライフサイクル各期の特徴を理解し、健康を維持促進するための看護について理解を深める。（専門力）	秀	女性のライフサイクル各期の特徴を理解し、各期に応じた健康の維持促進への看護について説明することができる。
	優	女性のライフサイクル各期の特徴を理解し、各期に応じた健康の維持促進への看護について記述することができる
	良	女性のライフサイクル各期の特徴を理解し、思春期を対象とした性教育の意義と方法について理解し、教育方法を工夫することができる。
	可	女性のライフサイクル各期の特徴を理解し、思春期を対象とした性教育の意義と方法について理解し、教育方法を試行することができる。
	不可	女性のライフサイクル各期の特徴を理解し、健康を維持促進するための看護について理解できない
③女性のライフサイクル各期にわたる健康問題および倫理的問題について思考する。（批判的思考力）	秀	女性のライフサイクル各期にわたる健康問題について理解し、社会における影響と対象への看護について説明し、そこに内在する倫理的問題について思考することができる。
	優	女性のライフサイクル各期にわたる健康問題について理解し、社会における影響と対象への看護について記述することができる
	良	女性のライフサイクル各期にわたる健康問題について理解し、対象への看護について記述することができる
	可	女性のライフサイクル各期にわたる健康問題について記述することができる
	不可	女性のライフサイクル各期にわたる健康問題および倫理的問題について理解することができない
④母性看護における倫理について思考し、根拠に基づいた意見交換をすることができる。（探究力）	秀	母性看護における倫理問題の現状を理解し、根拠を探究しその根拠に基づいた活発かつ論理的な意見交換をすることができる。
	優	母性看護における倫理問題の現状を理解し、根拠を探究し、論理的に意見交換をすることができる。
	良	母性看護における倫理問題の現状を理解し、根拠を探究し、意見交換をすることができる。
	可	母性看護における倫理問題の現状を理解し、意見交換をすることができる。
	不可	母性看護における倫理について思考し、根拠に基づいた意見交換をすることができない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
⑤生殖器の形態機能の理解と月経周期による変化や妊娠の仕組みについて理解する。（探究力）	秀	生殖器の形態機能、月経周期による変化や妊娠の仕組みについて理解し、思春期を対象とした性教育内容を工夫し構成することができる。
	優	生殖器の形態機能、月経周期による変化や妊娠の仕組みについて理解し、性教育内容を作成することができる。
	良	生殖器の形態機能、月経周期による変化や妊娠の仕組みについて説明することができる。
	可	生殖器の形態機能、月経周期による変化や妊娠の仕組みについて記述することができる。
	不可	生殖器の形態機能、月経周期による変化や妊娠の仕組みについて理解できない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	30	30	0	0	0	100
評価項目	①子育て支援の理解	5	7	5	0	0	0	17
	②女性のライフサイクル各期の特徴の理解と看護	10	7	3	0	0	0	20
	③女性のライフサイクル各期にわたる健康問題および倫理的問題	10	6	5	0	0	0	21
	④母性看護における倫理	0	10	15	0	0	0	25
	⑤生殖器の形態機能、月経周期による変化や妊娠の仕組みの理解	15	0	2	0	0	0	17

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	到達目標への学習到達状況を確認するために筆記試験を行う。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤	✓	
提出物	①	✓	グループディスカッション、グループワーク終了後、レポート課題を提出する。レポート内容によって学習到達状況を評価する。具体的なレポート内容については講義中に提示する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
成果発表（口頭・実技）	①	✓	グループディスカッション、グループワークへの取り組み、発表時に提出した発表媒体および発表内容と発表方法（工夫）などを評価する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
＊グループワークを多く取り入れます。積極的に授業に参加してください。グループワークへの貢献度、発表内容、発表時の参加度などは評価に反映されます。 ＊母子保健に関わるニュース内容を敏感に収集し、それに関わる法律および社会的影響などについて学習をしておきましょう。
教科書・参考書
教科書：『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学概論』 森恵美　編著　医学書院 『ナーシング・グラフィカ 30　母性看護学　母性看護実践の基本』 横尾京子、中込さと子　編著　メディカ出版 参考書：①ジョディ・ピコー著，私の中のあなた ②河合蘭著，未妊－「有無」と決められない ③岩田重則著，“ いのち ”をめぐる近代史 ④鈴ノ木ユウ著，コウノドリ

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
看護対象論Ⅴ（小児） （Ｎ１３２５１） 子どもの健やかな成長発達と看護	演習	1	30	2	前期	必修	看国試必修	庄司靖枝 複数担当	7号館3階 研究室他
科目担当者	庄司靖枝、江上芳子、尾﨑優子、笹尾裕美								

関連ときわコンピテンシー	専門力、情報力、論理的思考力、批判的思考力、判断力
授業の概要	各発達段階にある子どもの成長・発達の特徴と生活を理解し、それぞれの時期に起こりやすい健康問題とそれらに対する看護や子どもを育む家族への 援助について学習する。また、子どもの健康問題における特徴的な症状について理解し、その基本的看護について学習する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	子どもの成長発達　1）成長発達の概念　（担当者：江上）	【予習】シラバス内容の熟読 【復習】授業の学びや質問内容を提出
第2回	子どもの成長発達　2）形態的成長 、機能的発達（担当者：江上）	【予習】テキストの第2回の内容を熟読 【復習】授業の学びや質問内容を提出
第3回	子どもの成長発達　3）精神運動機能の発達、心理社会的発達 （担当者：江上）	【予習】テキストの第3回の内容を熟読 【復習】授業の学びや質問内容を提出
第4回	小児各期の成長発達の特徴と養護　1）乳児期の子どもの成長発達の特徴　（担当者：江上）	【予習】テキストの第4回の内容を熟読 【復習】授業の学びや質問内容を提出
第5回	小児各期の成長発達の特徴と養護　2）乳児期の子どもの養育 （担当者：江上）	【予習】テキストの第5回の内容を熟読 【復習】授業の学びや質問内容を提出
第6回	小児各期の成長発達の特徴と養護　3）幼児期の子どもの成長・発達の特徴　（担当者：江上）	【予習】テキストの第6回の内容を熟読 【復習】授業の学びや質問内容を提出
第7回	小児各期の成長発達の特徴と養護　4）幼児期の子どもの養育 （担当者：江上）	【予習】テキストの第7回の内容を熟読 【復習】授業の学びや質問内容を提出
第8回	小児各期の成長発達の特徴と養護　5）学童・思春期の成長・発達の特徴　（担当者：庄司）	【予習】テキストの第8回の内容を熟読 【復習】授業の学びや質問内容を提出
第9回	小児各期の成長発達の特徴と養護　6）学童・思春期の生活指導 （担当者：庄司）	【予習】テキストの第9回の内容を熟読 【復習】授業の学びや質問内容を提出
第10回	発育の評価　1）子どものフィジカルアセスメント（担当者：庄司）	【予習】テキストの第10回の内容を熟読 【復習】授業の学びや質問内容を提出
第11回	発育の評価　2）心理社会的発達の評価法　（担当者：庄司）	【予習】テキストの第11回の内容を熟読 【復習】授業の学びや質問内容を提出
第12回	子どものフィジカルアセスメント：演習 （担当者：庄司、尾﨑、笹尾）	【予習】第10回第11回の授業の復讐と小児看護の技術の本を熟読 【復習】課題要旨を提出 演習の振り返り
第13回	子どもの主要症状と看護1）　（担当者：庄司）	【予習】渡されたプリント熟読 【復習】学んだ症状の復習
第14回	子どもの主要症状と看護2）　（担当者：庄司）	【予習】渡されたプリント熟読 【復習】学んだ症状の復習
第15回	子どもの主要症状と看護3）　（担当者：庄司）	【予習】渡されたプリント熟読 【復習】学んだ症状の復習

学修の到達目標
1．子どもの各期の形態的、機能的、心理・社会的成長発達について理解する。 2．子どもの各期に起こりやすい健康問題を理解する。 3．子どものフィジカルアセスメントを理解する。 4．フィジカルアセスメントの実践を通して子どもの状況の評価をする。 5．子どもの特徴的な主要症状を理解する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①子どもの各期の成長発達について理解する。（専門力）	秀	子どもの各期の成長発達の特徴をそのプロセスを示しながら説明できる。
	優	子どもの各期の成長発達の特徴をそれぞれ示しながら説明できる。
	良	子どもの各期の成長発達の特徴を３つ以上記述できる。
	可	子どもの各期の成長発達の特徴を２つ以上記述できる。
	不可	子どもの各期の成長発達の特徴を記述できない。
②子どもの各期に起こりやすい健康問題を理解する。（判断力）	秀	子どもの各期に起こりやすい健康問題を説明でき、その支援を記述できる。
	優	子どもの各期に起こりやすい健康問題を説明でき、対応策を思考する。
	良	子どもの各期に起こりやすい健康問題をそれぞれ２つ以上記述できる。
	可	子どもの各期に起こりやすい健康問題をそれぞれ１つ以上記述できる。
	不可	子どもの各期に起こりやすい健康問題を記述できない。
③子どものフィジカルアセスメントを理解する。（論理的思考力）	秀	子どの成長発達を多角的に評価する方法について根拠を提示し説明できる。
	優	子どの成長発達を多角的に評価する方法について根拠をもって記述できる。
	良	子どの成長発達を多角的に評価する方法を３つ以上記述できる。
	可	子どの成長発達を多角的に評価する方法を２つ以上記述できる。
	不可	子どの成長発達を多角的に評価する方法を記述できない。
④フィジカルアセスメントの実践を通して子どもの状況を評価する。（批判的思考力）	秀	子どもの形態的、機能的、心理社会的成長発達を複数の評価方法で評価し記述できる。
	優	子どもの形態的、機能的成長発達を複数の評価方法で評価し記述できる。
	良	子どもの形態的成長発達を３つ以上の評価方法で評価し記述できる。
	可	子どもの形態的成長発達を２つ以上の評価方法で評価し記術できる。
	不可	子どもの形態的成長発達を評価できない。
⑤子どもの特徴的な主要症状を理解する。（情報力）	秀	子どもの特徴的な主要症状について根拠を提示し説明ができ、その看護についても記述する。
	優	子どもの特徴的な主要症状について根拠を考え説明でき、その看護を考える。
	良	子どもの特徴的な主要症状を複数の根拠を考え説明できる。
	可	子どもの特徴的な主要症状を２つ以上記述できる。
	不可	子どもの特徴的な主要症状を記述できない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	10	10	0	10	0	100
評価項目	①子ども各期の成長発達の理解	30	0	0	0	10	0	40
	②子どもの各期に起こりやすい健康問題の理解	20	0	0	0	0	0	20
	③子どものフィジカルアセスメントの理解	10	10	0	0	0	0	20
	④フィジカルアセスメントの実践を通して子どもの状況の評価	0	0	10	0	0	0	10
	⑤子どもの特徴的な主要症状の理解	10	0	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	定期試験期間中に実施する筆記試験
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤	✓	
提出物	①		第 12 回の演習で課題要旨を提出
	②		
	③	✓	
	④		
	⑤		
成果発表（口頭・実技）	①		第 12 回の演習でフィジカルアセスメントの実技演習を行う
	②		
	③		
	④	✓	
	⑤		
ポートフォリオ	①	✓	毎回の授業での受講シートに本日の授業からの自分の意見や質問、学んだことを記述し、授業の最後に提出する。
	②		
	③		
	④		
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など

子どもを洞察する力を日常の環境の中で養い、発達や行動に興味を持ち理解しようと心がける。学んだ知識をいろいろな資源を活用して調べてみる。看護師として子どもに接する態度を思考する。

教科書・参考書

教科書：『小児看護学概論』二宮啓子・今野美紀編集　南江堂（1 年生で購入）、
『小児看護技術』二宮啓子・今野美紀編集　南江堂

参考書：『生涯人間発達論』第 2 版、服部祥子、医学書院（1 年生で購入）

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
在宅看護特性論 （Ｎ１３２７０） 療養の場に応じた看護をデザインする	演習	1	30	2	後期	必修	看国試必修	畑吉節未 複数担当	7号館4階 研究室他
科目担当者	畑吉節未、鵜飼知鶴、幸島美絵								

関連ときわコンピテンシー	専門力、論理的思考力、批判的思考力、知欲、探究力、デザイン力、傾聴力、対話力、表現力、省察力
授業の概要	健康上の問題を持ちながら在宅で生活する人とその家族についての理解を深め、その人たちらしい生き方を生活の場で支える為に必要な基本理念と保健医療福祉サービスについて理解することを目標とする。具体的には対象特性と社会資源、関係機関と職種、家族を理解するための諸理論、ケアマネジメント、在宅援助論の基本について学習する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	Ⅰ在宅ケアの連携と社会資源 1）退院支援の必要性と支援の方法　（担当者：鵜飼、畑、幸島）	【予習】在宅看護概論の復習 【復習】退院支援・退院調整のプロセス
第2回	2）在宅ケアを支える制度と社会資源　介護保険 （担当者：鵜飼、畑、幸島）	【予習】テキストの社会資源の読解 【復習】介護保険制度のしくみ
第3回	3）訪問看護ステーションの管理と運営の基礎知識 （担当者：鵜飼、畑、幸島）	【予習】テキストの読解 【復習】訪問看護のしくみ・訪問看護ステーション管理・
第4回	4）地域包括ケアシステムと在宅ケア （担当者：幸島、畑、鵜飼）	【予習】地域包括ケアシステムの経緯 【復習】地域包括ケアシステムの歴史的背景と、定義、構成要素
第5回	5）関係職種の連携と在宅ケアシステムの実際 （担当者：幸島、畑、鵜飼）	【予習】テキストの読解 【復習】関係職種との連携
第6回	6）在宅看護における倫理的課題　（担当者：幸島、畑、鵜飼）	【予習】看護師の倫理綱領 【復習】在宅看護における倫理
第7回	Ⅱ．訪問看護ステーション周辺のマップを作ろう 1）訪問看護ステーションと周辺の地域の特性 （担当者：鵜飼、畑、幸島）	【予習】訪問看護ステーション 【復習】周辺地域の人口統計調べる
第8回	2）訪問看護ステーション周辺地域の社会資源 （担当者：鵜飼、畑、幸島）	【予習】周辺地域の産業特性を調べる 【復習】周辺の地域特性の考察
第9回	3）事例の社会資源の活用の実際　（担当者：鵜飼、畑、幸島）	【予習】社会資源の内容 【復習】社会資源の活用方法
第10回	4）プレゼンテーションと評価　（担当者：鵜飼、畑、幸島）	【予習】プレゼンテーションの準備 【復習】プレゼンテーションの評価
第11回	Ⅲ信頼関係を形成する技術 1）家庭訪問の意義とマナーの考え方① （担当者：畑、鵜飼、幸島）	【予習】対人技能の復習 【復習】家庭訪問マナーの意義
第12回	2）家庭訪問の意義とマナーの考え方②机上演習 （担当者：畑、鵜飼、幸島）	【予習】課題におけるマナーの検討 【復習】事例のマナー再構築
第13回	3）家庭訪問のマナー演習マナーの実際① （担当者：畑、鵜飼、幸島）	【予習】事例のマナーの実践準備 【復習】事例マナーの振り返り
第14回	4）家庭訪問のマナー演習マナーの実際② （担当者：畑、鵜飼、幸島）	【予習】事例マナーの実践準備 【復習】事例におけるマナーの意義・考え方の振り返り
第15回	5）家庭訪問のマナー演習課題の解説とまとめ （担当者：畑、鵜飼、幸島）	【予習】事例におけるマナーの意義・考え方の振り返り 【復習】信頼関係を構築するマナーを考察する

学修の到達目標
1．地域包括システムの意義と内容について理解する。 2．在宅ケア・在宅看護の連携の必要性と看護師の役割について理解する。 3．訪問看護ステーションの管理と運営について理解する。 4．訪問看護の支援技術の基盤となる技術（訪問時のマナー・社会資源の活用）を実践できる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①地域包括システムの意義と内容について理解する。 （批判的思考力）	秀	地域包括ケアシステムが機能するとはどういうことか考察する。
	優	地域包括ケアシステムの歴史的経緯と背景を関連付け、定義と構成要素を説明する。
	良	地域包括ケアシステムの歴史的経緯と背景を関連付ける。
	可	地域包括ケアシステムの歴史的経緯と背景を説明する。
	不可	地域訪ケケアシステムについて定義できない。
②在宅ケア・在宅看護の連携の必要性と方法について理解する。 （論理的思考力）	秀	在宅ケアの連携における看護師の果たす独自の役割を考察する。
	優	在宅ケアにおける連携の必要性と看護師が果たす役割が関連付ける。
	良	退院支援･退院調整･退院調整のプロセスを説明する。
	可	退院支援が必要になった経緯が説明する。
	不可	退院支援が必要になった経緯が説明できない。
③訪問看護ステーションとその地域の特徴を理解する。 （論理的思考力）	秀	訪問看護ステーションのある地域の特徴を考察する。
	優	訪問看護ステーションのある地域の特徴について統計資料をもとに比較する。
	良	医療保険と介護保険を区別し、訪問看護サービスの内容を説明する。
	可	訪問看護の仕組みが理解でき、医療保険と介護保険を区別する。
	不可	訪問看護の仕組みが理解できない。
④訪問看護の基盤となる訪問時のマナーを実践することができる。 （探究力）	秀	療養者･家族を尊重した訪問時のマナーの意義を考察する。
	優	提示された訪問場面における一連のマナーの内容を意味付けする。
	良	提示された訪問場面における一連のマナーが実施できる。
	可	提示された訪問場面におけるマナーを記述する。
	不可	提示された訪問場面におけるマナーが記述できない。
⑤訪問看護の基盤となる社会資源の活用技術を実践することができる。 （デザイン力）	秀	事例の状況に応じた理想的な社会資源の活用を目指した評価の視点を記述する。
	優	事例の状況に応じた社会資源の活用方法を計画する。
	良	地域で在宅療養を継続するための社会資源を説明する。
	可	社会資源の基礎的知識を説明する。
	不可	社会資源について説明できない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	20	10	0	0	0	100
評価項目	①地域包括システムの意義と内容について理解する	10	0	0	0	0	0	10
	②在宅ケア・在宅看護の連携の必要性と方法について理解する	10	0	0	0	0	0	10
	③訪問看護ステーションとその地域の特徴を理解する	10	5	5	0	0	0	20
	④訪問看護の基盤となる訪問時のマナーを実践することができる	30	10	0	0	0	0	40
	⑤訪問看護の基盤となる社会資源の活用技術を実践することができる	10	5	5	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	試験期間中に実施する筆記試験授 業期間中に実施する到達度確認テスト
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
提出物	①		課題、レポート、ポートフォリオ
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
成果発表（口頭・実技）	①		課題のプレゼンテーション
	②		
	③	✓	
	④		
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

在宅看護を訪問看護活動のみで捉えるのではなく、生活者としての捉え方や地域包括ケアシステムの機能としても学習し、生活者としての支援や看護の継続性についても考える時間にして欲しい。
自己学習を基本に演習を行いますので事前学習に取り組んでください。

教科書・参考書

教科書：『系統看護学講座　統合分野　在宅看護論』押川眞喜子　医学書院
『在宅療養を支える技術』臺　有佳　石田千絵　山下留理子　メディカ出版
『写真でわかる訪問看護』押川眞喜子　インターメディカ

参考書：

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
精神看護特性論 （N１３２９０） こころをケアする	演習	1	30	2	後期	必修	看国試必修 養教免必修	木村聡子 複数担当	7号館4階 研究室他
科目担当者	木村聡子、江口実希								

関連ときわコンピテンシー	専門力、情報力、論理的思考力、批判適思考力、探求力、省察力、表現力、判断力
授業の概要	ライフサイクルにおける危機と心の問題を理解し、精神障がいが誰にでも起こりうる事象であることを理解する。また、精神障がいをもつ人の体験や苦悩を、セルフケアに及ぼす影響について理解し援助するために必要な諸理論について学ぶ。さらに、わが国の精神保健福祉の歴史的変遷を理解するとともに、現代における精神障がい者を取り巻く現状と課題について学ぶ。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	精神看護の活動　精神の健康と障害　（担当者：江口）	【予習】教科書の熟読 【復習】バイオ・ソーシャルモデル
第2回	人間の心のはたらき（精神分析と精神力動論）　（担当者：江口）	【予習】教科書の熟読 【復習】自我機能・防御規制
第3回	精神の成長発達と危機（胎生期から思春期まで）　（担当者：江口）	【予習】教科書の熟読 【復習】エリクソン
第4回	精神の成長発達と危機（青年期から老年期まで）　（担当者：江口）	【予習】教科書の熟読 【復習】エリクソン
第5回	精神科で出会う人々　（担当者：江口）	【予習】教科書の熟読
第6回	精神の機能と障害 、精神科症候学　（担当者：江口）	【予習】教科書の熟読 【復習】状態像・精神症状の捉え方¥
第7回	精神科での治療　（担当者：江口）	【予習】教科書の熟読 【復習】各種治療と薬物の有害反応
第8回	患者－看護師関係　（担当者：木村）	【予習】教科書の熟読 【復習】トラベルビー・ペプロウ
第9回	精神看護におけるコミュニケーション技法　（担当者：木村）	【予習】教科書の熟読 【復習】プロセスレコードの技法
第10回	アセスメントに必要な理論①（オレム・アンダーウッド理論） （担当者：木村）	【予習】教科書の熟読 【復習】セルフケア理論
第11回	アセスメントに必要な理論② ストレングスモデル・リカバリー （担当者：木村）	【予習】教科書の熟読 【復習】ストレングスモデルほか
第12回	アセスメントをやってみよう　（担当者：木村）	【予習】教科書の熟読 【復習】理論活用の再確認
第13回	精神科医療の歴史的変遷　（担当者：木村 ）	【予習】教科書の熟読 【復習】精神科医療の歴史と精神障がい者をとりまく地域社会の現状
第14回	精神保健と法律　（担当者：木村 ）	【予習】教科書の熟読 【復習】権利擁護と法制度の整理
第15回	精神看護における基本的人権と倫理的問題　（担当者：木村）	【予習】教科書の熟読 【復習】授業内容の振り返り

学修の到達目標
ライフサイクルにおける危機と心の問題を理解し、精神障がいが誰にでも起こりうる事象であることを理解する。 精神障がいをもつ人の体験や苦悩を、セルフケアに及ぼす影響について理解し援助するために必要な諸理論を活用し考えることができる。 わが国の精神保健福祉の歴史的変遷および法制度を理解するとともに、現代における精神障がい者を取り巻く現状と課題について考えることができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①人間の心の機能・はたらきについて理解できる。 （論理的思考力）	秀	人間の心の機能・はたらきについて十分に理解し、現象を捉えることができる。
	優	人間の心の機能・はたらきについて理解し、自分なりに説明ができる。
	良	人間の心の機能・はたらきについて理解し、十分ではないが説明できる。
	可	人間の心の機能・はたらきについて説明できる。
	不可	人間の心の機能・はたらきについて説明できない。
②精神の成長発達と危機について説明できる。 （情報力）	秀	ライフサイクルと危機について十分に説明できる。
	優	ライフサイクルと危機について説明できる。
	良	ライフサイクルと危機について一部説明できる。
	可	ライフサイクルと危機について言える。
	不可	ライフサイクルと危機について説明できない。
③患者－看護師関係の理論について理解し、関係性の分析に必要な知識を身につける。 （省察力）	秀	患者－看護師関係の理論について十分に理解し、且つプロセスレコードの分析を行うことができる。
	優	患者－看護師関係の理論を理解し、プロセスレコードの分析を行うことができる。
	良	患者－看護師関係の理論を理解している、あるいはプロセスレコードの分析を行うことができる。
	可	不十分ではあるが患者－看護師関係の理論を理解している、あるいは助言をうけてプロセスレコードの分析を行うことができる。
	不可	患者－看護師関係について説明できず、プロセスレコードの分析ができない。
④アセスメントに必要な理論を理解し、活用できる。 （専門力）	秀	理論について十分に理解し、事例に活用できる。
	優	理論について理解し、事例に活用できる。
	良	理論について理解し、説明できる。
	可	理論について十分ではないが説明できる。
	不可	理論について説明できない。
⑤精神科医療における歴史的背景を理解し、権利擁護について考える （探求力）	秀	歴史的背景を踏まえ、権利擁護の必要性およびその方法について根拠に基づき自己の意見が述べられる。
	優	歴史的背景を踏まえ、権利擁護の必要性あるいはその方法について根拠に基づき自己の意見が述べられる。
	良	権利擁護の必要性あるいはその方法について意見を述べることができる。
	可	歴史的背景により、権利擁護が必要であるということを知っている。
	不可	自己の考えを提示できず、他者の意見に同意する。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	40	0	0	0	0	100
評価項目	①心の機能・働き	10	10	0	0	0	0	20
	②ライフサイクルと危機	15	15	0	0	0	0	30
	③患者・看護師関係とプロセスレコード	15	5	0	0	0	0	20
	④アセスメントに必要な理論	10	10	0	0	0	0	20
	⑤法律と権利擁護	10	0	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	基本的知識のみならず、理解し説明ができることを狙いとする。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
提出物	①	✓	随時、課題を課す。期日厳守。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など
積極的・主体的な受講態度を期待します。板書だけではなく口頭での説明を必要時メモをとりまとめるようにしてください。
教科書・参考書
教科書：『心・体・関わりのプラクティス　精神看護学１・２』南江堂 参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
老年援助論 （Ｎ１３３００） 魅力いっぱい！これぞ老年看護！	演習	2	60	2	後期	必修	看国試必修	谷口由佳 複数担当	7号館3階 研究室他
科目担当者	谷口由佳、阿児馨								

関連ときわコンピテンシー	専門力、論理的思考力、知欲、探究力
授業の概要	老年期にある人々の発達段階や健康レベルに応じた特性を理解し、その社会生活の営みを可能な限り豊かにするための看護支援の基礎となる知識を学習する。具体的には、紙上患者の看護過程の展開を通して、老年期に発生しやすい健康障害の特徴を理解し、健康レベルに応じた看護援助の方法について、生活の視点から考える力を養う。また同時に、高齢者の健康状態を包括的にアセスメントする重要性を学ぶ。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	ガイダンス；老年期に発生しやすい健康障害の特徴　（担当：谷口）	【予習】教科書の該当箇所の熟読 【復習】配布資料の見直し
第2回	認知症高齢者の看護（1）；DVDの視聴　（担当：谷口）	【予習】教科書の該当箇所の熟読 【復習】DVD感想レポート作成
第3回	認知症高齢者の看護（2）；認知症とは　（担当：谷口）	【予習】教科書の該当箇所の熟読 【復習】配布資料の見直し
第4回	認知症高齢者の看護（3）；認知症ケアの現状と課題（担当：谷口）	【予習】教科書の該当箇所の熟読 【復習】配布資料の見直し
第5回	高齢者の生活機能を整える看護（1）；活動と休息・睡眠 （担当：谷口）	【予習】教科書の該当箇所の熟読 【復習】配布資料の見直し
第6回	高齢者の生活機能を整える看護（2）；片麻痺、活動制限のある高齢者への看護　（担当：谷口、阿児）	【予習】教科書の該当箇所の熟読 【復習】配布資料の見直し
第7回	高齢者の生活機能を整える看護（3）；栄養・食事　（担当：谷口）	【予習】教科書の該当箇所の熟読 【復習】配布資料の見直し
第8回	高齢者の生活機能を整える看護（4）；摂食・嚥下機能障害のある高齢者への看護　（担当：谷口、阿児）	【予習】教科書の該当箇所の熟読 【復習】配布資料の見直し
第9回	高齢者の生活機能を整える看護（5）；排泄・清潔　（担当：谷口）	【予習】教科書の該当箇所の熟読 【復習】配布資料の見直し
第10回	高齢者の生活機能を整える看護（6）；排泄ケアの実際 （担当：谷口、阿児）	【予習】教科書の該当箇所の熟読 【復習】配布資料の見直し
第11回	看護過程の展開（1）；全体像の把握（グループワーク） （担当：谷口）	【予習】教科書の該当箇所の熟読 【復習】ワークシート作成
第12回	看護過程の展開（2）；看護の方向性（グループワーク） （担当：谷口）	【予習】ワークシート作成 【復習】ワークシート作成
第13回	看護過程の展開（3）；計画立案（グループワーク）（担当：谷口）	【予習】ワークシート作成 【復習】ワークシート作成
第14回	看護過程の展開（4）；発表、まとめ　（担当：谷口）	【予習】発表準備 【復習】発表・授業の振り返り
第15回	高齢者のエンドオブライフケア　（担当：谷口）	【予習】教科書の該当箇所の熟読 【復習】配布資料の見直し

学修の到達目標
1．老年期に発生しやすい健康障害の特徴を理解する。 2．紙上患者の看護過程の展開を通して、高齢者の健康状態をアセスメントする方法を理解する。 3．高齢者の健康レベルに応じた看護援助の方法について、生活の視点に着目し考える力を養う。 4．高齢者の健康状態を包括的にアセスメントする重要性を理解する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①老年期に発生しやすい健康障害の特徴を理解する。 （知欲）	秀	老年期に発生しやすい健康障害の特徴を十分に理解し、加齢に伴う変化の特徴と関連させ考えることができている。また、授業で学んだ以上に自ら学習し、理解を深めている。
	優	老年期に発生しやすい健康障害の特徴を十分に理解することができている。また、授業で学んだ以上に自ら学習し、理解を深めている。
	良	老年期に発生しやすい健康障害の特徴を十分に理解することができている。
	可	老年期に発生しやすい健康障害の特徴を理解することができている。
	不可	老年期に発生しやすい健康障害の特徴を理解することができていない。
②紙上患者の看護過程の展開を通して、高齢者の健康状態をアセスメントする方法を理解する。 （専門力）	秀	紙上患者の情報から必要な情報を抽出し、生活行動別に的確に整理することができている。また、アセスメントに必要な知識を自ら見極め、積極的に調べ、それらと老年期という発達段階をあわせて分析することができている。さらに、分析した内容から看護の焦点を導き出し、適格な看護の方向性を見出すことができている。
	優	紙上患者の情報から必要な情報を抽出し、生活行動別に整理することができている。また、アセスメントに必要な知識について自ら積極的に調べ、それらと老年期という発達段階の特性をあわせて分析することができている。さらに、分析した内容から看護の焦点を導き出し、看護の方向性を見出すことができている。
	良	紙上患者の情報を生活行動別に整理することができている。また、アセスメントに必要な知識について調べ、それらと老年期という発達段階の特性をあわせて分析することができている。さらに、分析した内容から看護の焦点を導き出し、ある程度の看護の方向性を見出すことができている。
	可	紙上患者の情報を整理することができている。他者からの助言により分析を進め、看護の焦点を導き出すまでたどり着くことができている。
	不可	高齢者の健康状態をアセスメントする方法を理解できていない。
③高齢者の健康レベルに応じた看護援助の方法について、生活の視点に着目し考える力を養う。 （探究力）	秀	高齢者の健康レベルに応じた看護援助の方法について、生活の視点に着目することに意味を見いだすことが自らできている。看護計画において、紙上患者に必要な個別性のある内容が立案され、その人にとって望ましい生活や状態像を的確に見据えることができている。
	優	高齢者の健康レベルに応じた看護援助の方法について、生活の視点に着目することに意味を見いだすことがある程度できている。看護計画において、紙上患者に必要な個別性のある内容が立案され、その人にとって望ましい生活や状態像をある程度見据えることができている。
	良	高齢者の健康レベルに応じた看護援助の方法について、生活の視点に着目し、考えることができている。看護計画において、紙上患者に必要な内容が立案され、その人にとって望ましい生活や状態像をある程度考えることができている。
	可	高齢者の健康レベルに応じた看護援助の方法について、生活の視点に着目し考えることができている。
	不可	高齢者の健康レベルに応じた看護援助の方法について、生活の視点に着目し考えることができていない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
④高齢者の健康状態を包括的にアセスメントする重要性を理解する。（論理的思考力）	秀	高齢者の健康状態を包括的にアセスメントする重要性を十分に理解し、自分の言葉で的確に説明することができる。
	優	高齢者の健康状態を包括的にアセスメントする重要性を十分に理解し、自分の言葉である程度説明することができる。
	良	高齢者の健康状態を包括的にアセスメントする重要性を理解し、自分の言葉で少しではあるが説明することができる。
	可	高齢者の健康状態を包括的にアセスメントする重要性を理解することができている。
	不可	高齢者の健康状態を包括的にアセスメントする重要性を理解することができていない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	25	10	0	0	5	100
評価項目	①老年期に発生しやすい健康障害の特徴を理解する。	40	10	0	0	0	2	52
	②紙上患者の看護過程の展開を通して、高齢者の健康状態をアセスメントする方法を理解する。	10	10	5	0	0	2	27
	③高齢者の健康レベルに応じた看護援助の方法について、生活の視点に着目し考える力を養う。	5	5	5	0	0	1	16
	④高齢者の健康状態を包括的にアセスメントする重要性を理解する。	5	0	0	0	0	0	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	授業を通し学び得た知識を筆記試験で確認します。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
提出物	①	✓	演習授業で課すレポートの内容を評価します。題意把握や内容理解、論理構成、考察力、表現・文字の正確さなどについて評価します。また、看護過程の展開では、ワークシートを完成させ、提出してもらいます。高齢者の健康状態をアセスメントする方法の理解度や、健康レベルに応じた看護援助の方法について、生活の視点に着目し考える力が身についているかどうかを評価します。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
成果発表（口頭・実技）	①		看護過程の展開では、学びの過程をグループ単位で発表してもらいます。発表に対する準備性、内容の独創性、論旨の簡潔明瞭さ・妥当性・説得力、発表態度や時間管理などについて評価します。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
その他	①	✓	授業への参加度や、グループワークにおける話し合いへの参加など授業中の取り組みも評価の対象になります。
	②	✓	
	③	✓	
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など
関連する既習科目の復習を十分に行い、積極的に参加する姿勢を期待します。
教科書・参考書
教科書：『系統看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護学』 医学書院 『系統看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論』 医学書院 参考書：随時紹介します

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
学校保健 （Ｎ１３３９０） 学校保健の今を知ろう！	講義	2	30	2	後期	選択必修	看国試選択必修 保国試必修 養教免必修	柳本有二 複数担当	7号館4階 研究室他
科目担当者	柳本有二、角田信子								

関連ときわコンピテンシー	探求力、表現力
授業の概要	講義形式で行う。テーマによっては、グループ活動を行う。 現代における児童生徒の身体的、精神的および環境的要因を探りながら、これからの児童生徒にとって望ましい健康づくりについて検討していく。基本的に毎授業ごとに授業に関する感想と意見を書き込む授業ノートを使用する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション（学校保健に関わる最近の話題について解説する）。（担当者：柳本）	【予習】シラバスを読む 【復習】本時のふりかえりを行う
第2回	教育としての学校保健が果たす目的および内容。発表内容の決定（担当者：柳本）	【予習】発表内容を考える 【復習】本時を振り返る
第3回	児童・生徒の心身の発達と健康などと教育的関わりを含めた発表および討論。（担当者：柳本）	【予習】心身の発達について調べる 【復習】本時を振り返る
第4回	児童・生徒の心身の発達と健康などと教育的関わりを含めた発表および討論。（担当者：柳本）	【予習】心身の発達について調べる 【復習】本時を振り返る
第5回	保健室の実態と保健授業の実際などと教育的関わりを含めた発表および討論。（担当者：柳本）	【予習】保健室の実態について調べる 【復習】本時を振り返る
第6回	学校保健の将来の展望などから教育的関わりを含めた発表および討論。（担当者：柳本）	【予習】学校保健の実際を調べる 【復習】本時を振り返る
第7回	学校保健の理論と保健だよりなど教育的関わりを含めた発表および討論。（担当者：柳本）	【予習】学校保健の理論を調べる 【復習】本時を振り返る
第8回	現在の児童・生徒を取り巻く諸問題と教育的関わりを含めた発表および討論。（担当者：柳本）	【予習】現在の子供たちの諸問題を調べる 【復習】本時を振り返る
第9回	児童・生徒の心身の発達と健康などと教育的関わりを含めた発表および討論。（担当者：柳本）	【予習】子供の心身の発達とけんこうなどと教育的関わりを調べる 【復習】本時を振り返る
第10回	児童・生徒の心身の発達と機能などと教育的関わりを含めた発表および討論。（担当者：柳本）	【予習】子供の心身の発達と機能などと教育的関わりを調べる 【復習】本時を振り返る
第11回	学校における保健管理：健康診断、健康観察など （担当者：角田）	【予習】保健管理について調べる 【復習】本時を振り返る
第12回	子どもに多い疾病と心の健康問題 （担当者：角田）	【予習】子供に多い病気や心の健康問題を調べる 【復習】本時を振り返る
第13回	感染症のその予防 （担当者：角田）	【予習】感染症を調べる 【復習】本時を振り返る
第14回	学校安全・学校環境衛生 （担当者：角田）	【予習】学校安全・環境衛生を調べる 【復習】本時を振り返る
第15回	学校での健康づくり：喫煙、飲酒、薬物乱用防止など（担当者：角田）	【予習】学校での健康づくりについて調べる 【復習】全授業を振り返る

学修の到達目標
・学校保健の意義を考えることができる。 ・子供たちの真の健康づくりに知ることができる。 ・子供たちの取り巻く環境について知ることができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①探求力 物事のあり方について深く考え、その本質を見極めようとすることができる。 （探究力）	秀	意欲的で積極的な探究心で、授業に参加し、さらに授業ノートや課題レポートを完成できる。
	優	積極的な探究心で、授業に参加し、さらに授業ノートや課題レポートを書くことができる。
	良	意欲的に授業に参加し、授業ノートや課題レポートを書くことができる。
	可	意欲的に授業に参加し、課題レポートを書くことができる。
	不可	探究力のある授業参加および授業ノートや課題レポートを書くことができない。
②表現力 想いや考えを表現し、他者に伝えることができる。 （表現力）	秀	発表時に、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等に十分な能力を持ち、他者にも伝えられる。
	優	発表時に、書き言葉、話し言葉等に十分な能力を持ち、他者にも伝えられる。
	良	発表時に、書き言葉、話し言葉等に十分な能力を持つことができる。
	可	発表時に、書き言葉、話し言葉等に常識的な能力を持つことができる。
	不可	発表時に、書き言葉、話し言葉等に常識的な能力を持つことができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	10	20	0	0	0	100
評価項目	①探求力	40	5	10	0	0	0	55
	②表現力	30	5	10	0	0	0	45

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	学校保健に関わる内容等について適切にまとめたレポートを提出することが評価につながる。
	②	✓	
	③		
	④		
	⑤		
提出物	①	✓	毎時間の授業感想ノートを評価する。
	②	✓	
	③		
	④		
	⑤		
成果発表（口頭・実技）	①	✓	各自（グループ含む）が、学校保健において、興味ある内容をまとめて適切な表現と発表資料によって口頭発表をする。
	②	✓	
	③		
	④		
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など
・出席は、重視する。また、他者の発表時は、積極的な姿勢で臨むようにする。
教科書・参考書
教科書：「学校保健概論」渡辺正樹　編著　光生館 参考書：「改訂版学校保健実務必携」（第一法規）

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
健康相談の理論と方法 （Ｎ１３４１０） 学童期～青少年期を対象とした健康相談	講義	2	30	2	後期	選択必修	看国試選択必修 保国試必修 養教免必修	中村晶子 単独担当	7号館2階 研究室
科目担当者	中村晶子								

関連ときわコンピテンシー	専門力、情報力、論理的思考力、探求力、協調力・協働力、デザイン力
授業の概要	健康相談に必要な理論や学童期～青少年期の特徴を踏まえ、事例を基に対象の心身の健康問題に応じた支援方法について学ぶ

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション／健康相談の目的・定義・方法	【予習】教科書の読解 【復習】振り返り
第2回	健康相談の対象の特徴（学童期・青少年期の発達課題）	【予習】学童期・青少年期の発達課題 【復習】課題の整理・振り返り
第3回	健康相談の対象の特徴（学童期・青少年期の健康課題）	【予習】学童期・青少年期の健康課題 【復習】課題の整理・振り返り
第4回	健康相談における養護教諭の役割と理論	【予習】教科書の読解 【復習】振り返り
第5回	健康相談と保健室の機能	【予習】保健室の設備と機能 【復習】『保健室の機能』作成・提出
第6回	健康相談の進め方（プロセス）と連携・協働	【予習】健康相談のための機関 【復習】振り返り
第7回	健康相談における支援	【予習】事例の検討 【復習】振り返り
第8回	健康相談における支援（事例検討①）	【予習】事例の検討 【復習】振り返り
第9回	健康相談における支援（事例検討②）	【予習】事例の検討 【復習】振り返り
第10回	健康相談における支援（事例検討③）	【予習】事例の検討 【復習】振り返り
第11回	健康相談の進め方（事例検討）	【予習】事例の検討 【復習】振り返り
第12回	健康相談の進め方（ロールプレイ）	【予習】脚本案の作成 【復習】役割の振り返り
第13回	健康相談の進め方（ロールプレイの実施）	【予習】ロールプレイの準備 【復習】実施後の振り返り・評価
第14回	健康相談の進め方（ロールプレイの評価）	【予習】ロールプレイの評価 【復習】『養護教諭の役割』
第15回	まとめ	【予習】課題プリント 【復習】課題プリントの振り返り

学修の到達目標
健康相談に関する知識の理解を深め、養護教諭の専門性（役割）と保健室の機能をいかした対象の支援内容を考えられる。 健康相談の目的・意義について考えを深めることができる

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①健康相談に関する基本的知識を理解できる（専門力）	秀	健康相談に関する知識・技術を演習・ロールプレイで応用し根拠とともに示すことができる。
	優	健康相談に関する知識・技術を演習・ロールプレイで応用できる。
	良	健康相談に関する知識・技術を演習・ロールプレイで説明できる。
	可	健康相談に関する知識・技術を定義することできる。
	不可	健康相談に関する知識・技術を理解できていない。
②学童期～青少年期の心身の健康課題を理解できる（情報力）	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用し、その結果をグループで報告し還元できる。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析し、記述できる。
	良	自発的に情報を収集・整理し、選択して記述できる。
	可	自発的に情報を収集・整理できる。
	不可	自発的に情報を収集・整理・分析できない。
③対象に応じた支援の方法を考えることができる（論理的思考力）	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。その結果をグループに報告し、内容を深められる。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。その結果をグループで報告し還元できる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くても、ある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
④健康相談の目的・意義について考えを深める（探求力）	秀	複数の意見を統合し関連づけて論理的に述べられる。
	優	複数の意見を論理的に述べられる。
	良	意見を理由とともに自分なりに述べられる。
	可	促されれば、一つの意見を選択し述べられる。
	不可	意見を述べられない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	35	15	0	0	0	100
評価項目	①健康相談に関する基本的知識	20	10	10	0	0	0	40
	②学童期～青少年期の心身の健康課題	10	10	0	0	0	0	20
	③対象に応じた支援の方法	10	10	5	0	0	0	25
	④健康相談の目的・意義	10	5	0	0	0	0	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	基本的知識（健康相談の目的･意義･根拠､学童期･青年期の発達課題･健康課題等）を問う。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
提出物	①	✓	随時、課題を課す。期日を守って提出する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
成果発表（口頭･実技）	①	✓	グループワーク・ディスカッションではすべてのメンバーが積極的に発言し、司会・書記を担当する。ロールプレイでは対象・養護教諭等の役割を思いや言動を大切にしながら真剣に演じて、評価する。
	②		
	③	✓	
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など
既習の知識（心理臨床学・人間関係論・教育心理学・生涯発達論・各領域看護学等）を活用して課題に取り組みましょう。 グループワークで学びを深めていきます。主体的・積極的な姿勢で学習しましょう。欠席・遅刻がないように注意してください。
教科書・参考書
教科書：『養護教諭が行う健康相談』井出元美奈子他著　　大谷栄子編集　東山書房 参考書：学校保健ハンドブック　第６次改訂 随時紹介

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
障害児保育 （Ｎ１３４２０） 誰にとっての障害なの？	講義	2	30	2	後期	選択必修	看国試選択必修 養教免選択	岩越美恵 単独担当	7 号館 3 階 研究室
科目担当者	岩越美恵								

関連ときわコンピテンシー	批判的思考力、専門力、責任感
授業の概要	はじめに「障がいとは何か」について学び、考える。そして、子どもの正常発達を知った上で、様々な障害の特徴とその支援の在り方について学ぶ。インクルーシブ教育（社会）における障害のある子ども達に対してのみならず、まわりの子どもたちへの合理的配慮についても考える。さらに、障害のあるこどもたちの家族への支援についても考える。 近年、障がいのある子ども達の増加に伴い、養護教諭には障害についての理解と障がいのある子ども達や保護者、周りの子ども達への支援について知っておくことは必須である。看護師にも推奨する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第 1 回	オリエンテーション	【予習】シラバスに目を通しておく 【復習】講義の学びの振り返り
第 2 回	障がい児と家族、地域を支える児童発達支援センターの役割について	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第 3 回	障害と私達	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第 4 回	障害者権利条約	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第 5 回	運動障害のある子どもたちの理解と支援（脳性マヒを中心に）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第 6 回	運動障害のある子どもたちの理解と支援（二分脊椎、筋疾患を中心に）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第 7 回	障害のある子どもの支援を考えるための施設見学 / 家庭訪問（学外授業）	【予習】施設に関する下調べ 【復習】課題レポート
第 8 回	重症心身障害児の理解と支援 .「医療的ケア」について	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第 9 回	障害のある方の実際の暮らし（ゲストスピーカーをお招きして）	【予習】ゲストスピーカーの方の障害や疾患について調べておく 【復習】課題レポート
第10回	小児の精神発達について	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第11回	知的障害児の理解と支援	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第12回	ダウン症児の理解と支援	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第13回	障害児を支える制度。まわりの子どもや家族への支援について	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第14回	発達障害の理解と支援（発達障害と自閉症スペクトラム障害）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り
第15回	発達障害の理解と支援（AD/HD と限局性学習障害）	【予習】与えられた課題 【復習】講義の学びの振り返り

学修の到達目標
・障害とは何なのか、障害を社会との関係においても理解することができる。 ・様々な障害の特徴について理解し、適切な支援について考えることができる。 ・現代の教育・福祉制度を知り、障害のある子どもや家族、周りの子ども達に関する支援課題を掘り下げ、今後の適切な支援について考えることができる。 ・障がいのある人を中心に、自らもその一員として、現代社会について常に興味や関心を持っている。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①障害について多方面から捉え、支援について考えることができる。（批判的思考力）	秀	障害について、多面的にとらえ、統合し、自ら最も大切な支援やさらなる支援を模索している。
	優	障害について、多面的にとらえ、それらの関係性を統合的に捉えた上で支援について考えている。
	良	障害について、二つ以上の面からとらえ、それぞれの支援について考えている。
	可	障害について、二つの面からとらえ、それぞれに対する支援について考えている。
	不可	障害について、一つの面からとらえ、支援について考えている。
②様々な障害のある子ども達について理解し、その支援についても理解している。（専門力）	秀	様々な障害とその支援について、職業意識と探究心を持ち、自ら知識を増やし考えている。
	優	様々な障害とその支援について、専門領域における十分な知識と職業意識を身につけている。
	良	様々な障害とその支援について、専門領域における十分な知識を身につけていな。
	可	様々な障害とその支援について、専門領域における必要最低限の知識を身につけている。
	不可	様々な障害とその支援について、専門領域における必要最低限の知識を身につけていない。
③障がいのある人を中心に、現代の社会について興味・関心を持っている。（責任感）	秀	障がいのある子どもや、取り巻く社会に常に関心があり、行動もおこしている。
	優	障がいのある子どもや、取り巻く社会に関心が常にある。
	良	障がいのある子どもや、取り巻く社会に関心がかなりある。
	可	障がいのある子どもや、取り巻く社会に関心が少しある。
	不可	障がいのある子どもや、取り巻く社会に全く関心が無いか、ほとんど無い。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	20	0	0	0	10	100
評価項目	①障害についての多面的理解	10	5	0	0	0	0	15
	②様々な障害の理解と支援	60	10	0	0	0	5	75
	③障害のある人への関心	0	5	0	0	0	5	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	定期試験期間中に実施する筆記試験
	②	✓	
	③		
提出物	①	✓	課題、レポート、まとめなど
	②	✓	
	③	✓	
その他	①		授業への参加態度
	②	✓	
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
現代社会における障がいのある人たちの置かれている状況について、実生活や新聞記事などを通して興味関心を持つこと。
教科書・参考書
教科書：使用しません。 参考書：「発達障害の世界、子ども達の育ちを支えるヒント」石川道子著　中央法規 その他、随時紹介

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
基礎看護学実習（看護過程） （Ｎ１３５２５） 科学的思考を活用したはじめての看護実践	実習	2	90	2	前期	必修	看国試必修	尾﨑雅子 複数担当	7号館3階 研究室他
科目担当者	尾﨑雅子、長尾厚子、黒野利佐子、山口有美、藤原桜、西原詩子、伊東美智子、尾﨑優子、紀ノ岡浩美 中村由果理、笹尾裕美、松岡真菜、白石奈央								

関連ときわコンピテンシー	専門力、論理的思考力、判断力、実行力、協調性・協働力
授業の概要	既習した看護過程の理論や方法を、患者の日常の生活過程を整える（基本的ニーズの充足）ために活用し、看護実践における看護過程の意義と展開方法を学ぶ。具体的には、入院生活をおくる対象の健康上の問題を看護の立場からとらえるための看護アセスメントを行い、その解決に向けた計画・実施・評価のプロセスを学習する。そして、そのプロセスを通して、看護の対象にとって、また看護専門職にとっての看護過程の意義について考察していく。

授業内容

【事前学習】（学内）
- ・実習オリエンテーション
- ・実習における学習課題を明らかにする。

【臨地実習】（実習施設）

実習施設：ときわ病院・三田市民病院・川崎病院・神戸百年記念病院・西宮敬愛会病院・神鋼記念病院
兵庫県立尼崎総合医療センター

- ・施設内オリエンテーション
- ・受け持ち患者（原則として１名）を担当し、看護過程の展開を通して患者に必要な看護援助の実践を行う。
- ・カンファレンス／臨床講義
  - ＊実習３日目と６日目に、臨地の学習室等で指導者や担当教員とのディスカッション等を通して学習内容を整理するための時間を設ける。
  - ＊１週目と２週目の間に学内で中間学習の時間を設ける。１週目のアセスメントの整理や２週目に向けて看護計画立案のために、担当教員とディスカッションしながら検討する。

（実習内容･方法についての詳細は『基礎看護学実習（看護過程）実習要領』を参照:実習オリエンテーションで配布）

学修の到達目標

1．受け持ち患者に関する臨床の現象から、「看護の視点」に沿った観察を行い、日常の生活過程を整える（基本的ニーズの充足）ための看護アセスメントを行う。
2．受け持ち患者の日常の生活過程を整える（基本的ニーズの充足）のために看護計画を立案し、計画に基づいた系統的な看護実践ができる。
3．実施過程および結果を通して、看護過程の各過程の系統的な評価ができる。
4．実習体験を通して、専門職業人としての基本的な態度を養う。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①受け持ち患者に関する臨床の現象から、「看護の視点」に沿った観察を行い、日常の生活過程を整える（基本的ニーズの充足）ための看護アセスメントを行う。 （論理的思考力）	秀 優 良 可 不可	「実習要領」の到達度評価表および評価尺度を用いて行う

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②受け持ち患者の日常の生活過程を整える（基本的ニーズの充足）のために看護計画を立案し、計画に基づいた系統的な看護実践ができる。 （実行力）	秀 優 良 可 不可	「実習要領」の到達度評価表および評価尺度を用いて行う
③実施過程および結果を通して、看護過程の各過程の系統的な評価ができる。 （判断力）	秀 優 良 可 不可	「実習要領」の到達度評価表および評価尺度を用いて行う
④実習体験を通して、専門職業人としての基本的な態度を養う。 （協調性・協働力）	秀 優 良 可 不可	「実習要領」の到達度評価表および評価尺度を用いて行う

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 （口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	0	0	0	0	100	100
評価項目	①看護アセスメント	0	0	0	0	0	25	25
	②看護計画立案と実施	0	0	0	0	0	45	45
	③評価	0	0	0	0	0	15	15
	④専門職業人としての基本的な態度	0	0	0	0	0	15	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
その他	①	✓	実習内容、実習態度、実習記録、課題レポート等をもとに、総合的に評価する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

・履修にあたっては先行要件を満たしていること。
・事前に実習に関連する科目を確認し復習しておくこと。事後は実習内容を振り返り、決められた期日に実習記録等を提出する。また今後に向けた課題を明確にしておくこと。
・各自が学習課題を明確にし、それに向けた主体的な取り組みを期待する。

教科書・参考書

教科書：使用しません。
参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
公衆衛生看護学概論 （Ｎ１３８０１） 公衆衛生看護と保健師活動の基本	講義	2	30	2	後期	選択	保国試必修	魚崎須美 単独担当	7号館3階 研究室
科目担当者	魚崎須美								

関連ときわコンピテンシー	教養、専門力、論理的思考力、批判的思考力
授業の概要	公衆衛生看護の考え方と保健師活動の基本を学習する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第１回	公衆衛生看護の歴史	【予習】教科書の読解 【復習】授業の振り返り
第２回	公衆衛生看護の理念、目的、基本概念	【予習】教科書の読解 【復習】授業の振り返り
第３回	公衆衛生看護の対象	【予習】教科書の読解 【復習】授業の振り返り
第４回	公衆衛生看護の場	【予習】教科書の読解 【復習】授業の振り返り
第５回	公衆衛生看護の展開と理論	【予習】教科書の読解 【復習】授業の振り返り
第６回	公衆衛生看護の実践①（家族相談援助①　家族と健康問題）	【予習】教科書の読解 【復習】授業の振り返り
第７回	公衆衛生看護の実践②（家族相談援助②　家族と生活のアセスメント）	【予習】教科書の読解 【復習】授業の振り返り
第８回	公衆衛生看護の実践③（家族相談援助③　家族支援の過程）	【予習】教科書の読解 【復習】授業の振り返り
第９回	公衆衛生看護の実践④（保健指導①　保健指導の目的・対象）	【予習】教科書の読解 【復習】授業の振り返り
第10回	公衆衛生看護の実践⑤（保健指導②　保健指導の方法）	【予習】教科書の読解 【復習】授業の振り返り
第11回	公衆衛生看護の実践⑥（家庭訪問①　家庭訪問の目的・対象）	【予習】教科書の読解 【復習】授業の振り返り
第12回	公衆衛生看護の実践⑦（家庭訪問②　家庭訪問のプロセス）	【予習】教科書の読解 【復習】授業の振り返り
第13回	公衆衛生看護の実践⑧（健康教育、グループ支援）	【予習】教科書の読解 【復習】授業の振り返り
第14回	公衆衛生看護活動の実践⑨（健康診査）	【予習】教科書の読解 【復習】授業の振り返り
第15回	まとめ	【予習】授業で提示された課題 【復習】授業の振り返り

学修の到達目標

1．公衆衛生看護の歴史について理解する。
2．公衆衛生看護の目的、対象、技術・技法について理解する。
3．人々の健康課題を生活や地域社会との関連の中で捉えることができる。
4．公衆衛生看護における保健師の役割を考えることができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①公衆衛生看護の歴史について理解する。（教養）	秀	公衆衛生看護の歴史に関して興味関心を抱き、何らかの形で学修を継続し、その成果を発信している。
	優	公衆衛生看護の歴史に関して興味関心を抱き、何らかの形で学修を継続している。
	良	公衆衛生看護の歴史に関して興味関心を抱き、何らかの形で学修した。
	可	公衆衛生看護の歴史についての知見のみにとどまっている。
	不可	公衆衛生看護の歴史についての知見が不十分である。
②公衆衛生看護の目的、対象、技術・技法について理解する。（専門力）	秀	公衆衛生看護についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。 なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	公衆衛生看護についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	公衆衛生看護についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	公衆衛生看護についての知識・技術を身につけている。
	不可	公衆衛生看護についての知識・技術を身につけていない。
③人々の健康課題を社会環境との関連の中で捉えることができる。（論理的思考力）	秀	人々の健康課題について、客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	人々の健康課題について、客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる
	良	人々の健康課題について、客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	人々の健康課題について、多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	人々の健康課題について、根拠に基づき論理的に考えることができない。
④公衆衛生看護における保健師の役割を考えることができる。（批判的思考力）	秀	公衆衛生看護における保健師の役割を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している
	優	公衆衛生看護における保健師の役割を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	公衆衛生看護における保健師の役割の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	公衆衛生看護における保健師のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	公衆衛生看護における保健師のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	0	0	0	0	20	100
評価項目	①公衆衛生看護の歴史	20	0	0	0	0	0	20
	②公衆衛生看護の目的、対象、技術	50	0	0	0	0	0	50
	③健康課題と社会関係との関連	10	0	0	0	0	10	20
	④公衆衛生看護における保健師の役割	0	0	0	0	0	10	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	試験、もしくはレポート試験を行う。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤		
その他	①		アクティブラーニング（グループワーク）の参加態度・発言など。
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など
事後学習をしっかりしてください。 新聞を読んでおきましょう。 自分の暮らしている自治体の広報誌の保健福祉関連記事に目を通しておきましょう。 保健師教育課程における授業内容の基礎にあたる科目になります。選択者は自覚して授業に臨んでください。
教科書・参考書
教科書：『標準保健師講座１　公衆衛生看護学概論』 標　美奈子　医学書院 『標準保健師講座２　公衆衛生看護技術』 中村裕美子　医学書院 参考書：『国民衛生の動向 2017/2018』 厚生労働統計協会 『ケアの原形論』 金井一薫　現代社 『実践を創る　新看護学原論』 金井一薫　現代社 『看護小論集』　薄井坦子、小玉香津子　現代社

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
健康教育の理論と方法（Ｎ１３８５０） 健康づくりのための保健行動を促す健康教育	講義	1	15	2	後期	選択	保国試必修	中村晶子 単独担当	7号館2階研究室
科目担当者	中村晶子								

関連ときわコンピテンシー	デザイン力、専門力、探究力
授業の概要	健康教育の理念や健康教育に関する理論を学び、対象集団の特性やニーズに合わせた、セルフケア能力の育成・向上のための健康教育の方法と技術を学習する。実際に健康教育企画書・指導案を作成する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	健康教育の歴史と定義	【予習】教科書の読解 【復習】振り返り
第2回	健康教育と保健行動	【予習】健康と保健行動 【復習】振り返り
第3回	健康教育理論①（プリシード・プロシードモデル）	【予習】健康教育理論 【復習】課題の整理・振り返り
第4回	健康教育理論②（ヘルスビリーフモデル・他）	【予習】健康教育理論 【復習】課題の整理・振り返り
第5回	健康教育の方法	【予習】教科書の読解 【復習】振り返り
第6回	健康教育の展開①　企画書の作成	【予習】企画書（案）の作成 【復習】企画書の振り返り・訂正
第7回	健康教育の展開②　指導案の作成	【予習】指導案（案）の作成 【復習】指導案の振り返り・訂正
第8回	健康教育の展開③　評価・まとめ	【予習】評価（案）の作成 【復習】振り返り

学修の到達目標
健康教育に関する基本的知識と技術を理解し、健康教育の目的と展開過程方法について説明できる。 健康課題の解決に向けた健康教育の計画立案ができる

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①健康教育に関する理論や歴史等の基本的知識を理解できる（専門力）	秀	健康相談に関する知識･技術を健康教育の計画立案で応用し根拠とともに示すことができる。
	優	健康相談に関する知識･技術を健康教育の計画立案で応用できる。
	良	健康相談に関する知識･技術を健康教育の計画立案で説明できる。
	可	健康相談に関する知識･技術を定義することできる。
	不可	健康相談に関する知識･技術を理解できていない。
②対象集団への支援方法について説明できる（探究力）	秀	自発的に学習し、複数の意見を統合し関連づけて論理的に説明できる。
	優	自発的に学習し、複数の意見を論理的に説明できる。
	良	ある程度自発的に学習し、意見を理由とともに自分なりに説明できる。
	可	促されれば、一つの意見を選択し説明できる。
	不可	意見を述べられない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
③健康課題の解決に向けた健康教育の計画立案ができる（デザイン力）	秀	健康教育理論を応用し、対象の生活や文化等の特性に応じた保健行動を促す実践可能な企画書・計画書を作成できる
	優	健康教育理論を理解し、対象の生活や文化等の特性に応じた対象の保健行動を促す企画書・計画書を作成できる
	良	健康教育理論を選択し、対象の生活や文化等の特性に応じた、対象の保健行動を促す企画書・計画書を作成できる。
	可	対象の生活や文化等の特性に応じた、保健行動を促す企画書・計画書を作成できる
	不可	対象の生活や文化等の特性に応じた、企画書・計画書を作成できない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		45	45	10	0	0	0	100
評価項目	①健康教育に関する基本的知識	30	10	0	0	0	0	40
	②集団への支援方法	15	5	0	0	0	0	20
	③健康教育の計画立案	0	30	10	0	0	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	健康教育の理念や理論等の基本的知識を問う。
	②	✓	
	③		
提出物	①	✓	随時、課題を課す。期日を守って提出する。
	②	✓	
	③	✓	
成果発表（口頭・実技）	①		グループワーク・ディスカッションではすべてのメンバーが積極的に発言し、司会・書記を担当する。情報や意見を共有し考えを深め、表現する。
	②		
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
公衆衛生看護活動の基盤の一つである健康教育について、自分の考えや意見を深められるようにグループ学習には積極的・主体的に取り組む。また、自分の日常生活や保健行動を振り返る機会とする。
教科書・参考書
教科書：『最新保健学講座別巻１　健康教育論』 宮坂忠夫 川田智恵子 吉田亨編著　メヂカルフレンド社 参考書：『標準保健師講座２　地域看護技術』 医学書院 『国民衛生の動向』 厚生労働統計協会教科書

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
教職概論 （N１４０００） 教職への理念と現実を学ぶ	講義	2	30	2	前期	自由	養教免必修	成山文夫 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	成山文夫								

関連ときわコンピテンシー	専門力、判断力、探究力、責任感、自己管理力
授業の概要	教職の具体的内容を踏まえ、求められている教職の意義、教員の役割について考える。さらに教職に関わる資質・能力・責任について理解し，人間としての、教師としての基本的姿勢・態度を学ぶ。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第１回	オリエンテーション。自己の教育体験を踏まえ、教職への生きた関心を持つ。	【予習】シラバスを読んでおく 【復習】授業内容の復習
第２回	教職への経験的・主観的な考えから、理論的・客観的に考える学問的思考力と実践力の育成を目指す。	【予習】配付資料に目を通す 【復習】授業内容の復習
第３回	教育が持つ二面性、「不易と流行」の具体的内容について学び、教育にとって必要不可欠なものとは何かを探る。	【予習】配付資料に目を通す 【復習】授業内容の復習
第４回	教師像の歴史的変遷を探る。	【予習】配付資料に目を通す 【復習】授業内容の復習
第５回	教師に求められる資質・力量①教職の役割とその魅力。	【予習】配付資料に目を通す 【復習】授業内容の復習
第６回	教師に求められる資質・力量②教育者の徳性。	【予習】配付資料に目を通す 【復習】授業内容の復習
第７回	教師の仕事①授業、進路指導、学級経営、公務分掌。	【予習】配付資料に目を通す 【復習】授業内容の復習
第８回	教師の仕事②教育相談、学校での一日のサイクル、一年のサイクル。	【予習】配付資料に目を通す 【復習】授業内容の復習
第９回	教師の仕事③学内の教職員との協力、学外の関係機関との連携。	【予習】配付資料に目を通す 【復習】授業内容の復習
第10回	学校における祝祭の教育学的意義。	【予習】配付資料に目を通す 【復習】授業内容の復習
第11回	教師の研修と服務規程。	【予習】配付資料に目を通す 【復習】授業内容の復習
第12回	保護者・地域との連携。	【予習】配付資料に目を通す 【復習】授業内容の復習
第13回	教育行政と教職。	【予習】配付資料に目を通す 【復習】授業内容の復習
第14回	教育活動の評価・教師の仕事全体の評価。	【予習】配付資料に目を通す 【復習】授業内容の復習
第15回	まとめ。	【予習】授業内容の総復習

学修の到達目標
教職の具体的内容について理解を深め、それを踏まえて教員に求められる資質・能力・責任の向上を図る。これらは日々の学びや教職に就く者としての自覚により、変化し成長するものである。各自がこの課題に意欲的に取り組む姿勢を身につける。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①教職を学ぶための基本的態度（判断力）	秀	教職への自覚を持ち、資質・能力・責任を充分に理解し、教職の意義を,説明できる。
	優	教職への自覚を持ち、資質・能力・責任を理解し、教職の意義を,説明できる。
	良	教職への自覚を持ち、資質・能力・責任を理解し、教職の意義を充分ではないが説明できる。
	可	教職への自覚を持ち、資質・能力・責任を理解できる。
	不可	教職への自覚を持ち、資質・能力・責任を理解できない。
②教師像の歴史的変遷（探究力）	秀	教師像の変遷の中で、教職の「不易」なるものの意義を充分に理解でき、説明できる。
	優	教師像の変遷の中で、教職の「不易」なるものの意義を理解でき、説明できる。
	良	教師像の変遷の中で、教職の「不易」なるものの意義を理解でき、充分ではないが説明できる。
	可	教師像の変遷の中で、教職の「不易」なるものの意義を理解できる。
	不可	教師像の変遷の中で、教職の「不易」なるものの意義が理解できない。
③教師の徳性（専門力）	秀	教師が備えるべき徳性を充分に理解し、説明できる。
	優	教師が備えるべき徳性を理解し、説明できる。
	良	教師が備えるべき徳性を理解でき、充分ではないが説明できる。
	可	教師が備えるべき徳性を理解できる。
	不可	教師が備えるべき徳性を理解できない。
④教師の仕事（責任感）	秀	教師の仕事全般にわたって充分に理解でき、説明できる。
	優	教師の仕事全般にわたって理解でき、説明できる。
	良	教師の仕事全般にわたって理解でき、充分ではないが説明できる。
	可	教師の仕事全般にわたって理解できる。
	不可	教師の仕事全般にわたって理解できない。
⑤教師の研修と服務規程（自己管理力）	秀	教師の研修の必要性と服務規程の重要性を充分に理解でき、説明できる。
	優	教師の研修の必要性と服務規程の重要性を理解でき、説明できる。
	良	教師の研修の必要性と服務規程の重要性を理解でき、充分ではないが説明できる。
	可	教師の研修の必要性と服務規程の重要性を理解できる。
	不可	教師の研修の必要性と服務規程の重要性を理解できない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	20	0	0	0	20	100
評価項目	①基本的態度	0	0	0	0	0	20	20
	②教師像の歴史的変遷	20	0	0	0	0	0	20
	③教師の徳性	20	0	0	0	0	0	20
	④教師の仕事	10	10	0	0	0	0	20
	⑤教師の研修と自己管理力	10	10	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①		筆記試験を行う
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
提出物	①		授業の受講表のコメントで評価する
	②		
	③		
	④	✓	
	⑤	✓	
その他	①	✓	授業中の積極的な受講態度で評価する。
	②		
	③		
	④		
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など
講義内容を理解するためには各自、関心を持って講義に参加し、さらに復習と予習が不可欠となります。
教科書・参考書
教科書：『教職概論』武安　宥編　昭和堂出版 参考書：『教育を支えるもの』O.F. ボルノウ著 森　昭、岡田渥美訳　黎明書房

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
教育原論 （Ｎ１４０１０） 実践学としての教育の基本とそれへの態度を学ぶ	講義	2	30	2	後期	自由	養教免必修	成山文夫 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	成山文夫								

関連ときわコンピテンシー	専門力、探究力、省察力、判断力、協調性・協働力
授業の概要	実践学としての教育の位置づけを明確にし、次に人間の生物学的特徴（欠陥性・未熟性）に人間の本質である自由性を見出し、そこに教育の必要性、可能性があることを理解する。この人間の本質ゆえに生じる失敗・誤りの受容と忍耐こそが教育には、子どもの成長には必要不可欠であることを習得する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション。自己の教育体験を踏まえ教育に生きた関心を持つ。	【予習】テキストの内容を読んでおく 【復習】授業内容の復習
第2回	教育の語義から、教育を考える。	【予習】テキストの内容を読んでおく 【復習】授業内容の復習
第3回	人間と教育の関わりを人類の進化と教育の歴史をとおして考える。	【予習】テキストの内容を読んでおく 【復習】授業内容の復習
第4回	教育が目指すものを探る？	【予習】テキストの内容を読んでおく 【復習】授業内容の復習
第5回	教育観の類型：①工作のモデル、②有機体のモデル、③文化伝達のモデル、④覚醒のモデルをもとに教育を考える。	【予習】テキストの内容を読んでおく 【復習】授業内容の復習
第6回	教育の可能と限界①：遺伝と環境から。	【予習】テキストの内容を読んでおく 【復習】授業内容の復習
第7回	教育の可能と限界②：人間の自然本能としての「努力」から考える。	【予習】テキストの内容を読んでおく 【復習】授業内容の復習
第8回	教育の可能と限界③：失敗と誤りの受容について。	【予習】テキストの内容を読んでおく 【復習】授業内容の復習
第9回	教育の目的①：個人と社会の面から探る。	【予習】テキストの内容を読んでおく 【復習】授業内容の復習
第10回	教育の目的②：人間観と教育観の変遷から探る。	【予習】テキストの内容を読んでおく 【復習】授業内容の復習
第11回	子どもへの愛と信頼と希望、そして忍耐について。	【予習】テキストの内容を読んでおく 【復習】授業内容の復習
第12回	教育の場所①：家庭、学校、社会。	【予習】テキストの内容を読んでおく 【復習】授業内容の復習
第13回	教育の場所②：世界、自然、宇宙。	【予習】テキストの内容を読んでおく 【復習】授業内容の復習
第14回	教育の内容と教育の方法。	【予習】テキストの内容を読んでおく 【復習】授業内容の復習
第15回	まとめ	【予習】テキストの内容を読んでおく 【復習】授業内容の総復習

学修の到達目標
教育の必要性と可能性を、人間の本質を押さえてまず理解し、さらに真に教育が可能であるためには、自己の自由意志に基づいた学びが必要であることを理解し、さらに、学習途上におけるこどもの失敗、過ちを受容することが不可欠であることを理解する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①教育の語源の理解 （探究力）	秀	教育を表す各国の言語に共通してある教育の本質を充分に理解し、説明できる。
	優	教育を表す各国の言語に共通してある教育の本質を理解し、説明できる。
	良	教育を表す各国の言語に共通してある教育の本質を理解できる
	可	教育を表す各国の言語に共通してある教育の本質について充分ではないが理解できる
	不可	教育を表す各国の言語に共通してある教育の本質を理解できない。
②人間と教育の関係 （省察力）	秀	人間の欠陥性・未熟性が人間の本質である自由性と深く関わり、そこに教育の必要性、可能性があることを充分に理解し、説明できる。
	優	人間の欠陥性・未熟性が人間の本質である自由性と深く関わり、そこに教育の必要性、可能性があることを理解し、説明できる。
	良	人間の欠陥性・未熟性が人間の本質である自由性と深く関わり、そこに教育の必要性、可能性があることは理解できる。
	可	人間の欠陥性・未熟性に教育の必要性、可能性があることは理解できる
	不可	人間と教育の関係がわからない。
③教育観の類型 （専門力）	秀	①工作のモデル②有機体のモデル③文化伝達のモデル④覚醒のモデルを充分に理解し、説明できる。
	優	①工作のモデル②有機体のモデル③文化伝達のモデル④覚醒のモデルを理解し、説明できる。
	良	①工作のモデル②有機体のモデル③文化伝達のモデル④覚醒のモデルを理解できる。
	可	①工作のモデル②有機体のモデル③文化伝達のモデルを理解できるが、④のモデルの理解が不充分。
	不可	①工作のモデル②有機体のモデル③文化伝達のモデル④覚醒のモデルの理解ができない。
④教育の可能と限界 （判断力）	秀	教育の可能と限界を、遺伝と環境、人間の自然本能としての「努力」から充分に理解し,説明できる。
	優	教育の可能と限界を、遺伝と環境、人間の自然本能としての「努力」から理解し,説明できる。
	良	教育の可能と限界を、遺伝と環境、人間の自然本能としての「努力」から理解できる。
	可	教育の可能と限界を、遺伝と環境からは理解できるが、「努力」についての理解が不充分。
	不可	教育の可能と限界を、遺伝と環境、人間の自然本能としての「努力」から理解できない。
⑤愛と信頼と希望と忍耐について （協調性・協働力）	秀	愛と信頼と希望と忍耐が、教育成立の不可欠のものであることを充分に理解し、説明できる。
	優	愛と信頼と希望と忍耐が、教育成立の不可欠のものであることを理解し、説明できる。
	良	愛と信頼と希望と忍耐が、教育成立の不可欠のものであることを理解できる。
	可	愛と信頼と希望と忍耐が、教育には不可欠であることを充分ではないが理解できる。
	不可	愛と信頼と希望と忍耐が教育に不可欠であることを理解できない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		100	0	0	0	0	0	100
評価項目	①教育のことばの理解	10	0	0	0	0	0	10
	②教育と人間のかかわり	20	0	0	0	0	0	20
	③教育についての考え方	10	0	0	0	0	0	10
	④教育の可能と限界	30	0	0	0	0	0	30
	⑤教育に必要なもの	30	0	0	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	筆記試験
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
講義内容を理解するためには、各自関心を持って講義に参加し、さらに復習と次なる講義の予習が不可欠となります。
教科書・参考書
教科書：『教育のイデア』西本望、光成研一郎、塩見剛一編　昭和堂 参考書：『愛の場所　－教育哲学序説』三井　浩著　玉川大学出版部

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
教育課程総論 （Ｎ１４０４０） 教育の流れと振り返り	講義	2	30	2	後期	自由	養教免必修	西本望 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	西本望＊								

関連ときわコンピテンシー	専門力、情報力、論理的思考力、自己管理力、探究力、省察力、デザイン力
授業の概要	人格の完成の実現を保障するために、教育課程や指導計画について意義や編成の方法について理解する。さらに各学校種の実情に応じた教育課程や指導計画の評価および省察と改善（カリキュラム・マネッジメント）を学ぶ。具体的には、歴史的変遷にともなう社会的背景や要請、編成の方策と類型、評価と省察および改善、近年の動向について理解する。さらに家庭教育や地域の教育との連携および各学校・園との教育課程の接続について知識や技術を身につける。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第１回	教育課程とは	【予習】教科書を熟読する 【復習】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する
第２回	教育課程の意義	【予習】教科書を熟読する 【復習】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する
第３回	家庭・地域社会のもつ教育機能	【予習】教科書を熟読する 【復習】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する
第４回	インフォーマルな教育課程とフォーマルな教育課程	【予習】教科書を熟読する 【復習】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する
第５回	教育課程の歴史的経緯Ⅰ：カリキュラム成立以前の教育方法	【予習】教科書を熟読する 【復習】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する
第６回	教育課程の歴史的経緯Ⅱ：カリキュラムの黎明期	【予習】教科書を熟読する 【復習】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する
第７回	教育課程の類型Ⅰ：カリキュラム編成の観点と思想（スコープとシークエンス）	【予習】教科書を熟読する 【復習】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する
第８回	教育課程の類型Ⅱ：教科カリキュラムと経験カリキュラム	【予習】教科書を熟読する 【復習】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する
第９回	教育課程の類型Ⅲ：種々のカリキュラムと改善と方策（カリキュラム・マネジメントを含む）	【予習】教科書を熟読する 【復習】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する
第10回	教育課程編成の背景Ⅰ：こどもの成長・発達とターニングポイント：シークエンス、ヒドゥンカリキュラムの立場から	【予習】教科書を熟読する 【復習】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する
第11回	教育課程編成の背景Ⅱ：法および学習指導要領との関連：文科省、学校、教師の役割	【予習】教科書を熟読する 【復習】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する
第12回	評価の意義と解釈および改善（カリキュラム・マネジメントを含む）	【予習】教科書を熟読する 【復習】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第13回	教育課程・学習指導計画の編成と展開Ⅰ：長期指導計画の概念と行事の意味	【予習】教科書を熟読する 【復習】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する
第14回	教育課程・学習指導計画の編成と展開Ⅱ：校種間の円滑な接続	【予習】教科書を熟読する 【復習】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する
第15回	まとめ	【予習】教科書を熟読する 【復習】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する

学修の到達目標

（1）教育課程や指導計画の役割や機能を把握するとともに、それまでの変遷やその時代の社会的背景や要請について理解している。
（2）教育課程の編成や指導計画を編成するときの観点や方法などについて理解している。
（3）編成の背景となる子どもの心身の成長・発達や社会的状況等について理解している。
（4）教育課程や指導計画を省察し、評価および省察と改善（カリキュラム・マネッジメント）についての意義や重要性を理解している。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①教育課程や指導計画の役割や機能を把握するとともに、それまでの変遷やその時代の社会的背景や要請について理解している。（情報力）	秀	理解した知識･技術を応用することができる。
	優	ほぼ完璧に知識･技術を有している。
	良	おおむね知識･技術を有する。
	可	基礎的な知識を修得している。
	不可	不十分。基礎的な知識が修得されていない。
②教育課程の編成や指導計画を編成するときの観点や方法などについて理解している。（論理的思考力）	秀	理解した知識･技術を活用することができる。
	優	ほぼ完璧に理解できている。
	良	おおむね理解できている。
	可	基礎的な知識を理解している。
	不可	不十分。基礎的な知識が修得されていない。
③編成の背景となる子どもの心身の成長・発達や社会的状況等について理解している。（探究力）	秀	探究した事柄を応用することができる。
	優	積極的に探究しようとする力ができている。
	良	おおむね根拠となるものを探究する力がある。
	可	指導すれば、探究しようとする行動を起こす。
	不可	不十分。意欲がみられない。
④教育課程や指導計画を省察し、評価および省察と改善（カリキュラム・マネッジメント）についての意義や重要性を理解している。（省察力）	秀	省察と改善をあらゆることに活用することができる。
	優	省察と改善が積極的に持続的できる。
	良	おおむね省察や改善をすることができる。
	可	指導助言をすると省察や改善をしようとする。
	不可	不十分。省察できない。改善の意欲もない。
⑤積極的な参加や受講マナー（自己管理力）	秀	極めて積極的な参加と受講(自己管理の)態度がみられる。
	優	積極的な参加と受講(自己管理の)態度がみられる。
	良	おおむね積極的な参加と受講(自己管理の)態度がみられる。
	可	基本的な参加と受講(自己管理の)態度がみられる。
	不可	不十分。教員免許状を取得する資質や受講するに相応しい態度とみなせない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	0	0	0	0	50	100
評価項目	①教育課程や指導計画の役割や機能を把握するとともに、それまでの変遷やその時代の社会的背景や要請について理解している。	12.5	0	0	0	0	7.5	20.0
	②教育課程の編成や指導計画を編成するときの観点や方法などについて理解している。	12.5	0	0	0	0	7.5	20.0
	③編成の背景となる子どもの心身の成長・発達や社会的状況等について理解している。	12.5	0	0	0	0	7.5	20.0
	④教育課程や指導計画を省察し、評価および省察と改善（カリキュラム・マネッジメント）についての意義や重要性を理解している。	12.5	0	0	0	0	7.5	20.0
	⑤積極的な参加や受講マナー	0	0	0	0	0	20.0	20.0

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	定期試験期間中に筆記試験を実施する。知識・技術にかかわる理解度を問う。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
その他	①	✓	積極的な参加や受講マナーとともに授業内レポートなどの課題を総合して行う。知識を活用したり、さらにそれを技術として活用できたりすることを検証する。その他、必要に応じて課題を適宜指示する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
教科書や配付資料を熟読するとともに、そこにかわる必要な専門用語については理解して授業に臨むこと。既習の教職課程関連科目の講義演習内容等については、すでに理解済みであるとみなすので、本授業内容とともに復習をしておくこと。
教科書・参考書
教科書：『教育のイデア』西本望他 著　昭和堂 2018 参考書：『幼稚園教育要領』『小学校学習指導要領』『中学校学習指導要領』など各学校種指導要領

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
道徳教育と特別活動論 （Ｎ１４０５０） 養護教諭に求められる指導力とは	講義	2	30	2	後期	自由	養教免必修	國崎大恩 単独担当	7号館5階 研究室
科目担当者	國崎大恩								

関連ときわコンピテンシー	専門力、判断力、デザイン力
授業の概要	本授業は、学校教育における道徳教育及び特別活動のあり方を考察することを通して、養護教諭として必要となる道徳教育及び特別活動に関する知識を身につけるとともに、その実践方法について理解を深めるものである。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	イントロダクション－養護教諭が行う学校での教育実践－	【予習】シラバスの熟読 【復習】本授業での目的の明確化
第2回	道徳教育の目標・内容	【予習】教科書の理解 【復習】小レポートの作成・提出
第3回	西洋倫理・道徳思想（1）―古代～近代黎明期までの道徳思想	【予習】教科書の理解 【復習】小レポートの作成・提出
第4回	西洋倫理・道徳思想（2）―近代黎明期～現代までの道徳思想	【予習】教科書の理解 【復習】小レポートの作成・提出
第5回	日本における道徳教育の歴史（1）―明治～昭和初期までの道徳教育の歴史	【予習】教科書の理解 【復習】小レポートの作成・提出
第6回	日本における道徳教育の歴史（2）―昭和初期～現在までの道徳教育の歴史	【予習】教科書の理解 【復習】小レポートの作成・提出
第7回	道徳教育の実践的課題―保健室における心のケアと指導	【予習】教科書の理解 【復習】小レポートの作成・提出
第8回	特別活動の意義・目標・内容	【予習】教科書の理解 【復習】小レポートの作成・提出
第9回	特別活動の歴史的変遷	【予習】教科書の理解 【復習】小レポートの作成・提出
第10回	特別活動の指導と支援①―学級活動	【予習】教科書の理解 【復習】小レポートの作成・提出
第11回	特別活動の指導と支援②―児童会活動	【予習】教科書の理解 【復習】小レポートの作成・提出
第12回	特別活動の指導と支援③―クラブ活動	【予習】教科書の理解 【復習】小レポートの作成・提出
第13回	特別活動の指導と支援④―学校行事	【予習】教科書の理解 【復習】小レポートの作成・提出
第14回	特別活動の実践的課題－養護教諭の立場から	【予習】教科書の理解 【復習】小レポートの作成・提出
第15回	まとめ－学校教育における養護教諭の役割と意義	【予習】教科書の理解 【復習】小レポートの作成・提出

学修の到達目標
道徳教育及び特別活動について、養護教諭という立場から理論的・実践的理解を深めるとともに、その基本的な指導力を身につけることが本授業の目標である。具体的な到達目標は以下の通りである。 （1）学校教育における道徳教育及び特別活動の意義・目標・内容について説明することができる。 （2）道徳教育及び特別活動における指導・支援の留意点について説明することができる。 （3）道徳教育及び特別活動における養護教諭の立場からの指導・支援のあり方について自分なりに工夫することができる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①学校教育における道徳教育及び特別活動の意義・目標・内容について説明することができる。（専門力）	秀	学校教育における道徳教育･特別活動の意義･目標･内容について課題をふまえながら説明をすることができる。
	優	学校教育における道徳教育･特別活動の意義･目標･内容について分かりやすく説明をすることができる。
	良	学校教育における道徳教育･特別活動の意義･目標･内容について説明をすることができる。
	可	学校教育における道徳教育･特別活動の意義･目標･内容について最低限の説明をすることができる。
	不可	学校教育における道徳教育･特別活動の意義･目標･内容について説明することができない。
②道徳教育及び特別活動における指導・支援の留意点について説明することができる。（判断力）	秀	道徳教育･特別活動における指導･支援の留意点についてその具体的実践とともに説明をすることができる。
	優	道徳教育･特別活動における指導･支援の留意点について分かりやすく説明をすることができる。
	良	道徳教育･特別活動における指導･支援の留意点について説明をすることができる。
	可	道徳教育･特別活動における指導･支援の留意点について最低限の説明をすることができる。
	不可	道徳教育･特別活動における指導･支援の留意点について説明することができない。
③道徳教育及び特別活動における養護教諭の立場からの指導・支援のあり方について自分なりに工夫することができる。（デザイン力）	秀	道徳教育･特別活動における指導･支援を子どもや学校の状況にあわせて工夫することができる。
	優	道徳教育･特別活動における指導･支援を工夫することができる。
	良	道徳教育･特別活動における指導･支援をすることができる。
	可	道徳教育･特別活動における最低限の指導･支援をすることができる。
	不可	道徳教育･特別活動における指導･支援の方法が分からない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭･実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	0	0	0	40	0	100
評価項目	①道徳教育・特別活動の理解	20	0	0	0	15	0	35
	②道徳教育・特別活動の指導法	20	0	0	0	15	0	35
	③道徳教育・特別活動の指導力	20	0	0	0	10	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	道徳教育及び特別活動に関する総合的な理解を定期試験により評価する。
	②	✓	
	③	✓	
ポートフォリオ	①	✓	授業終了後１週間以内に、与えられたテーマに沿って授業のまとめを小レポートとして manaba で提出すること。 未提出は理由にかかわらず「－５点」とする。
	②	✓	
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
養護教諭免許取得のための必修科目です。「先生」としての自覚をもった受講態度を期待します。
教科書・参考書
教科書：『小学校学習指導要領』道徳 編　『小学校学習指導要領』特別活動 編　文部科学省。 『中学校学習指導要領』道徳 編　『小学校学習指導要領』特別活動 編　文部科学省。 参考書：適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
教育方法の研究 （Ｎ１４０６０） より効果の高い教育が実践できるようになるために学ぶ	講義	2	30	2	後期	自由	養教免必修	大森雅人 単独担当	7号館5階研究室
科目担当者	大森雅人								

関連ときわコンピテンシー	専門力、知欲、責任感
授業の概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 特に本授業では，養護教諭の教育実践における教育方法について、その開発や改善等にいかすことができる理論と方法を理解し、身につけることに重点を置いた学習を行う。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	ガイダンスと日本の教育システム概論 授業の概要を知る、日本の教育の概要を知る	【予習】シラバスを見ておく 【復習】配布資料を見直す
第2回	養護教諭の実践する「教育」とは 養護教諭が実践する「教育」の特性を理解する	【予習】自身の学校教育段階での、養護教諭の姿を思い出す 【復習】配布資料の整理と振り返り
第3回	日本の教育方法の検討 日本の教育方法の特性について、幼児期から中等教育までを見通す	【予習】幼児期の教育を思い出す 【復習】配付資料の整理と振り返り
第4回	養護教諭から見た日本の教育システム 養護教諭の教育実践のあり方について、日本の教育システムから考える	【予習】配付資料を読解しておく 【復習】配布資料の整理と振り返り
第5回	発達論と教育システム 子どもの発達と教育の関係について理解する	【予習】子どもの発達を調べておく 【復習】配布資料の整理と振り返り
第6回	教育方法開発の基礎となる理論 教育方法を考える際の基礎となる理論のいくつかを理解する	【予習】配付資料を読解しておく 【復習】配布資料の整理と振り返り
第7回	教育方法開発の考え方①（授業体験） 授業体験を通じて、教育方法を開発するための考え方を学ぶ	【復習】配布資料の整理と振り返り
第8回	教育方法開発の考え方②（授業分析と教育方法の検討） 前回の体験の振り返りを通じて、教育方法開発の実際について学ぶ	【予習】前回体験した内容を整理 【復習】配布資料の整理と振り返り
第9回	教育方法の改善について 自己が実践する教育の方法を改善する営みについて、その方法を考える	【予習】配付資料を読解しておく 【復習】配布資料の整理と振り返り
第10回	教育現場におけるICTの活用 教育現場におけるICT活用の実態と活用の際に考えるべきことを理解する	【予習】配付資料を読解しておく 【復習】配布資料の整理と振り返り
第11回	ICTを活用した授業実践（授業体験） 実際に各種の教育用ICT機器に触れて、その機能や使い方を体験する	【復習】配布資料の整理と振り返り
第12回	ICTを用いた教材の作成①（コンセプト） ますは、作成する教材のコンセプトを定める	【予習】これまでの学習内容を振り返り、教材作成に備える
第13回	ICTを用いた教材の作成②（作成） 実際にICTを活用した教材の開発に取り組む	【予習】PC操作の知識を得ておく 【復習】作成が遅れている場合は、授業外でも作成を進める
第14回	ICTを用いた教材の作成③（仕上げ） 教材がコンセプト通りに仕上がっているか確認をする。必要に応じ改善する。	【復習】作成が遅れている場合は、授業外でも作成を進める

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第15回	まとめと振り返り 作成した教材の発表会を行い共有する。その上で、これまでの学習を振り返る。	【予習】配布した資料のすべてを整理して、内容を概観しておく

学修の到達目標

①これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解すること。
②養護教諭が担当する教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付けること。
③情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付けること。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①養護教諭が行う教育実践の目的を達成するために必要となる知識や技能を身に付けている（専門力）	秀	養護教諭が行う教育実践の目的を達成するための知識・技術を両方とも十分なレベルで身に付けている。
	優	養護教諭が行う教育実践の目的を達成するための知識・技術について、一方は十分なレベルで、もう一方は一定のレベルで身に付けている。
	良	養護教諭が行う教育実践の目的を達成するための知識・技術について、一方は一定のレベルで、もう一方は最低限のレベルで身に付けている。
	可	養護教諭が行う教育実践の目的を達成するための知識・技術を、両方とも最低限のレベルでは身に付けている。
	不可	養護教諭が行う教育実践の目的を達成するための知識・技術を身に付けていない。
②養護教諭の教育方法を学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができる（知欲）	秀	自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと悦びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができない。
③教育を担当する者の一員としての責任をもって授業に取り組むことができる（責任感）	秀	自分は将来の教師として責任ある存在であることを十分わかっている。自己の意志のもと決断しその場に適した受講態度を取ることができる。
	優	自分は将来の教師として責任ある存在であることをわかっている。自己の意志のもと決断しその場に適した受講態度を取ろうとする姿勢が見られる。
	良	自分は将来の教師として責任ある存在であることをある程度は理解している。自己の意志でその場に適した受講態度を取ろうとする姿勢が見られる時もある。
	可	自分は将来の教師として責任ある存在であることはだけはわかっている。
	不可	自分は将来の教師として責任ある存在であるという自覚が無い。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	30	0	20	0	0	100
評価項目	①知識・技能の修得	50	10	0	10	0	0	70
	②学ぶ愉しさや悦び	0	10	0	10	0	0	20
	③教師を目指す自覚	0	10	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	15 回の授業を受講した後に、授業の成果の確認として筆記試験を実施する。 試験は記述式を中心として、授業の過程で学んだ知識が定着しているかを見る。
	②		
	③		
提出物	①	✓	ほぼ毎回、授業の最後に振り返りの小レポートを提出する。その際は、受講者がお互いのレポートを交換して他者コメントを記述する。自身のレポートの記述とともに、他者のレポートに記述するコメントも大切である。
	②	✓	
	③	✓	
作品	①	✓	12 回〜 14 回の授業で作成した教材を作品として提出する。
	②	✓	
	③		

履修に必要な知識・技能・態度など
ほとんどの回で、授業の最後に振り返りレポートを実施する。 欠席の場合でも特にフォローしないので、各自で対応を考えること。
教科書・参考書
教科書：特に使用しない。毎回、ハンドアウトを配布する。 参考書：学習指導要領他、講義進行中に紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
生徒指導論 （Ｎ１４０７０） 「指導する」とは何か？	講義	2	30	2	前期	自由	養教免必修	永島聡 単独担当	7号館4階 研究室
科目担当者	永島聡								

関連ときわコンピテンシー	専門力、批判的思考力、傾聴力・対話力、表現力、協調性・協働力
授業の概要	生徒指導の歴史、職務の内容、学校での位置付け等に関する知識を習得し、さらにそれを踏まえた上で、非行、不登校、いじめ等具体的問題への対処のあり方、他職種との連携等について学んでいく。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	「はじめに」 授業に関するオリエンテーション	【予習】受講への意志を強く持つ 【復習】内容を日々思い出す
第2回	「生徒指導とは」 生徒指導の歴史と課題	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第3回	「生徒指導の内容」 生徒指導の職務の内容と領域	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第4回	「生徒指導の体制と組織」 学校内における生徒指導の位置付け	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第5回	「学級経営・学年経営・危機管理」 担任の役割、保護者・地域との連携	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第6回	「児童生徒―教師関係」 近年の児童生徒と教員との関係性	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第7回	「集団活動の意味と意義」 集団活動の意義と集団活動の指導	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第8回	「不登校・いじめ問題」 不登校・いじめ問題への生徒指導的アプローチ、関係機関との連携	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第9回	「非行問題」 非行事例への生徒指導的アプローチ、関係機関との連携	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第10回	「進路指導」 進路指導の基本的概念、学校内における位置付け等について	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第11回	「学校給食指導」 学校給食の役割、給食指導についての基本的な考え方	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第12回	「人権教育」 生徒指導と人権問題、学校内における人権教育のあり方等について	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第13回	「特別支援教育」 特別支援教育、特別支援学校、発達障がいについて	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第14回	「福祉教育」 福祉教育のあり方について、関係機関との連携	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第15回	「まとめ」 授業内容の総括および質疑応答等	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す

学修の到達目標
生徒指導の方法論とその実際に関して、昨今の教育現場における児童生徒・保護者と教員との間で繰り広げられる人間関係の現状に即した理解を目指す。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①対人援助職としての専門性 （専門力）	秀	自らの専門領域についての知識･技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	自らの専門領域についての知識･技術を両方とも十分なレベ ルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	自らの専門領域についての知識･技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	自らの専門領域についての知識･技術を身につけている。
	不可	自らの専門領域についての知識･技術を身につけていない。
②多面的な思考 （批判的思考力）	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
③受容性・共感性 （傾聴力・対話力）	秀	他者の立場に身を置いてその人の価値観を十分理解した上で、相手が感じているであろうことを様々に思い巡らせながら共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。相手から話題を奪ってしまうことはない。また、共感しているつもりになるリスクを常に意識している。
	優	他者の立場に身を置いてその人の価値観を理解した上で共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	良	他者の立場に身を置いて話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	可	他者に大きな関心はないが、会話のキャッチボールはできる。
	不可	他者と会話のキャッチボールをすることができない。
④自己表現 （表現力）	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。
⑤グループでの協働 （協調性・協働力）	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調･協働することができる。それにより周囲も協調･協働作業のモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となり、その実績が社会に還元される場合もある。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調･協働することができる。それにより周囲も協調･協働作業のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調･協働することができる。
	可	協調･協働への興味は薄いが、他者に促されれば、周囲のモチベーションを下げることなく、協調･協働的に作業することはできる。
	不可	協調･協働する意志がなく、周囲のモチベーションを下げてしまう。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	16	0	0	0	4	100
評価項目	①対人援助職としての専門性	20	4	0	0	0	0	24
	②多面的な思考	20	4	0	0	0	0	24
	③受容性・共感性	20	4	0	0	0	0	24
	④自己表現	20	4	0	0	0	0	24
	⑤グループでの協働	0	0	0	0	0	4	4

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	レポート試験を実施。試験についてのルーブリックは別途提示する。80 点。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
提出物	①	✓	毎回授業終了時に、その日理解したことや自ら感じたこと等を文章で記述し提出する。16 点。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
その他	①		グループワーク等への参加度を受講者同士でピア評価する。 4 点。
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

・映画、音楽、文学等に興味を持ち続ける。
・社会情勢に興味を持ち続ける。
・一般常識的な知識の量を増やそうとし続ける。

教科書・参考書

教科書：使用しません。

参考書：『生涯学習時代の生徒指導・キャリア教育』西岡正子・桶谷守編 教育出版 2013。その他随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
教育相談 （N１４０８０） 児童生徒のこころを支えるとは？	講義	2	30	2	後期	自由	養教免必修	永島聡 単独担当	7号館4階 研究室
科目担当者	永島聡								

関連ときわコンピテンシー	専門力、批判的思考力、傾聴力・対話力、表現力、協調性・協働力
授業の概要	我が国における教育相談研究および実践の経過を振り返り、現状を認識し、今後のあるべき姿を展望する。事例検討やグループワーク等を取り入れつつ授業を進める。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	「はじめに」 教育相談とは何か － 授業に関するオリエンテーション	【予習】受講への意志を強く持つ 【復習】内容を日々思い出す
第2回	「教育相談研究の経過」 我が国における教育相談の歴史的変遷（1950 ～ 1980 年代）	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第3回	「クライアント中心療法の再検討」 ロジャーズ理論とその学校現場への導入について	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第4回	「1990 年代以降の動向」 学校現場から生まれた教育相談理論	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第5回	「教育相談の現状」 スクールカウンセラー導入後における教師主体の教育相談のあり方	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第6回	「教育相談に用いられる主な心理療法理論」 クライエント中心療法、コラージュ等々	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第7回	「ロゴセラピー理論の可能性」 教育相談を基礎づける思想的背景の必要性	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第8回	「現在のスクールカウンセリングの動向」カウンセリングの理論と方法について	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第9回	「発達障がい」発達障がいについての概論	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第10回	「最近の傾向」LGBT について、家族のあり方について等	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第11回	「グループワークから学ぶ」 自己理解および他者理解のためのグループワーク	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第12回	「事例から学ぶ①」 保健室を訪れた児童生徒からの何気ない相談	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第13回	「事例から学ぶ②」 学校外の相談機関・医療機関との連携	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第14回	「事例から学ぶ③」 保健室登校と校内連携	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す
第15回	「まとめ」 教育相談における課題 － 授業内容の総括および質疑応答等	【予習】プリント熟読 【復習】内容を日々思い出す

学修の到達目標
教育相談活動における教師の働きのあり方を学ぶ。加えて、教育相談の技法論・組織論のみならず、児童・生徒の人間形成に関する哲学的理解をも深める。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①対人援助職としての専門性 （専門力）	秀	自らの専門領域についての知識･技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	自らの専門領域についての知識･技術を両方とも十分なレベ ルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	自らの専門領域についての知識･技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	自らの専門領域についての知識･技術を身につけている。
	不可	自らの専門領域についての知識･技術を身につけていない。
②多面的な思考 （批判的思考力）	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
③受容性・共感性 （傾聴力・対話力）	秀	他者の立場に身を置いてその人の価値観を十分理解した上で、相手が感じているであろうことを様々に思い巡らせながら共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。相手から話題を奪ってしまうことはない。また、共感しているつもりになるリスクを常に意識している。
	優	他者の立場に身を置いてその人の価値観を理解した上で共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	良	他者の立場に身を置いて話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	可	他者に大きな関心はないが、会話のキャッチボールはできる。
	不可	他者と会話のキャッチボールをすることができない。
④自己表現 （表現力）	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。
⑤グループでの協働 （協調性・協働力）	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調･協働することができる。それにより周囲も協調･協働作業のモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となり、その実績が社会に還元される場合もある。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調･協働することができる。それにより周囲も協調･協働作業のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調･協働することができる。
	可	協調･協働への興味は薄いが、他者に促されれば、周囲のモチベーションを下げることなく、協調･協働的に作業することはできる。
	不可	協調･協働する意志がなく、周囲のモチベーションを下げてしまう。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	16	0	0	0	4	100
評価項目	①対人援助職としての専門性	20	4	0	0	0	0	24
	②多面的な思考	20	4	0	0	0	0	24
	③受容性・共感性	20	4	0	0	0	0	24
	④自己表現	20	4	0	0	0	0	24
	⑤グループでの協働	0	0	0	0	0	4	4

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	レポート試験を実施。試験についてのルーブリックは別途提示する。80 点。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
提出物	①	✓	毎回授業終了時に、その日理解したことや自ら感じたこと等を文章で記述し提出する。16 点。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
その他	①		グループワーク等への参加度を受講者同士でピア評価する。 4 点。
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
・映画、音楽、文学等に興味を持ち続ける。 ・社会情勢に興味を持ち続ける。 ・一般常識的な知識の量を増やそうとし続ける。
教科書・参考書
教科書：使用しません。 参考書：『それでも人生にイエスと言う』V･E･ フランクル、山田邦男･松田美佳訳、春秋社、1993。その他随時紹介します。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
養護実習Ⅰ （Ｎ１４１６１） 特別支援学校の養護教諭の姿に学ぶ	実習	1	30	2	後期	自由	養教免必修	岩越美恵 複数担当	7号館3階 研究室他
科目担当者	岩越美恵、成山文夫、永島聡								

関連ときわコンピテンシー	専門力、責任感、常識力
授業の概要	養護教諭一種免許取得のための４週間の養護教諭教職実習の一部にあたる重要な実習。１週間の見学実習である。看護学の看護活動基礎実習に当たる。４学年の３週間の実習は一般の小 / 中 / 高校で行うが、看護師と養護教諭の資格を持つ養護教諭にとっては、医療的知識を多く必要とする特別支援学校にとって、求められる養護教諭であると考える。そこでこの実習は、特別支援学校の児童生徒や特別支援教育を理解すると共に、そこで働く養護教諭の役割を理解し、他職種や保護者、他機関との連携などについて学ぶ。直接の指導は各校の養護教諭が担当する。

授業の内容・計画

・学内で事前のガイダンスを受けた後、実習校でのオリエンテーションをすませておく。
・実習校：実習学生の居住地域の特別支援学校を原則とします。
・実習期間：２月の第３週もしくは第４週
・実習内容：指導養護教諭の指示のもとに施設全体の養護教諭、教職員、児童生徒の活動の見学
・学内で実習後に学校ごとの学びの発表を全体で行い、シェアする。
・提出物：養護実習要領を含む実習ファイルと到達度自己評価票

学修の到達目標

・特別支援学校や特別支援教育、特別支援学校における養護教諭の役割についての知見を得ている。
・教職となる自覚と責任をもって、失週に取り組んでいる。
・社会人としてのマナー・態度を、しっかりと身に付けている。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①特別支援学校や養護職種の役割についての知見を得ている。（専門力）	秀	特別支援学校や養護教諭の役割について、十分な知見を得、さらに自ら積極的に学んでいる。
	優	特別支援学校や養護教諭の役割について、十分な知見を得ている。
	良	特別支援学校や養護教諭の役割について、かなりの知見を得ている。
	可	特別支援学校や養護教諭の役割について、必要最低限の知見を得ている。
	不可	特別支援学校や養護教諭の役割についてほとんど知見を得ていない。
②教職になる自覚と責任をもって実習に取り組んでいる。（責任感）	秀	教職につく自覚と責任が十分にあり、積極的に指導養護教諭に協力ができる。
	優	教職につく自覚と責任が十分に認められる。
	良	教職につく自覚と責任がかなり認められる。
	可	教職につく自覚と責任がある程度認められる。
	不可	教職につく自覚も責任も認められない。
③社会人としてのマナーや態度を見につけている。（常識力）	秀	社会人としてのマナー・態度が十分に身に付いており、職員や児童生徒から、非常に信頼と好感が持たれている。
	優	社会人としてのマナー・態度が十分身に付いており、職員や児童生徒からも好感が持たれている。
	良	社会人としてのマナー・態度がかなり身に付いている。
	可	社会人としてのマナー・態度が必要最低限身に付いている。
	不可	社会人としてのマナー・態度がほとんど身に付いていない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	30	10	0	0	60	100
評価項目	①特別支援学校や養護教諭の知見	0	30	10	0	0	0	40
	②教職の自覚と責任	0	0	0	0	0	30	30
	③社会人としてのマナー・態度	0	0	0	0	0	30	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
提出物	①	✓	実習要領に基づく実習中の記録
	②		
	③		
成果発表（口頭・実技）	①	✓	実習後の発表内容
	②		
	③		
その他	①		実習校の指導養護教諭による見学実習態度の評価
	②	✓	
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

・社会人としてのマナー・行動
・児童・生徒一人一人への尊厳と愛情をこめた見学態度。
・教職員・その他職員に対する敬意を払った熱意ある学びの姿勢。
・指導養護教諭への協力。

教科書・参考書

教科書：「養護実習ハンドブック」　大谷尚子・中桐佐智子 偏著　東山書房
参考書：随時紹介

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
英会話 （N１１０５０） English: A bridge to the world	演習	1	30	3	前期	選択必修	看国試選択必修	Fiegel Ryan 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	Fiegel Ryan								

① 授業の概要・ねらい

This course aims to motivate students to communicate in English in a variety of situations. To this end, students will be given opportunities to succeed at using English in role plays, speeches, daily conversation, and interviews.

② 学習の到達目標

The goal of this course is to prepare students to communicate freely in English when visiting abroad. To accomplish this, students will work to succeed at many common tasks that they will encounter in an English speaking environment. A focus will also be placed on English that students need for communicating in a hospital workplace.

③ 授業の内容・計画

第 1 回	Self Introductions/Meeting new people
第 2 回	Basic questions/ Asking people to do things
第 3 回	Asking for and giving directions
第 4 回	Hotel English
第 5 回	Asking for permission
第 6 回	Experiences
第 7 回	Recent news
第 8 回	Invitations
第 9 回	Restaurant ordering
第10回	Complimenting and praising
第11回	Offering help and thanking
第12回	Short speeches at welcome parties and farewell parties
第13回	Consulting a doctor
第14回	Talking with patients
第15回	Interviewing local people

④ 授業時間外の学習

Completion of the worksheets and review quizzes is required before the next day of classes.

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
25%	25%	25%	25%

「定期試験」：Written Exam
「平常点」：Participation in activities and role plays
「製作物・実技など」：Short speeches
「その他」：Interview

⑥ 履修上の注意など

Students will work together in pairs and groups to complete many of the activities. A dictionary is required for all classes.

⑦ 教科書・参考書

教科書： New AllTalk 1, Macmillan LanguageHouse
参考書： 随時紹介する。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
運動生理学 （N１２２００） 身体活動の真実を知ろう！	講義	1	30	3	前期	選択必修	看国試選択必修	柳本有二 単独担当	7 号館 4 階 研究室
科目担当者	柳本有二								

① 授業の概要・ねらい

運動生理学は、新知見が現れる内容を含んでいる。たとえば、乳酸は、疲労物質と言われているが、現在では、乳酸は、ATP を合成するエネルギー源という考え方が主流である。しかし、まだ専門家でも理解されていない傾向がある。その意味では、リアルタイムに授業内容を検討する必要がある。また、授業内容は、学生が運動生理学についてどの程度理解しているかを把握する必要がある（学習目標は、学習者の行動を表す（目標実証主義））。以上から、本授業では、リアルタイムな内容提示および学生の理解度を反映させる授業計画を構成した。

② 学習の到達目標

・運動・活動が人間にもたらす効果を生理学的に理解し、健康運動の理論と実践および運動療法について理解する。
・神経系およびメタボリック関連と運動との関係について理解する。
・骨と運動との関連について理解する。
・運動とエネルギーの関連について理解する。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	オリエンテーション（授業の流れや評価や意見や質問の書き方について）
第 2 回	心筋梗塞の状況及び自律神経作用と運動中の生体変化を知る
第 3 回	血圧変化、体内活性酸素などの生体変化を知る。
第 4 回	運動が脳機能や神経細胞活性化におよぼすメカニズムを知る
第 5 回	肥満と運動との関連を知る（1）脂肪細胞及びレプチンと遺伝（2）肥満解消の運動や栄養）
第 6 回	（3）本当に肥満は、身体に悪いのか（メタボリックシンドロームの嘘)。（4）肥満予防の運動
第 7 回	神経系およびメタボリック関連のテストと復習（テスト解答による）
第 8 回	運動中の筋生理について学ぶ。（1）筋肉の種類他（筋線維の種類）（2）筋肉の種類や収縮の方法
第 9 回	筋力トレーニングとそのメカニズムを知る。
第10回	体力および歩行能力測定その分析する。(各自のデータを解析する）
第11回	骨強度測定と骨と運動との関連について知る 。（1）骨測定を行う。（2）骨の加齢現象
第12回	骨形成に貢献する運動方法を知る。
第13回	運動のエネルギーについて知る。（1）AT と LT の関係、ATP についてなど
第14回	（2）エネルギー生成過程と筋力の関連（3）エネルギー生成と栄養摂取との関連
第15回	筋生理、骨および運動のエネルギーに関するテストと復習（テスト解答による）

④ 授業時間外の学習

常に最新の生理学的発見などに注目をしておくこと。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
70%	10%	0 %	20%

「定期試験」：レポート試験を実施
「平常点」：毎回の授業感想ノートにより、形成評価を行い授業に反映させる
「その他」：授業内に行う 2 回のテストを実施する

⑥ 履修上の注意など

規定の出席は、必要。単位のために受講するのではなく、知りたいことを知るような学習をすること。

⑦ 教科書・参考書

教科書： なし
参考書： 身体が心が嬉しくなるノルディック・ウォーク（メイツ出版）（筋肉名称などが学びやすい）

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
保健医療福祉総論 （Ｎ１２３００） 人々の生命・健康・暮らしを守り支える日本の社会保障制度の概要	講義	2	30	3	前期	必修	看国試必修 保国試必修	大向征栄 複数担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	大向征栄、川島芳雄								

① 授業の概要・ねらい

医療の専門分化が進む一方で、少子高齢・人口減少の進行はさらに拍車がかかり、看護職がケアを提供する対象の抱える課題はより多様化複雑化している。このような状況の中で、対象をよりトータルに理解してケアを提供していくためには、看護職は、本来の看護や保健の分野に留まらず、幅広い視野と支援に役立つ諸制度についても幅広い知識を広げておく必要がある。授業では、現在社会の変化とそれにともなう保健・医療・福祉の動向を概観した後に、現在の看護職に求められる保健医療福祉の個別分野を学ぶ。

② 学習の到達目標

・人々の生命・健康・生活を守り支える社会保障、社会福祉の全体像と基本的なしくみを理解する。
・社会科学の領域から対象をより有効に支援するためには、現在構築されている支援制度とその活用方法を理解することが第一歩になる。これらの制度を自己の身近な課題と結びつけて、具体的に考えられることを学習の到達目標とする。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	日本の社会保障制度と社会福祉の全体像（概要）＜社会保障の意味と考え方，体系（枠組みと概要)、国家予算と財源＞	（担当者：大向）
第 2 回	社会状勢の変化と国民生活の影響／社会のニーズに対応するための制度・施策背景	（担当者：大向）
第 3 回	今日の社会保障制度改革（社会保障と税の一体改革の概要と関連する諸制度）	（担当者：大向）
第 4 回	・医療保障：医療制度のしくみ、医療保険制度のしくみ（労災保険含む）公費負担制度	
第 5 回	・介護保障：わが国の高齢者介護制度の変遷と介護保険制度のしくみ	
第 6 回	・医療制度、介護保険制度の現状と課題（制度改正の背景）	（担当者：大向）
第 7 回	医療介護総合確保推進法の概要：地域包括ケアシステム、認知症施策総合戦略	（担当者：大向）
第 8 回	所得保障：所得保障の概要と年金保険制度、雇用保険制度のしくみ	（担当者：大向）
第 9 回	日本型社会保障制度の二層構造（社会保険と社会福祉）	（担当者：川島）
第10回	社会福祉的援助の方法（ケースワーク、グループワーク）	（担当者：川島）
第11回	子育て支援、ひとり親家庭の支援	（担当者：川島）
第12回	高齢者の生活と介護の保障	（担当者：川島）
第13回	障害者の福祉と自立支援①（身体障害者、知的障害者）	（担当者：川島）
第14回	障害者の福祉と自立支援②（精神障害者、発達障害者）	（担当者：川島）
第15回	貧困に対する生活保障	（担当者：川島）

④ 授業時間外の学習

・現在、社会のニーズに対応するための施策や制度の改正等々が変化しています。日頃から新聞やテレビ等による情報に関心を持つように心がけて下さい。また各回の授業終了後には授業中に示した教科書等の該当部分を読み返して下さい。
・（川島担当回）各回の授業の前に、テキストの該当箇所を通読しておいてください（毎回簡単な小レポートを実施）。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
70%	30%	0 %	0 %

「定期試験」：筆記試験（記述式）
「平常点」：授業への取組姿勢や小レポートの内容で評価

⑥ 履修上の注意など

・本講義は他の科目（健康支援・統合分野など）と関連する内容なので、単に聴講するのではなく、他の授業と結びつけて考えられるよう意識して取り組んでください。
・現場に立った時に重要な事柄については、学生の理解を深めるために授業の中で簡単な討論をすることがある。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『系統看護学講座　社会保障・社会福祉』福田素生 他著　医学書院
『国民衛生の動向』（最新版）　厚生労働統計協会
『保健医療福祉職に必要な社会福祉学』川島芳雄 著　2017　丸善プラネット

参考書：『厚生労働白書　人口減少社会を考える』厚生労働省 編（平成 27 年度版）
『厚生労働白書　社会保障と経済成長』厚生労働省 編（平成 29 年度版）
『医療福祉総合ガイドブック 2018 年版』NPO 法人日本医療ソーシャルワーク研究会 編集　医学書院

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
法と看護 （Ｎ１２３３０） 法律の理解で看護が変わる	講義	1	15	3	前期	必修	看国試必修	服部玲子 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	服部玲子＊								

① 授業の概要・ねらい

看護業務は、人の命に直接関係するために、その資格や業務などが法令によって定められている。国民の健康福祉を守るために、法規の理解を深めるとともに、看護をめぐる制度と政策を理解し、看護サービスと看護職にかかわる法ないし法制度の学びを深める。

② 学習の到達目標

1．看護サービスと看護職にかかわる法制度を理解する
2．法をつくり、実行する仕組みとその過程を理解する
3．看護サービスと経済の仕組みを理解する
4．看護の人員配置と看護サービスの評価を理解する

③ 授業の内容・計画

第 1 回	1）看護制度とは何か　2）我が国における法の体系　3）衛生法規 4）看護職の労働にかかわる法　5）リフレクションについて
第 2 回	保健師看護師助産師法①
第 3 回	保健師看護師助産師法②
第 4 回	1）医療関係資格法　2）保健医療福祉に関する法律　（保健衛生法）
第 5 回	3）保健医療福祉に関する法律　（薬務法・環境衛生法・福祉法）
第 6 回	1）看護政策と看護関係法規　2）我が国における立法方式　3）看護サービスにかかわる行政の仕組み
第 7 回	1）医療保険制度　①診療報酬点数と看護師がかかわるチーム医療 / 地域
第 8 回	1）医療保険制度　②診療報酬の改定と中央社会保険医療協議会 ③医療法における人員配置基準の考え方　④診療報酬制度における看護サービスの評価

④ 授業時間外の学習

看護学概論の復習をしておいてください

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
70%	30%	0 %	0 %

「定期試験」：レポート
「平常点」：リフレクションと授業態度・受講カード

⑥ 履修上の注意など

2025 年に向けた社会保障制度の改革が進む中、看護を取り巻く社会の変化を学生なりに実感できるように新聞記事や日々の政治に関心を持ってください。

⑦ 教科書・参考書

教科書：「系統看護学講座　看護関係法令」森山幹夫著　医学書院
参考書：「私たちの拠りどころ　保健師助産師看護師法」 田村やよい著　　日本看護協会出版会

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
医療安全 （Ｎ１２３４０） 医療の質と安全とを考える	講義	1	15	3	前期	必修	看国試必修	井本しおん 複数担当	3 号館 3 階 研究室他
科目担当者	井本しおん、林伸英、岡光幸代＊、後藤武＊、吉田弘之								

①　授業の概要・ねらい

およそ半世紀前、アヴェディス･ドナベディアンは、医療の質は医療機器やスタッフの数などといったストラクチャー（構造）、診療内容などのプロセス（過程）、診療の成果であるアウトカム（結果）という三つの面から評価できるとした。医療の質はこうした面から評価できるとして、それを高め、良好に維持し発展させて行くには医療行政、医療機関、医療従事者、その他医療に関わる全ての人々の相互理解とたゆみない努力の積み重ねとが必要がある。一方で、医療の安全を脅かすものも存在する。それは、服薬事故・感染など臨床現場での事象に限らない。国内行政あるいは国際的な問題が医療の安全に関わってくることもある。本講では、臨床検査や看護を含む医療の中での安全について視野広く総合的に、また、具体的・実践的に講義する。チーム医療という言葉が聞かれるようになって久しいが、看護学科および医療検査学科の合同授業として本講を実施することの狙いは、全ての受講生が総合的医療安全を考える中で問題解決能力・自己研鑽力を磨き、医療人にふさわしい倫理観・対人関係形成能力を身につけることにある。

②　学習の到達目標

医療の安全を広い視野で捉え、それへの対応を自ら考えることができる。他職種・他業種の人々と協力して医療の安全に関する情報を収集整理し、解析・評価することができる。

③　授業の内容・計画

第 1 回	医療安全総論：医療事故の歴史と現状	（担当者：後藤）
第 2 回	医療安全総論：医療事故防止概論	（担当者：後藤）
第 3 回	医療安全と行政	（担当者：後藤）
第 4 回	医療安全と看護	（担当者：岡光）
第 5 回	輸血・移植における医療安全	（担当者：井本）
第 6 回	院内感染とその予防対策	（担当者：吉田）
第 7 回	医療安全と臨床検査	（担当者：林）
第 8 回	まとめ	（担当者：井本）

④　授業時間外の学習

テキストを事前に読んでおき、理解しにくいところを確認しておく。授業後、事前学習で不明だったところを解決する。その際、こどもの保健の関連箇所も確認する。

⑤　成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
60%	40%	0 %	0 %

「定期試験」：筆記試験
「平常点」：授業中に不定期に行われる小試験など

⑥　履修上の注意など

講義の聴講のみに終わることなく、復習を充分にする。
繰越再試験は実施しない。

⑦　教科書・参考書

教科書：『医療安全とリスクマネジメント』嶋森好子・任和子編　ヌーヴェルヒロカワ
参考書： 適宜紹介する

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
チーム医療論 （Ｎ１２３５０） チームが機能するとはどういうことか	講義	1	15	3	前期	必修	看国試必修	畑吉節未 複数担当	7号館4階 研究室他
科目担当者	畑吉節未、新谷路子、林伸英、野村秀明＊								

① 授業の概要・ねらい

患者を志向した質の高い医療の提供を目標に、医療上の問題を解決し、チーム医療の構成員として、自身の専 門性を活かし、積極的に医療に参画できるようになるための基礎的能力を養うことを目的とする。そのために、医療の流れ、医療の構成員と機能、チーム医療に関する基本的知識、技能、態度を修得する。また、学部ディプ ロマポリシーによる学科横断的な特色のある科目である。

② 学習の到達目標

1．保健医療専門職業人としての共通かつ必須な基本的知識・技術・態度について理解できる。
2．提示された事例について、生活する当事者の視点で検討できる。
3．提示された事例について、他職種連携の視点で、医療、福祉、地域の側面から分析し、考察できる。
4．各自の生涯教育に向けた多職種連携の抱負を記述することができる。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	チーム医療の概念１ イントロダクションと総論①：チーム医療の変遷・定義・目的・要素・困難・効果	（担当者：畑）
第 2 回	総論②：チーム医療の技術・連携の概念とレベル・チーム医療の評価	（担当者：畑）
第 3 回	チーム医療の概念２　病院とは－基本としくみ	（担当者：新谷）
第 4 回	チーム医療の概念３　医療を支える構成員	（担当者：新谷）
第 5 回	チーム医療の実際１　病院におけるチーム（臨床検査技師から見たチーム医療）	（担当者：林）
第 6 回	チーム医療の実際２　病院におけるチーム（救急医療等）	（担当者：野村）
第 7 回	チーム医療の実際３　病院におけるチーム医療（在宅医療・災害医療）	（担当者：野村）
第 8 回	チーム医療の実際４　チーム医療演習	（担当者：畑）

④ 授業時間外の学習

授業前後のアンケートや統合演習への学習時間として使うとともに自己の学習の軌跡をポートフォリオとして ファイリングしていただきます。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
60%	0 %	20%	20%

「定期試験」：筆記試験
「製作物・実技など」：統合演習の発表資料
「その他」：授業前後のアンケート、課題へのレポート、統合演習発表機会での学びシートを含めたポートフォリオ

⑥ 履修上の注意など

「チーム医療」の実践は、医療現場に出てから直ちにできるものではなく、学生時代から専門領域を超えて、同じ場所で共に学びながら、相互の職能を理解し合い、問題解決を訓練して初めてその能力が培われるものであ る。統合演習では、学んだ基礎知識を存分に発揮し、社会へ出てからの糧になるように取り組んでほしい。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『チーム医療論』 鷹野和美　医歯薬出版
参考書： 随時紹介します。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
国際保健医療活動Ⅱ （Ｎ１２３７０） 百聞は一見に如かず、海外の医療現場	演習	1	30	3・4	前期	選択必修	看国試選択必修	坂本秀生 複数担当	7号館2階 研究室他
科目担当者	坂本秀生、森松伸一、黒野利佐子、鈴木高史、紀ノ岡浩美、S.K.Rai ＊								

① 授業の概要・ねらい

アメリカ、ネパールもしくはフィリピンを選択して訪問する。日本は衛生面、医療面でも世界的に恵まれているが、国外にて自らの目で見て体で感じることで、医療に対する国際感覚を高める。

アメリカは先進国として先端医療技術を用い、高度な医療を提供しているにも関わらず、高額医療費故に十分な医療を受けられない人もいる。ネパールはアジアの開発途上国の中でも最貧国とされ、医療施設及び保健施設も日本と比較して整っていない。フィリピンは都市部と地方で大きな差があり、都市部での医療水準は比較的良いが、地方はまだ整備が整ってない地域もある。それぞれに文化的、社会的に全く異なる国から1カ国のみの訪問であるが、事前学習と訪問報告及び討論会を通じて学生は日本を含めた4カ国の保健医療状況を学ぶ。

② 学習の到達目標

実際に海外を体験し、日本と比較しながら体全体で違いを感じ国際貢献できる点、日本に必要な点を理解する。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	海外研修の意義及び過ごしかたについて	（担当者：坂本）
第 2 回	アメリカ、ネパール、フィリピンの医療について	（担当者：坂本、森松、鈴木）
第 3 回	アメリカ、ネパール又はフィリピンにて研修1（現地オリエンテーション）	（担当者：全教員）
第 4 回	アメリカ、ネパール又はフィリピンにて研修2（現地の大学病院等大型医療施設にて研修）	（担当者：全教員）
第 5 回	アメリカ、ネパール又はフィリピンにて研修3（がん、感染症等の専門領域医療施設にて研修）	（担当者：全教員）
第 6 回	アメリカ、ネパール又はフィリピンにて研修4（保健所等の地域医療に関わる施設にて研修）	（担当者：全教員）
第 7 回	アメリカ、ネパール又はフィリピンにて研修5（医療施設外で医療・保健に関わる施設にて研修）	（担当者：全教員）
第 8 回	研修報告及び討論会	（担当者：坂本、森松、黒野、紀ノ岡）

④ 授業時間外の学習

1．研修先の情報を事前に調べ、日本の医療制度を外側から確認する。
2．日本でもこれから有用と思われる事項を認識する。
3．自分自身が国際社会にも貢献できることを知る。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
50%	20%	15%	15%

「定期試験」：口頭プレゼンテーションおよび研修報告書
「平常点」：事前学習や事後学習での質疑応答
「製作物・実技など」：事前学習及び研修報告用資料
「その他」：訪問前の準備状況

⑥ 履修上の注意など

課題等の提出物が一定数以上提出されていること、訪問前の準備状況なども成績評価の条件とする。
往復交通費、宿泊や食費等の実費は自己負担。（過去例；アメリカ 32 万円、フィリピン 20 万円、ネパール 約 20 万円）

⑦ 教科書・参考書

教科書： 適宜、資料を配付。

参考書： アメリカ医療の光と影　李 啓充 著　医学書院
途上国における国際医療　NGO Global Health 著　ふくろう出版

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
緩和ケア （Ｎ１３２２０） 苦痛・苦悩を緩和する看護	講義	1	15	3	前期	必修	看国試必修	生島祥江 単独担当	7号館3階 研究室
科目担当者	生島祥江								

① 授業の概要・ねらい

2002 年、WHO は、「緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処（治療・処置）を行うことによって、苦痛を予防し、和らげることで、QOL を改善するアプローチである」と定義した。本授業では、病期を問わず苦痛を全人的苦痛としてとらえ、病気に伴う苦痛を緩和し、質の高い生活を支える看護について探求する。

② 学習の到達目標

1．緩和ケアの概念について理解する。
2．緩和ケアにおける倫理的課題について理解する。
3．症状マネジメントについて理解する。
4．心理・社会的支援について理解する。
5．家族・遺族ケアについて理解する。
6．緩和ケアにおける看護介入について理解する。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	緩和ケアの歴史と現状
第 2 回	緩和ケアの実践において看護師が直面する倫理的課題
第 3 回	症状マネジメント①（痛み）
第 4 回	症状マネジメント②（浮腫他）
第 5 回	緩和ケアを受ける患者への心理・社会的支援および家族支援
第 6 回	緩和ケアにおける看護援助①（日常生活を支える）
第 7 回	緩和ケアにおける看護援助②（看取りのケア）
第 8 回	まとめ

④ 授業時間外の学習

緩和医療・緩和ケアの実践報告やがん患者の闘病に関する本を１冊は読んで、第１回の授業に臨むこと。各回の授業で予習・復習内容を言います。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
60%	40%	0 %	0 %

「定期試験」：筆記試験
「平常点」：課題に対するレポート

⑥ 履修上の注意など

緩和ケアや死生観を深めることができるように、主体的に学習する姿勢を望みます。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『看護学テキスト NiCE　緩和ケア（改訂第２版)』 梅田恵・射場典子編　南江堂

参考書：『系統看護学講座　別巻　緩和ケア』 恒藤暁・内布敦子編　医学書院
『成人看護学シリーズ　緩和・ターミナル看護論（第２版)』 鈴木志津枝・内布敦子編　ヌーヴェルヒロカワ
『ナーシング・グラフィカ　成人看護学⑥緩和ケア』 宮下光令編　メディカ出版
『がん看護学　臨床に活かすがん看護の基礎と実践』 大西和子・飯野京子編　ヌーヴェルヒロカワ
その他、随時紹介します。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
在宅援助論 （N１３３１０） 療養の場の特性に応じた援助	演習	2	60	3	前期	必修	看国試必修	畑吉節未 複数担当	7号館4階 研究室他
科目担当者	畑吉節未、鵜飼知鶴、幸島美絵								

① 授業の概要・ねらい

病気や障害を持ちながら在宅で療養する意味を理解し、医療依存度の高い在宅看護援助の基本について学習する。また、在宅看護過程の展開を通じて、多職種との連携や継続看護について理解を深め、訪問看護の役割りについて学習する。

② 学習の到達目標

1．療養者家族のセルフケア能力を最大限に生かし、生活支援看護技術を理解する。
2．処置を行いながら生活する在宅療養者と家族への看護を理解する。
3．様々な事例から、状態に応じた看護を理解する。
4．訪問看護におけるリスクマネージメントの重要性を理解する。
5．退院支援の必要性やその展開、支援の方法の実際を理解する。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	Ⅰ在宅看護の看護過程　1）在宅看護過程の特徴と展開方法	（担当者：畑・鵜飼・幸島）
第 2 回	2）事例を用いた看護過程の基本	（担当者：畑・鵜飼・幸島）
第 3 回	Ⅱ在宅での医療依存度の高い事例への看護1）在宅看護の基本技術	（担当者：鵜飼・畑・幸島）
第 4 回	2）脳血管障害・認知症の療養者と家族への看護 基礎知識 事例展開	（担当者：鵜飼・畑・幸島）
第 5 回	3）難病・COPD の療養者と家族への看護　基礎知識　事例展開	（担当者：幸島・畑・鵜飼）
第 6 回	4）難病・脳血管障害の療養者と家族への看護	（担当者：幸島・畑・鵜飼）
第 7 回	5）終末期にある療養者と家族への看護　基礎知識	（担当者：鵜飼・畑・幸島）
第 8 回	6）終末期にある療養者と家族への看護　事例展開	（担当者：鵜飼・畑・幸島）
第 9 回	7）医療処置別看護技術	（担当者：幸島・畑・鵜飼）
第10回	Ⅲ在宅での生活援助技術 1）在宅における介護用品の工夫の視点	（担当者：鵜飼・畑・幸島）
第11回	2）清潔・排泄動作の工夫　地域での移動動作の工夫	（担当者：鵜飼・畑・幸島）
第12回	3）在宅での生活援助技術演習の発表・評価	（担当者：鵜飼・畑・幸島）
第13回	Ⅳ病院から居宅に結ぶ看護　1）退院支援の必要性と支援の方法	（担当者：鵜飼・畑・幸島）
第14回	2）退院支援の実際　事例展開	（担当者：鵜飼・畑・幸島）
第15回	Ⅴ在宅看護まとめ　国家試験問題の解説・まとめ	（担当者：鵜飼・畑・幸島）

④ 授業時間外の学習

事例展開に必要な基本知識の予習・復習。介護用品の工夫についての事前学習。DVD の視聴。
在宅での生活援助技術実施計画の立案及び発表準備

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
70%	0 %	10%	20%

「定期試験」：「定期試験」：筆記試験
「製作物・実技など」：介護用品の作成、生活援助技術実施計画・評価
「その他」：事例展開提出物

⑥ 履修上の注意など

在宅看護を訪問看護活動のみで捉えるのではなく、地域連携を通して看護の継続性についても考える時間にして欲しい。自己学習を基本に演習を行いますので事前学習に取り組んでください。

⑦ 教科書・参考書

教科書：「系統看護学講座　統合分野　在宅看護論」押川眞喜子　医学書院
参考書：「在宅療養を支える技術」臺　有佳　石田千絵　山下留理子　メディカ出版
「写真でわかる訪問看護」押川眞喜子　インターメディカ

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
精神援助論 （Ｎ１３３２０） 心を病む人の体験を理解し支援方法について学ぶ	演習	2	60	3	前期	必修	看国試必修	木村聡子 複数担当	7号館4階研究室他
科目担当者	木村聡子、江口実希								

① 授業の概要・ねらい

精神ならびに身体の病を持つ人を総合的に理解し、対象を中心とした援助方法を検討するための基礎的態度・知識・技術について学習する。

② 学習の到達目標

1．代表的な精神の病と生活への影響を理解する。
2．精神の病をもつ人に対する看護展開の基礎を理解する。
3．精神の病をもつ人と家族への看護援助の基礎を理解する。
4．適切な社会資源の活用を考えることができる。
5．リエゾン精神看護の役割及び機能を理解する。
6．精神看護における倫理の考え方を理解する。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	オリエンテーション 精神障がいが生活に及ぼす影響	（担当者：木村）
第 2 回	主な疾患および症状の理解と看護 ①統合失調症・幻覚・妄想	（担当者：江口）
第 3 回	主な疾患および症状の理解と看護 ②気分障害	（担当者：江口）
第 4 回	主な疾患および症状の理解と看護 ③神経症性障害、ストレンス関連障害および身体症状症	（担当者：江口）
第 5 回	主な疾患および症状の理解と看護 ④パーソナリティー障害、摂食障害、アディクション	（担当者：江口）
第 6 回	主な疾患および症状の理解と看護 ⑤器質性精神障害	（担当者：江口）
第 7 回	精神科の治療と身体のケア	（担当者：江口）
第 8 回	行動制限とその看護 演習	（担当者：木村）
第 9 回	精神科リハビリテーション / 地域精神保健	（担当者：木村）
第10回	精神科訪問看護 / リエゾン精神看護	（担当者：木村）
第11回	IBL 学習法を用いた看護展開 ① グループワーク	（担当者：木村・江口）
第12回	IBL 学習法を用いた看護展開 ②グループワーク	（担当者：木村・江口）
第13回	精神状態・セルフケアレベルの査定　グループワーク・演習	（担当者：木村・江口）
第14回	看護計画の立案・発表	（担当者：木村・江口）
第15回	個人演習　事例検討	（担当者：木村・江口）

④ 授業時間外の学習

精神看護特性論で学習した内容を復習しておきましょう。
授業内容については毎回まとめの復習をしておきましょう

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
60%	20%	10%	10%

「定期試験」：筆記試験
「平常点」：グループワークの参加態度・自己学習など
「製作物・実技など」：プレゼンテーション内容・演習内容など
「その他」：事例検討提出物、小テストなど

⑥ 履修上の注意など

主体的・積極的な学習態度を期待します。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『心・体・関わりのプラクティス　精神看護学１・２』南江堂
『患者―学生のストーリーで綴る実習展開　精神看護学　第２版』 医歯薬出版株式会社
参考書： 随時紹介します。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
母性援助論 （N１３３３０） 人が生まれる神秘とその看護を学ぶ	演習	2	60	3	前期	必修	看国試必修	島内敦子 複数担当	7号館3階 研究室他
科目担当者	島内敦子、伊東美智子								

① 授業の概要・ねらい

健全な母性と子どもを育てることを目指し、妊娠・分娩・産褥各期における母子とその家族の特徴について理解し、看護実践に必要な知識・技術・態度について学習する。

② 学習の到達目標

（1）妊娠・分娩・産褥期における身体的特性および心理・社会的変化について理解する。
（2）胎児および新生児の成長発達の生理について理解し、児の健康な発達を促す援助を理解する。
（3）妊娠・分娩・産褥期にある母子および家族のアセスメントを学び、看護過程を展開する基本的能力を養う。
（4）妊婦・産婦・褥婦・新生児への看護援助を展開するために必要な看護技術および看護方法を学習する。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	妊娠の成立と生理、妊娠経過と胎児の発育 妊婦のアセスメントと看護①	（担当者：島内） （担当者：伊東）
第 2 回	妊婦の心理的特徴と社会関係、妊婦のアセスメントと看護②（GW）ハイリスク妊婦と看護①	（担当者：島内）
第 3 回	分娩の生理、産婦の心理的特徴と家族関係、新生児の生理とアセスメント	（担当者：島内）
第 4 回	産婦への援助 新生児のフィジカルアセスメントと看護	（担当者：伊東） （担当者：島内）
第 5 回	妊婦のアセスメントと看護②（GW 発表）、褥婦の生理と心理的特徴	（担当者：島内）
第 6 回	褥婦のアセスメントと援助 ハイリスク妊婦と看護①（GW）	（担当者：伊東） （担当者：島内）
第 7 回	母乳育児と看護	（担当者：島内）
第 8 回	ハイリスク妊婦と看護②（GW発表）、ハイリスク分娩と看護	（担当者：島内）
第 9 回	ハイリスク褥婦と看護、ハイリスク新生児と看護	（担当者：島内）
第10回	事例（産褥期・新生児）による看護過程の展開①	（担当者：島内）
第11回	事例（産褥期・新生児）による看護過程の展開②	（担当者：島内）
第12回	沐浴実技テスト 事例（産褥期・新生児）による看護過程の展開③	（担当者：島内、伊東） （担当者：島内）
第13回	事例（産褥期・新生児）による看護過程の展開④	（担当者：島内）
第14回	事例ロールプレイ①	（担当者：島内、伊東）
第15回	事例ロールプレイ②	（担当者：島内、伊東）

④ 授業時間外の学習

母性看護学概論および対象論Ⅲ（母性・父性）で学習した内容を復習しておきましょう。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
50%	10%	10%	30%

「定期試験」：筆記試験
「平常点」：授業中のグループワークの参加度など
「製作物・実技など」：健康教育資料など製作物
「その他」：小テスト、演習記録

⑥　履修上の注意など

積極的な参加と主体的な学習を望みます。特に看護技術の演習やグループワークでは、授業参加態度がクラス全員に影響するので、自覚して取り組んでいただきたい。

⑦　教科書・参考書

教科書：『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学各論』 森恵美　編著　医学書院
『ナーシング・グラフィカ　母性看護学①　母性看護実践の基本』 横尾京子　中込さと子 編著　メディカ出版
『ナーシング・グラフィカ　母性看護学②　母性看護技術』 横尾京子　中込さと子　編著　メディカ出版

参考書：『ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程』 太田操　編　医歯薬出版
『写真でわかる母性看護技術』 平澤美恵子　村上睦子　監修　インターメディカ

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
小児援助論 （N１３３４０） 子どもと家族を中心とする看護	演習	2	60	3	前期	必修	看国試必修 養教免必修	庄司靖枝 複数担当	7号館3階 研究室他
科目担当者	庄司靖枝、尾﨑優子、笹尾裕美								

① 授業の概要・ねらい

健康問題や障がいのある子どもとその家族の QOL を高める療養環境について理解し、子どもの成長発達を支援するための看護を学習することを目標とする。具体的には健康問題・障がいや治療、入院などが子どもと家族に及ぼす影響を理解し、子どもと家族の対処スキルの向上やセルフケア能力を高める看護を学習する。

② 学習の到達目標

1．健康問題や障がいや治療および入院が子どもとその家族に及ぼす影響を理解する。
2．健康問題や障がいのある子どもの看護の基本を理解する。
3．子どもの発達段階や個別性を考えた看護過程を展開する基本的能力を養う。
4．子どもの看護に必要な看護のエビデンスを思考し、看護の方法を学習する。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	状況別にみる子どもと家族の看護 (①外来における子どもと家族への看護②入院における子どもと家族の看護)	(担当者：庄司)
第 2 回	状況別にみる子どもと家族の看護 (③在宅療養の子どもと家族の看護④検査・処置を受ける子どもと家族の看護)	(担当者：庄司)
第 3 回	状況別にみる子どもと家族の看護 (⑤手術を受ける子どもと家族の看護⑥救急における子どもと家族の看護)	(担当者：庄司)
第 4 回	特別な支援を必要とする子どもと家族の看護 (①先天障がいを持つ子どもと家族の看護)	(担当者：庄司、ゲストスピーカー)
第 5 回	特別な支援を必要とする子どもと家族の看護（②オレムのセルフケア理論）	(担当者：庄司)
第 6 回	特別な支援を必要とする子どもと家族の看護（③感染症を持つ子どもと家族の看護）	(担当者：庄司)
第 7 回	特別な支援を必要とする子どもと家族の看護（④肺炎の子どものアセスメント、関連図）	(担当者:庄司、尾﨑)
第 8 回	特別な支援を必要とする子どもと家族の看護（⑤肺炎の子どもの看護計画）	(担当者：庄司、尾﨑)
第 9 回	小児看護の基本技術① [与薬の技術（吸入、経口薬)、バイタルサイン測定の技術]	(担当者：庄司、尾崎、笹尾)
第10回	小児看護の基本技術② [与薬の技術（輸液管理)、清潔の援助技術]	(担当者：庄司、尾崎、笹尾、ゲストスピーカー)
第11回	長期療養が必要な子どもと家族の看護①（慢性的経過・ターミナル期）	(担当者：庄司)
第12回	長期療養が必要な子どもと家族の看護②（グループワーク）	(担当者：庄司、尾崎、笹尾)
第13回	長期療養が必要な子どもと家族の看護③（グループワーク、発表準備）	(担当者：庄司、尾崎、笹尾)
第14回	長期療養が必要な子どもと家族の看護④（各事例の子どもの看護計画の発表）	(担当者：庄司、尾崎、笹尾)
第15回	長期療養が必要な子どもと家族の看護⑤（終末期看護、虐待が疑われる子どもの看護）	(担当者：庄司)

④ 授業時間外の学習

小児看護学概論、対象論Ⅴ（1～2年生で学んだテキストと授業資料）の内容を復習し授業に臨む。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
70%	10%	10%	10%

「定期試験」：筆記試験
「平常点」：演習やグループワークへの参加度、毎回の授業の振り返り
「製作物・実技など」：4疾患のレポート、母子支援実習Ⅰのためのノート
「その他」：4事例に関するグループワークの発表内容

⑥ 履修上の注意など

学んだ看護の知識をもとに子どもにとって必要な看護を考え、グループワークでは主体的に参加する

⑦ 教科書・参考書

教科書：『小児看護学概論』二宮啓子・今野美紀編集　南江堂（１年次に購入済み）
『小児の疾患と看護』ナーシング・グラフィカ小児看護学③　中村友彦他　メディカ出版
『小児看護技術』（改訂第３版）二宮啓子・今野美紀編集　南江堂

参考書：

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
クリティカルケアⅡ （Ｎ１３３４５） 求められるクリティカルケア看護の視点	講義	1	15	3	前期	選択必修	看国試選択必修	岩切由紀 単独担当	7 号館 4 階 研究室
科目担当者	岩切由紀								

① 授業の概要・ねらい

急激な生命の危機状態に対して患者や家族の生命と生活の質の向上を目指す看護ケアについて理解を深める。

② 学習の到達目標

1．生命の危機状態にある患者の生命の維持・苦痛の緩和に向けた看護援助を習得する。
2．患者家族の特徴を知り、看護の対象の生命と生活の質の向上を目指す看護を考察する。
3．クリティカルケア看護の特徴を自ら考え説明できる。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	クリティカルケア看護の特性
第 2 回	生体反応を捉え看護を考える（循環）
第 3 回	生体反応を捉え看護を考える（呼吸）
第 4 回	救急の場におけるクリティカルケア看護①（グループワーク・発表）
第 5 回	救急の場におけるクリティカルケア看護②（グループワーク・発表）
第 6 回	生命危機状態にある患者家族の理解
第 7 回	クリティカルケア看護における倫理
第 8 回	クリティカルケア看護を考える：グループワーク

④ 授業時間外の学習

第2 回、3 回の授業前には、呼吸・循環の解剖生理とフィジカルアセスメントの知識・技術を予習し、授業後は復習することで理解を深める。

第4 回から7回は、救急看護、危機理論、看護倫理など関連する事項の概要を授業前に再確認し、一部調査とグループワーク・発表を行う。授業後はクリティカルケア看護について、自らの考えをレポートにまとめる。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
70%	10%	0 %	20%

「定期試験」：レポート試験
「平常点」：授業参加、課題レポート
「その他」：時間外の学習成果、グループワーク参加

⑥ 履修上の注意など

各授業の前提となるクリティカルケアⅠの既習内容を復習して受講して下さい。本授業は看護病理・病態学、症候論を踏まえたアセスメントと基本的な看護を踏まえ、クリティカルケア看護に必要な知識、対象との関わりや自己のあり方など発展的に学習します。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『系統看護学講座　別巻　クリティカルケア看護学』道又元裕ほか 医学書院
『系統看護学講座　成人看護学 [2]　呼吸器疾患患者の看護』川村雅文ほか 医学書院
『系統看護学講座　成人看護学 [3]　循環器疾患患者の看護』吉田俊子ほか 医学書院

参考書：『成人看護学シリーズ　救急看護論』山勢博彰編 ヌーヴェルヒロカワ
『TACS シリーズ　成人看護学－急性期－』井上智子ほか編 建帛社
『クリティカルケア看護―理論と臨床への応用』寺町優子編 日本看護協会出版会
『クリティカルケア看護の基礎―生命危機状態へのアプローチ』池松裕子編 メヂカルフレンド社
『クリティカルケア看護Ⅰ・Ⅱ』池松裕子編 メヂカルフレンド社

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
リハビリテーション看護論 （Ｎ１３３７１） 全人間的復権のための看護	講義	1	15	3	前期	選択必修	看国試選択必修	生島祥江 単独担当	7号館3階 研究室
科目担当者	生島祥江								

① 授業の概要・ねらい

リハビリテーション」といえば､悪くなった手足の働きを回復させるための「機能回復訓練」だというのが一般的な「常識」になっているようであるが､本科目ではそうではなく､リハビリテーションとは「人間らしく生きる権利の回復」すなわち「全人間的復権」であり、過去の生活への復帰であるよりむしろ「新しい人生の創造」なのだということを真に理解することをねらいとする。

② 学習の到達目標

1．リハビリテーションおよびリハビリテーション看護の概念について理解する。
2．機能障害別リハビリテーション看護の実際について理解する。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	ガイダンス・資料を用いて「リハビリテーションの理念」に関してディスカッション
第 2 回	資料を用いて「リハビリテーション医学」に関してディスカッション
第 3 回	資料を用いて「リハビリテーション的アプローチ」に関してディスカッション
第 4 回	資料を用いて「リハビリテーション看護」に関してディスカッション
第 5 回	循環機能障害をもつ人のリハビリテーション看護
第 6 回	呼吸機能障害をもつ人のリハビリテーション看護
第 7 回	運動機能障害をもつ人のリハビリテーション看護
第 8 回	認知障害・コミュニケーション障害をもつ人のリハビリテーション看護

④ 授業時間外の学習

第1回～4回の授業には、事前に提示する資料を読みディスカッションができる準備を整えて臨むこと。第5回～8回の授業には、それぞれの機能障害の特徴や原因となる疾患について学習の上臨むこと。各回の授業後は学習内容をノートにまとめておくこと。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
50%	50%	0 %	0 %

「定期試験」：筆記試験
「平常点」：学習ノート等

⑥ 履修上の注意など

本授業の前半のリハビリテーションおよびリハビリテーション看護の概念については、グループディスカッションを通して学んでいくので、主体的・能動的に出席することを望みます。また、後半の機能障害別リハビリテーション看護についても既習内容をもとに進めていくので、自学自習を心がけてほしい。

⑦ 教科書・参考書

教科書： 使用しません。
参考書：『リハビリテーションの歩み－その源流とこれから』(2013) 上田敏　医学書院

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
家族看護学 （Ｎ１３３８０） 家族のセルフケア能力を高める看護	講義	2	30	3	後期	選択必修	看国試選択必修	江上芳子 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	江上芳子＊								

① 授業の概要・ねらい

家族に対する看護は、どの看護領域においても必要不可欠のものであるという考えが浸透してきています。しかし、個を対象として発展してきた看護（学）において、家族という小集団を対象とする家族の看護実践は十分とはいえません。あらゆる看護場面で家族を抜きに看護ケアは考えられません。健康問題をもつ人へのケアは、個人だけを対象としたケアには限界があり、家族に視点を置いたケアが効果的であると考えられています。健康問題をもつ人とその家族の支援についてその基盤となるところについて学修します。

② 学習の到達目標

1．家族のライフサイクルと家族発達課題について説明できる。
2．家族の保健機能としてのセルフケア能力について説明する。
3．「家族の健康」について説明できる。
4．家族看護の必要性について述べることができる。
5．家族看護の目標と看護の姿勢について理解する。
6．提示された事例の看護過程（アセスメント、仮説、介入の方向性）を展開できる。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	家族看護の概要　1）家族看護の特徴と理念　　2）わが国の家族看護の発展
第 2 回	家族看護における家族の理解　1）家族の概念　2）家族の構造
第 3 回	家族看護における家族の理解　3）家族機能　　4）現代家族の課題
第 4 回	家族看護を支える理論と介入方法　1）家族発達理論
第 5 回	家族看護を支える理論と介入方法　2）家族システム理論
第 6 回	家族看護を支える理論と介入方法　3）家族に変化をもたらすための理論と介入
第 7 回	家族看護の展開　　1）家族看護過程
第 8 回	家族看護の展開　　2）家族看護の実践　①家族の理解
第 9 回	家族看護の展開　②家族アセスメントと看護
第10回	家族看護の展開　③主なアセスメント・介入モデル（カルガリーモデル）（1）
第11回	家族看護の展開　③主なアセスメント・介入モデル（カルガリーモデル）（2）
第12回	家族看護の展開　③主なアセスメント・介入モデル（家族エンパワーメントモデル）（3）
第13回	演習：事例検討　1）慢性期の患者の家族看護　①アセスメント
第14回	演習：事例検討　1）慢性期の患者の家族看護　②介入及び介入の方向性
第15回	まとめ

④ 授業時間外の学習

1．看護学臨地実習中ですが、与えられた課題に取り組んで参加すること。
2．家族看護を理解するために、授業の復習を必ずすること。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
80%	20%	0％	0％

「定期試験」：レポート（「事例」についてアセスメントし、介入の方向性について述べる）
「平常点」：授業内レポート（感想文など）、グループワークへの参加度を評価します。

⑥ 履修上の注意など

1．他看護学科目のなかで学んだ「家族」についての学びを整理しておくこと。
2．「人間生涯発達論」について復習しておくこと。

⑦ 教科書・参考書

教科書： 系統的看護学講座「家族看護学」、上別府圭子他著、医学書院

参考書：「家族アセスメント　part 1」小林奈美著、医歯薬出版
「家族エンパワーメントをもたらす看護実践」、野嶋佐由美監修、ヘルス出版

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
養護概説 （N１３４００） 養護教諭のお仕事	講義	2	30	3	前期	選択必修	看国試選択必修 養教免必修	岩越美恵 単独担当	7号館3階 研究室
科目担当者	岩越美恵								

① 授業の概要・ねらい

わが国の学校教育における養護教諭の位置づけと役割について、過去の歴史と児童生徒の健康課題を踏まえ、今後ますます期待される職務について全般的に学ぶ。学校内の他職種や地域の関連機関や市民、保護者との連携の重要性を認識た組織活動についても学ぶ。また、養護教諭の仕事がそれぞれ、どのような法律に基づいた活動であるかを知る。

なお、最終学年で履修する養護実習Ⅱは、この教科の単位取得を条件のひとつとする。

② 学習の到達目標

養護教諭の仕事とはどのようなものであるかについて理解する。

1．日本の学校教育における養護教諭の歴史を知り、さらに今後求められる役割について理解する。
2．学校教育と養護教諭の活動に関する法律を理解する。
3．児童・生徒の健康状態の把握と健康課題についての支援の方法について理解する。
4．保健指導と保健学習の違いを明確にし、それらの内容について理解して養護実習に備える。
5．保健室経営とその他の職務について理解する。
6．今後求められるその他の仕事について理解する。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	「子どもの権利条約」と養護とは何か。
第 2 回	学校教育と養護教諭
第 3 回	わが国における養護教諭の歴史とこれからの養護教諭の役割
第 4 回	保健室経営
第 5 回	健康実態の把握①（定期健康診断・臨時健康診断）
第 6 回	健康実態の把握②（健康観察・健康検診）
第 7 回	健康実態の把握③（精神健康度の把握・集団健康度の把握）
第 8 回	健康問題解決への支援①（身体的健康問題への支援、養護課程・養護診断）
第 9 回	健康問題解決への支援②（感染症、伝染病の管理）
第10回	健康問題解決への支援③（救急処置）
第11回	健康問題解決への支援④（精神健康問題への支援、健康相談）
第12回	保健活動①（保健学習）
第13回	保健活動②（保健指導）
第14回	保健活動③（保健指導：性に関する教育）
第15回	保健活動④（環境保健活動）

④ 授業時間外の学習

現代の子どもの健康、暮らし、教育に関する新聞記事に目を通す。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
80%	20%	0 %	0 %

「定期試験」：筆記試験
「平常点」：授業参加度、提出物の内容など。

⑥ 履修上の注意など

他の教科や既知の知識と関連付けて学ぶこと。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『新養護概説 第9版』編集代表 采女智津江　少年写真新聞社
参考書： 随時紹介

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
障害児保育 （N１３４２０） 誰にとっての障害なの？	講義	2	30	3	後期	選択必修	看国試選択必修 養教免必修	岩越美恵 単独担当	7号館3階 研究室
科目担当者	岩越美恵								

① 授業の概要・ねらい

はじめに「障がいとは何か」について学び、考える。そして、子どもの正常発達を知った上で、様々な障害の特徴とその支援の在り方について学ぶ。インクルーシブ教育（社会）における障害のある子ども達に対してのみならず、まわりの子どもたちへの合理的配慮についても考える。さらに、障害のあるこどもたちの家族への支援についても考える。

近年、障がいのある子ども達の増加に伴い、養護教諭には障害についての理解と障がいのある子ども達や保護者、周りの子ども達への支援について知っておくことは必須である。看護師にも推奨する。

② 学習の到達目標

・障害とは何なのか、障害を社会との関係においても理解することができる。
・様々な障害の特徴について理解し、適切な支援について考えることができる。
・現代の教育・福祉制度を知り、障害のある子どもや家族、周りの子ども達に関する支援課題を掘り下げ、今後の適切な支援について考えることができる。
・障がいのある人を中心に、自らもその一員として、現代社会について常に興味や関心を持っている。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	障がい児と家族、地域を支える児童発達支援センターの役割について
第 3 回	障害と私達
第 4 回	障害者権利条約
第 5 回	運動障害のある子どもたちの理解と支援（脳性マヒを中心に）
第 6 回	運動障害のある子どもたちの理解と支援（二分脊椎、筋疾患を中心に）
第 7 回	障害のある子どもの支援を考えるための施設見学 / 家庭訪問（学外授業）
第 8 回	重症心身障害児の理解と支援 .「医療的ケア」について
第 9 回	障害のある方の実際の暮らし（ゲストスピーカーをお招きして）
第10回	小児の精神発達について
第11回	知的障害児の理解と支援
第12回	ダウン症児の理解と支援
第13回	障害児を支える制度。まわりの子どもや家族への支援について
第14回	発達障害の理解と支援（発達障害と自閉症スペクトラム障害）
第15回	発達障害の理解と支援（AD/HD と限局性学習障害）

④ 授業時間外の学習

授業の終わりに出される課題、レポート。障害に関する新聞記事の収集など。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
70%	30%	0 %	0 %

「定期試験」：定期筆記試験
「平常点」：提出物、授業態度など

⑥ 履修上の注意など

現代社会における障がいのある人たちの置かれている状況について、実生活や新聞記事などを通して興味関心を持つこと。

⑦ 教科書・参考書

教科書： 使用しません。

参考書：「発達障害の世界、子ども達の育ちを支えるヒント」石川道子著　中央法規
その他、随時紹介

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
療養支援実習Ⅰ（老年） （Ｎ１３５３０） 老いを生きる人びととの出会い	実習	1	45	3	前期	必修	看国試必修	谷口由佳 複数担当	7号館3階 研究室他
科目担当者	谷口由佳、阿児馨								

① 授業の概要・ねらい

養護老人ホームで生活する高齢者とのかかわりを通して、加齢に伴う身体的、心理・精神的、社会的変化の特徴や、それらが高齢者の生活にどのような影響をもたらしているかを理解する。また、そこで生活する高齢者にとって、施設がどのような役割を果たしているのかを学び、高齢者を取り巻く社会についての関心と理解を深める。これらを踏まえ、高齢者が健康に老いるために、その社会生活の営みを可能な限り豊かにするための看護支援のあり方について探究していく。

② 学習の到達目標

1．高齢者とのかかわりを通して、加齢に伴う身体的、心理・精神的、社会的変化の特徴や、それらが高齢者の生活にどのような影響をもたらしているかを理解する。
2．施設の概要を把握し、高齢者にとって、施設がどのような役割を果たしているのかを理解する。
3．高齢者を取り巻く社会についての関心と理解を深める。
4．高齢者の社会生活の営みを可能な限り豊かにするための看護支援のあり方について考える。

③ 授業の内容・計画

実習施設：1）神戸市立和光園
2）社会福祉法人神戸光有会　夢野老人ホーム
3）社会福祉法人　鈴蘭台荘
4）社会福祉法人神港園　養護老人ホーム神港園
5）社会福祉法人海光園　養護老人ホーム海光園
6）社会福祉法人神戸老人ホーム　養護老人ホーム住吉苑
7）社会福祉法人大慈厚生事業会　養護老人ホーム大慈吉祥園
8）財団法人日本老人福祉財団　神戸ゆうゆうの里

実習内容：＊詳細については、「療養支援実習Ⅰ実習要領」を参照（実習オリエンテーションで配布）
1）上記8ヵ所の実習施設のうち1ヵ所において、そこで生活する高齢者とのかかわりを通し、上記「②学習の到達目標」で示した1～4の目標に向かって、学生が主体的に実習を行う。
2）毎日30分～1時間程度の時間を使い、学生個々の学習内容を共有するために、指導者や担当教員とのディスカッションを行い、学習目標への到達を目指す。
3）学びの内容は指定の記録用紙に毎日記録し、日々、学びを整理および深化させていく。
実習終了翌日、学内において振り返りの時間を設け、実習での学びを学生間で共有し、高齢者の社会生活の営みを可能な限り豊かにするための看護支援のあり方について考える。

④ 授業時間外の学習

実習までに、介護保険施設（介護療養型医療施設・介護老人保健施設・介護老人福祉施設）について整理し、今回の実習施設である養護老人ホームとどのように違うのかを学習しておく。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
0％	0％	0％	100％

「その他」：実習場面、実習記録の内容、カンファレンスの参加度、課題レポートの内容などをもとに総合的に判断する。

⑥ 履修上の注意など

関連する既習科目の復習、および事前学習を十分に行い、実習に臨むこと。

⑦ 教科書・参考書

教科書：使用しません
参考書：随時紹介します

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
療養支援実習Ⅱ（疾病･障害を持つ人の看護） （Ｎ１３５４０） 診断や治療過程にある対象の看護実践	実習	3	135	3	後期	必修	看国試必修	生島祥江 複数担当	7号館3階 研究室他
科目担当者	生島祥江、岩切由紀、谷口由佳、阿児馨、紀ノ岡浩美、松岡真菜								

① 授業の概要・ねらい

診断や治療過程にある対象を看護の視点で捉え、対象に必要な看護について理解する。

② 学習の到達目標

（1）診断や治療過程にある対象との関わりを通して、対象との相互関係を基盤とする看護を目指す。
（2）診断や治療過程にある対象を生活者として理解し、看護の視点で捉える。
（3）診断や治療過程にある対象に必要な看護を考え、実践する。

③ 授業の内容・計画

実習施設：川崎病院、北播磨総合医療センター、甲南病院、神戸大学医学部附属病院、三田市民病院、ときわ病院
実習内容：
1）実習内容：実習オリエンテーション（学内）
2）病棟実習：1週目および2週目（但し、月曜日は学内）
学生1～2名で、診断・治療過程にある患者を1名以上受け持ち、関わる。
学習の到達目標に向けて、各人が主体的に日々学習計画を立て、計画に基づき実習する。
随時30分～1時間程度カンファレンスを行い、グループメンバーで学習内容を共有する。
3）見学実習：3週目の火・水・木曜日のうちの2日間
外来診療部、外来化学療法室、透析室、通所リハビリテーション施設などで患者の治療・看護場面に立ち会い見学実習を行う。（実習施設により見学部門は異なる。）
4）振り返り学習（学内）：3週目の金曜日
受け持ち患者について理解したこと、看護について考えたことを発表し、学生間で共有する。

④ 授業時間外の学習

実習開始までに3年前期開講までに開講された科目の復習をすることと、看護の対象との関わりにおける自己の課題を明らかにしておくこと。実習中は、日々計画を立て、実施後は振り返りをして臨むこと。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
0％	0％	0％	100％

「その他」：実習場面、実習記録内容、カンファレンスの参加度、課題レポート内容などをもとに総合的に判断する。

⑥ 履修上の注意など

・先行履修要件を満たしていること。（3年次後期開講の臨地実習科目共通の要履修あるいは要単位修得科目他、成人看護学概論・老年看護学概論・看護対象論Ⅱ（成人）・看護対象論Ⅲ（老年）・老年援助論・慢性病看護論・クリティカルケアⅠ・緩和ケアの単位を修得していること。）
・1年次に配布された「臨地実習要綱」を熟読して実習に臨むこと。

⑦ 教科書・参考書

教科書：　使用しません。
参考書：　随時紹介します。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
療養支援実習Ⅲ（クリティカル） （Ｎ１３５５０） 手術療法・集中治療を受ける対象の看護実践	実習	3	135	3	後期	必修	看国試必修	生島祥江 複数担当	7号館3階 研究室他
科目担当者	生島祥江、岩切由紀、阿児馨、紀ノ岡浩美、松岡真菜								

① 授業の概要・ねらい

手術療法および集中治療を受ける対象を理解し、生命の維持と生活機能の回復に向けた看護が実践できる能力を養う。

② 学習の到達目標

（1）手術療法を受ける対象を侵襲に対する生体反応の理解をもとに、看護の視点で捉える。
（2）手術療法を受ける対象に必要な看護を考え、実践・評価する。
（3）集中治療を受ける対象の身体的・心理的・社会的特徴を把握し、看護の特徴および役割を実践する。
（4）手術療法を受ける対象との関わりを通して、対象との相互関係を基盤とする看護を実践する。

③ 授業の内容・計画

実習施設：川崎病院、北播磨総合医療センター、三田市民病院、神鋼記念病院、製鉄記念広畑病院、西宮協立脳神経外科病院、六甲アイランド甲南病院

実習内容：
1）実習内容：実習オリエンテーション（学内）
2）学内実習：1週目の2日間
手術療法および集中治療を受ける患者の援助に必要な日常生活援助・診療補助技術について演習を行う。
3）見学実習：1週目の2日間
手術部と、集中治療部あるいは救命救急部（実習施設により異なる）の患者の治療・看護場面に立ち会い見学実習を行う。
4）病棟実習：2週目および3週目（但し、月曜日は学内）
学生1～2名で、手術療法を受ける患者を1名以上受け持つ。
随時30分～1時間程度のカンファレンスを行い、グループメンバーで学習内容を共有する。
5）振り返り学習（学内）：病棟実習・見学実習での学びを学生間で共有し、手術療法および集中治療を受ける患者の看護を考察する。

④ 授業時間外の学習

2年次後期開講の「クリティカルケアⅠ」の復習をして臨むこと。実習中は、日々計画を立て、実施後は振り返りをして臨むこと。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
0％	0％	0％	100％

「その他」：実習場面、実習記録内容、カンファレンスの参加度、課題レポート内容などをもとに総合的に判断する。

⑥ 履修上の注意など

・先行履修要件を満たしていること。（3年次後期開講の臨地実習科目共通の要履修あるいは要単位修得科目他、成人看護学概論・老年看護学概論・看護対象論Ⅱ（成人）・看護対象論Ⅲ（老年）・老年援助論・慢性病看護論・クリティカルケアⅠ・緩和ケアの単位を修得していること。）
・1年次に配布された「臨地実習要綱」を熟読して実習に臨むこと。

⑦ 教科書・参考書

教科書： 使用しません。
参考書： 随時紹介します。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
母子支援実習Ⅰ（小児） （Ｎ１３５６１） 健康問題を持つ子どもの看護実践、障がいを持つ子どもの理解	実習	2	90	3	後期	必修	看国試必修 養教免必修	庄司靖枝 複数担当	7号館3階 研究室他
科目担当者	庄司靖枝、尾﨑優子、笹尾裕美								

① 授業の概要・ねらい

健康問題をもつ子どもとその家族を理解し、子どもとその家族に対する個別的な看護実践に必要な基礎的能力を習得する。

療育施設に通園もしくは入所している子ども達の障がいの特性を理解し、その特性に合わせた支援の実際を学ぶ。

② 学習の到達目標

1．健康問題や検査･治療、および入院が子どもの身体･心理･社会面に及ぼす影響を理解する。
2．子どもの健康問題の程度、発達段階および個別的ニーズに適した療養生活の援助を実践する。
3．子どもの健康問題や検査･治療、および入院が家族に及ぼす影響を理解し、家族に対する援助の必要性を考え看護計画を立てることができる。
4．小児臨床看護に必要な看護技術の基礎を習得する。
5．援助者として子どもおよび家族を尊重した関わりの基本姿勢を学ぶ。
6．看護実践を通して、小児看護の役割･責務を理解する。
7．看護実践を通して、自己の看護観を形成、深化する。
8．通園もしくは入所している子どもたちの障がいの特性を理解し、日常生活にどのような影響があるのか考えることができる。
9．子どもたちに行われている機能訓練・生活指導の目的やその内容が理解できる。
10．通園もしくは入所している子どもたちと家族への公的支援を調べ、看護師の役割を考えることができる。

③ 授業の内容・計画

実習施設：兵庫県立尼崎総合医療センター、北播磨総合医療センター、済生会兵庫県病院、尼崎市立たじかの園、加古川市立こども療育センター、にこにこハウス医療福祉センター、西宮すなご医療福祉センター

実習内容：１．実習オリエンテーション
２．病棟実習４日間
３．療育施設実習２日間
４．学内実習２日間
詳細については、母子支援実習Ⅰの要項を参照。

④ 授業時間外の学習

「小児看護学概論」、「看護対象論Ⅴ」、「小児援助論」を復習する。
実習中は、帰宅後に疑問な点を調べ、次の日の実習の看護計画に生かせるように準備して実習に臨む。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
0％	0％	0％	100％

「その他」：実習態度、事前学習、実習内容、レポート内容を総合して評価する。

⑥ 履修上の注意など

既習科目の復習および事前学習を十分に行い、積極的に実習に臨む。

⑦ 教科書・参考書

教科書：

参考書：既習の小児看護学のテキストや配布したプリントを参考にして下さい。必要時、随時紹介します。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
母子支援実習Ⅱ（母性） （Ｎ１３５７７） 「いのち」と出会い、守り、育む看護	実習	2	90	3	後期	必修	看国試必修	島内敦子 複数担当	7号館3階 研究室他
科目担当者	島内敦子、伊東美智子								

① 授業の概要・ねらい

妊娠・分娩・産褥期にある女性とその胎児・新生児およびその家族を理解し、対象に対する個別的な援助の実際に必要な基礎的能力を習得する。

② 学習の到達目標

1．妊娠・分娩・産褥期の正常な経過を理解し、各期における妊婦・産婦・褥婦および新生児の健康保持増進に向けた援助について、その基本を学ぶ。
2．妊娠・分娩・産褥期における母子関係について理解を深める。
3．妊婦・産婦・褥婦およびその家族の役割適応過程を理解し、支援の必要性について思考する。
4．妊婦・褥婦およびその家族に対する健康教育の重要性を理解する。
5．継続看護の重要性を理解し、母性看護における看護師の役割について考察する。
6．看護実践を通して、生命の尊厳や生命倫理について思考する。

③ 授業の内容・計画

詳細については、母性看護学実習要項を参照。
実習施設：三田市民病院、製鉄記念広畑病院、済生会兵庫県病院、国立病院機構神戸医療センター

④ 授業時間外の学習

母性看護学に関する講義内容（母性看護学概論、看護対象論Ⅳ、母性援助論）を必ず復習しましょう。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
0％	10％	0％	90％

「平常点」：実習態度
「その他」：事前学習、臨地での実習内容、実習記録、実習後課題レポート内容など

⑥ 履修上の注意など

・母性看護学に関連する講義内容を理解していることを前提に展開します。
・積極的、主体的な実習態度を望みます。
・詳細については全体ガイダンスで説明します。

⑦ 教科書・参考書

教科書： 実習までの母性看護に関わる講義科目で使用したものすべて
参考書： 随時紹介します。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
健康支援実習Ⅰ（在宅） （Ｎ１３５８０） 「在宅療養者の生活を支える看護」	実習	1	45	3	後期	必修	看国試必修	畑吉節未 複数担当	7号館4階 研究室他
科目担当者	畑吉節未、鵜飼知鶴、幸島美絵								

① 授業の概要・ねらい

在宅で療養する人々とその家族への理解を深め、在宅看護の役割と対象者と療養の場に応じた看護援助の実践能力を養う。具体的には、在宅療養者と家族の理解、療養者に必要な看護実践、家族介護者への健康支援方法、ソーシャルサポ ートを学ぶ。

② 学習の到達目標

1．在宅療養者の生活の特徴および療養上の特徴について理解する。
2．在宅療養者の療養の場に応じた生活援助の実際をとおして、看護技術の応用の仕方を理解する。
3．在宅療養者の生活を支える社会システムの実際を理解する。
4．在宅療養者とその家族に対して、看護者として適切な態度を養う。

③ 授業の内容・計画

（1）実習場所
尼崎・宝塚・神戸・明石市の訪問看護ステーション17ヶ所。１ステーションに２～３名の学生が実習。

（2）実習計画
実習前　特別時間割により学内で全体オリエンテーションを実施
前オリエンテーション（実習グループ毎）
第１～４日目（火～金）　訪問看護ステーションで実習を行う。

（3）実習方法
・訪問看護ステーションにおいてオリエンテーションを受ける。
・訪問看護師に同行し、援助を行う事が可能な事例については指導の下に行う。
・訪問看護の時間以外は、訪問看護ステーションにおいて同行訪問の事例に関する学習をする。
＊詳細については、実習前に実習要領を用いて説明を行う。

④ 授業時間外の学習

・在宅看護学に関する講義内容を復習しておくこと。
・実習要領に示す 22 の事前学習項目を学習する。
・受け持ち事例の事前情報に基づき学習する。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
0％	65％	25％	10％

「平常点」：実習目標の到達度
「製作物・実技など」：事前学習、まとめのレポート
「その他」：カンファレンスでの学び

⑥ 履修上の注意など

在宅看護学に関する講義内容（在宅看護学概論、在宅看護特性論、在宅援助論）を理解していることを前提 に展開する。・積極的・主体的な学習姿勢で実習に臨んでください。詳細はガイダンス時に説明します

⑦ 教科書・参考書

教科書： 講義科目と同じ 参考書：適宜紹介します。
参考書：

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
健康支援実習Ⅱ（精神） （Ｎ１３５９０） 対象の人生・希望を含めた総合的理解と支援方法を学ぶ。	実習	2	90	3	後期	必修	看国試必修	木村聡子 複数担当	7号館4階 研究室他
科目担当者	木村聡子、江口実希								

① 授業の概要・ねらい

精神の病をもつ人を生物学的・心理学的・社会的側面から総合的に理解するとともに、良好な治療的関係を構築し、セルフケアニードに基づく看護実践能力の基礎を培う。

② 学習の到達目標

1．精神障がいをもつ人の尊厳や権利を擁護する関わりができる。
2．精神障がいをもつ人を生物学的・心理学的・社会学的側面から総合的に把握する。
3．精神障がいをもつ人のセルフケアニード、のぞみに基づく看護を実践する。
4．精神障がいをもつ人と共に行動し、良好な治療的関係を構築する。
5．精神障がいをもつ人を取り巻く人的・物理的・社会的資源について理解できる。

③ 授業の内容・計画

〔実習施設〕明石こころのホスピタル、有馬高原病院、仁恵病院、湊川病院
〔実習内容〕
特別時間割：学内全体オリエンテーション
第１週目：月曜日-実習実習前オリエンテーション、火～金曜日-病棟実習
第２週目：月曜日-学内実習、火～金曜日－病棟実習

④ 授業時間外の学習

事前課題を提示する。必要に応じて再提出、再々提出を行う。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
0％	10%	0％	90%

「平常点」：実習態度
「その他」：実習内容、カンファレンスの参加度、実習記録やレポートの内容を総合して評価する。

⑥ 履修上の注意など

実習を行うにあたり、事前課題を含めた十分な学習をし、実習中に疑問に思ったことはその都度しらべること。また、実習要領にある注意事項を熟読し実習に臨むこと。

⑦ 教科書・参考書

教科書： 使用しない。
参考書： 随時紹介します。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
看護研究方法論 （Ｎ１３７００） 	講義	2	30	3	前期	必修	看国試必修	鎌田美智子 複数担当	7号館3階 研究室他
科目担当者	鎌田美智子、岩切由紀、谷口由佳								

① 授業の概要・ねらい

看護学の発展と看護実践の質的向上のために、看護学研究の概要を理解し、実施するための基礎的な方法を理解し、研究的態度を身につける。

② 学習の到達目標

1．看護における研究の意義と看護学研究の概要を理解する。
2．看護学研究を進めるための基礎的知識・方法を修得する。
3．看護学研究における倫理的態度を養い、かつ看護学研究の課題と展望について考える。

③ 授業の内容・計画

第１回	Ⅰ．看護学研究の基礎 1．看護領域における研究の意義 （1）研究とは何か （2）看護における研究の意義と課題（3）看護研究の倫理的配慮 （担当者：鎌田）
第２回	2．研究過程の概要 （1）研究課題へのアプローチ （2）研究課題の選択 ①研課題のつかみ方と焦点化の方法 （担当者：鎌田）
第３回	（3）研究課題と概念枠組み ①概念枠組みと仮説設定の必要性 ②概念枠組みの構築 （4）変数の明確化 （5）研究方法の選定 （担当者：鎌田）
第４回	3．研究方法の概要 （1）研究デザイン（広義の研究方法）（2）研究の問の立方による分類 （3）研究デザインと研究方法（狭義） 4．研究論文の構成要素 （担当者：鎌田）
第５回 第６回	Ⅱ．看護研究の進め方 1．文献検討と検索方法 （1）文献検討の意義と方法 （2）オンラインデーター活用の実際 （3）文献引用と文献リストの書き方 （担当者：岩切）
第７回 第８回	2．研究デザインと研究方法《質的研究》 （1）質的研究の特徴 （2）質的研究におけるデーター収集と分析方法 （3）質的研究の実際 （担当者：岩切）
第９回 第10回	3．研究デザインと研究方法《量的研究》 （1）量的研究の特徴 （2）量的研究におけるデーター収集と分析方法 （3）量的研究の実際 （担当者：谷口）
第11回	4．研究課題の発見と絞り込み （1）疑問・問題から研究課題の発見（2）研究課題の絞り込みのプロセス （担当者：岩切）
第12回 第13回 第14回	5．研究計画の立て方と研究計画書 （1）研究計画書作成の意義（2）研究計画書の形式と書き方の実際 （担当者：谷口）
第15回	研究報告論論文・抄録のまとめ方 （担当者：谷口）

④ 授業時間外の学習

これまでの学修を総合して、自己の研究テーマについて考えを巡らせておくこと。毎回の授業内容を復習して、研究に関する基本的用語の理解を確実にする。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
50%	0％	0％	50%

「定期試験」：筆記試験
「その他」：課題レポート「模擬研究計画書」

⑥　履修上の注意など

看護専門職を目指す者として、生涯学習体系の中で、自己の追求すべき研究課題を見出せるよう意欲的に授業に臨んでほしい。

⑦　教科書・参考書

教科書：『看護における研究』　南　裕子編著　日本看護協会出版会

参考書：　授業時に随時紹介する。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
看護管理論 （Ｎ１３７３１） 看護の質を左右する看護管理 （看護マネジメント）	講義	1	15	3	後期	必修	看国試必修 保国試必修	岡光幸代 複数担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	岡光幸代＊、西岡三津代＊								

① 授業の概要・ねらい

質の高い看護サービスの提供のためには、看護職および他職種との連携や、対象者自身や対象者を取りまくあらゆる資源を活用することが必要となる。これらの資源を有効に活用・維持するための「しくみ」及びマネジメントの基本となる理論や方法について学び、看護マネジメントの基礎能力を養う。すなわち、看護管理（看護マネジメント）を、管理者の内容としてではなく、新しいヘルスケアシステムを形成し、その中でのチーム組織力を高め活動できる看護職の役割と機能として捉えた内容で構成する。

② 学習の到達目標

1．対象者への安全で質の高いケアを提供するための看護管理の目的とプロセスを理解し、看護サービスマネジメントおよび看護ケアのマネジメントについて説明できる。
2．看護専門職の機能や役割が発揮できるためのマネジメントに必要な知識と技術を理解し、組織の中での看護管理者の役割について説明できる。
3．医療・看護ケアの安全管理における基礎的知識を理解する。
4．看護をとりまく諸制度について理解する。
5．看護サービスの質を高め、病院や施設における安全管理やチーム医療およびキャリアディベロップメントについて理解する。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	看護管理学を学ぶ意義と目的 マネジメントに必要な知識と技術	（担当者：岡光）
第 2 回	看護とマネジメント	（担当者：岡光）
第 3 回	看護を取り巻く諸制度	（担当者：岡光）
第 4 回	看護ケアのマネジメント①	（担当者：岡光）
第 5 回	看護ケアのマネジメント②	（担当者：岡光）
第 6 回	看護サービスマネジメント①	（担当者：西岡）
第 7 回	看護サービスマネジメント②	（担当者：西岡）
第 8 回	総括まとめ	（担当者：岡光）

④ 授業時間外の学習

これまでに履修した基礎および専門分野の内容を統合した学習内容となるため、看護学概論・安全管理・チーム医療論・感染管理論・看護過程展開などの他の関連科目の学習内容を復習して臨み、学習効果を上げることが必要である。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
100%	0 %	0 %	0 %

「定期試験」：筆記試験

⑥ 履修上の注意など

卒業後は、組織（チーム）の一員としての役割を発揮する中で様々な問題や課題に遭遇すると考えられる。その際、看護ケア・看護サービスをマネジメントする役割をもつことを認識し、看護の質を維持向上するための問題解決や改善をすすめられるよう、主体的な姿勢で学習することが望まれる。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『系統別看護学講座（総合分野）：看護管理』 上泉和子著　医学書院
『系統別看護学講座：基礎看護学１－看護概論―』 茂野香他著　医学書院
『系統別看護学講座（総合分野）：医療安全』 川村治子著　医学書院

参考書：『看護サービス管理第3版』 中西睦子編　医学書院
『看護管理学習テキスト③看護マネジメント論』 井部俊子他監修　日本看護協会出版会
その他、随時紹介および資料を配布します。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
医療・看護特論Ⅲ（再生医療と看護） （Ｎ１３７８０） 患者への有効性と安全性を見極める	講義	1	15	3	前期	選択必修	看国試選択必修	福田正順 単独担当	7 号館 2 階 非常勤講師 控室
科目担当者	福田正順								

① 授業の概要・ねらい

再生医療の臨床応用に関してその基礎から学び、現在飛躍的に発展しつつあるこの分野の理解を深めます。
個々の患者に有効で安全な治療を見極めて提案・実践できるようにします。

② 学習の到達目標

再生医療の歴史とそれを支えてきた技術思想、さらには幹細胞や iPS 細胞について理解するとともに今日的な意義について造詣を深めていきます。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	再生医療とは何か？
第 2 回	再生医療の基礎 1（足場、増殖因子、幹細胞）
第 3 回	再生医療の基礎 2（胚、クローン、ES 細胞）
第 4 回	iPS 細胞の登場
第 5 回	再生医療の臨床応用 1（末梢神経の再生、脊髄損傷の治療）
第 6 回	再生医療の臨床応用 2（ロボット技術、テーラーメード医療）
第 7 回	再生医療の今後の発展
第 8 回	まとめ・補足・質疑

④ 授業時間外の学習

特に必要ありません。
もし再生医学に対する新しい知見やニュースがあればお知らせ下さい。重要なものは講義で取り上げます。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
80%	20%	0 %	0 %

「定期試験」：レポート試験
「平常点」：小テスト、受講態度

⑥ 履修上の注意など

知識の獲得よりも、自ら考える経験を重視します。
再生医療の臨床応用に対する疑問、批判などを積極的に議論してください。
講義の理解度把握のため、小テストを実施します。

⑦ 教科書・参考書

教科書： 授業中に資料を配布しますので、予め購入する必要はありません。
参考書：『再生医療のしくみ（エスカルゴ・サイエンス）』八代 嘉美・中内 啓光 著 日本実業出版社（2006 年）
その他多数あり、随時紹介します。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
公衆衛生看護展開論Ⅰ （Ｎ１３８１０） 地域をアセスメントする	講義	1	15	3	前期	選択	保国試必修	中村晶子 単独担当	7号館2階 研究室
科目担当者	中村晶子								

① 授業の概要・ねらい

公衆衛生看護活動の展開方法を学習する。
保健師の地区活動と地域診断の方法について学習する。

② 学習の到達目標

保健師の地区活動の目的および対象の捉え方、方法の特徴を理解する。
地域の健康課題を把握するために必要な地域診断の方法とプロセスを理解する。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	地区活動の基本と対象の捉え方、保健師の地区活動・公衆衛生看護活動の体系
第 2 回	健康課題の捉え方
第 3 回	地域診断のプロセス
第 4 回	保健活動の計画
第 5 回	保健活動の実施
第 6 回	保健活動の評価
第 7 回	計画策定と施策化
第 8 回	まとめ

④ 授業時間外の学習

授業内で提示します。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
80%	10%	0 %	10%

「定期試験」：筆記試験
「平常点」：学習姿勢、参加態度など
「その他」：レポートなど（詳細は授業内で提示）

⑥ 履修上の注意など

課題は期限を守って提出してください。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『最新保健学講座１　公衆衛生看護学概論』 メヂカルフレンド社
参考書：『標準保健師講座１　公衆衛生看護学概論』 医学書院
『国民衛生の動向 2017/2018 』厚生労働統計協会

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
公衆衛生看護展開論演習Ⅰ （Ｎ１３８２０） 地域診断のプロセスを体験する	演習	1	30	3	前期	選択	保国試必修	中村晶子 複数担当	7号館2階 研究室他
科目担当者	中村晶子、魚崎須美								

① 授業の概要・ねらい

公衆衛生看護活動の展開方法として地域診断の方法を習得する。
地域診断に基づいた保健計画の立案について理解を深める。

② 学習の到達目標

1．保健師固有の活動である地区活動の目的および対象の捉え方、方法の特徴を理解する。
2．地域に顕在する健康課題を把握するとともに、潜在する健康課題を予測し、組織的に解決する方法を理解する。
3．既存資料から地域の健康課題を分析、診断し、保健活動計画を立案できる。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	個別事例から地域の健康課題への展開方法	（担当者：中村）
第 2 回	地域診断情報収集の方法	（担当者：中村）
第 3 回	地域診断情報収集①（既存資料の活用）	（担当者：中村、魚崎）
第 4 回	地域診断情報収集②（統計の活用）	（担当者：中村、魚崎）
第 5 回	地区踏査の方法	（担当者：中村、魚崎）
第 6 回	地区踏査	（担当者：中村、魚崎）
第 7 回	地区踏査結果のまとめ	（担当者：中村、魚崎）
第 8 回	地域診断情報収集③（既存資料と地区踏査結果の統合）	（担当者：中村、魚崎）
第 9 回	個別事例の分析	（担当者：中村、魚崎）
第10回	地域診断情報分析①（情報の整理）	（担当者：中村、魚崎）
第11回	地域診断情報分析②（健康課題の抽出）	（担当者：中村、魚崎）
第12回	地域診断の発表	（担当者：中村、魚崎）
第13回	地域診断の評価・修正	（担当者：中村、魚崎）
第14回	値域診断に基づく保健活動・計画立案	（担当者：中村、魚崎）
第15回	まとめ	（担当者：中村、魚崎）

④ 授業時間外の学習

授業内で提示します。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
30%	20%	50%	0 %

「定期試験」：筆記試験
「平常点」：学習態度、参加態度など
「製作物・実技など」：演習科目に関連した諸記録など（詳細は授業で提示）

⑥ 履修上の注意など

演習はグループワークで行います。遅刻、欠席がないように注意してください。
提出物の期限は厳守してください。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『最新保健学講座１　公衆衛生看護学概論』 メヂカルフレンド社
『国民衛生の動向　2017/2018』厚生労働統計協会

参考書：『標準保健師講座１　公衆衛生看護学概論』 医学書院
『コミュニティーアズパートナー　地域看護学の理論と実際』エリザベス・T・アンダーソン編　医学書院

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
公衆衛生看護展開論Ⅱ （Ｎ１３８３０） 地域で生活する人々の健康課題と支援	講義	1	15	3	前期	選択	保国試必修	魚崎須美 複数担当	7号館3階 研究室他
科目担当者	魚崎須美、中村晶子								

① 授業の概要・ねらい

地域における個人・家族・集団および組織の健康状態をライフステージ別ならび健康課題別に学習する。さらにそれらの健康課題を解決するための支援のあり方を学習する。

② 学習の到達目標

1．地域で生活する人々をライフステージ別、健康課題別に捉え、それぞれの活動の基盤となる法制度、社会的主条件に影響される健康課題、サポートシステムについて理解する。
2．それぞれの活動の健康課題と公衆衛生看護活動を理解する。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	地域における母子保健活動①（法制度、サポートシステム）	（担当者：魚﨑）
第 2 回	地域における母子保健活動②（公衆衛生看護活動）	（担当者：魚﨑）
第 3 回	地域における成人保健活動	（担当者：中村）
第 4 回	地域における高齢者保健活動	（担当者：中村）
第 5 回	地域における精神・障害児者活動	（担当者：魚崎）
第 6 回	地域における難病保健活動	（担当者：魚崎）
第 7 回	地域における感染症保健活動	（担当者：魚崎）
第 8 回	まとめ	（担当者：魚住・中村）

④ 授業時間外の学習

授業内で提示します。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
80%	10%	0 %	10%

「定期試験」：筆記試験
「平常点」：学習態度、参加態度など
「その他」：レポートなど（詳細は授業内で提示）

⑥ 履修上の注意など

事前課題があります。予習をしっかりしてから授業に臨んでください。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『最新保健学講座３　公衆衛生看護活動論１』メヂカルフレンド社
『最新保健学講座４　公衆衛生看護活動論２』メヂカルフレンド社
『国民衛生の動向　2017/2018』 厚生労働統計協会

参考書：『標準保健師講座２　公衆衛生看護技術』医学書院
『標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動』医学書院
『最新公衆衛生看護学　各論１』日本看護協会出版会
『最新公衆衛生看護学　各論２』日本看護協会出版会

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
公衆衛生看護展開論演習Ⅱ （Ｎ１３８４０） 人々の健康課題への支援の展開	演習	1	30	3	前期	選択	保国試必修	魚崎須美 複数担当	7号館3階 研究室他
科目担当者	魚崎須美、中村晶子								

① 授業の概要・ねらい

地域における個人・家族・集団および組織の健康状態をライフステージ別ならびに健康課題別の健康課題を解決するための支援手法を習得する。さらに対象特性に応じた活動を実践するための基本的技術を習得する。

② 学習の到達目標

1．ライフステージ別、健康課題別のそれぞれの対象の健康課題を理解する。
2．ライフステージ別、健康課題別のそれぞれの対象に応じた保健指導技術について理解する。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	地域における母子保健活動①（乳幼児の健康診査の目的・対象）	（担当者：魚﨑）
第 2 回	地域のおける母子保健活動②（乳幼児健康診査の方法）	（担当者：魚﨑）
第 3 回	地域のおける母子保健活動③（保健指導の展開）	（担当者：魚﨑）
第 4 回	地域における成人保健活動①（特定保健診査）	（担当者：中村）
第 5 回	地域における成人保健活動②（特定保健指導）	（担当者：中村）
第 6 回	地域における高齢者保健活動①（介護予防教室の企画）	（担当者：中村）
第 7 回	地域における高齢者保健活動②（介護予防教室の運営・展開・評価）	（担当者：中村）
第 8 回	地域における精神、障害児者保健活動①（保健指導の展開）	（担当者：魚﨑）
第 9 回	地域における精神、障害児者保健活動 ②（サポートシステム）	（担当者：魚﨑）
第10回	地域における難病保健活動	（担当者：魚崎）
第11回	地域における感染症保健活動①（感染症対策）	（担当者：魚﨑）
第12回	地域における感染症保健活動②（家庭訪問の計画）	（担当者：魚﨑）
第13回	地域における感染症保健活動③（家庭訪問の実施）	（担当者：魚﨑）
第14回	地域における感染症保健活動④（家庭訪問の評価）	（担当者：魚﨑）
第15回	まとめ	（担当者：魚住・中村）

④ 授業時間外の学習

授業内で提示します。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
50%	10%	40%	0 %

「定期試験」：筆記試験
「平常点」：学習態度、参加態度など
「製作物・実技など」：レポート、演習課題など

⑥ 履修上の注意など

事前課題があります。予習をしっかりしてから授業に臨んでください。演習はグループワークで行います。遅刻、欠席がないように注意してください。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『最新保健学講座３　公衆衛生看護活動論１』メヂカルフレンド社
『最新保健学講座４　公衆衛生看護活動論２』メヂカルフレンド社
『国民衛生の動向　2017/2018』 厚生労働統計協会

参考書：『標準保健師講座２　公衆衛生看護技術』医学書院
『標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動』医学書院
『最新公衆衛生看護学　各論１』日本看護協会出版会
『最新公衆衛生看護学　各論２』日本看護協会出版会

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
健康教育の理論と方法 （Ｎ１３８５０） 健康づくりのための保健行動を促す健康教育	講義	1	15	3	前期	選択	保国試必修	中村晶子 単独担当	7号館2階研究室
科目担当者	中村晶子								

① 授業の概要・ねらい

健康教育の理念や健康教育に関する理論を理解する。また、対象集団の特性やニーズに合わせた、セルフケア・セルフコントロール能力の育成・向上のための健康教育の方法と技術を学ぶ。

② 学習の到達目標

1．健康教育の基本的理念を理解できる
2．健康教育に関する理論について説明できる
3．対象集団への支援方法について説明できる
4．健康課題の解決に向けた健康教育の計画立案ができる

③ 授業の内容・計画

第 1 回	健康教育の歴史と定義
第 2 回	健康教育と保健行動
第 3 回	健康教育理論①（プリシード・プロシードモデル）
第 4 回	健康教育理論②（その他）
第 5 回	健康教育の方法
第 6 回	健康教育の展開①　企画書の作成
第 7 回	健康教育の展開②　指導案の作成
第 8 回	健康教育の展開③　評価・まとめ

④ 授業時間外の学習

授業内で提示する。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
50%	10%	40%	0 %

「定期試験」：試験
「平常点」：参加・態度
「製作物・実技など」：課題

⑥ 履修上の注意など

公衆衛生看護活動の基盤の一つである健康教育について、自分の考えや意見を深められるようにグループ学習には積極的・主体的に取り組む。また、健康に関する記事や話題に関心を持ち、自分の日常生活や保健行動を振り返る機会とする。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『最新保健学講座別巻１　健康教育論』　メヂカルフレンド社

参考書：『標準保健師講座２　地域看護技術』　医学書院
『国民衛生の動向』　厚生労働統計協会教科書

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
疫学的調査法 （Ｎ１３８７０） 疫学を楽しく学ぶ	講義	2	30	3	後期	選択	保国試必修 養教免必修	栃倉匡文 単独担当	5 号館 3 階 研究室
科目担当者	栃倉匡文								

① 授業の概要・ねらい

「喫煙と肺癌の関係」や「肥満は体に悪い」と言われるのは疫学調査でよく知られた例であり、『疫学』とは社会集団を対象として、その原因を究明し、有効な対策を講じるのに役立てる学問である。本講義では、そのための科学的根拠を見つけ出す疫学的手法を修得する能力を身につける。

② 学習の到達目標

・疫学調査が公衆衛生の中で、どのように利用されているか説明することができる。
・調査方法とその評価について説明することができる。
・調査結果を説明し、考察することができる。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	疫学の定義
第 2 回	疫学で用いられる指標①（頻度の測定）
第 3 回	疫学で用いられる指標②（頻度の比較）
第 4 回	疫学研究方法の種類
第 5 回	スクリーニング
第 6 回	記述疫学
第 7 回	分析疫学①（定義・特徴）
第 8 回	分析疫学②（横断研究と生態学的研究）
第 9 回	分析疫学③（コホート研究）
第10回	分析疫学④（症例対照研究）
第11回	介入研究①（定義・特徴）
第12回	介入研究②（無作為比較対照試験）
第13回	因果関係と交絡因子
第14回	疫学で用いられる統計学的方法とその解釈
第15回	疫学研究と倫理

④ 授業時間外の学習

授業を理解するために予習と復習を心がけること。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
90%	10%	0 %	0 %

「定期試験」：筆記試験
「平常点」：受講態度

⑥ 履修上の注意など

疫学調査は病気の要因を探る重要な技法の１つであることを学んでほしい。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『はじめて学ぶやさしい疫学　第２版』日本疫学会　南江堂
参考書： 使用しませんが、適宜プリントを配布します。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
公衆衛生看護学実習Ⅰ （Ｎ１３８８１） 公衆衛生看護の基礎実習	実習	2	90	3	後期	選択	保国試必修	魚崎須美 複数担当	7号館3階 研究室他
科目担当者	魚崎須美、中村晶子、幸島美絵								

① 授業の概要・ねらい

本実習は、公衆衛生看護学の基礎実習として位置づけ、地域保健事業を通して、公衆衛生看護活動に必要な支援姿勢や支援方法の基礎を学習する。特に地域の人々の生活や健康状況を把握し、それに応じた個別支援や集団支援の方法を学ぶ。それらから地域保健活動の保健師の役割を学習する。

② 学習の到達目標

1．地域特性や既存資料などから、地域概要や地域の人々の健康状況を理解することができる。
2．実習施設における保健事業に参加し、個人および集団の健康課題を理解し、セルフケア能力を高める公衆衛生看護活動の一連の展開方法を理解する。
3．健康課題解決のために行われている保健事業の実践を体験し、個別や集団に対する支援基礎的知識や技術を学ぶ。
4．実習施設の保健活動における保健師の役割を理解する。

③ 授業の内容・計画

【事前学習課題】実習ガイダンスにおいて提示
【実習施設】兵庫県健康福祉事務所および管内市町、神戸市などの政令市他
【実習内容】具体的日程、行動目標、実習内容、実習の展開等については、実習要領を参照

④ 授業時間外の学習

実習中は実習要領に基づく。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
0％	10%	80%	10%

「平常点」：実習態度、学習姿勢など
「製作物・実技など」：事前学習の成果、実習における実践、実習後のレポートなど
「その他」：カンファレンスなどの参加態度、実習における諸記録など

⑥ 履修上の注意など

実習要領に示す実習する上での留意点を遵守する。

⑦ 教科書・参考書

教科書： 必要に応じて紹介する。
参考書： 公衆衛生看護学関連科目で使用した教科書、参考書、その他関連科目の教科書、参考書など

MEMO

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
文献講読 （N１１１００） 看護研究に役立つ英語を学ぶ	演習	1	30	4	前期	選択必修	看国試選択必修	山﨑麻由美 単独担当	4 号館 3 階 研究室
科目担当者	山﨑麻由美								

① 授業の概要・ねらい

英語の基礎力をもとに、看護・医療に関する英語文献を精読、多読する。文章の内容を的確に読み取ることと看護学の研究に必要な総合的な英語の力をつけていくことをねらいとする。

② 学習の到達目標

看護学や医療現場に関する英文を読むことを通して、専門用語や語法の知識を増やすこととリーディングスキルを身につけることが到達目標である。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	オリエンテーション、医学用語の成り立ち
第 2 回	Tighten Japan’s Tobacco Controls
第 3 回	A Dangerous Flu Season
第 4 回	Coping with Anxiety
第 5 回	Autism
第 6 回	How to Mend a Broken Heart
第 7 回	A Lawful Way to Die
第 8 回	Changes in Sleep Patterns in COPD
第 9 回	A Battered-Child Syndrome
第１０回	Communicating with Infants
第１１回	The Unique Function of Nursing
第１２回	How to Read Abstracts 1　抄録の構成
第１３回	How to Read Abstracts 2　論文に使われる手法
第１４回	How to Read Article 1　原著論文を読む（前半）
第１５回	How to Read Article 2　原著論文を読む（後半）

④ 授業時間外の学習

次回の授業の予習

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
80%	20%	0 %	0 %

「定期試験」：筆記試験
「平常点」：受講態度

⑥ 履修上の注意など

授業には必ず辞書を持参すること。積極的に授業に参加すること。与えられた課題は仕上げること。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『看護英語読解 15 のポイント』 園城寺泰子・名木田恵理子　他編著 （メジカルビュー社）
参考書： 随時紹介する。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
プレゼンテーション技法 （N１１１３０） プレゼンを知ろう	講義	1	15	4	前期	選択必修	看国試選択必修	髙松邦彦 単独担当	7号館2階 研究室
科目担当者	髙松邦彦								

① 授業の概要・ねらい

専門職者として実験結果や実践報告、研究成果などを他者にわかりやすく伝えることは重要である。本科目では、効果的なプレゼンテーションに必要な基本的技法について学習し、存在感のあるプレゼンテーターとなる素養を身につけることをめざす。具体的には、以下の通り。①地域コーディネータに協力していただいて地域に出てフィールドワークを行う。②その内容をプレゼンテーションの論理構成や視覚物の活用技法、質疑応答の技法、さらにあがり克服法や聞き手をひきつける技法などを学ぶ。③発表は、地域へ出向き、地域の方々に対して行い、助言をいただく。④自分の発表を動画に撮影し、後にそれをみて自己分析することで、プレゼンテーションのスキルアップを目指す。

② 学習の到達目標

研究発表を行う能力を身につける。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	プレゼンテーションとは
第 2 回	プレゼンテーション作成の基本技術Ⅰ ポストイットを用いたブレインストーミング
第 3 回	プレゼンテーション作成の基本技術Ⅱ マインドマップを用いたブレインストーミング
第 4 回	プレゼンテーションの作成―Ⅰ 基礎データ作成
第 5 回	プレゼンテーションの作成―Ⅱ ストーリー作成
第 6 回	プレゼンテーションの発表―Ⅰ 発表と自己評価（受講者の半数）
第 7 回	プレゼンテーションの発表―Ⅱ 発表と自己評価（受講者の残半数）
第 8 回	発表の振り返りと改善点の発見

④ 授業時間外の学習

発表の準備をきちんとすること。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
60%	40%	0 %	0 %

「定期試験」：レポート試験
「平常点」：課題提出など

⑥ 履修上の注意など

各自が興味を持って、積極的にプレゼンテーションを行うことが大切なので、出席することが大事である。

⑦ 教科書・参考書

教科書： 必要に応じて紹介
参考書： 必要に応じて紹介

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
国際文化比較 （N１１２５０）	講義	2	30	4	後期	選択必修	看国試選択必修	児島建次郎 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	児島建次郎								

① 授業の概要・ねらい

文明の道とは何か。2300年前のアレクサンドロス大王の東方遠征。人類の衝突の歴史がそこから始まった、と言ってもいいほどの出来事でした。こうした行動の一方で「共存」や「融合」を探りました。授業では（1）ヨーロッパ文明の基層をなすギリシア文化（2）大王の遠征（3）ヘレニズム文化の3点をキーワードに進めます。そして激動する世界情勢にも目をむけ、現代社会に生きる英知を見つけ出したいと思います。

② 学習の到達目標

ユーラシア大陸の歴史をぬりかえた文明の道、シルクロードに民族興亡や交流の姿を見て文明とは何かを知る。アレクサンドロス大王の東方遠征という壮大な人類の物語を通して、新たな文明を生み出していく有り様を理解する。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	オリエンテーション　授業の展開とこの科目のめざすもの
第 2 回	バルバロイと呼ばれたマケドニアが、どうして世界帝国を築いたか
第 3 回	アレクサンドロス大王を東方遠征にかりたてたペルシア戦争とは
第 4 回	ギリシア文明・都市国家・アテネとスパルタ
第 5 回	アテネ黄金期のシンボル・人間を刻んだパルテノン神殿それはルネッサンスへ
第 6 回	アレクサンドロス大王の少年時代と家庭教師アリストテレス・ギリシア哲学
第 7 回	ロマンチストか冷酷な政治家か・大王の東方へのまなざし
第 8 回	イッソスの戦い・エジプトで神の子の神託を受ける
第 9 回	世界最大の宮殿・ペルシア帝国の 都ペルセポリス
第10回	アレクサンドロス大王は、何故ペルセポリスを破壊したか
第11回	アレクサンドロス大王・インドから帰還バビロンで死す
第12回	ユーラシア大陸に展開されたヘレニズム王国の興亡とシルクロード
第13回	仏像誕生はヘレニズム文化の影響によるものか
第14回	現代につづく文明の衝突と融合をめぐって
第15回	21世紀・地球文明の潮流とキーワード

④ 授業時間外の学習

教科書をよく読んで内容を理解するとともに、関連する本などにも目を通し、知的好奇心を持続させて下さい。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
50%	10%	0 %	40%

「定期試験」：筆記試験
「平常点」：レポート
「その他」：論文作成

⑥ 履修上の注意など

新聞やテレビで紹介される文化のニュースに関心を持ち、グローバルな世界の動きに目を向けてください

⑦ 教科書・参考書

教科書：『未来への遺産・シルクロードのドラマとロマン』児島建次郎　雄山閣出版
参考書：『ユーラシア文明とシルクロード・ペルシア帝国とアレクサンドロス大王の謎』児島建次郎

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
人間工学 （N１２０６０）	講義	2	30	4	後期	選択必修	看国試選択必修	武川公 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	武川公＊								

① 授業の概要・ねらい

日本の人口構成を考察し、そこに住む集団の人間の現在および未来の問題点を見つけ出すと共に、その問題を解決する政策を検討する。その際、集団の特徴を捉える様々な指標を理解する必要があるが、指標の意味を計算式で理解するのではなく、図的にイメージとして理解する能力を身に着ける。また人工知能の活用、コミュニケーション能力を高めるため時事英語、エクセルワークの技術の習得にも力を入れる。

② 学習の到達目標

人間を集団として捉え、政治が行なおうとしている政策の意味を理解する。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	日本の人口構成から導かれる現在と未来の問題点を見つけ出す。	（時事英語演習）
第 2 回	日本の人口構成と他の国家の人口構成を比較する。	（時事英語演習）
第 3 回	平均寿命と平均余命について図的に理解する。	（時事英語演習）
第 4 回	死亡率（粗死亡率、年齢調整死亡率）を図的に理解する。	（時事英語演習）
第 5 回	出生率（合計特殊出生率、総再生産率、純総再生産率）を図的に理解する。	（時事英語演習）
第 6 回	疫学研究法におけるコホート研究について基礎的な指標を図的に理解する。	（時事英語演習）
第 7 回	コホート研究についての論文を読み、実例を学ぶ。	（時事英語演習）
第 8 回	症例対照研究についての指標を図的に理解する。	（時事英語演習）
第 9 回	集団検診における指標を図的に理解する。	
第10回	人工知能の活用	
第11回	人工知能によって変わる社会	
第12回	簡単な画像処理ソフトを用いて画像の取得と加工の技術を学ぶ。	
第13回	取得した画像を含めたプレゼンテーションの資料を作成する。	
第14回	エクセルを用いて実際のデータをグラフ化する。	
第15回	エクセルを用いてモンテカルロシミュレーションを行なう。	

④ 授業時間外の学習

国家の政策がどのような問題を解決するための政策なのかを考える。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
60%	40%	0 %	0 %

「定期試験」：筆記試験
「平常点」：授業への取組みの熱意

⑥ 履修上の注意など

特になし。

⑦ 教科書・参考書

教科書： プリント講義
参考書： 使用しない。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
国際保健医療活動Ⅰ （Ｎ１２３６０） 国によって言葉も医療制度もちがう	講義	1	15	4	前期	必修	看国試必修	坂本秀生 複数担当	7号館2階 研究室他
科目担当者	坂本秀生、森松伸一、鈴木高史、S.K.Rai*								

① 授業の概要・ねらい

医療の発展に寄与できるよう、国際保健医療に関する疾病、福祉、貧困などの諸問題を理解し、その解決法を考えるきっかけを作る。それぞれの課題について世界観に基づく多角的な視野を持って対応し、真の国際保健医療活動の実現に向けて、国際的に活躍できる人材の基礎知識を養う。

習慣、社会、文化が日本と異なるアメリカ、ネパール、フィリピンを例として医療保険制度、福祉制度を通し保健医療の課題について学ぶ。3ヶ国の事情を学習することで、日本の状況を客観的に判断することが可能となり、日本が海外から学ぶ点、日本が海外に貢献出来る点を理解できることをねらいとする。

② 学習の到達目標

医療に市場原理を導入している点、先進国の例としてアメリカ、開発途上国の例としてネパール、その中間にある国としてフィリピンを取り上げて講義を進める。それぞれの国の状況と制度の理解を通じ、あらためて日本と比較し、日本の医療保健制度を理解し、こらから自分達が何を日本で行い、何を国際社会に貢献できるか思考できるようにする。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	国際保健医療活動の基礎知識	（担当者：坂本）
第 2 回	ネパールの基礎情報と医療保健制度	（担当者：鈴木）
第 3 回	ネパールにおける医療職	（担当者：Shiba Kumar Rai）
第 4 回	海外における保健医療活動の現況	（担当者：Shiba Kumar Rai）
第 5 回	アメリカにおける医療保健制度	（担当者：坂本）
第 6 回	アメリカにおける医療職	（担当者：坂本）
第 7 回	フィリピンの基礎情報と医療保健制度	（担当者：森松）
第 8 回	フィリピンにおける医療職	（担当者：森松）

④ 授業時間外の学習

日本の医療、保健状況を調べておくと、理解がさらに深まる。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
70%	30%	0 %	0 %

「定期試験」：レポート試験　繰越再試験は行わない
「平常点」：受講態度、講義中の質疑応答

⑥ 履修上の注意など

この授業は看護科と医療検査学科の学生が同一教室で学ぶ。異なった職種につく学生同士の意見や考えを知り、あらためて専門職に就く自覚と目的を確認する機会でもある。他国の保健医療状況を学び日本の状況を再確認すると同様に、他者の意見や考えも参考にする。

⑦ 教科書・参考書

教科書：　途上国における国際医療　NGO Global Health 著　ふくろう出版

参考書：　アメリカ医療の光と影　李 啓充 著　医学書院

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
国際保健医療活動Ⅱ （Ｎ１２３７０） 百聞は一見に如かず、海外の医療現場	演習	1	30	4	前期	選択必修	看国試選択必修	坂本秀生 複数担当	7号館2階 研究室他
科目担当者	坂本秀生、森松伸一、黒野利佐子、鈴木高史、紀ノ岡浩美、S.K.Rai ＊								

① 授業の概要・ねらい

アメリカ、ネパールもしくはフィリピンを選択して訪問する。日本は衛生面、医療面でも世界的に恵まれているが、国外にて自らの目で見て体で感じることで、医療に対する国際感覚を高める。

アメリカは先進国として先端医療技術を用い、高度な医療を提供しているにも関わらず、高額医療費故に十分な医療を受けられない人もいる。ネパールはアジアの開発途上国の中でも最貧国とされ、医療施設及び保健施設も日本と比較して整っていない。フィリピンは都市部と地方で大きな差があり、都市部での医療水準は比較的良いが、地方はまだ整備が整ってない地域もある。それぞれに文化的、社会的に全く異なる国から1カ国のみの訪問であるが、事前学習と訪問報告及び討論会を通じて学生は日本を含めた4カ国の保健医療状況を学ぶ。

② 学習の到達目標

実際に海外を体験し、日本と比較しながら体全体で違いを感じ国際貢献できる点、日本に必要な点を理解する。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	海外研修の意義及び過ごしかたについて	（担当者：坂本）
第 2 回	アメリカ、ネパール、フィリピンの医療について	（担当者：坂本、森松、鈴木）
第 3 回	アメリカ、ネパール又はフィリピンにて研修1（現地オリエンテーション）	（担当者：全教員）
第 4 回	アメリカ、ネパール又はフィリピンにて研修2（現地の大学病院等大型医療施設にて研修）	（担当者：全教員）
第 5 回	アメリカ、ネパール又はフィリピンにて研修3（がん、感染症等の専門領域医療施設にて研修）	（担当者：全教員）
第 6 回	アメリカ、ネパール又はフィリピンにて研修4（保健所等の地域医療に関わる施設にて研修）	（担当者：全教員）
第 7 回	アメリカ、ネパール又はフィリピンにて研修5（医療施設外で医療・保健に関わる施設にて研修）	（担当者：全教員）
第 8 回	研修報告及び討論会	（担当者：坂本、森松、黒野、紀ノ岡）

④ 授業時間外の学習

1．研修先の情報を事前に調べ、日本の医療制度を外側から確認する。
2．日本でもこれから有用と思われる事項を認識する。
3．自分自身が国際社会にも貢献できることを知る。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
50%	20%	15%	15%

定期試験」：口頭プレゼンテーションおよび研修報告書
「平常点」：事前学習や事後学習での質疑応答
「製作物・実技など」：事前学習及び研修報告用資料
「その他」：訪問前の準備状況

⑥ 履修上の注意など

課題等の提出物が一定数以上提出されていること、訪問前の準備状況なども成績評価の条件とする。
往復交通費、宿泊や食費等の実費は自己負担。（過去例；アメリカ 32 万円、フィリピン 20 万円、ネパール 約 20 万円）

⑦ 教科書・参考書

教科書： 適宜、資料を配付。

参考書： アメリカ医療の光と影　李 啓充 著　医学書院
途上国における国際医療　NGO Global Health 著　ふくろう出版

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
保健医療福祉行政論 （Ｎ１２３７５） 保健医療福祉行政と看護職	講義	1	15	4	前期	選択必修	看国試選択必修 保国試必修	中村晶子 単独担当	7号館2階 研究室
科目担当者	中村晶子								

① 授業の概要・ねらい

健康を維持増進させる法制度と、それを支える保健医療福祉政策からみた主な法的基盤との関連を学習する。さらに、保健福祉行政と公衆衛生の専門職としての保健師の役割を学習する。

② 学習の到達目標

1．保健医療福祉行政の法的基盤を理解する
2．保健医療福祉の地域づくりを推進する行政の仕組みと機能を理解する。
3．公衆衛生行政における保健師の役割について理解する。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	保健医療福祉行政のめざすもの
第 2 回	保健医療福祉行政の歴史と変遷
第 3 回	保健医療福祉行政と保健師
第 4 回	保健医療福祉行政の財政の仕組み
第 5 回	保健医療福祉に関する制度①（社会保障）
第 6 回	保健医療福祉に関する制度②（地域保健）
第 7 回	保健医療福祉行政の計画と評価
第 8 回	まとめ

④ 授業時間外の学習

授業内で提示します。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
70%	20%	0 %	10%

「定期試験」：筆記試験
「平常点」：参加態度・学習姿勢など
「その他」：レポートなど（詳細は授業内で提示）

⑥ 履修上の注意など

事前課題にしっかり取り組んで授業に臨んでください。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『これからの保健医療福祉行政論　第2版』星旦二、麻原きよみ編　日本看護協会出版会
『国民衛生の動向　2017/2018』 厚生労働統計協会

参考書：『最新保健学講座7　保健医療福祉行政論』メヂカルフレンド社
『標準保健師講座別冊1　保健医療福祉行政論』医学書院
『保健師業務要覧』日本看護協会　出版会

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
医療経済学 （Ｎ１２３８０） 経済から考える日本の医療の今とこれから	講義	1	15	4	前期	選択必修	看国試選択必修	山口有美 単独担当	7号館4階研究室
科目担当者	山口有美								

① 授業の概要・ねらい

本講義の目的は、日本の少子高齢社会の構造や問題点を社会的視点、経済学的視点から理解すること。そして、医療経済学の基礎、及び医療保障制度についての概要を学ぶことである。

② 学習の到達目標

日本の少子高齢社会の構造、問題点を社会的、経済学的視点から説明できる。
医療保険、医療保障制度、社会保障制度について経済学的視点から説明できる。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	経済学の基礎
第 2 回	医療経済学の基礎
第 3 回	日本の少子高齢社会（概要）
第 4 回	日本の少子高齢社会（医療経済学の視点から）
第 5 回	医療保険制度
第 6 回	医療保障制度
第 7 回	社会保障制度
第 8 回	まとめ

④ 授業時間外の学習

日ごろから、医療、経済、社会情勢に関心を持ち新聞等を利用し、予備知識を得た上で受講することが望ましい。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
70%	0 %	0 %	30%

「定期試験」：筆記試験
「その他」：課題レポート（授業の中で、提示する）

⑥ 履修上の注意など

特になし

⑦ 教科書・参考書

教科書： 適宜、資料を配布する。
参考書： 授業の中で紹介する。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
看護倫理 （Ｎ１３１００） ケアの質を高める	講義	1	15	4	前期	必修	看国試必修	江上芳子 単独担当	7号館2階 非常勤講師控室
科目担当者	江上芳子＊								

① 授業の概要・ねらい

看護者は、看護実践において倫理的な問題の意思決定が期待されています。しかし、看護者が遭遇する倫理的問題はどこにでもあり、対象の価値観は多様で広い範囲に及び対応は難しいです。倫理は看護実践の中心にあり、看護専門職としての行為を導いてくれます。倫理がなければ看護専門職として機能することができません。まず、看護実践において必要な看護倫理に関する基本的な知識を学び、事例検討を通して看護の現場にある倫理的問題に気づき、解決するための方略を考えます。

② 学習の到達目標

1．看護実践における重要な倫理的概念を理解する。
2．看護の倫理原則（善行と無害、正義、自律、忠誠、誠実）について、それらの定義と看護における意味について理解する。
3．法的責任と倫理的責任の違いについて説明できる。
4．看護師の倫理的責任について理解する。
5．看護の現場にある倫理的課題に「気づく」ことができる。
6．倫理的課題の分析、解決のために、「参照すべき手がかり」・「何をなすべきか」を考えることができる。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	看護倫理とは
第 2 回	看護実践上の倫理的概念
第 3 回	看護倫理に関連する重要な用語
第 4 回	看護の倫理的原則
第 5 回	看護における倫理的意思決定
第 6 回	事例検討①看護学実習で体験した事例（グループメンバーの事例紹介、検討事例の選択）
第 7 回	事例検討②看護学実習で体験した事例（分析・解決策）
第 8 回	グループ発表 およびまとめ

④ 授業時間外の学習

1．授業「生命と倫理」を復習しておくこと。
2．教科書の授業計画の内容に関連する頁を読んで授業に参加すること。
3．事例検討において、討論が進まないグループは、時間外に自主的にグループワークを行うこと。（必要であれば江上が参加します）
4．看護学臨地実習において体験した倫理に関連するジレンマ等についてレポートを提出する。
5．毎授業について学習したことおよび感想を提出する（出席表と兼ねます）

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
70%	10%	20%	0 %

「定期試験」：レポート
「平常点」：授業内レポート（感想など）、グループワークへの参加度を評価します
「製作物・実技など」：事例検討の発表内容、レポートを評価します。

⑥ 履修上の注意など

授業・事例検討などで疑問の思ったことは、まず主体的に調べる。それでわからなかったら次に、質問する。
授業中に意見があるときは、発言して。全体で考えるようにしましょう。

⑦ 教科書・参考書

教科書：　系統的看護学講座　別巻「看護倫理」、宮坂道夫他著、医学書院
　　「看護者の基本的責務」、日本看護協会監修、日本看護協会出版会

参考書：　倫理的意思決定のためのガイド「看護実践の倫理」、サラ Ｔ．フライ他著、片田範子他訳、日本看護協会出版会

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
課題別総合実習 （Ｎ１３６１０） 看護の統合、インターンシップ	実習	3	135	4	前期	必修	看国試必修	鎌田美智子 複数担当	7 号館 3 階 研究室他
科目担当者	鎌田美智子、長尾厚子、畑吉節未、生島祥江、尾﨑雅子、庄司靖枝、鵜飼知鶴、黒野利佐子、島内敦子、山口有美、岩切由紀、谷口由佳、阿児馨、藤原桜、木村聡子、幸島美絵、江口実希、伊東美智子、尾崎優子、紀ノ岡浩美、中村由果理、笹尾裕美、松岡真菜、白石奈央、岡光幸代＊、西岡三津代＊、福井玲子＊								

①　授業の概要・ねらい

既修した看護学の知識・技術を統合し、自己の課題を明らかにして、課題を解決するために計画的に実習を行い、臨地における総合的な実践能力を高め、自己の将来の看護展開能力へとつなげる。

②　学習の到達目標

1．看護の対象の健康レベル及び発達段階の特性を踏まえ、対象の健康を全人的な視点（ホリスティック）でとらえる。
2．自己の課題を臨地において探求する。
3．最適なケアを実践するプロセスを体験する。
4．自己の看護観を明らかにし、看護専門職としての自覚を高め、自己の将来像を展望する。

③　授業の内容・計画

実習病院：　有馬高原病院、川崎病院、北播磨総合医療センター、甲南病院、神戸市立医療センター中央市民病院、神戸大学医学部付属病院、神戸百年記念病院済生会兵庫県病院、三田市民病院、神鋼記念病院、ときわ病院西宮敬愛会病院、兵庫県立尼崎総合医療センター、兵庫県立がんセンター、兵庫県立こども病院、兵庫県立リハビリテーション中央病院、六甲アイランド病院

実習内容：　1．課題からテーマを考える。
2．自己の目標に沿って系統的な看護を展開し、実践する。
1）日々の実習スケジュールを具体的に決め、主体的に実習に取り組む
2）担当教員、実習先の責任者あるいは臨地実習指導者と確認しながら実習を進める。

④　授業時間外の学習

・事前に自己の課題に関連した学習をしておくこと。
・事後は取り組んだ自己の課題解決プロセスを振り返り、今後の看護に活かせるようにまとめておくこと。

⑤　成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
0％	0％	0％	100％

「その他」：臨地実習要綱の「単位の認定及び成績評価」を参照。

⑥　履修上の注意など

・先行要件を満たしていること。
・前年度１月に実施した「課題別総合実習ガイダンス」を受けて、学生個々に決まっている領域・実習施設で実習を行う。
・４年間の臨地実習のまとめとして、また卒業後の自己の実践活動をイメージして、主体的に取り組むこと。

⑦　教科書・参考書

教科書：　使用しない。各看護学領域の実習要領を参照のこと。

参考書：　随時紹介する。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
災害看護 （Ｎ１３７１０） 看護の原点は災害看護にある	講義	1	15	4	前期	必修	看国試必修	畑吉節未 単独担当	7 号館 4 階 研究室
科目担当者	畑吉節未								

① 授業の概要・ねらい

「災害直後から支援できる看護の基礎的能力を養う」ことをねらいに 2009 年度から看護基礎教育に災害看護 が導入された。授業の目的は、被災者の心身に及ぼす影響と災害時の看護者としての役割を理解し、看護支援活 動の基礎を学ぶことにある。授業では、災害の定義、分類、サイクル、諸制度と備えを学び、国内災害事例を紹 介しながら、災害時の看護の方法を時系列的に学ぶ。

② 学習の到達目標

1．災害および災害看護に関する基礎的知識を理解する。
2．災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解する。
3．災害サイクルに応じた看護支援活動と看護の果たす役割を理解する。
4．こころのケア、トリアージ等を体験的に理解する。
5．個人の備えと地域防災を理解し、提示された課題において具体的な備えを検討できる。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	災害看護を今、学ぶ意味、災害および災害看護に関する基礎知識
第 2 回	災害に関する法律、災害発生時における社会の対応や仕組み、個人の備え、組織の備え
第 3 回	災害時に看護が果たす役割と災害各期の看護活動 （災害看護に期待される能力と災害看護の基本姿勢・災害サイクル各期における看護活動・避難所・仮設住宅・復興住宅における看護活動）
第 4 回	災害時に必要な技術 1（トリアージの概念・方法・課題） 課題別演習
第 5 回	災害時に必要な技術 2（被災者の心理のプロセスとこころのケア等）
第 6 回	課題別演習 1 （大学・個人の備え、避難所である大学を避難所としてレイアウト、被災者の心のケア）
第 7 回	課題別演習 2 （生活援助の工夫、長田地域での災害と復興の記録を追う、阪神淡路大震災・東日本 大震災・熊本地震の新聞記事の分析等）
第 8 回	課題別演習の発表・ピア評価

④ 授業時間外の学習

初回に説明します（各自の被災体験や支援活動の経験の確認から始めます）

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
60%	0 %	0 %	40%

「定期試験」：筆記試験
「その他」：課題レポート

⑥ 履修上の注意など

阪神･淡路大震災から 23 年が経過した。被災地である神戸市長田区にある看護者を育成する唯一の大学で学ぶ 学生として、被災地・被災者・災害時に活動した看護者から学ぶ真摯な姿勢を持って授業に臨んでほしい

⑦ 教科書・参考書

教科書：『災害看護』酒井明子、菊池志津子著　南江堂
参考書： 随時紹介します。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
看護研究 （Ｎ１３７２１） 卒業への関門	演習	2	60	4	通年	必修	看国試必修	鎌田美智子 複数担当	7号館3階 研究室他
科目担当者	鎌田美智子、長尾厚子、森松伸一、柳本有二、畑吉節未、生島祥江、尾﨑雅子、庄司靖枝、山口有美、魚崎須美、黒野利佐子、島内敦子、岩切由紀、谷口由佳、鵜飼知鶴、中田康夫、藤原桜、永島聡、阿児馨、木村聡子、中村晶子、幸島美絵、江口実希								

①　授業の概要・ねらい

看護の対象に質の高いケアを提供するために、また看護学の理論や実践を体系的に確立していくために、既習した看護研究方法論の知識を用い、基礎看護学、健康支援看護学、母子支援看護学、療養支援看護学の４領域から自己の課題を選択し、研究過程をたどることを通して、研究方法の基礎力と研究態度を身につける。

②　学習の到達目標

１．既習科目および課題別総合実習を通して、自らの関心事を研究課題として焦点化し、研究枠組みを見出す。
２．研究計画を立案し、それに基づきデータを収集し分析する。
３．分析した結果について、文献を活用し考察する。
４．研究活動を通して、倫理的態度の意義と実践を学ぶ。
５．研究成果を研究報告論文としてまとめる。
６．研究活動を通して、看護研究の意義を理解し、基本的な研究態度を身につける。

③　授業の内容・計画

＊各看護学領域において、担当教員のオリエンテーションを受け、ゼミ形式により進める。
＊各自課題に沿って、研究計画を立案し、実施する。
　・前期の授業終了までに、研究計画を立案する
＊人を対象に研究データを得る場合は、「看護学科学生研究倫理委員会」の承認を得るための申請を行う。
＊「看護研究報告論文」を作成し、平成31年１月10日（木）17時までに教務課に提出する。
　同時に「看護研究報告論文要旨集」用として、研究要旨を作成する。

④　授業時間外の学習

研究課題に対しては、日ごろから焦点化を心掛け、関心を持った看護学領域の教員とのディスカッションや文献選択等の指導を受ける機会を持ち、主体的かつ計画的に進める。さらに、既習した「看護研究方法論」の知識を効果的に活用できるよう、万全の準備をして臨むこと。

⑤　成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
0％	0％	0％	100％

「その他」：ゼミ過程において指導教員より指示された提出物等、研究報告論文により評定する。

⑥　履修上の注意など

１．「看護研究方法論」を履修していることが前提条件である。
2.3年次までの必修科目の単位を修得していることが望ましいが、不可の場合は、研究分野の選択において、臨地実習を履修した領域・系の分野に限定される。
3.3年次後期開講の臨地実習を履修していない場合は、本ゼミの履修は不可となる。
４．詳細な内容（具体的到達目標）については、各指導教員に確認すること。
５．人を対象とする研究を行う場合は、事前に「看護学科学生研究倫理委員会」の承認を受ける必要がある。
　＊申請書類の締め切り：第１期（７月末）　第２期（８月末）
　＊申請書類の提出：指導教員⇒学生研究倫理委員会
６．研究報告論文の執筆要領については、別途提示する。
７．各看護学領域の開講内容については、別途設ける履修オリエンテーション時に提示する。

⑦　教科書・参考書

教科書：　特に使用しない

参考書：　各ゼミにおいて、適宜紹介する。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
看護教育論 （N１３７４０） 	講義	1	15	4	前期	選択必修	看国試選択必修	鎌田美智子 単独担当	7号館3階 研究室
科目担当者	鎌田美智子								

① 授業の概要・ねらい

看護教育の構造を明らかにし、看護基礎教育と継続教育の現状と課題をふまえ、生涯学習体系における看護教育の意義と方法を学ぶ。さらに看護教育学としての確立への将来展望について考察する。

② 学習の到達目標

1．看護教育の構造を理解する。
2．看護基礎教育および、看護継続教育制度の現状と課題を把握する。
3．看護学及び、看護専門領域を支え発展させるための「看護教育学」の意義と役割を理解する。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	1．看護教育の確立へ （1）看護教育と看護学教育　（2）看護学教育の内容　（3）看護教育学研究の蓄積と課題
第 2 回	2．看護教育制度 （1）看護教育の成り立ちと看護師養成教育の課題　（2）看護教育制度の特徴　（3）看護教育制度と学位
第 3 回	（4）看護基礎教育の内容　（5）看護基礎教育における臨地実習教育の特性
第 4 回	3．看護職の継続教育 （1）看護継続教育の定義　（2）看護学教育上の位置　（3）看護継続教育の3領域
第 5 回	（4）対象とニーズ　（5）法的根　（6）継続教育の課題と展望
第 6 回	4．看護教育における評価論
第 7 回	5．スペシャリストの教育 （1）ジネラリストとスペシャリスト　（2）スペシャリスト育成の制度　（3）育成制度の課題と展望
第 8 回	5．スペシャリストの教育 （1）ジネラリストとスペシャリスト　（2）スペシャリスト育成の制度　（3）育成制度の課題と展望

④ 授業時間外の学習

「教育学」の一般的知識、1年次に履修した「看護学概論」における看護教育制度に関する知識等を確認しておくこと。さらに各看護学での教育に関連する内容を、本授業に活かせるよう復習しておく。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
100%	0 %	0 %	0 %

「定期試験」：論述を中心とした筆記試験

⑥ 履修上の注意など

看護専門職として生涯学習体系の中で、どのように学んでゆくべきか、自己のキャリアデザインを描くことを目指して授業に臨んでほしい。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『系統的看護学講座Ⅰ　看護学概論』 茂野　香おる他著　医学書院
参考書：『看護教育学第4版』 杉森　みど里他著　医学書院
『エビデンスに基づく看護教育学　Kathleen　R. Stevens 他著，杉森　みど里監訳　医学書院

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
国際看護活動論 （Ｎ１３７５０） グローバルヘルスの格差は なぜ生じるのか	講義	1	15	4	前期	選択必修	看国試選択必修	黒野利佐子 単独担当	7号館3階 研究室
科目担当者	黒野利佐子								

① 授業の概要・ねらい

すべての国のすべての人々の健康について知ることは不可能である。しかし、先進国の産業革命以来の経済や歴史的社会状況、その後の発達と第三世界の現状を経済・政治社会の健康への影響という視点を持って比べると共通点や相違点、相互の関連性が浮き上がってくる。講義の５回は、こうした視点から健康や医療を概観し、第６・７・８回では、学生が将来活動したい国や国際機関、対象としたい民族等の歴史とあわせて、現在のニーズを考え、実際行われている看護活動の発表・討論を行う。

② 学習の到達目標

１．グローバル・ヘルスの現状を把握する。
２．グローバル・ヘルスに影響を及ぼす政治・経済・文化的要因を関連付ける方法を理解する。
３．日本の中の国際化の状況について知り、経済・政治・文化的視点を持つ看護について理解する。
４．世界で展開されているヘルスケアの実際において、看護師の役割を説明する。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	日本の中の国際化と経済・政治・文化的視点をもつ看護：ロールプレイを通して在日外国人の視点で日本の医療・社会を考えてみよう。
第 2 回	グローバル・ヘルス：過去と現在、第三世界の死亡統計パターンと第一世界とされる国々の 70 年前の健康格差の状況
第 3 回	経済と健康格差
第 4 回	内紛・戦争・難民　そして健康格差
第 5 回	栄養・感染症：戦後直後の日本と現在の第三世界　共通点と相違点
第 6 回	日本国内で展開されるヘルスケア：看護活動の実際
第 7 回	世界で展開されるヘルスケア：看護活動の実際
第 8 回	発表を受けての討論・まとめ

④ 授業時間外の学習

「ルポ貧困大国アメリカ」堤未香（著）岩波新書（2008）と「僕らのアフリカに戦争がなくならないのはなぜ？」小川真吾（著）合同出版（2012）この科目を選択される方は事前学習が必須条件です。世界情勢・時事に疎くても、この二冊を読めば絶対興味がわいてきます。この二冊に興味がない人は受講を勧めません。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
50%	25%	25%	0 %

「平常点」：講義内にグループ討議の時間を設けますので、討議参加度で判断します。
「製作物・実技など」：自分の興味がある国・民族・国際的な活動を展開する医療機関についての歴史と、その時代、その土地（活動基盤）の歴史・保健の状況について調査研究の内容で評価します。
「その他」：調査研究のプレゼンテーションのレベルを評価します。

⑥ 履修上の注意など

受講者数に応じて講義・発表内容や形式に若干の変更を加えることがある。

⑦ 教科書・参考書

教科書：　特に指定しません

参考書：　講義の内容は以下の文献その他多数から記事を抜粋して紹介する。

W.H. Markle, M. F. Fisher, & R. A. Smego.（2014）*Understanding Global Health.* Mc Graw Hill Medical Understanding Global Health, NY.
B.S. Levy&V.W. Sidel.（ed）（2008）*War and Public Health.* Oxford University Press by the American Public Association.

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
医療・看護特論Ⅲ（再生医療と看護） （Ｎ１３７８０） 患者への有効性と安全性を見極める	講義	1	15	4	前期	選択必修	看国試選択必修	福田正順 単独担当	7 号館 2 階 非常勤講師 控室
科目担当者	福田正順								

① 授業の概要・ねらい

再生医療の臨床応用に関してその基礎から学び、現在飛躍的に発展しつつあるこの分野の理解を深めます。
個々の患者に有効で安全な治療を見極めて提案・実践できるようにします。

② 学習の到達目標

再生医療の歴史とそれを支えてきた技術思想、さらには幹細胞や iPS 細胞について理解するとともに今日的な意義について造詣を深めていきます。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	再生医療とは何か？
第 2 回	再生医療の基礎 1（足場、増殖因子、幹細胞）
第 3 回	再生医療の基礎 2（胚、クローン、ES 細胞）
第 4 回	iPS 細胞の登場
第 5 回	再生医療の臨床応用 1（末梢神経の再生、脊髄損傷の治療）
第 6 回	再生医療の臨床応用 2（ロボット技術、テーラーメード医療）
第 7 回	再生医療の今後の発展
第 8 回	まとめ・補足・質疑

④ 授業時間外の学習

特に必要ありません。
もし再生医学に対する新しい知見やニュースがあればお知らせ下さい。重要なものは講義で取り上げます。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
80%	20%	0 %	0 %

「定期試験」：レポート試験
「平常点」：小テスト、受講態度

⑥ 履修上の注意など

知識の獲得よりも、自ら考える経験を重視します。
再生医療の臨床応用に対する疑問、批判などを積極的に議論してください。
講義の理解度把握のため、小テストを実施します。

⑦ 教科書・参考書

教科書： 授業中に資料を配布しますので、予め購入する必要はありません。
参考書：『再生医療のしくみ（エスカルゴ・サイエンス）』八代 嘉美・中内 啓光 著 日本実業出版社（2006 年）
その他多数あり、随時紹介します。

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
健康教育の理論と方法 （Ｎ１３８５０） 保健行動を促す健康教育	講義	1	15	4	前期	選択	保国試必修	中村晶子 単独担当	7 号館 2 階 研究室
科目担当者	中村晶子								

① 授業の概要・ねらい

健康教育の基本的理念と展開方法を理解し、公衆衛生看護活動の対象特性に応じた健康教育を実践するための基本的技術を習得する。

② 学習の到達目標

1．健康教育の基盤となる理論について説明できる。
2．健康課題解決に向けた健康教育を実践する基本的技術を理解する。
3．健康教育の意義について理解する（対象・グループ・地域・保健師の役割）。
4．公衆衛生看護活動における健康教育の特徴を理解する。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	健康教育の理念
第 2 回	健康教育の理論①（プロシード・プロシードモデル）
第 3 回	健康教育の理論②（その他）
第 4 回	健康教育の展開方法
第 5 回	健康教育の企画案の作成
第 6 回	健康教育の指導案の作成
第 7 回	健康教育の指導案の修正・媒体の作成
第 8 回	健康教育の実施・評価

④ 授業時間外の学習

授業内で提示します。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
50%	10%	40%	0 %

「定期試験」：レポート試験
「平常点」：参加態度
「製作物・実技など」：課題

⑥ 履修上の注意など

公衆衛生看護実習Ⅰでの経験や学修を振り返り、自分の考えを表現できること、またグループメンバーの意見を尊重できる姿勢で臨むことを期待する。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『最新保健学講座別巻１　健康教育論』　メヂカルフレンド社
参考書：『標準保健師講座２　地域看護技術』　医学書院
　　『国民衛生の動向』　厚生労働統計協会教科書

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
公衆衛生看護管理論 （Ｎ１３８６０） 行政保健師に求められる管理的視点	講義	1	15	4	前期	選択	保国試必修	魚崎須美 単独担当	7 号館 3 階 研究室
科目担当者	魚崎須美								

① 授業の概要・ねらい

公衆衛生看護管理の目的、機能および保健師に特徴的な管理活動について学習する。さらに、行政保健師として管理の視点を持つことの必要性を学習する。

② 学習の到達目標

1．公衆衛生看護管理の理念と仕組みを理解する。
2．施策としての地域保健活動の計画と評価について理解する。
3．地域保健活動における保健師の専門性と管理機能の特性について理解する。
4．地域保健活動における健康危機管理について理解する。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	公衆衛生看護管理機能の目的と機能
第 2 回	公共性の理念
第 3 回	公衆衛生看護管理に求められる視点と 3 つの概念
第 4 回	公衆衛生看護管理の 5 管理
第 5 回	公衆衛生看護活動と研究的視点
第 6 回	健康危機管理①（健康危機管理とリスクマネジメント）
第 7 回	健康危機管理②（保健活動におけるリスクマネジメント）
第 8 回	まとめ

④ 授業時間外の学習

授業内で提示します。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
70%	20%	0 %	10%

「定期試験」：筆記試験
「平常点」：学習態度、参加態度など
「その他」：レポートなど（詳細は授業内で提示）

⑥ 履修上の注意など

毎回、事前課題を提示します。しっかり取り組んでから授業に臨んでください。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『標準保健師講座別巻１　公衆衛生看護学概論』 医学書院
『保健師業務要覧』 日本看護協会出版会
『国民衛生の動向 2017/2018』 厚生労働統計協会

参考書：『最新保健学講座５　公衆衛生看護管理』 メヂカルフレンド社

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
疫学的調査法 （N１３８７０） 疫学の面白さを知ろう	講義	2	30	4	前期	選択	保国試必修 養教免必修	井上清美 単独担当	7 号館 2 階 非常勤講師 控室
科目担当者	井上清美								

① 授業の概要・ねらい

疫学の基礎的考え方を理解するとともに、健康現象の評価に必要な疫学調査の方法について理解する。

② 学習の到達目標

1）疫学の定義・概念を説明できる。
2）集団の健康事象を捉えるための測定や比較の方法について理解する。
3）疫学調査の方法と評価について理解する。
4）疫学研究の基本について理解する。
5）公衆衛生看護活動の視点から疫学の重要性について理解する。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	疫学の概念①：健康問題の捉え方
第 2 回	疫学の概念②：人間集団の健康事象の見方
第 3 回	疾病頻度の指標、頻度と曝露
第 4 回	疫学調査法①　疫学研究の分類
第 5 回	疫学調査法②　症例対象研究
第 6 回	疫学調査法③　コホート研究
第 7 回	疫学調査法④　疫学的因果関係
第 8 回	疫学研究の基本①　生態学的研究
第 9 回	疫学研究の基本②　介入研究
第10回	疫学調査の倫理　疫学調査票の作成
第11回	疾病予防とスクリーニング
第12回	感染症の疫学
第13回	アウトブレイクの疫学
第14回	疾病登録・疫学の応用
第15回	疫学と公衆衛生看護

④ 授業時間外の学習

授業の復習をしっかりしてください。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
80%	10%	0 %	10%

「定期試験」：筆記試験
「平常点」：参加態度など
「製作物・実技など」：レポート課題など

⑥ 履修上の注意など

国家試験に関連する科目として重要です。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『疫学 / 保健統計（最新保健学講座)』 丸井英二著　メジカルフレンド社
『国民衛生の動向 2017/2018』 財団法人厚生統計協会
参考書：『標準保健師講座 < 別巻 2 > 疫学・保健統計学』 医学書院

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
公衆衛生看護実習Ⅱ （Ｎ１３８９０） 公衆衛生看護の総括実習	実習	3	90	4	前期	選択	保国試必修	魚崎須美 複数担当	7号館3階 研究室他
科目担当者	魚崎須美、中村晶子、幸島美絵								

① 授業の概要・ねらい

本実習は、公衆衛生看護学の総括的な実習として位置づけ、地域保健の実践現場である保健所・保健センター等の臨地での体験を通して、公衆衛生看護活動に必要な基礎的知識、技術の基礎を学ぶものとする。特に地域で生活している個人・家族を理解し、そのセルフケア能力を高め、主体的な健康づくりを支援するための方法や、集団・組織を対象として行われる公衆衛生看護活動を学ぶ。それらから地域保健活動における保健師の役割を学習する。

② 学習の到達目標

1．地域特性や既存資料などから、地域概要や地域の人々の健康状況や健康課題を理解することができる。
2．実習施設での保健活動に参加し、体験を通して、個別、集団、組織に対する支援方法を理解する。
3．地域の社会資源やケアシステムを構築する意義、ケアの質保障について理解する。
4．実習施設の保健活動、ヘルスケアチームにおける保健師の役割を理解する。
5．公衆衛生看護の専門職を目指すものとしての自覚を持ち、自己の資質向上に向けて行動できる。

③ 授業の内容・計画

【事前学習課題】実習ガイダンスにおいて提示
【実習施設】兵庫県健康福祉事務所および管内市町、神戸市などの政令市他
【実習内容】具体的日程、行動目標、実習内容、実習の展開等については、実習要領を参照

④ 授業時間外の学習

実習中は実習要領に基づく。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
0％	10%	80%	10%

「平常点」：実習態度、学習姿勢など
「製作物・実技など」：事前学習の成果、実習における実践、実習後のレポートなど
「その他」：カンファレンスの参加態度、実習における諸記録など

⑥ 履修上の注意など

実習要領に示す実習する上での留意点を遵守する。

⑦ 教科書・参考書

教科書： 必要に応じて紹介する。
参考書： 公衆衛生看護学科目で使用した教科書、参考書、その他関連科目の教科書、参考書など

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
事前及び事後の指導 （Ｎ１４１５０） 養護実習Ⅱの準備と振り返り	講義	1	15	4	後期	自由	養教免必修	岩越美恵 複数担当	7号館3階 研究室他
科目担当者	岩越美恵、永島聡、角田信子								

① 授業の概要・ねらい

養護実習Ⅱを前に、もう一度「養護」と「看護」の違いを明らかにして、直前の養護実習Ⅱに必要なスキルを磨く。中でも実践的な取り組みとして、保健指導（/保健学習）授業計画の立て方や模擬授業演習、応急処置の演習を行う。事後には、それぞれ学種のことなる3週間の実習での学びを発表し全員で共有する。

② 学習の到達目標

・看護実習と養護実習との違いを明確にする。
・保健指導（または保健学習）を実習で自信を持ってできる。
・健康問題解決として、頻度の高い事故やケガなどの応急手当が迷わずにできる。
・次週後に、小・中・高校などの違い、地域の特徴などに基づく実習の様々な学びを共有する。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	講義：看護と養護の違い（養護教諭ＯＢから）	（担当者：角田・永島・岩越）
第 2 回	講義：「保健指導と保健学習について」	（担当者：角田・永島・岩越）
第 3 回	演習：保健指導・保健学習のグループワーク	（担当者：角田・永島・岩越）
第 4 回	演習：保健指導・保健学習の模擬授業	（担当者：角田・永島・岩越）
第 5 回	演習：保健指導・保健学習の模擬授業	（担当者：角田・永島・岩越）
第 6 回	講義と演習：応急処置	（担当者：岩越）
第 7 回	実習報告（A班）	（担当者：岩越・永島・角田）
第 8 回	実習報告（B班）	（担当者：岩越・永島・角田）

④ 授業時間外の学習

・実習に向けて、これまでに学んだ養護や教職に関する知識を総括しておく。
・テキストを熟読しておく。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
0％	50%	50%	0％

「平常点」：受講態度
「製作物・実技など」：発表内容

⑥ 履修上の注意など

・教職者となる心構え

⑦ 教科書・参考書

教科書：『養護実習ハンドブック』大谷尚子・中桐佐智子編著　東山書房
参考書： 随時紹介

授業科目名 （コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
養護実習Ⅱ （Ｎ１４１６２） 養護教諭になりきる	実習	3	90	4	後期	自由	養教免必修	岩越美恵 複数担当	7号館3階 研究室他
科目担当者	岩越美恵、成山文夫、永島聡								

① 授業の概要・ねらい

4週間の教職実習のうちの3週間の地域の小・中・高校のいずれかでの実習。これまでに蓄積した「知識」・「理論」・「演習」をもとに、養護教諭としての職務を体験し、実践的な知識と技術とを身に着ける。実習校の学校長を始め、指導養護教諭のご指導の下に行う。

② 学習の到達目標

1．社会人としての行動ができる。
2．地域校の組織・教育・特徴・教職員の連携について理解できる。
3．養護教諭の仕事の理解を深め、保健活動に参加できる。
4．児童・生徒と直接触れ合い、校種における発達段階にある児童・生徒を理解できる。
5．自分がどのような養護教諭になりたいか、そのイメージをより現実的なものにできる。

③ 授業の内容・計画

＜実習の準備＞

実習前に、実習校に予約を入れ、挨拶をすませ、オリエンテーションを受けておく。その学校の精神・教育目標、最近の活動の様子など、インターネットなどで調べておく。

＜実習期間中＞

担当養護教諭の指導の下、その学校について学び、ふれあいを通して児童・生徒について理解し、様々な教職員の活動や関わりを学び、また活動に参加し、養護教諭の実務も体験する。

日々の学びを記録し、考えや感想、疑問点などを指導教諭に伝え、指導を受ける。

＜実習後＞

それぞれの学校での実習の学びを発表し、全員の学びを共有する。
提出物：実習要領を含む実習ファイル。
実習校の校長先生と指導教諭へ御礼状を送る。

④ 授業時間外の学習

日々の学びの記録（ボールペンで）。保健指導・保健学習の準備。実習後の発表の準備など。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
0％	50％	50％	0％

「平常点」と「製作物・実技など」：実習要領に示された評価項目に従い、指導教諭により総合的に評価される部分がほとんどであるが、教科担当者による訪問や実習ノート記録内容に関する評価も加える。

⑥ 履修上の注意など

養護教諭を目指す者として、社会人としての自覚と行動

⑦ 教科書・参考書

教科書：「養護実習ハンドブック」 大谷尚子・中桐佐智子 偏著　東山書房
参考書： 随時指導教諭より

授業科目名（コード番号） サブタイトル	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名 担当形態	研究室
教職実践演習（養護）（Ｎ１４１７０） 養護教諭になるための自己課題の解決	演習	2	30	4	後期	自由	養教免必修	岩越美恵 複数担当	7号館3階研究室他
科目担当者	岩越美恵、成山文夫、永島聡								

① 授業の概要・ねらい

養護実習を終えた時点で、卒業後養護教諭として職務に就く際、それぞれが課題となっていることを最初に確認し、その課題に対し、教職概論、養護診断、生徒指導や教育相談の分野ごとに、解決のための仕上げの演習を行う。

② 学習の到達目標

・学校現場でおこりうる様々な場面を想定し、それに対応する実践応力が少しでも多く身についている。

③ 授業の内容・計画

第１回	実習後の現時点での養護教諭としての「自己評価」を行い、個人の課題とこの演習終了後の到達目標を設定する。	（担当者：岩越・成山）
第２回	「今の子ども・生徒の心身の健康状態」教職実習で気づいたことについて討議	（担当者：成山）
第３回	「保健室の役割①」学校内外との連携について（「教職概論」を踏まえて）討議	（担当者：成山）
第４回	「保健室の役割②」教育（学）的配慮について（「教職概論」を踏まえて）討議	（担当者：成山）
第５回	「養護診断」事例①」研究、講義とグループ討論・グループ発表	（担当者：岩越）
第６回	「養護診断」事例②」研究、講義とグループ討論・グループ発表	（担当者：岩越）
第７回	「養護診断」事例③」研究、講義とグループ討論・グループ発表	（担当者：岩越）
第８回	「養護診断」事例④」研究、講義とグループ討論・グループ発表	（担当者：岩越）
第９回	「教育相談と養護教諭」教育相談担当者教員及びスクールカウンセラーによる講義、グループ討議	（担当者：永島）
第10回	「教育相談と養護教諭」事例研究、ロールプレイングを用いて相互評価。	（担当者：永島）
第11回	「生徒指導と養護教諭」生徒指導担当者教員からの具体的問題に関する講義、グループ討論	（担当者：永島）
第12回	「生徒指導と養護教諭」事例研究、ロールプレイングを用いて相互評価。	（担当者：永島）
第13回	「危機介入と養護教諭」緊急時における危機介入の具体例を持ちより、グループ討議	（担当者：永島）
第14回	「危機介入と養護教諭」事例研究、ロールプレイングを用いて相互評価。	（担当者：永島）
第15回	「まとめ」。各自の設定した目標に対する到達度を発表しあい、全体討議	（担当者：岩越・永島）

④ 授業時間外の学習

自分の課題について、整理しておく。グループ発表のための準備など。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平　常　点	製作物・実技など	そ　の　他
0％	80％	20％	0％

「平常点」：演習参加度
「製作物・実技など」：発表内容

⑥ 履修上の注意など

一人職種での仕事柄、他の職種や他機関の人たちと連携し協働してやっていける力を大切にしたい。

⑦ 教科書・参考書

教科書： なし
参考書： 必要時紹介